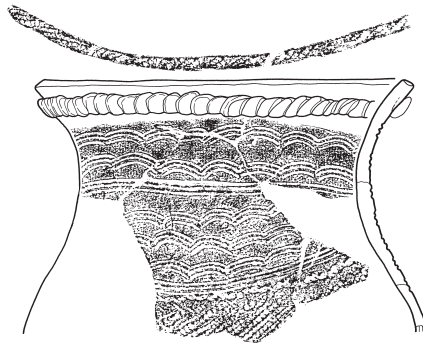


東前原遺跡

(第8地点第3次)

区画道路10-2号線道路改良(その1)及び流域関連
下水道工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書



2016

水戸市教育委員会

東 前 原 遺 跡

(第8地点第3次)

区画道路10-2号線道路改良(その1)及び流域関連
下水道工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2016

水 戸 市 教 育 委 員 会

ごあいさつ

水戸市域の東側にある東前原遺跡は、那須岳を水源とする那珂川右岸の台地上に位置しています。本遺跡の周辺には、文献に残る最古の貝塚である国指定史跡「大串貝塚」や、6世紀後半に築造された首長墓とみられる北屋敷古墳群、奈良・平安時代に交通の要衝として機能した平津駅家の関連集落と考えられている梶内遺跡など、多くの重要遺跡が残されており、古くから政治・文化の中心地域のひとつとして繁栄してきたと考えられています。

近年、東前原遺跡が位置する東前町周辺は、区画整理事業に伴い宅地化が急速に進んでおり、周辺に位置する遺跡の様相も大きく様変わりしています。埋蔵文化財は、その性格上、開発などにより一度壊されてしまうと、二度と現状に復すことができないため、私たちひとりひとりが大切に保存しながら後世に伝えていかなければならない貴重な財産です。本市教育委員会といたしましては、その意義や重要性を踏まえ、開発事業との調和を図りながら、文化財の保護・保存に努めているところです。

今回の調査では、弥生時代から中～近世にかけての多数の遺構や遺物を確認しました。弥生時代の遺構としては、中期後半～後期前半にかけての竪穴住居跡が調査区北側に集中して見つかっており、過去の調査結果と併せて考えると、この時期の集落が台地の北端部に広がる風景が窺えつつあります。さらには、奈良・平安時代の竪穴建物跡が多数確認されたほか、東側隣地での発掘調査で確認されている大型の溝跡を検出しました。

これらの成果は、東前原遺跡における土地利用の変遷を復元するうえで重要な資料であります。また、近接する小原遺跡や、那賀郡衛正倉別院と推定される大串遺跡など、東前町近辺に存在する遺跡との関連性を考えるうえでも大きな手がかりとなるものです。

ここに刊行する本書が、豊かな地域史の一端を復元することで貴重な文化財に対する保護・活用の意識の高揚や郷土愛の育成へと繋がることを願い、学術研究等の資料として、広く御活用いただければ幸いです。

末尾ながら、今回の調査実施にあたり、多大なる御理解と御協力を賜りました近隣住民の皆様方、並びに種々の御指導・御助言を賜りました関係各位に心から感謝申し上げ、ごあいさつといたします。

平成28年7月

水戸市教育委員会

教育長 本 多 清 峰

例 言

- 1 本書は、茨城県水戸市東前町地内における区画道路10-2号線道路改良（その1）及び流域関連下水道工事に伴い実施した、東前原遺跡第8地点第3次の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は、株式会社地域文化財研究所の調査支援を受け、水戸市教育委員会が主体となっていた。
- 3 調査概要及び調査組織は以下のとおりである。

所在地 茨城県水戸市東前町1120, 1209-2, 1209-7, 1209-9, 1209-10の一部

調査面積 840㎡

調査期間 平成28年3月1日～平成28年4月6日

調査体制 本多 清峰 水戸市教育委員会教育長

事務局

七字 裕二 水戸市教育委員会事務局教育次長

長谷川 仁 同文化課埋蔵文化財センター所長

米川 暢敬 同文化財主事（調査担当者）

太田有里乃 同主事

昆 志穂 同埋蔵文化財専門員

丸山優香里 同埋蔵文化財専門員

下山はる奈 同埋蔵文化財専門員

菅谷 瑛奈 同嘱託員（公開活用担当）

杉山 洋子 同嘱託員（庶務担当）

調査支援 高野浩之（株式会社地域文化財研究所）

調査参加者【発掘調査】有田洋子・飯田 昭・石崎洋子・石崎寿子・市毛祐一・江橋和子

大山年明・岡部五男生・小坂部克己・鬼澤 勲・海後晴美

川又誠二・栗原芳子・齊藤宏光 鈴木潤一・高岡真士・高安丈夫

高安幸且・飛田とし子・中嶋順子・渡辺恵子

【整理調査】川村理華・小林真千子・木村春代・野村浩史・榎 勝雄・増田香理

- 4 出土した遺物の内、弥生土器は齋藤弘道氏にご教示いただいた。
- 5 本書は、米川、丸山、高野が分担して執筆し、米川の助言・指導に基づいて高野が編集した。各節の文責は文末に記載してある。
- 6 出土遺物及び図面・写真などの記録類は、報告書刊行後一括して水戸市大串貝塚ふれあい公園内水戸市埋蔵文化財センターにて保管してある。
- 7 発掘調査から本書の刊行に至るまで、下記の方々・諸機関より御教示、ご協力を賜った。（敬称略・順不同）。









水戸市都市計画部市街地整備課・東前地区開発事務所（有）市毛工務店（株）イビソク

齋藤弘道

凡 例

- 1 測量は日本測地系を用い、挿図中の方位は座標北を示す。
- 2 挿図中で使用した遺構の略号は以下のとおりである。
S I : 竪穴住居跡・竪穴建物跡 S B : 掘立柱建物跡 P i t : 柱穴・ピット
S K : 土坑 S E : 井戸跡 S X : 不明遺構 K : 風倒木痕・植栽痕・攪乱等
- 3 土層図及び断面図に記した数値は標高を示す。
- 4 遺構の形態・規模は基本的に現存している状態で判断した。計測は壁上端で行い、主軸方向は竪穴住居跡・建物跡は炉・カマドを軸とし、土坑等は長軸方向より求めた。遺構内施設（柱穴等）の深さは床・底面の位置から計測している。
- 5 遺構平面図及び断面図の縮尺は、基本的に 1/60 とし、竪穴建物跡のカマドや遺物出土状況微細図は 1/30 とした。各図にスケールで示した。
- 6 遺構の土層及び遺物の色調表現は、『新版標準土色帖 2003 年版』（小山正忠・竹原秀雄編著 日本色研事業株式会社）に準拠した。土層説明の中で、「φ」は粒状規模をミリ単位で明記し、含有量は 2%以下を「微量」、3～9%を「少量」、10～19%を「中量」、20%以上を「多量」とし、多量のものについては（ ）付で含有量を示した。いずれも同書の「面積割合」を参照している。
- 7 出土遺物の縮尺は土器類を 1/3, 1/4, 瓦類を 1/4, 石器類を 2/3, 1/3, 1/4 とし、各図にスケールで示した。
- 8 遺物観察表の表記は、（ ）内が復元値、〈 〉内が残存値とし、遺物の計測値は規模を「cm」、重量を「g」で表した。色調は上段が外面、下段が内面で、内外面同色の場合は 1 色のみでの表記である。
- 9 出土遺物一覧表の中で、接合したものは 1 点とし、逆に同一個体であることが明らかでも接合しないものはそれぞれを 1 点とした。
- 10 本文中で使用した地図類の出典は、第 2 図が「明治 18 年 7 月第一軍管地方迅速測図」、第 3 図が「水戸市埋蔵文化財包蔵地分布地図（平成 24 年度版）平成 24 年 3 月 水戸市教育委員会」で、それぞれを加筆修正している。
- 11 挿図中で使用したスクリーントーン及び線種・ドット類は以下凡例図のとおりである。
- 12 表紙に使用した図は第 10 図 SI02-1 の弥生土器・壺である。

凡例図

遺構	 …焼土	 …粘土	 …柱穴硬化面	 …攪乱範囲
	 …硬化範囲	 …柱あたり		
土器	 …黒色付着物	 …内面黒色処理		

※これ以外の表記は挿図中に記載した。

目次

ごあいさつ

例言

凡例

目次

第1章 調査に至る経緯と調査経過

第1節 調査に至る経緯 1

第2節 調査の方法と経過 2

(1) 調査の方法 2

(2) 調査の経過 2

第2章 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境 3

第2節 歴史的環境 4

第3節 東前原遺跡における既往の調査 6

第3章 調査の成果

第1節 調査の概要 9

第2節 検出された遺構と遺物 11

(1) 竪穴住居跡・竪穴建物跡 11

(2) 掘立竪穴建物跡 40

(3) ピット 45

(4) 土坑 50

(5) 井戸跡 52

(6) 溝跡 53

(7) 性格不明遺構 55

第4章 総括 68

写真図版

抄録

挿図目次

第1図 東前原遺跡第8地点第1次調査 試掘トレンチ配置図.....	1	第11図 SI02 出土遺物 (2).....	15
第2図 遺跡の位置.....	3	第12図 SI02 出土遺物 (3).....	16
第3図 周辺の遺跡.....	4	第13図 SI03(1).....	16
第4図 東前原遺跡における既往の調査地点.....	7	第14図 SI03(2)・同出土遺物.....	17
第5図 基本堆積土層図.....	9	第15図 SI04(1).....	18
第6図 遺構全体図.....	10	第16図 SI04(2)・同出土遺物.....	19
第7図 SI01.....	11	第17図 SI05.....	20
第8図 SI01 出土遺物.....	12	第18図 SI05 出土遺物.....	21
第9図 SI02.....	13	第19図 SI06(1).....	21
第10図 SI02 出土遺物 (1).....	14	第20図 SI06(2)・同出土遺物.....	22
		第21図 SI08・同出土遺物.....	23

第22図	SI09	24	第39図	SI16・同出土遺物	39
第23図	SI09 出土遺物	25	第40図	SI17・同出土遺物	40
第24図	SI10	26	第41図	SB01	41
第25図	SI10 出土遺物	27	第42図	SB02	43
第26図	SI11	28	第43図	SB03	44
第27図	SI11 出土遺物 (1)	29	第44図	ピット (1)	46
第28図	SI11 出土遺物 (2)	30	第45図	ピット (2)・同出土遺物	47
第29図	SI12・同出土遺物	31	第46図	ピット配置図	48
第30図	SI13 (1)	32	第47図	土坑 (1)	50
第31図	SI13 (2)	33	第48図	土坑 (2)・同出土遺物	51
第32図	SI13 出土遺物 (1)	34	第49図	SE01・同出土遺物	52
第33図	SI13 出土遺物 (2)	35	第50図	SD01	53
第34図	SI14	36	第51図	SD01 出土遺物	54
第35図	SI14 出土遺物	37	第52図	SD02・同出土遺物	54
第36図	SI15・18	37	第53図	SX01・SX02	55
第37図	SI15 出土遺物	38	第54図	遺構外出土遺物	55
第38図	SI18 出土遺物	38	第55図	遺構変遷図	68

表 目 次

第1表	主要な周辺遺跡一覧	5	第8表	出土遺物観察表 (土器)	56
第2表	東前原遺跡における既往の調査一覧	7	第9表	出土遺物観察表 (瓦)	64
第3表	SB01	42	第10表	出土遺物観察表 (土製品)	65
第4表	SB02	42	第11表	出土遺物観察表 (石製品)	65
第5表	SB03	45	第12表	出土遺物観察表 (鉄製品)	65
第6表	柱穴・ピット一覧表	49	第13表	出土遺物集計表 (弥生時代)	65
第7表	土坑一覧表	52	第14表	出土遺物集計表 (奈良・平安時代以降)	66

写 真 図 版 目 次

図版	1	北区全景 / 南区全景
図版	2	SI01 全景 / SI02 全景 / SI02 炉近景 / SI02 遺物出土状況 / SI03 全景 / SI04 全景 / SI05 全景 / SI06 全景
図版	3	SI08 全景 / SI08 遺物出土状況 / SI09 全景 / SI09 遺物出土状況 / SI10 全景 / SI10 カマド 遺物出土状況 / SI11 全景 / SI12 カマド 完掘全景
図版	4	SI13 全景 / SI13 遺物出土状況 / SI14 全景 / SI15・18 全景 / SI16 全景 / SI17 全景 / SB01・SX01 全景 / SB01・Pit18 土層断面
図版	5	SB02 全景 / SB03 全景 / SE01 全景 / SK04 土層断面・遺物出土状況 / SK07 全景 / SX02 全景・土層断面 / SD01 全景 / SD01 土層断面
図版	6	SI01・02(1) 出土遺物
図版	7	SI02(2)・03・04・05・06 出土遺物
図版	8	SI08・09・10(1) 出土遺物
図版	9	SI10(2)・11(1) 出土遺物
図版	10	SI11(2)・12・13(1) 出土遺物
図版	11	SI13(2)・14・15・16 出土遺物
図版	12	SI17・18, SE01, SK04・07・09, Pit, SD01・02, 遺構外出土遺物

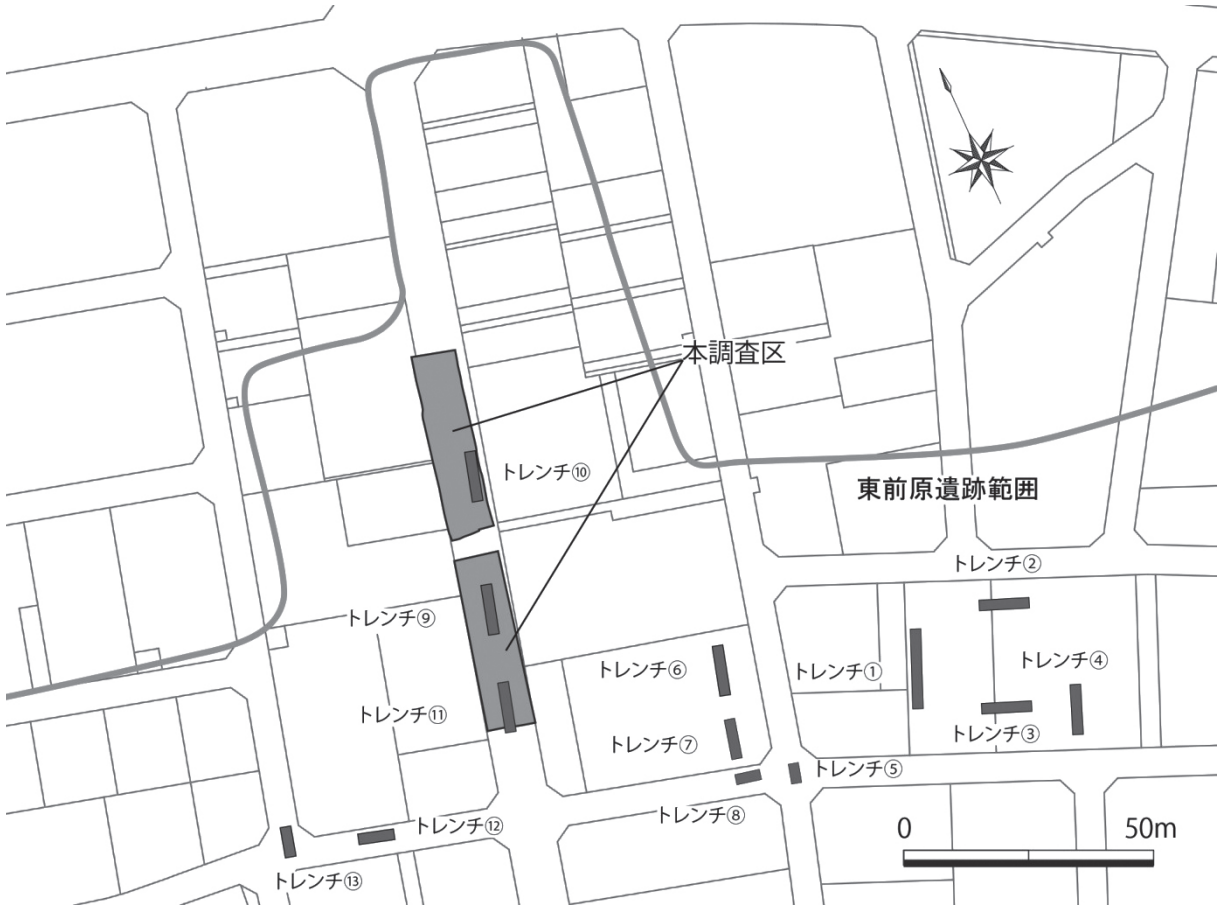
第1章 調査に至る経緯と調査経過

第1節 調査に至る経緯

平成27年6月10日付けで、土地区画整理事業に伴い、水戸市長（都市計画部市街地整備課東前地区開発事務所扱、以下「事業者」という。）から、水戸市教育委員会（以下「市教委」という。）教育長あて、「埋蔵文化財の所在の有無およびその取扱いについて」（教埋第763号）が提出された。

開発予定地は周知の埋蔵文化財包蔵地「東前原遺跡」に該当していることから、平成27年6月16～19日に試掘調査を実施した。なお、開発予定地のうち埋蔵文化財包蔵地の範囲外とされていた箇所にも遺構の分布が想定されたことから、当該箇所にも調査区（第1図トレンチ⑩）を設定した。当該試掘調査（東前原遺跡第8地点第1次調査）では、計13本の調査区を設定した（第1図トレンチ①～⑬）。調査の結果、ほぼ全ての調査区から竪穴建物跡や溝跡をはじめとする多数の遺構・遺物を検出し、その旨事業者あて回答した（教埋第764号）。なお、試掘調査により遺跡の範囲がさらに北側の台地縁辺まで広がることを確認したため、後日に東前原遺跡の範囲変更を行った。

以上のことから、本件は「茨城県埋蔵文化財発掘調査等取扱い基準」と照合・検討した結果、原則Ⅲ「恒久的な構造物の設置により相当期間にわたり埋蔵文化財と人との関係が絶たれ、当該埋蔵文化財が破損したに等しい状態となる場合」に該当すると判断された。そのため、市教委は、現状保存に向け事業者と協議を重ねたが、工事による影響は不可避であり、埋蔵文化財の現状保存は極めて困難であるとの結論に達した。このため市教委は、事業者から提出のあった文化財保護法第94条第1項



第1図 東前原遺跡第8地点第1次調査試掘トレンチ配置図（1：1,500）

第1章 調査に至る経緯と調査の経過

に基づく通知について、次善の策として記録保存を目的とした本発掘調査を実施すべき旨の意見書を付して茨城県教育委員会（以下「県教委」という。）教育長あて進達した（教埋第765号）。

この通知に対し、県教委教育長から平成27年7月15日付け文第1011号にて、工事着手前に発掘調査を実施すること、また、調査の結果重要な遺構が確認された場合にはその保存について別途協議を要する旨の指示・勧告があった。

これを受けて、市教委は工事対象地のうち、埋蔵文化財が確認された面積840㎡を調査対象とし、平成28年3月1日～平成28年4月6日の期間に発掘調査を実施することになった。なお、当該地点は、事業範囲が広範であったため、工事実施区画にあわせて次数を分けており、これまでに工事対象地の南東側において、平成27年12月22日～平成28年1月20日の期間で第2次発掘調査を行っている。これらの経緯から、当該地点は第8地点第3次として発掘調査を実施している。（丸山）

第2節 調査の方法と経過

（1）調査の方法

調査は、試掘調査の結果に基づき840㎡を対象に行った。調査区は作業や記録等の区別に用いるため、便宜上現状道路部分を境にして北区と南区に分けている。発掘作業は表土をバックホーで除去し、発生土はダンプによって調査区外に指定された所定の場所へ搬出した。表土除去後の遺構確認作業から遺構の掘り下げは全て人力で行った。竪穴建物跡は基本的に十字の土層観察用ベルトを設定し、新旧関係が把握できた遺構は新しい時期のものから調査を進めた。土坑、ピット等小規模なものは半載によって土層を確認しながら遺構とそれ以外の落ち込みを全て判断した。記録は、事業計画によって設置された公共座標の基準点をもとにX軸＝37760、Y軸＝62580の交わる地点を基点として10×10mの方眼グリッドを組んだ。グリッドにはX軸にはアルファベット、Y軸には算用数字の記号を用いてそれぞれの交点に双方の記号を併用したグリッド名を付し（第6図）、実測や遺物採集の際に使用した。遺構実測は1/20縮尺を基本とするが、遺構の性格に応じた縮尺で行っている。写真撮影は35mm判白黒フィルム及びカラーリバーサルフィルム、6×7判カラーリバーサルフィルムのカメラを主要機とし、1000万画素のデジタルカメラを併用しながら、実測とともに調査の過程で随時撮影を行った。

（2）調査の経過

発掘調査は、3月1日より表土除去を開始し3日まで行った。3日には作業員を投入し北区より遺構確認作業に入った。翌日には南区の遺構確認も終了し遺構掘削を開始し、併せて基準点・水準点を設置、遺構配置図の作成を実施した。8日以降、北区北側より竪穴住居跡・竪穴建物跡を中心に掘削を継続し、同時に10日まではSD01の掘削を併行した。12日には北区の掘削に目途が立ち、北区の遺構実測と入れ替えに15日から南区の遺構掘削を開始した。25日までには北区の作業を終了し、26日に全体清掃を行って北区の全景写真撮影を行った。28日から北区で検出した竪穴建物跡の掘り方掘削に入るとともに、南区を主体に展開する柱穴・ピット群の半割・確認作業を集中的に実施した。4月に入って1日には南区の全体清掃及び全景写真撮影を行った。2日から南区検出の竪穴建物跡掘り方調査と掘立柱建物跡の調査を経て遺構間の新旧関係を把握し、6日午前中は再度調査区を精査して掘り残しの有無を確認し、同日午後に発掘調査の全工程を終了した。（高野）

第2章 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境

水戸市は、関東平野の北東部、茨城県のほぼ中央に位置する。市域の北部には、西から東へ流れる那珂川とその支流により形成される沖積低地が広がり、これに沿うように東茨城台地が太平洋に向かって突き出している。その下流域右岸の大半が水戸市域となる那珂川は、栃木県的那須連山を水源として、八溝山地の西縁を南へ流れた後、烏山の南から方向を東へ変えて八溝山地を横断し、今度は御前山を背にして南東へ方向を変えて那珂台地と東茨城台地との間を太平洋へと流れ出る。この那珂川の存在により、栃木県域に広がる那須野原や喜連川丘陵などの内陸部と太平洋沿岸部とが水上交通によって結ばれることから、歴史的に水戸市域は交通の要衝地となることが多かった。

東前原遺跡は、東茨城台地の北東部をなす水戸台地の東側縁辺、標高約19mのところろに位置しており、東西300m、南北150mほどの畑地に展開する。当該地周辺は明治18(1885)年には広範囲にわたって松林であったことが確認できるが(第2図・第3図)、近年では土地区画整理事業に伴い、大規模な土地改変が行われ、宅地化が進んでいる。(丸山)



第2図 遺跡の位置(○が東前原遺跡, 1:25,000)

第2節 歴史的環境

東前原遺跡が立地する東茨城台地，特に東端部には，縄文から近世に至るまで，数多くの遺跡が密集している。ここでは東前原遺跡の周辺に分布する遺跡群とそれらを取り巻く歴史的環境を概観する。東前原遺跡周辺における人々の営みの歴史は先土器時代にまで遡る。当該期の資料は，東前原遺跡と石川川を挟んだ対岸に位置する森戸古墳群からの出土例が知られているのみである。森戸古墳群では，第12号墳（大六天古墳）の発掘調査において，チャートやメノウから構成される石器群の出土が報告されている。それら石器群の大部分は墳丘盛土・周溝覆土内からの出土であるが，剥片であるものの，1点が周溝底面のローム中から出土している（伊藤 1976）。これらの資料のほか，明確に遺跡としてくくられた範囲内での採集ではないが，水戸市百合が丘，下入野町地内などにおいて，ガラス製黒色デイスaitoや硬質頁岩製の神子柴型尖頭器が採集されている（川口 2005，2008）。

縄文時代の遺跡としては，第一に挙げるべきは大串貝塚であろう。大串貝塚は『常陸國風土記』那賀郡条に記された巨人伝説とともに著名な前期貝塚であり，貝塚としては，文献に記載された世界最



第3図 周辺の遺跡（★印が今次調査地点，1:30,000）

第1表 主要な周辺遺跡一覧

遺跡番号	名称	所在地	種別	遺物	備考
201-006	下畑遺跡	元石川町	集落跡	縄文土器(中・後), 打製石斧, 石鏃, 石錘, 磨石, 凹石, 石棒, 石剣, 土器片鏢, 土師器(古後)	
201-141	雁沢遺跡	元石川町	集落跡	縄文土器(中), 弥生土器(後), 土師器(古前)	
201-175	大串貝塚	塩崎町	貝塚	縄文土器(前・後), 石製品, 貝刀, 釣針・刺突具	一部国指定
201-176	大串遺跡	塩崎町	集落跡	縄文土器(前・後), 土師器(古・奈・平), 須恵器(奈・平), 布目瓦, 灰釉陶器	
201-183	小原遺跡	東前町	集落跡	弥生土器(後), 土師器(古・奈・平), 須恵器(奈・平)	
201-186	金山塚古墳群	大串町	古墳	円筒埴輪, 鉄鏃, 刀子	前方後円(1), 円3(5)
201-187	大串古墳群	大串町	古墳	五獣鏡, 銅輪, 直刀, 鉄鏃, 壺鏡, 素環鏡板付轡	前方後円1, 円1(5)
201-189	愛宕神社古墳	栗崎町	古墳		
201-192	森戸古墳群	森戸町	古墳	土師器(古), 円筒埴輪, 形象埴輪, 勾玉	前方後円1, 方0(1), 円15(17)
201-193	上平遺跡	栗崎町	集落跡	土師器(古・奈・平), 須恵器(奈・平)	
201-201	椿山館跡	東前町	城館跡		
201-202	和平館跡	栗崎町	城館跡		
201-242	高原古墳群	大場町	古墳		円2
201-244	諏訪前遺跡	大場町	集落跡	土師器(古・奈・平), 須恵器(奈・平)	
201-245	沢幡遺跡	大場町	集落跡	土師器(古・奈・平), 須恵器(奈・平), 墨書土器, 円面硯, 紡錘車, 砥石, 鉄鏃, 鉄鏢	
201-246	梶内遺跡	大串町	集落跡	土師器(古後, 奈・平), 須恵器(奈・平), 刀子, 円面硯, 墨書土器, 陶器, 古銭, 煙管	
201-247	高原遺跡	大串町	集落跡	弥生土器(後), 土師器(奈・平), 須恵器(奈・平), 土師質土器, 煙管	
201-248	北屋敷遺跡	大串町	集落跡	土師器(古後, 奈・平), 須恵器(奈・平), 瓦, 陶器	
201-249	北屋敷古墳群	大串町	古墳	形象埴輪, 直刀, 小刀, 鉄鏃	円1(2)
201-251	伊豆屋敷跡	栗崎町	城館跡		
201-252	上野遺跡	栗崎町	集落跡		
201-253	佛性寺古墳	栗崎町	古墳		
201-254	フジヤマ古墳	栗崎町	古墳		
201-256	諏訪神社古墳	栗崎町	古墳		
201-257	千勝神社古墳	栗崎町	古墳		
201-258	打越遺跡	栗崎町	集落跡	土師器(奈・平), 須恵器(奈・平)	
201-259	東前原遺跡	東前町	集落跡	弥生土器(後), 土師器(古, 奈・平), 須恵器(奈・平)	本調査遺跡
201-260	住吉神社古墳	東前町	古墳		
201-261	大串原館跡	大串町	城館跡		
201-263	宮前遺跡	大串町	集落跡	土師器(奈・平), 須恵器(奈・平),	
201-299	上の下遺跡	東前町	包蔵地		

古のものである。一部が国指定となっているが、その名に恥じぬ豊富な出土資料は、質・量ともに茨城県下における当該期の貝塚を凌駕している(水戸市教委 2010)。また、下畑遺跡では、加曽利E式、大木8b式期の竪穴建物跡をはじめとする遺構群が確認されており(井上 1985)、複式炉を有する住居跡が発見されるなど、中期から後期にかけての人々の営みを窺うことができる。

弥生時代については、東前原遺跡周辺における状況も水戸市全域における傾向に変わらず、生活の痕跡は他時期のそれに比べてやや低調な傾向にある。しかしながら、後期に至っては、丘陵沿いの台地上や縁辺部に立地する小原遺跡、高原遺跡、雁沢遺跡などで遺物の採集や出土が報告されており、これらの調査成果の蓄積により、徐々にではあるが、水戸市域における弥生時代の土地利用の様相が像を結びつつある。

古墳時代を迎えると、大串古墳群、北屋敷古墳群、高原古墳群、森戸古墳群などを筆頭に、古墳が活発に築造されるようになる。これらの古墳のうち、北屋敷古墳群第2号墳では発掘調査が実施されており、円筒埴輪、武人をはじめとする人物埴輪、馬形埴輪など形象埴輪が多く出土した(井上 1995)。このうち、ほぼ全身が出土した武人埴輪は水戸市指定文化財となっている。集落の分布としては、中期の集落に係る資料に乏しく、周辺では管見に触れないが、前期の集落としては大串遺跡(井上 1994)、後期の集落としては梶内遺跡(樫村 1995)、小原遺跡(第3地点)などの調査事例がある。当該台地上においては、前期・後期ともに活発な土地利用がみてとれる反面、中期における土地利用が緩慢であると言わざるを得ない。このことは集落展開の動態について、中期において相応の変動があったことを示唆するものである。

奈良・平安時代となり、律令制下の中央政権体制が構築されていくなか、水戸市域においても地方末端支配を目的とした郡衙及び郡寺の造営が、渡里町に所在する台渡里官衙遺跡群において行われ、

第2章 遺跡の位置と環境

律令体制の中へと組み込まれていくこととなる。水戸市は全域が常陸国那賀郡域内にあり、当該遺跡周辺は同郡芳賀里（郷）に比定される（中山 1979）。当該時期の遺跡として、先ず注目すべきは大串遺跡の存在である。大串遺跡第7地点における発掘調査では、断面V字状を呈する大型の溝によって区画された内部に、整然と並ぶ総地業の礎石建物跡3棟が確認されている。また、束柱をもち、壺地業を有する桁行6間×梁行3間の大型の掘立柱建物跡なども発見され、一般集落とは大きく異なる様相を示している。大型の掘立柱建物柱抜き取り穴からは多量の炭化材と共に炭化米が、区画溝からは炭化した穎稻や穀稻が出土しており、これらの建物が正倉としての性格を有し、火災により焼失していたことが明らかになっている。また、「厨」銘墨書土器も出土するなど、官衙的色彩の強さが目立つ遺構・遺物群から、本遺跡は那賀郡内に設置された正倉別院であったであろうことが指摘されている（水戸市教委 2007）。

このほか、梶内遺跡は、7世紀から10世紀まで、途中希薄になる時期は存在するものの、比較的長く継続する集落跡として注視すべき遺跡である。当該遺跡では、「舎人」「長」や里（郷）名を記したとみられる「芳」銘墨書土器、9点もの円面硯を出土しており、官衙関連遺跡としての性格を匂わせる（樫村 1995）。また、東前原遺跡直近に位置する小原遺跡では、近年相次いで実施した発掘調査の成果により、6世紀から9世紀にかけて存続した集落であることが明らかになっており、「官」銘墨書土器の出土から、梶内遺跡と同様の性格を有している可能性が考えられる（太田・土生 2015、齋藤・米川 2016）。以上のような遺跡群の集中する様は、『常陸國風土記』那賀郡条の「平津驛家西一二里有岡名曰大櫛」の記事（秋本 1958）とあわせ、東前原遺跡とその周辺地域が、常陸国那賀郡芳賀里（郷）の中核ともいえる地域であったことを物語っている。

中世、武士が実権を握る時代となり、東前原遺跡が所在する旧常澄村域と重なる恒富郷を根拠としていたのは、常陸平氏大掾氏の一流である石川氏であった（常澄村史編さん委員会編 1989）。東前原遺跡周辺の当該時期の遺跡としては、椿山館跡、和平館跡、大串原館跡が挙げられる。いずれの城館跡も土塁の残存が報告されているが、調査事例が少なく、その詳細については不明な点が多い（水戸市教育委員会 1999）。

近世において、当該地域の台地上は水戸城下の外縁部にあたり、必ずしも前代のような求心力を有する地域であるとは言いがたい。しかしながら、当該時期に帰属する溝跡や土坑などは各所で散見され、その土地利用の痕跡を窺うことはできる。なかでも『新編常陸国誌』などに立原伊豆守の居所と記されている伊豆屋敷跡では、発掘調査の結果3条の土塁と1条の溝跡が確認されている（井上 1998）。

以上のように、東前原遺跡が立地する台地上には、縄文時代から近世に至るまで、豊富な遺跡が所在している。古代には、大串遺跡や梶内遺跡などの官衙関連遺跡が展開をみせ、古代常陸国那賀郡の中核であった台渡里官衙遺跡群との色濃い関連性は疑うべくもない。現在、東前原遺跡周辺における調査の蓄積には目覚ましいものがある。これらの調査成果の丹念な検討から、当該地域の歴史像が結ばれていくことが期される。

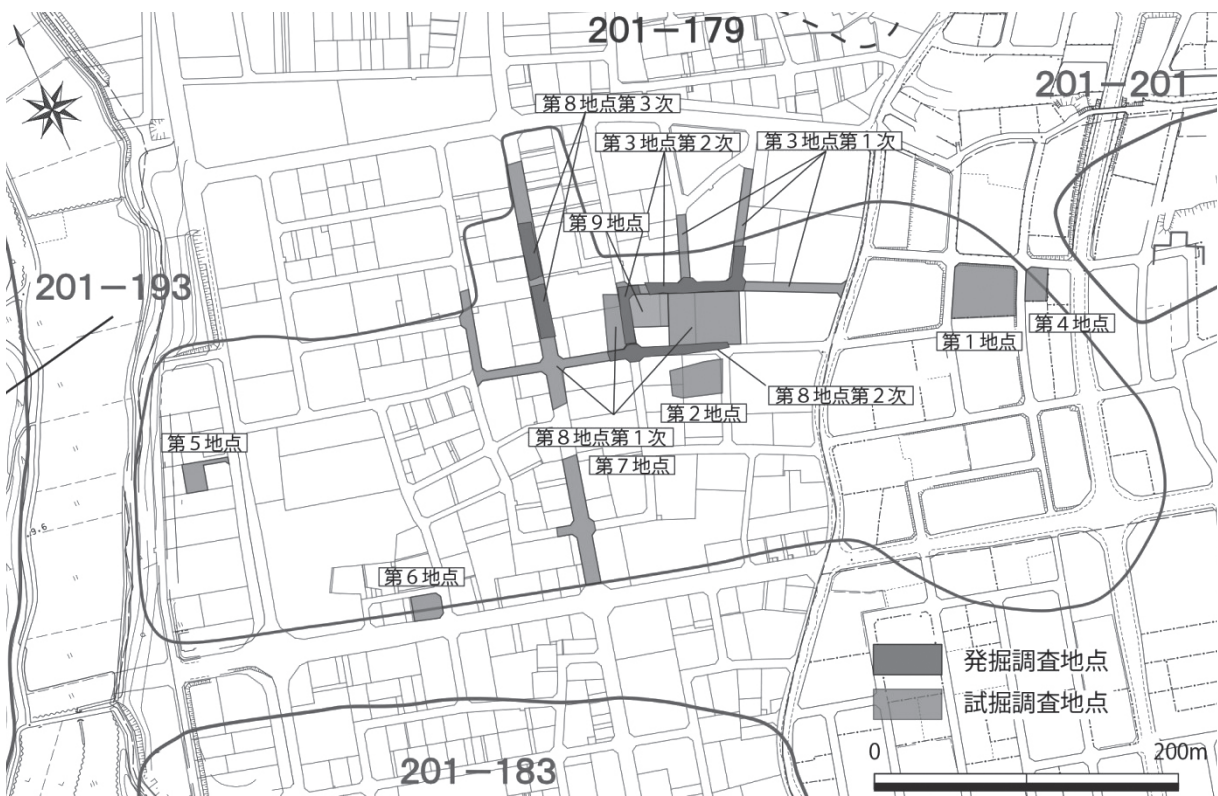
（米川・丸山）

第3節 東前原遺跡における既往の調査

東前原遺跡における調査は、平成20（2008）年の第1地点の試掘調査から始まり、今次調査地点を含めて計8地点・12次の調査を実施している（第4図、第2表）。これらの半数は個人住宅建築に伴う調査面積が狭小な試掘調査であり、東前原遺跡南端部に位置する第6地点にて性格不明遺構が1基確認されたことを除き、明確に埋蔵文化財と捉えられる遺構は検出されていない。しかしながら、

表採や調査区表土中では少なからず遺物が散見しており、埋蔵文化財が確認できなかった地点周辺に未発見の遺構が存在している可能性は極めて高い。また、近年の土地区画整理事業に伴う市道敷設範囲や整地予定地では、3地点（総調査面積434.5㎡）に亘る試掘調査を実施しており、そのほぼ全ての調査区から濃密な埋蔵文化財の分布を確認している。そのうち、これまでに第3地点第2次及び第8地点第2次で本発掘調査を実施している。なお、第8地点は、事業範囲が広範であったため、工事実施区画にあわせて次数を分け、今般の発掘調査を第3次として実施している。

平成26（2014）年度に実施した第3地点第2次発掘調査では、竪穴建物跡11軒（奈良・平安）や掘立柱建物跡2棟（時期不明）、土坑9基（奈良・平安時代、中近世）、溝跡6条（奈良・平安時代）、柱穴状遺構1基（時期不明）を検出しており、出土遺物としては、土師器、須恵器、鉄製品、石製品、獣骨がある。竪穴建物跡は、一辺が6mを超えるものから2.5mの小型のものなど様々な規模の建物がみられ、主軸方向は北北西—南南東を主とするが、東—西に向いたものもわずかに存在することか



第4図 東前原遺跡における既往の調査地点（1：5,000）

第2表 東前原遺跡における既往の調査一覧

地点名・次数	種別	調査年月日	調査箇所	調査原因	遺構	遺物
第1地点第1次	試掘	平成20年11月11日	東前2丁目57・60	個人住宅建築	—	○
第2地点第1次	試掘	平成24年2月2日	東前町1098	個人住宅建築	—	—
第3地点第1次	試掘	平成26年5月8日～5月6日	東前町1104-1～1118-1	土地区画整理事業	○	○
第4地点第1次	試掘	平成26年7月30日	東前2丁目61, 62	個人住宅建築	—	○
第5地点第1次	試掘	平成27年1月22日	東前第二土地区画整理事業75街区符号15区画	個人住宅建築	—	—
第3地点第2次	発掘調査	平成27年2月9日～3月10日	東前町1106-1, 1113, 1115-2, 1116-1, 1117, 1118-1	土地区画整理事業	○	○
第6地点第1次	試掘	平成27年4月28日	東前町1147	個人住宅建築	○	○
第7地点第1次	試掘	平成27年5月8日	東前町1124-1～1126	土地区画整理事業	○	○
第8地点第1次	試掘	平成27年6月16日～6月19日	東前町1120～1122-1	土地区画整理事業	○	○
第9地点第1次	試掘	平成27年7月15日	東前第二土地区画整理事業48街区符号6・7区画	個人住宅建築	—	—
第8地点第2次	発掘調査	平成27年12月22日～平成28年1月20日	東前町1118-1ほか	土地区画整理事業	○	○
第8地点第3次	発掘調査	平成28年3月1日～4月6日	東前町1120, 1209-2・7・9, 1209-10の一部	土地区画整理事業	○	○

第2章 遺跡の位置と環境

ら、異なる時期の集落が展開していたことが推測される。なお、当該地点で確認された竪穴建物跡の多くは北壁にカマドを持つ形状を基本としているが、そのうち1軒のみ、真北隅にカマドを持つ竪穴建物跡が確認されていることも注視される。

平成27(2013)年度に発掘調査を行った第8地点第2次では、竪穴建物跡6軒(奈良・平安)、掘立建物跡5軒(中近世)、ピット5基(中近世)、土坑9基(中近世)、ピット状遺構群1群(中近世)、溝跡2条(中近世)が確認されており、遺物は土師器(奈良・平安)、須恵器(奈良・平安)、土師質土器(中近世)、陶磁器、銅製品(煙管)が出土している。ほとんどの竪穴建物跡は全体の1/2程度のみを検出に留まり、全様は確認できなかった。建物の主軸は概ね南―北方向に向いており、1軒のみ一辺が7m程の大型の竪穴建物跡があるものの、それ以外は4m程度のものが多く、規模や出土遺物から奈良・平安時代に帰属するものとして考えられる。その他、中～近世の円形や方形の粘土張り土坑も検出している。

なお、現在のところ発掘調査には至っていないが、本遺跡の南端に位置する第7地点でも土地区画整理事業に伴う試掘調査を実施しており、溝跡や土坑、ピットなどを発見している。当該地点で確認された遺構は、上述2地点にて確認されている集落の一端を示すものと考えられており、東前原遺跡の南側に近接する小原遺跡との関係も視野に入れつつ、今後の追加調査の成果が期待される地点である。

これらの多くの竪穴建物跡の確認から、一時その営みが確認されない時期もあるものの、古墳～奈良・平安時代にかけて展開した比較的規模の大きい集落跡であることが明らかとなっている。また、中～近世の遺構も点在していることから長期に亘って土地利用がなされてきた遺跡である。

東前原遺跡における主要な発掘調査結果は以上のとおりである。当該遺跡は、地点によっては抜根や切土工事などの過去の大規模な土地改変により既に埋蔵文化財が失われているエリアも存在するが、遺跡の保存状態は比較的良好である。(丸山)

【参考・引用文献】

- 秋元吉郎校注 1958 「常陸国風土記」『風土記』日本古典文学大系2 岩波書店
- 伊東重敏 1976 『大六天古墳(森戸古墳群第12号墳)』茨城県東茨城郡常澄村教育委員会
- 井上義安 1985 『水戸市下畑遺跡 市道酒門8号線拡幅工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』水戸市教育委員会
- 1994 『水戸市大串遺跡 市道常澄8-1495号線埋蔵文化財発掘調査報告書』茨城県水戸市
- 1998 『伊豆屋敷跡確認調査報告書 墓地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』水戸地方埋蔵文化財研究会
- 井上義安・金子浩正 1996 『水戸市大串遺跡 常澄中学校増改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』茨城県水戸市
- 井上義安・千葉隆司 1995 『水戸市北屋敷古墳 市道常澄7-0057号線埋蔵文化財発掘調査報告書』茨城県水戸市
- 太田有里乃・土生朗治 2015 『小原遺跡(第3地点) 都計道7・6・1号外3路線道路改良及び流域関連下水道工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』水戸市教育委員会
- 小川和博・大淵淳志・川口武彦・木本孝周・渥美賢吾・関口慶久・株式会社京都科学 2008 『大串遺跡(第7地点) 一介護老人保健施設建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』水戸市教育委員会
- 樫村宣行 1995 『一般国道6号東水戸道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ 梶内遺跡』財団法人茨城県教育財団
- 川口武彦 2005 「水戸市下入野町出土の神子柴型尖頭器」『婆良岐考古』第27号 婆良岐考古同人会
- 2008 「水戸市百合ヶ丘町出土の神子柴型尖頭器」『婆良岐考古』第30号 婆良岐考古同人会
- 川口武彦・小川和博・大淵淳志 2002 『水戸市元石川町所在 小仲根遺跡発掘調査報告書』水戸市教育委員会
- 齋藤 洋・米川暢敬 2016 『小原遺跡(第16地点) 都市計画道路7・6・1号線道路改良及び流域関連下水道工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』水戸市教育委員会
- 中山信名 1979 『新編常陸国誌』宮崎報恩会
- 水戸市教育委員会 1999 『水戸市埋蔵文化財分布調査報告書(平成10年度版)』

第3章 調査の成果

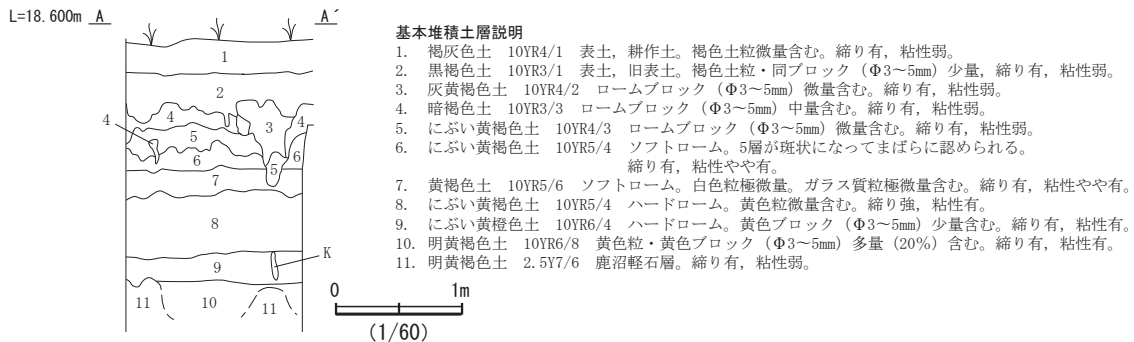
第1節 調査の概要

本地点は、東前原遺跡の範囲の中央部北端に位置し、現況は現在使用されている市道を境として北区が宅地、南区が畑地であった。標高は18～19 m程の平坦地であるが、南区より北区の方がわずかに高い。

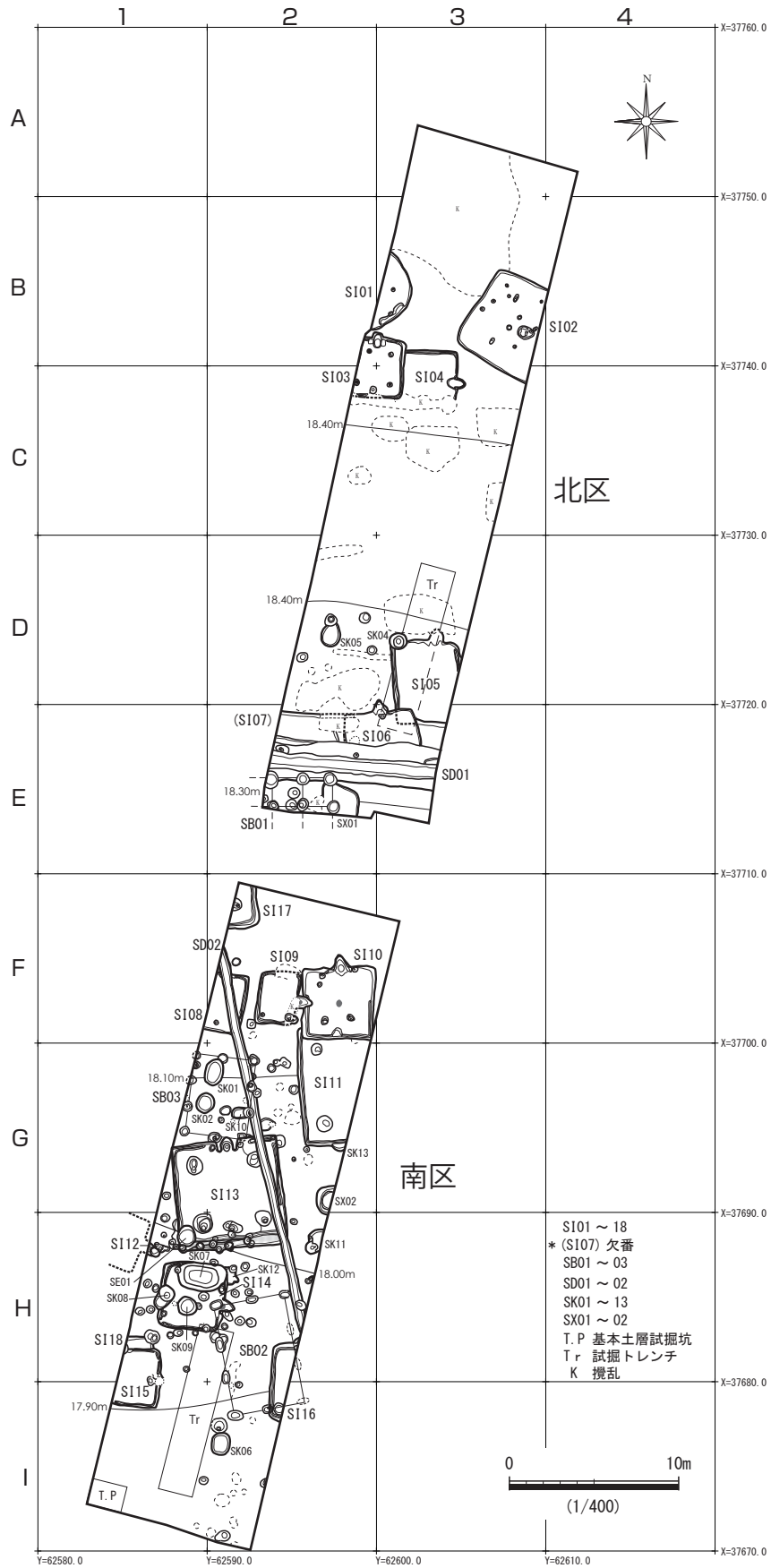
基本堆積土層は、南区南端にあたるI1グリッド内で観察を行った。表土は1層耕作土、2層旧表土が認められ双方合わせた層厚は約50 cmである。3・4層は同様の土質であるが、3層が若干灰色がかり遺構の落ち込みと見誤る可能性がある。4層の暗褐色土または5層のにぶい黄褐色土の上面が遺構確認面になる。6・7層のソフトローム層、8・9層のハードローム層が続き、10層になって鹿沼軽石の含まれた層に達する。

本地点から検出された遺構は、弥生時代の竪穴住居跡2軒、奈良・平安時代の竪穴建物跡15棟、掘立柱建物跡3棟、ピット98基、土坑12基、溝跡2条、性格不明の竪穴状遺構2基、近世以降の井戸跡1基、土坑1基であった。弥生時代の竪穴住居跡は2軒ともに北区の北端で検出され、該期の集落範囲が那珂川を臨む台地縁辺部に寄っていたことがうかがわれる。奈良・平安時代の竪穴建物跡は北区C・Dグリッド間で空白地帯があるものの、南北両区のほぼ全域で認められ、特に北区南端から南区での密集度が高い。これらは重複関係や出土遺物の様相から少なくともⅢ期に区分されると考えられ、最も新しい時期の竪穴建物跡は東壁にカマドを有している。掘立柱建物跡や柱穴状のピットは竪穴建物跡が密集する範囲に集中する。重複関係からSI13より新しく、SI14より古い時期の構築とみられる。溝は検出された2条の内、大型になるSD01が北区南側で調査区を横断している。出土遺物が少なく時期は不明瞭であるが、ほぼ東西に軸を持って走行していることから区画を意識しているのは間違いない。北側壁で当初SI07としていたテラス状の平坦面が認められる。近世以降と考えられる井戸、土坑は南区で確認されており、いずれも奈良・平安時代の竪穴建物跡を壊して構築されているが、関連性はうかがえない。

遺物は弥生土器（壺・甕）、土師器（坏・椀・皿・甕・甑・鉢）、須恵器（坏・高台付坏・皿・盤・蓋・甕・甑・鉢・鉢・壺瓶類・高坏・円面硯・コップ型）、灰釉陶器（椀）、土器、瓦（丸瓦・平瓦・熨斗瓦）、土製品（土玉・支脚）、手捏土器、石製品（砥石）、鉄製品（刀子）が出土している。弥生時代の土器は、頸部に2～3本単位の櫛描文を有する壺が主体で、那珂川沿いに展開する東中根式期の様相である。奈良・平安時代で特に注視する遺物としては土師器、須恵器の坏の中に認められる墨書土器8点、小破片ではあるが円面硯の脚部片1点、コップ型の須恵器などがあげられる。（高野）



第5図 基本堆積土層図



第6図 遺構全体図

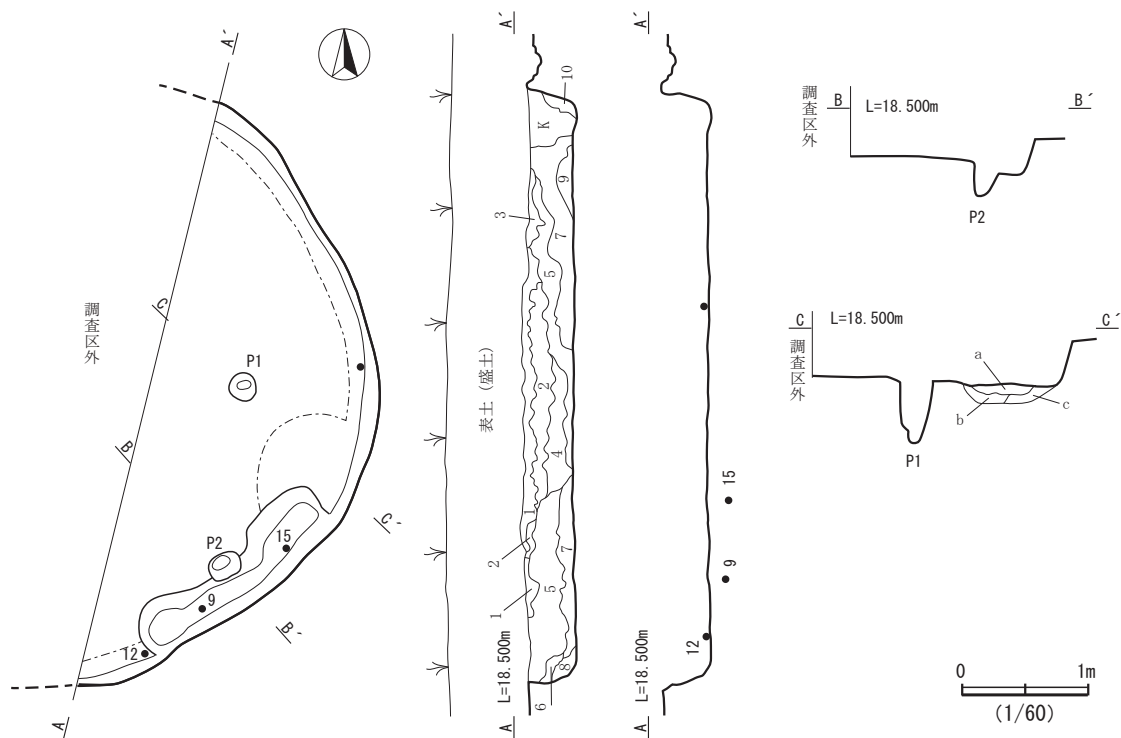
第2節 検出された遺構と遺物

(1) 竪穴住居跡・竪穴建物跡

SI01 (第7・8図, 第8表, 写真図版2・6)

検出位置は北区のB2・3グリッドである。西側の約3分の2が調査区外になり、全容は把握できなかったが、平面形は隅丸方形を呈すると思われる。規模は現存で最大4.74m、深さ38cmを測り、壁は垂直に立ち上がる。覆土は自然堆積と考えられる。床面はにぶい黄褐色土とロームブロックの混土で薄く貼り床が施され、一部を除きほぼ全体に硬化する。壁溝は幅27～38cm、深さ14cmで、南東壁のみに認められた。ピットは2基が検出された。掘り方は壁際を深く掘り込んだ部分がある。

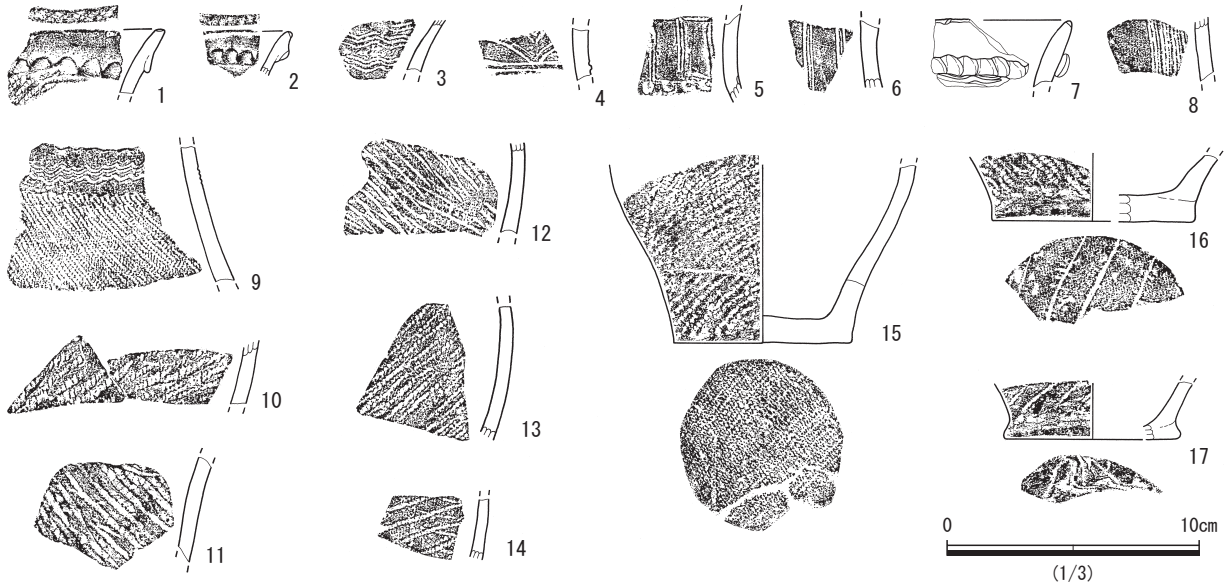
遺物は、弥生土器42点(壺42)が出土した。本地点での範囲では覆土中に含まれた小破片がほとんどで数も少ない。1はP1からの出土、12は床直上からの出土でいずれも小破片であるが、壁溝中から出土した9・15はやや大きめの破片で、9は他と比べ異質である。口縁部は複合口縁のみで、櫛描文は2本単位のもの为主体であるが、3は3本以上の施文具が用いられている。縄文は付加条第1種縄文(付加2条)が中心であるが、14・17は付加条第2種縄文(付加1条)である。底部底面は15の布目圧痕、16・17の木葉痕の2種類が認められる。3・9・14・17は本住居跡の時期に伴わない混入遺物の可能性が高い。時期は弥生時代後期前半と考えられる。



SI01

- | | |
|---|--|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 黒色土 10YR2/1 ローム粒少量, ロームブロック (Φ3~5mm) 微量含む。縮り有, 粘性弱。 2. 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒少量, ロームブロック (Φ3~5mm) 少量含む。縮り有, 粘性弱。色調やや淡い。 3. 黒褐色土 10YR3/1 ローム粒少量, 斑状のにぶい黄褐色土(10YR4/3)を全体に含む。縮り有, 粘性弱。 4. 暗褐色土 10YR3/3 ロームブロック (Φ3~10mm) 中量含む。縮り有, 粘性。 5. にぶい黄褐色土 10YR4/3 ロームブロック (Φ3~5mm) 中量・同 (Φ7~10mm) 少量含む。縮り有, 粘性弱。 6. にぶい黄褐色土 10YR4/3 ローム粒中量, ロームブロック (Φ5~10mm) 多量 (20%) 含む。縮り有, 粘性やや有。 7. 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒少量, ロームブロック (Φ3~10mm) 少量, 炭化物粒微量含む。縮り有, 粘性やや有。 | <ol style="list-style-type: none"> 8. 黒褐色土 10YR3/1 ローム粒多量 (20%), ロームブロック (Φ3~10mm) 多量 (20%) 含む。縮り有, 粘性有。 9. にぶい黄褐色土 10YR4/3 ロームブロック (Φ3~10mm) 多量 (20%) 含む。縮り有, 粘性やや有。 10. 暗褐色土 10YR3/3 ロームブロック (Φ5~10mm) 多量 (20%) 含む。縮り有, 粘性弱。 <p>SI01掘り方</p> <ol style="list-style-type: none"> a. にぶい黄褐色土 10YR4/3 ロームブロック (Φ5~30mm) 多量 (20%), 黒褐色土(10YR3/1)斑状に少量含む。縮り強, 粘性有。 b. 黒褐色土 10YR3/1 ロームブロック (Φ10~30mm) 多量 (20%) 含む。縮り有, 粘性有。 c. 褐色土 10YR4/6 ロームブロック (Φ5~10mm) 中量含む。縮り有, 粘性有。 |
|---|--|

第7図 SI01

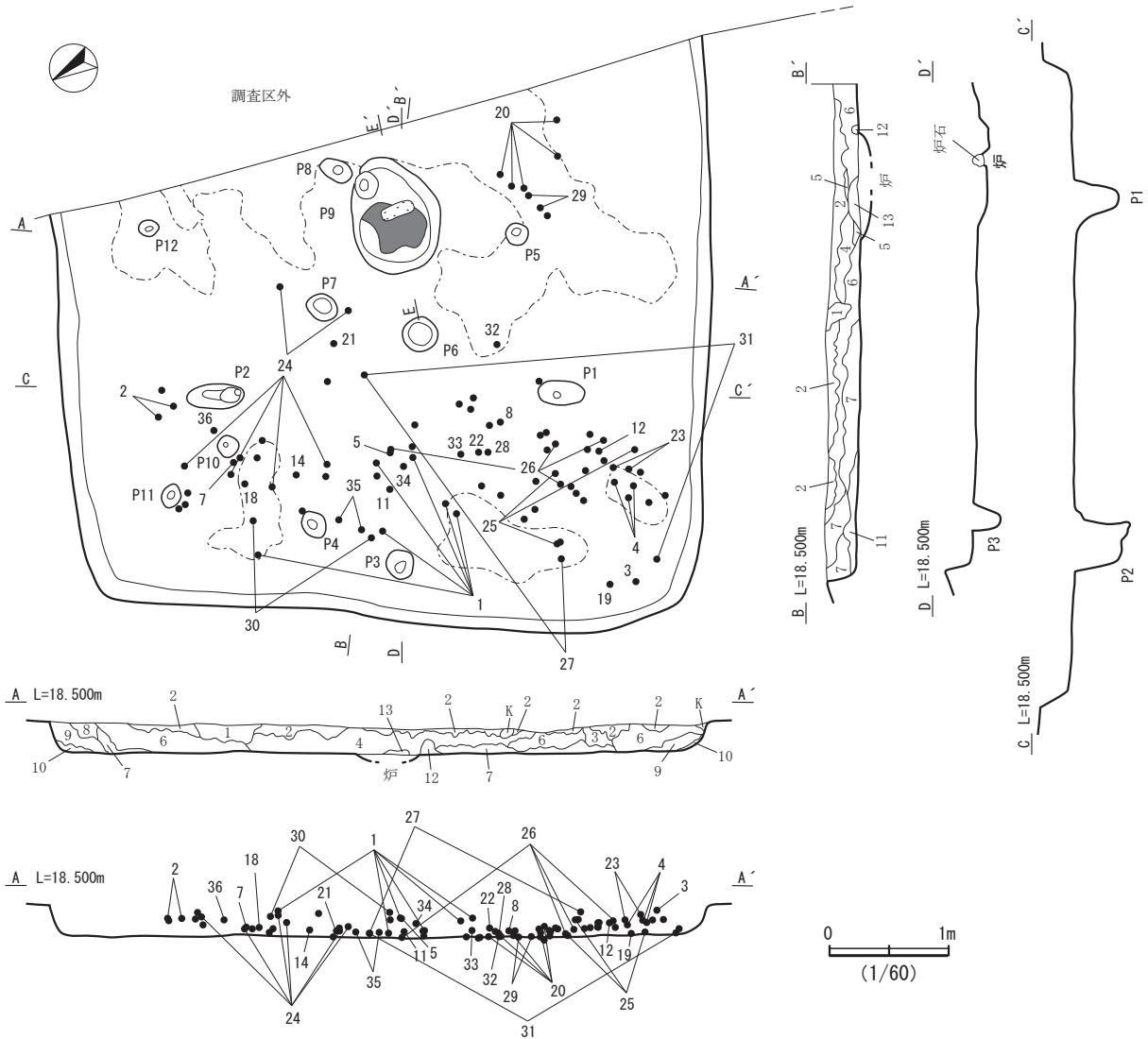


第8図 SI01 出土遺物

SI02 (第9～12図, 第8表, 写真図版2・6・7)

検出位置は北区のB3・4, C3グリッドにまたがる。東側が調査区外に延び全容は把握できない。平面形は隅丸長方形とみられ, 主軸方向はN-62°-Wを示す。規模は長軸が現存値で4.80m, 短軸が5.48m, 深さは24～30cmを測り, 壁は垂直に立ち上がる。覆土は自然堆積である。床面はにぶい黄褐色土とロームブロックの混土で薄い貼り床が施され, 炉の南西側で顕著な硬化面が広がる。壁溝は認められなかった。ピットは12基が検出された。P1・2は主柱穴になる。P1が径48×21cm, 深さ37cm, P2が径40×21cm, 深さ37cmとともに楕円形となり, 柱が抜き取られた痕跡とみられる。P5～8は径19～30cm, 深さ5～25cmの小規模なピットで, 炉の周辺を巡っている。P9～12も径17～21cm, 深さ8～21cmの小ピットであるが, 規則性は見出せない。掘り方は認められなかった。炉は住居内のほぼ中央に付設されていると考えられ, 長軸98cm, 短軸77cm, 深さ10～12cmで, 長さ29cm, 幅11cm, 重さ2,895gの炉石(安山岩)が据えられている。炉の西側は被熱が顕著であった。

遺物は, 弥生土器207点(壺204, 鉢2, 高坏1)が主体となって出土し, 他に土師器33点(坏9, 碗1, 甕23)須恵器25点(坏9, 高台付坏1, 盤1, 蓋5, 甕9)が混入していた。遺物の出土状態は竪穴住居内の西壁寄りに集中する傾向にあり, 炉の周辺ではあまり出土が見られない。弥生土器の内容を見ると, 口縁部は複合口縁でほぼ占められている。複合部下端に押捺を加えたものが主流であるが, 縄文のみ施文する2・5・10や無文の6も認められ, いずれの口縁部にも口唇部に単節又は付加条縄文が施文される。頸部は縄文のみを施す2・5・13があるものの, ほとんどは櫛描文により文様が構成される。櫛描文は3本単位の施文具を用いたものが主体で, 3・8・19の波状文, 鋸歯状文, 12・18の連弧文, 14・15・17の格子状文が施される。一方で11・13・16の2本単位による施文具による波状文, 鋸歯状文等の破片も出土しているが, 本住居跡の時期に伴わない混入遺物の可能性が高い。縄文は付加条第1種縄文が中心である中であって, 単節縄文も比較的目立ち, 18のように胴部では双方の原体が施文されているものも認められる。底部底面は木葉痕が圧倒的に多いが, わずかながら26・36に見られるような布目圧痕の底部片も出土している。12・34は鉢になる器形とみられ, 4は口縁部の開きから高坏であろう。時期は弥生時代後期前半で, 出土土器との比較からSI01に後続すると考えられる。



S102

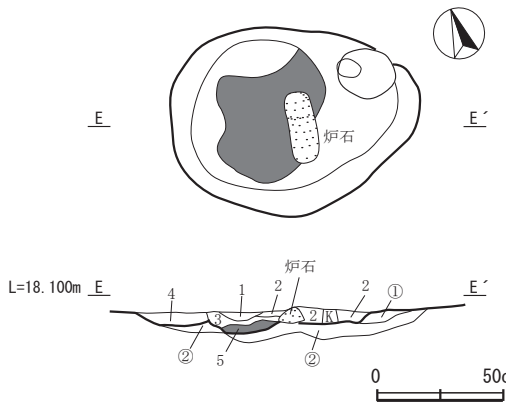
1. 黒色土 10YR2/1 灰黄褐色土 (10YR5/2) の混土。新しい時期の掘り込みとみられる。締り有, 粘性弱。
2. 黒色土 10YR2/1 ローム粒中量。斑状の灰黄褐色土をまばらに含む。締り有, 粘性弱。
3. 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒微量含む。締り有, 粘性弱。4層に類似するが色調がやや暗く, 含有物も少ない。
4. 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒少量, ロームブロック (Φ3~5mm) 少量, 炭化物粒微量含む。締り有, 粘性弱。
5. 暗褐色土 7.5YR3/3 焼土ブロック (Φ3~5mm) 微量含む。締り有, 粘性弱。
6. にぶい黄褐色土 10YR4/3 ローム粒少量, ロームブロック (Φ3~7mm) 微量, 炭化物粒微量, 斑状の褐色土まばらに含む。締り有, 粘性やや有。
7. 褐色土 10YR4/4 ロームブロック (Φ5~10mm) 多量 (20%), 斑状の褐色土を全体に含む。締り・粘性有。
8. 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒少量, ロームブロック (Φ3~7mm) 少量含む。締り有, 粘性弱。
9. 黒褐色土 10YR3/1 ロームブロック (Φ3~5mm) 中量, 同 (Φ7~15mm) 微量含む。締り有, 粘性やや有。
10. にぶい黄褐色土 10YR4/3 ローム土混土。締りやや弱, 粘性有。
11. 褐色土 10YR4/6 ロームブロック (Φ15~40mm) 多量 (40%) 含む。締り有, 粘性有。
12. 黄褐色土 10YR5/6 ロームブロック主体。締り有, 粘性弱。
13. 褐色土 7.5YR4/3 焼土ブロック (Φ5~10mm) 多量 (20%), 焼土粒中量, ローム粒少量含む。締り有, 粘性弱。炉直上の層。

S102 炉

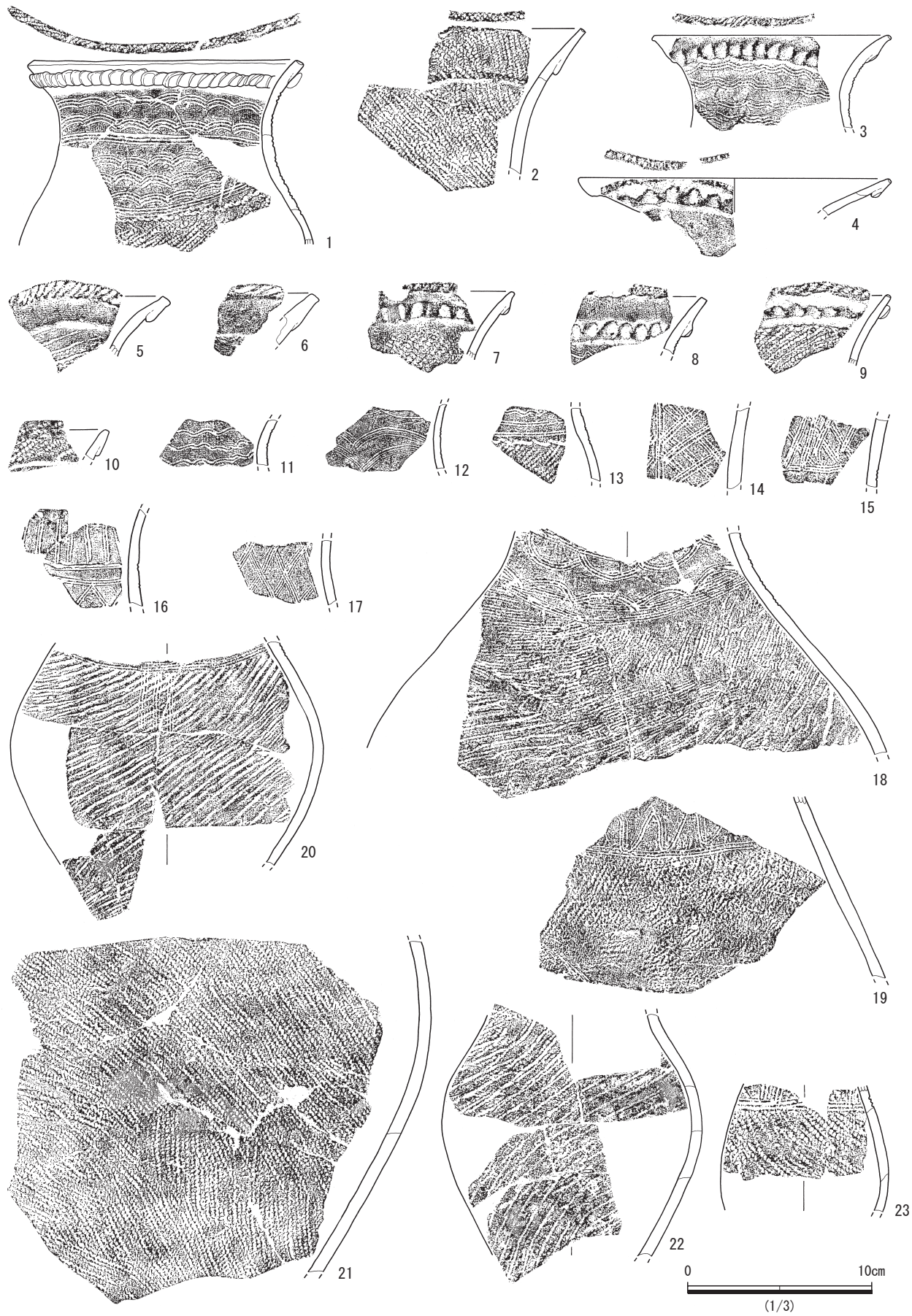
1. 黒褐色土 7.5YR3/1 焼土粒少量含む。締り有, 粘性弱。
2. 暗褐色土 7.5YR3/3 焼土粒中量, 焼土ブロック (Φ3~5mm) 少量, ローム粒微量含む。締り有, 粘性弱。
3. 灰褐色土 5YR4/2 焼土ブロック (Φ5~10mm) 多量 (20%) 含む。締りやや弱, 粘性弱。
4. 褐色土 7.5YR4/4 焼土粒少量, 焼土ブロック (Φ3~7mm) 微量, ローム粒中量含む。締り有, 粘性やや有。
5. 明赤褐色土 2.5YR5/6 火床部。焼土ブロック主体。締り強, 粘性なし。

S102 炉掘り方

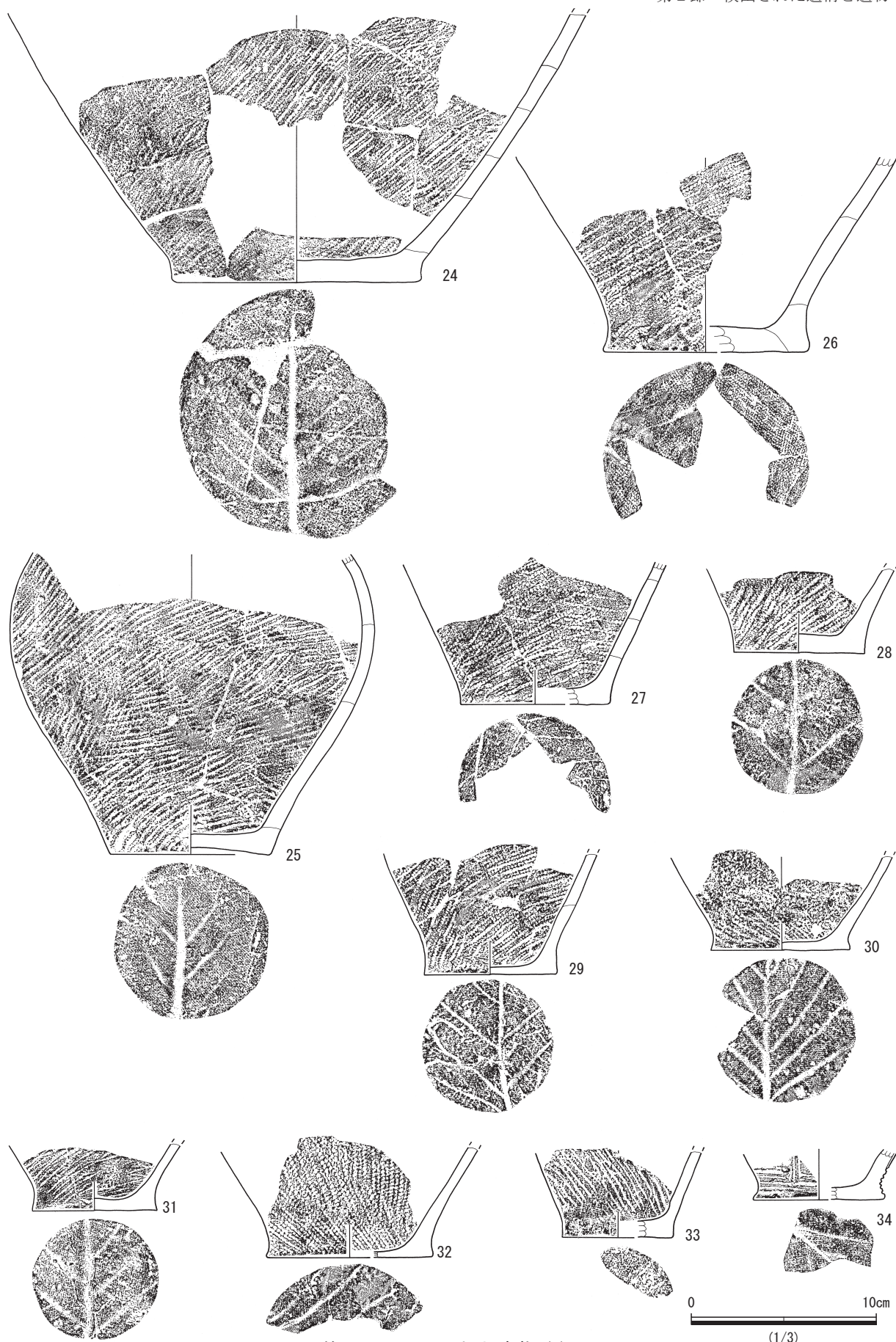
- ①. 褐色土 10YR4/4 ロームブロック (Φ5~20mm) 多量 (30~40%) 含む。締り有, 粘性有。
- ②. 明褐色土 7.5YR5/6 被熱ローム。焼土粒微量含む。締り強, 粘性弱。



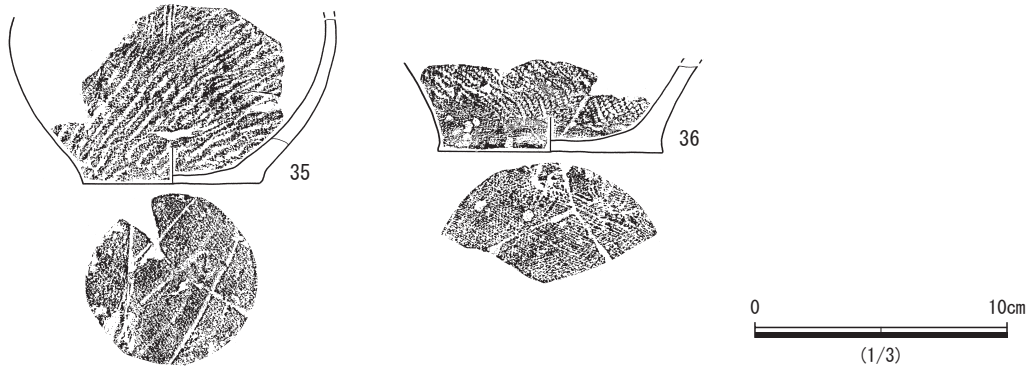
(1/30) 第9図 S102



第10図 SI02 出土遺物(1)



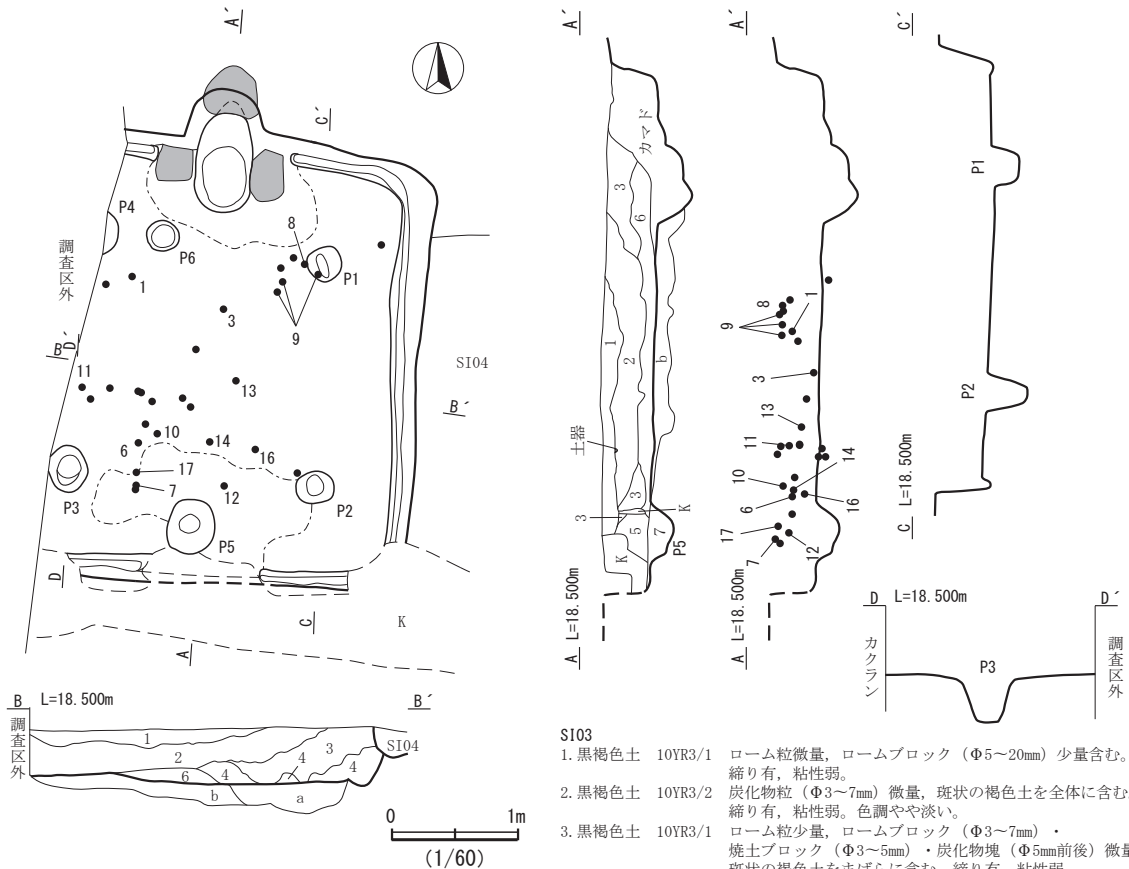
第11図 SI02 出土遺物 (2)



第12図 SI02 出土遺物 (3)

SI03 (第13・14図, 第8表, 写真図版2・7)

検出位置は北区のB2・3, C2・3グリッドにまたがる。東側では壁上端部をSI04に切られ、南側は攪乱により消失していた。さらに西側の約3分の1が調査区外になり全容は把握できなかったが、平面形は方形を呈し、主軸方向はN-6°-Eを示す。規模は東西軸が現存値で2.90m, 南北軸が3.54m, 深さは43cmを測り、壁は垂直に立ち上がる。覆土は自然堆積と考えられる。床面はほぼ平坦であるものの貼り床は認められなかった。壁溝は幅11~15cm, 深さ3~6cmで、全周したと



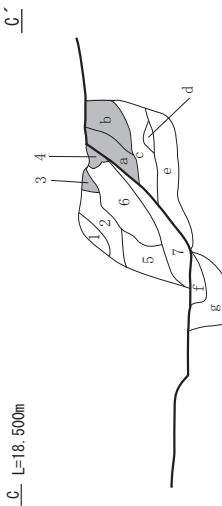
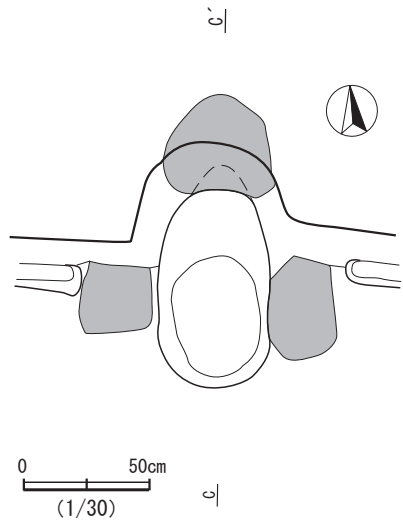
SI03掘り方

- a. にぶい黄褐色土 10YR4/3 ロームブロック (Φ10~30mm) 多量 (20%) 含む。縮り・粘性有。
- b. 明黄褐色土 10YR6/6 ロームブロック (Φ10~50mm) 主体。縮り強, 粘性有。

SI03

- 1. 黒褐色土 10YR3/1 ローム粒微量, ロームブロック (Φ5~20mm) 少量含む。縮り有, 粘性弱。
- 2. 黒褐色土 10YR3/2 炭化物粒 (Φ3~7mm) 微量, 斑状の褐色土を全体に含む。縮り有, 粘性弱。色調やや淡い。
- 3. 黒褐色土 10YR3/1 ローム粒少量, ロームブロック (Φ3~7mm)・焼土ブロック (Φ3~5mm)・炭化物塊 (Φ5mm前後) 微量。斑状の褐色土をまばらに含む。縮り有, 粘性弱。
- 4. 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒少量, ロームブロック (Φ3~5mm) 微量, 斑状の黄褐色土をまばらに含む, 縮り有, 粘性やや有。
- 5. 黒褐色土 10YR3/1 ローム粒少量含む。縮りやや強, 粘性やや有。
- 6. にぶい黄褐色土 10YR5/3 ロームブロック (Φ3~10mm) 多量 (20~30%) 含む。縮り・粘性弱。
- 7. 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒・ロームブロック (Φ2~5mm) 多量 (40%) 含む。縮り弱, 粘性弱。

第13図 SI03(1)

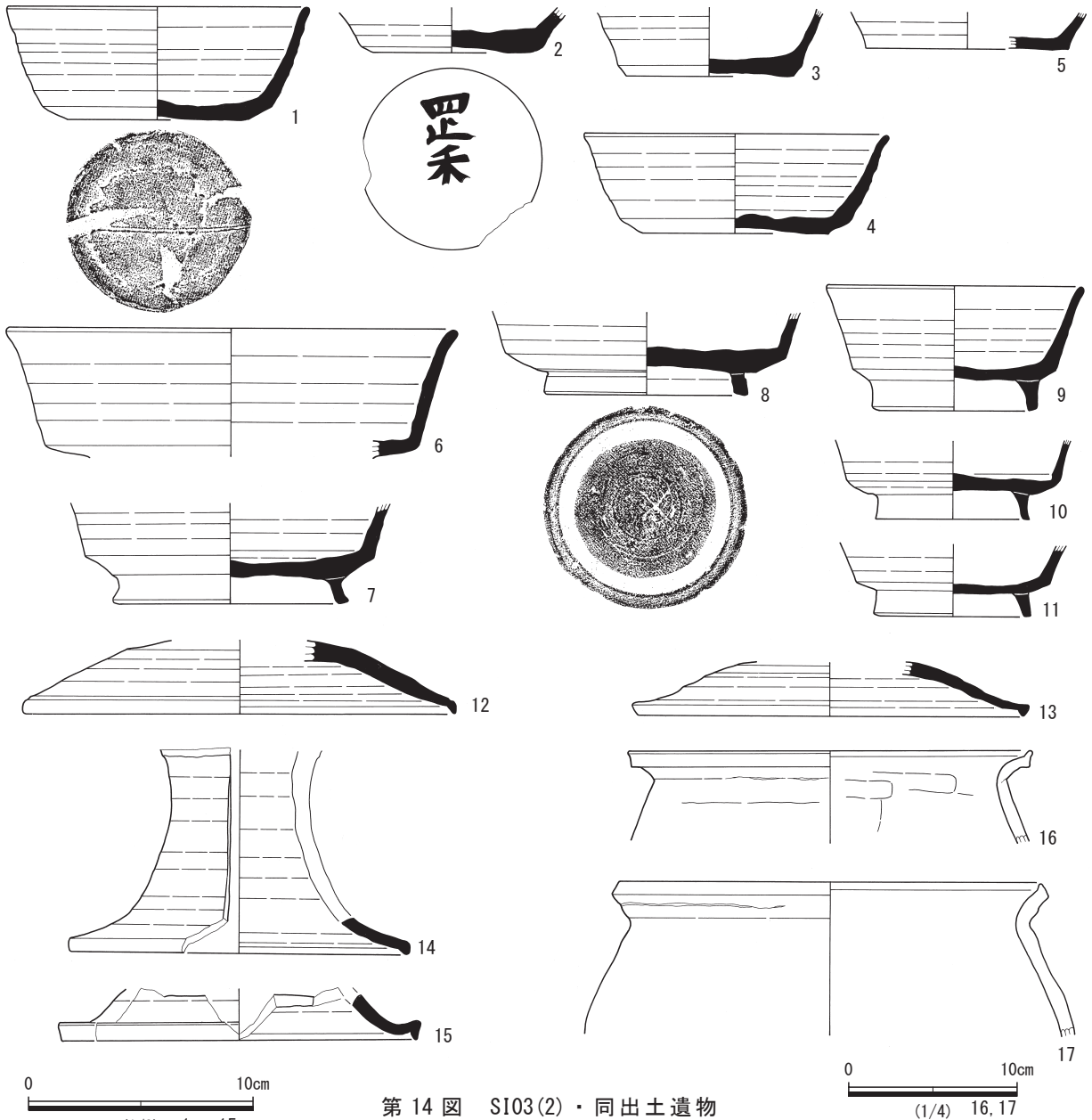


S103カマド

1. 灰黄褐色土 10YR5/2 粘質土。ローム土混土。縮り有、粘性弱。
2. 灰白色土 2.5Y8/1 粘土主体。灰褐色土 (7.5YR6/2) 混土。縮り有、粘性強。
3. 黄褐色土 10YR8/6 粘質土。黒褐色土 (10YR3/2) をブロック状に中量含む。縮り・粘性有。
4. 黄褐色土 7.5YR8/8 粘質土。被熱強 縮り有、粘性弱。
5. にぶい褐色土 7.5YR6/3 粘質土。黄褐色ブロック (Φ3~5mm) 微量含む。縮り有、粘性弱。
6. 灰褐色土 7.5YR5/2 粘質土。灰白色粘土ブロック (Φ3~10mm) 中量、焼土ブロック (Φ5~10mm) 微量、ロームブロック (Φ3~10mm) 多量 (20%) 含む。縮り・粘性有。
7. 灰褐色土 7.5YR4/2 粘質土。焼土ブロック (Φ3~10mm) 中量含む。縮り・粘性有。

S103カマド掘り方

- a. 灰黄褐色土 10YR4/2 粘質土。ローム粒・ロームブロック (Φ3~5mm) 中量、黒色粒微量含む。縮り有、粘性なし。
- b. 褐灰色土 10YR4/1 粘質土。ロームブロック (Φ3~5mm) 少量、焼土ブロック (Φ5~10mm) 少量含む。縮り・粘性有。
- c. 褐灰色土 10YR5/1 粘質土。ロームブロック (Φ3~7mm) 多量 (20%)、黒色ブロック (Φ3~5mm) 少量含む。縮り・粘性有。
- d. 褐灰色土 10YR5/1 粘質土。ロームブロック (Φ5~10mm) 少量、黒色ブロック (Φ3~5mm) 微量含む。縮り・粘性有。
- e. 灰黄褐色土 10YR5/2 粘質土。ロームブロック (Φ5~10mm) 多量 (40%) 含む。縮り・粘性有。
- f. 灰黄褐色土 10YR5/2 粘質土。ロームブロック (Φ5~10mm) 中量、灰白色粘土少量含む。縮り・粘性有。
- g. にぶい黄褐色土 10YR5/4 ロームブロック (Φ5~20mm) 主体。縮り有、粘性やや有。



第14図 S103(2)・同出土遺物

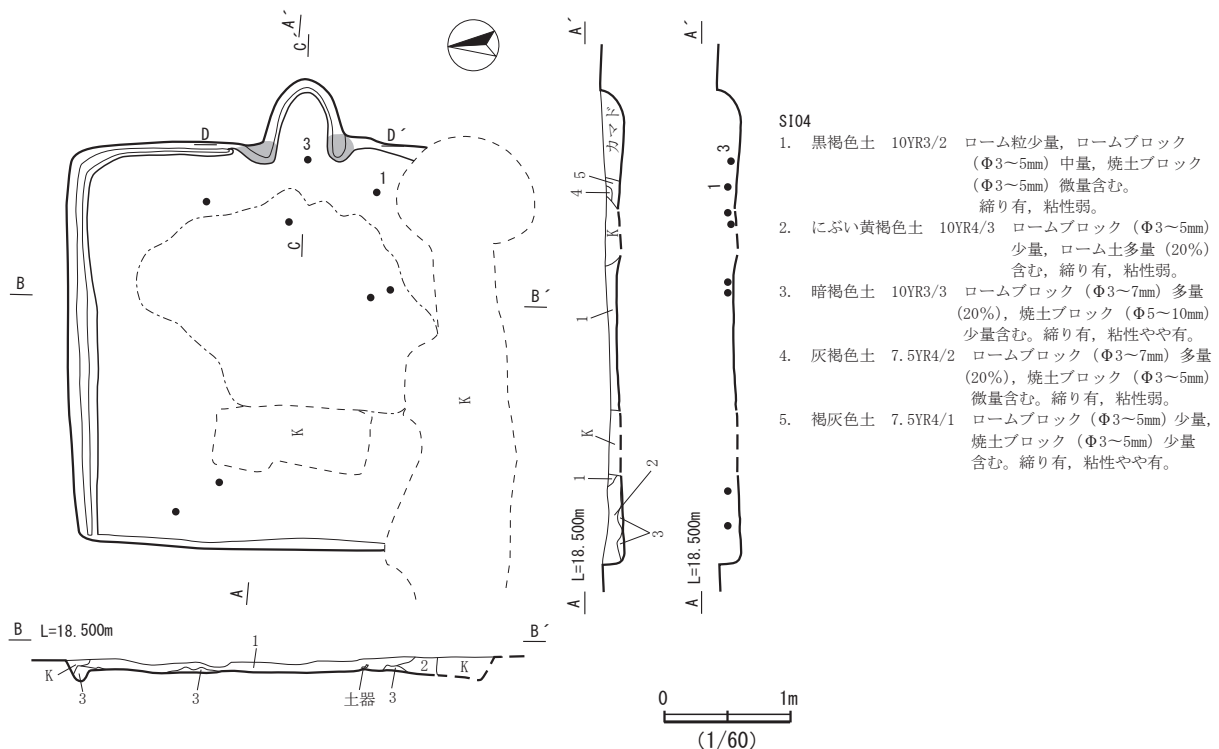
第3章 調査の成果

思われる。ピットは6基が検出された。P 1～4は支柱穴で、P 1が径29×27 cm、深さ23 cm、P 2が径30×25 cm、深さ33 cm、P 3が径36×31 cm、深さ35 cm、P 4はほとんどが調査区外である。南壁際のP 5は出入り口施設に伴うピットとみられ、径42×38 cm、深さ16 cmである。P 6は径24 cm、深さ22 cmで補助柱穴であろうか。掘り方は、カマドからP 5までの中央部を高く残し、その両側を深めに掘り込む。カマドは北壁中央に付設され、構築材は灰白色粘土を主体としている。燃焼部は明瞭ではなく、赤変硬化した火床部も認められなかった。煙道部は屋外へ60 cm掘り込まれ、全長は117 cm、燃焼部幅は44 cm、袖部はほとんどが消失していたが底辺の痕跡が左袖26 cm、右袖38 cm程度確認された。

遺物は、土師器40点(椀1, 甕39), 須恵器72点(坏37, 高台付坏11, 蓋11, 甕10, 壺・瓶類1, 高坏2), 手捏土器1点が出土した。他に混入した弥生土器29点(壺・甕類29)が認められる。覆土上層部からの出土が主体である。供膳具はほぼ木葉下窯跡群産とみられる胎土の須恵器で占められ、土師器椀, 手捏土器は小破片で各1点のみの出土で混入であろう。2の須恵器坏は底部底面に墨書が施される。時期は8世紀第3四半期から第4四半期と考えられる。

SI04 (第15・16図, 第8表, 写真図版2・7)

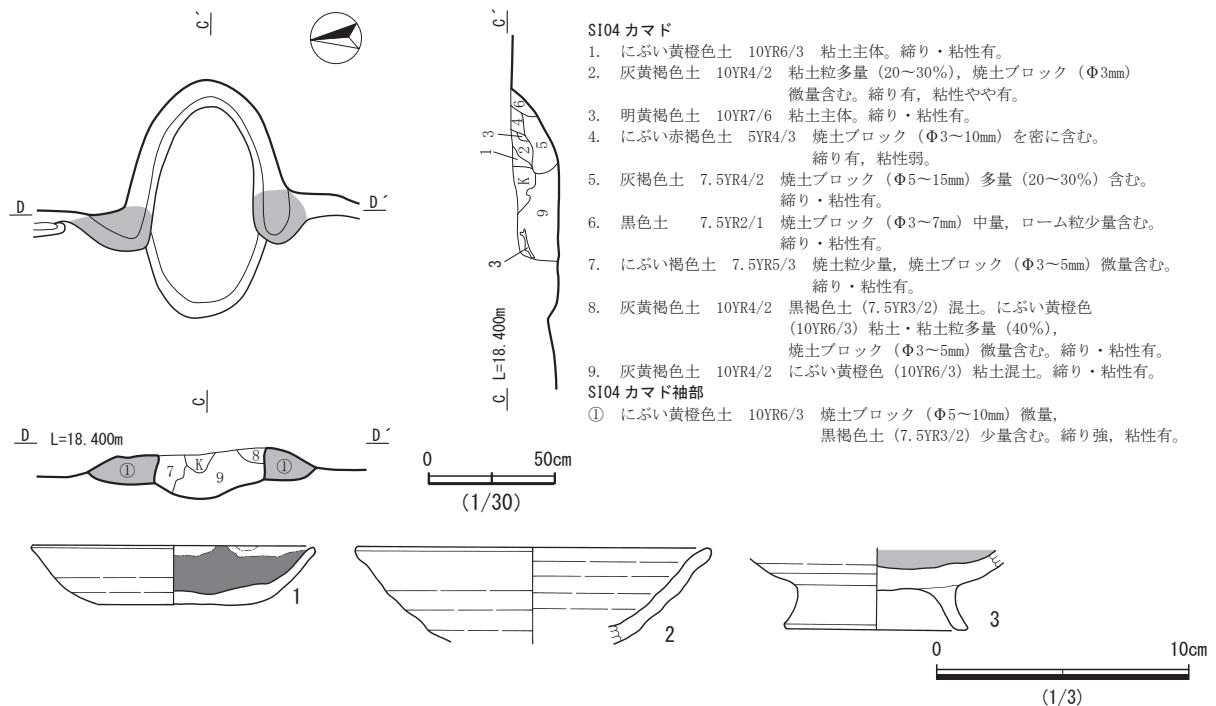
検出位置は北区のB 3, C 3グリッドである。西側でSI03の壁上端部を切り込み、南側は攪乱により消失する。平面形は方形を呈し、主軸方向はN-94°-Eを示す。規模は東西軸が3.28 m、南北軸が現存値で2.94 m、深さは13 cmを測り、壁は垂直に立ち上がる。覆土は自然堆積と考えられる。床面はロームブロック混土の貼り床が薄く施され、カマド前面から中央部にかけて顕著な硬化が認められた。壁溝は幅10~23 cm、深さ7~11 cmで、全周したと思われる。ピットは検出されなかった。掘り方は、東側が深めに掘り込まれる。カマドは東壁やや南寄りに付設され、構築材はにぶい黄橙色



第15図 SI04(1)

の粘土を主体としている。燃烧部は10 cm前後掘り窪められるが、赤色化は不明瞭である。カマド本体は屋外にあり煙道部にかけて48 cm掘り込まれていた。全長は66 cm、燃烧部幅は40 cm、袖部は左右袖ともに壁に貼り付けられる程度の残存である。

遺物は、土師器38点（坏12、椀2、甕24）、須恵器7点（坏5、蓋1、甕1）が出土した。他に混入した弥生土器1点（壺・甕類1）が認められる。出土量はさほど多くはなく、散在的な出土状態である。土師器の供膳具は、内面が黒色処理されない坏が主体である。1の土師器坏は、内面に漆状の付着物が全体に残存している。2・3はカマド内から出土している。須恵器は小破片ばかりで、混入の可能性が高い。時期は10世紀第2四半期～第3四半期と考えられる。

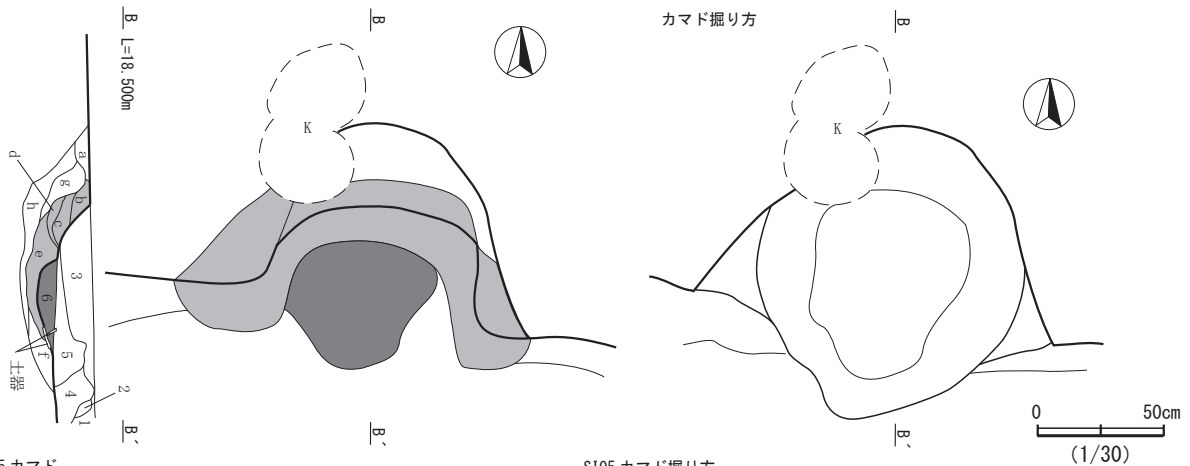
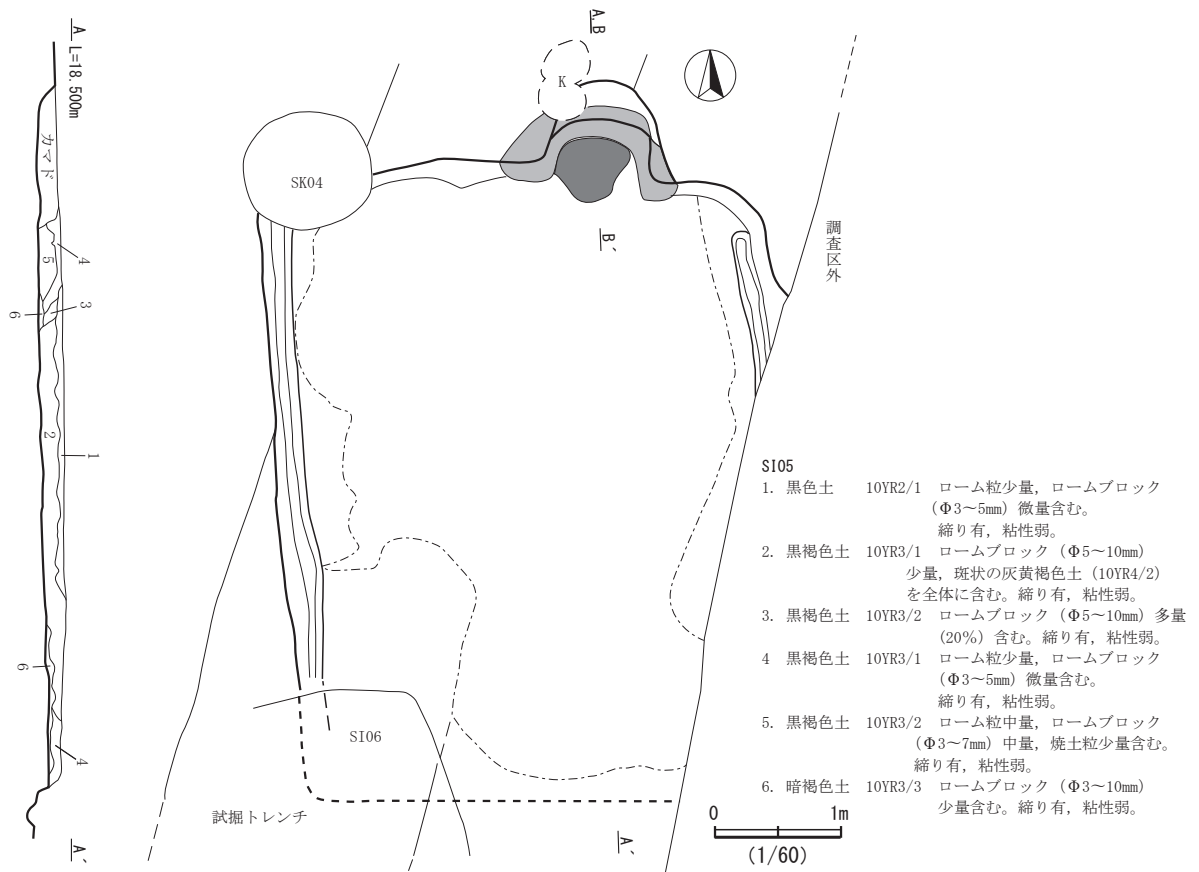


第16図 SI04(2)・同出土遺物

SI05 (第17・18図, 第8表, 写真図版2・7)

検出位置は北区のD3, E3グリッドである。南西隅でSI06の壁上端部を切り込み、北西隅ではSK04, 南側はSD01に切られる。さらに南東隅は調査区外に延びている。平面形は方形を呈し、主軸方向はN-1°-Wを示す。規模は東西軸が4.14 m, 南北軸が現存値で4.78 m, 深さは10~16 cmを測り、壁は垂直に立ち上がる。覆土は自然堆積である。床面はロームブロック混土の貼り床が施され、ほぼ全面が顕著に硬化する。壁溝は幅15~28 cm, 深さ8 cm前後で、北壁を除き確認されている。ピットは検出されなかった。掘り方もなく、直床である。カマドは北壁の東寄りに付設され、構築材は灰褐色粘土を主体とし、火床下まで認められる。燃烧部は12 cm掘り窪められ焼土ブロックが堆積する。煙道部は屋外へ50 cm以上掘り込まれているものの、一部攪乱を受けている。全長は100 cm以上あり、燃烧部幅は60 cmである。袖部は左右袖ともに壁に貼り付けられる程度であった。

遺物は、土師器36点（坏10、椀2、甕24）、須恵器13点（坏4、高台付坏2、蓋3、甕4）が出土した。出土量はさほど多くはなく、覆土中より出土している。供膳具は土師器が主体で内面が黒色処理と非黒色処理の坏、椀類はほぼ同量程度見られる。須恵器は小破片ばかりで混入の可能性が高い。時期は10世紀第1四半期～第2四半期と考えられる。



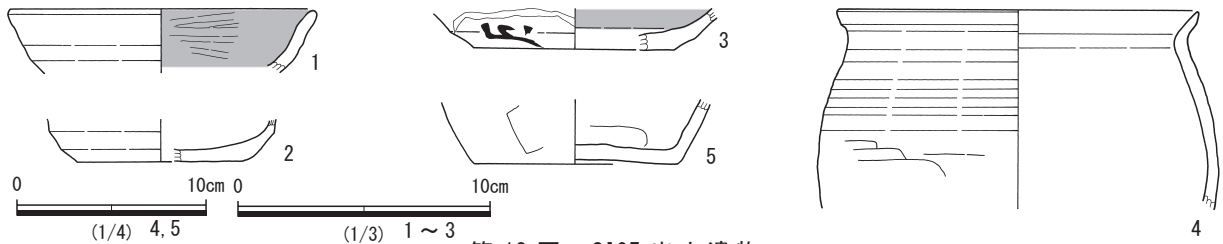
S105 カマド

1. 黒褐色土 7.5YR3/1 焼土粒・焼土ブロック (Φ3~7mm) 少量, 灰褐色 (7.5YR6/2) 粘土ブロック (Φ5~10mm) 少量含む。縮り有, 粘性弱。
2. 灰褐色土 7.5YR5/2 粘質土。灰褐色粘土ブロック (Φ3~7mm) 少量含む。縮り・粘性有。
3. 灰褐色土 7.5YR4/2 粘質土。灰褐色粘土粒少量, 焼土ブロック (Φ3~5mm) 微量含む。縮り・粘性有。
4. 黒色土 7.5YR3/1 灰黄褐色土 (10YR6/2) 少量, 焼土ブロック (Φ3~7mm) 少量含む。縮り有, 粘性やや有。
5. 黒色土 7.5YR2/1 焼土粒中量, 焼土ブロック (Φ5~10mm) 少量含む。縮り有, 粘性やや有。
6. にぶい赤褐色土 5YR4/3 焼土粒多量 (20%), 焼土ブロック (Φ3~20mm) 中量含む。縮りやや強, 粘性弱。焼土ブロックは火床面となる上面に集中する。

S105 カマド掘り方

- a. 黒褐色土 5YR3/1 焼土粒中量, 焼土ブロック (Φ5~10mm) 少量, ローム粒少量含む。縮り有, 粘性弱。
- b. 明黄褐色土 10YR7/6 粘土主体。白色粒・白色ブロック (Φ3~5mm) 少量含む。縮り強, 粘性有。
- c. 明赤褐色土 5YR5/6 粘土粒多量 (20%) 焼土ブロック (Φ3~10mm) 中量含む。縮り有, 粘性弱。
- d. 灰褐色土 7.5YR5/2 粘土混土。焼土ブロック (Φ3~5mm) 少量含む。縮り・粘性有。
- e. 灰褐色土 7.5YR6/2 粘土混土。焼土ブロック (Φ3~5mm) 少量, ロームブロック (Φ3~7mm) 中量含む。縮り・粘性有。
- f. 灰褐色土 7.5YR6/2 灰白色 (10YR7/1) 粘土ブロック (Φ3~5mm) 多量 (20%) 含む。縮り・粘性有。
- g. 赤褐色土 5YR4/6 焼土と粘土の混土。縮り有, 粘性やや有。
- h. 黄褐色土 10YR5/6 被熱ローム, 灰褐色土 (7.5YR6/2) 多量 (20%) 含む。縮り強, 粘性弱。

第17図 SI05

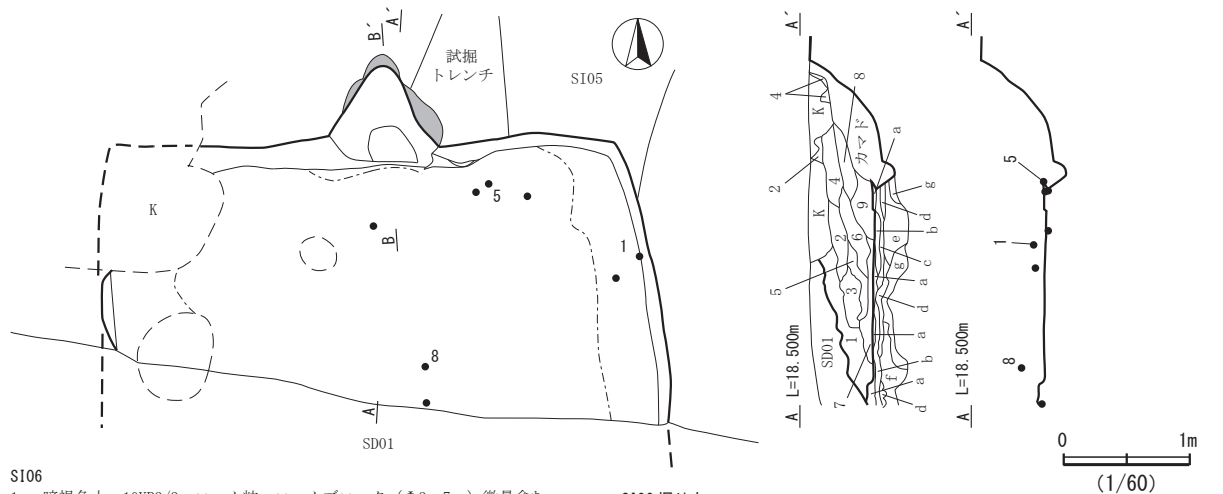


第18図 SI05 出土遺物

SI06 (第19・20図, 第8表, 写真図版2・7)

検出位置は北区のE2・3グリッドである。北東隅の壁上端がSI05に削平され、南側の約半分もSD01に切られている。さらに北西隅は攪乱を受け、全容は把握できない。平面形は方形を呈したとみられ、主軸方向はN-9°-Wを示す。規模は東西軸が4.36m、南北軸が現存値で2.24m、深さ50cmを測り、壁は垂直に立ち上がる。覆土は自然堆積である。床面はロームブロック混土の貼り床が施され、ほぼ全面が顕著に硬化する。壁溝及びピットは検出されなかった。掘り方は、壁際を残し、中央部が方形に掘り込まれる。カマドは北壁の中央に付設され、構築材はほとんど残存していなかったが、燃焼部内に灰黄褐色粘土と灰白色粘土ブロックが多量に崩落していたことから、これらが構築材として用いられたと思われる。燃焼部では7cm程掘り窪められるが、火床部での赤変硬化は認められない。煙道部は屋外へ70cm掘り込まれ、全長は93cm、燃焼部幅は46cm、袖部は右袖が壁に貼り付けられる程度の残存である。

遺物は、土師器29点(坏2, 甕27), 須恵器27点(坏12, 高台付坏2, 盤1, 蓋6, 甕5, 壺・瓶類1)が出土した。出土量はさほど多くはなく、主に覆土中から出土している。供膳具はほぼ木葉下窠産とみられる胎土の須恵器で占められる。時期は9世紀第1四半期～第2四半期と考えられる。



SI06

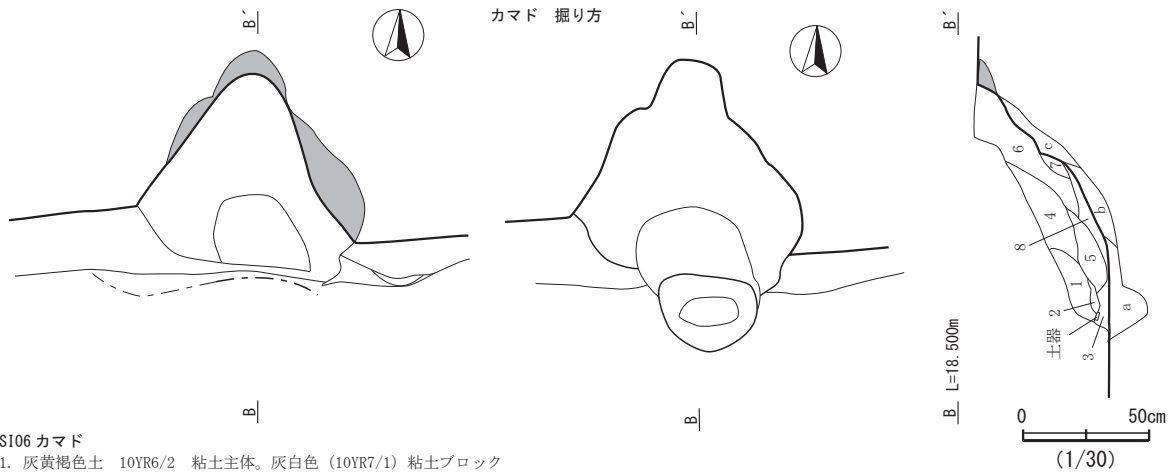
1. 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒・ロームブロック(Φ3~7mm)微量含む。縮り有, 粘性弱。
2. 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒・灰白色(10YR7/2)粘土ブロック(Φ3~5mm)少量, 斑状の灰褐色土(7.5YR4/2)まばらに含む。縮り有, 粘性弱。
3. 褐灰色土 10YR4/1 灰白色(10YR7/1)粘土ブロック(Φ3~10mm)・焼土少量含む。縮り有, 粘性やや有。
4. 灰褐色土 7.5YR4/2 灰白色(10YR7/1), 粘土ブロック(Φ3~5mm)微量, 焼土少量含む。縮り有, 粘性やや有。
5. にぶい黄褐色土 10YR5/3 灰白色(10YR7/1)粘土混土。縮り有, 粘性有。
6. 灰黄褐色土 10YR5/2 灰白色(10YR7/1)粘土ブロック(Φ3~5mm)・粘土ブロック(Φ3~5mm)少量含む。縮り有, 粘性弱。
7. 灰白色土 10YR7/1 粘土主体。縮り有, 粘性強。
8. 灰褐色土 7.5YR4/2 粘質土。焼土ブロック(Φ3~10mm)少量含む。縮り・粘性有。
9. 灰褐色土 7.5YR5/2 粘質土。灰白色(10YR7/1)粘土ブロック(Φ3~15mm)中量含む。縮り・粘性有。

SI06 掘り方

- a. にぶい黄褐色土 10YR4/3 貼り床硬化部。ロームブロック(Φ10~20mm)主体。縮り強, 粘性弱。
- b. にぶい黄褐色土 10YR4/3 ロームブロック(Φ10~30mm)多量(20~30%)含む。縮り有, 粘性やや有。
- c. にぶい黄褐色土 10YR4/3 ロームブロック(Φ10~20mm)多量(20%)含む。縮り有, 粘性やや有。
- d. 褐色土 10YR4/4 貼り床硬化部。ロームブロック(Φ20~40mm)主体。縮り強, 粘性弱。
- e. 暗褐色土 10YR3/3 ロームブロック(Φ5~30mm)多量(20%)含む。縮り有, 粘性やや有。
- f. にぶい黄褐色土 10YR4/3 ロームブロック(Φ10~30mm)多量(40%)含む。縮り有, 粘性やや有。
- g. 褐色土 10YR4/6 ローム土主体。縮り有, 粘性やや有。

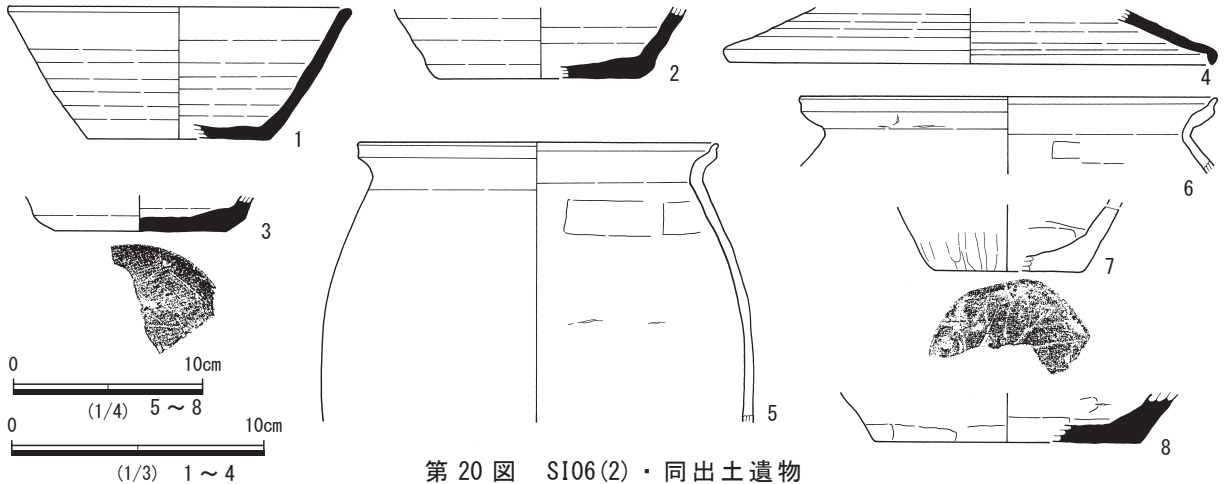
第19図 SI06(1)

第3章 調査の成果



S106 カマド

- | | |
|---|---|
| 1. 灰黄褐色土 10YR6/2 粘土主体、灰白色 (10YR7/1) 粘土ブロック (Φ10~15mm) 多量 (40%) 含む。縮り・粘性有。 | 7. 灰褐色土 7.5YR5/2 焼土ブロック (Φ5~10mm) 微量、粘土ブロック (Φ3~5mm) 少量含む。縮り・粘性有。 |
| 2. 灰褐色土 7.5YR5/2 焼土ブロック (Φ3~5mm) 少量含む。縮り・粘性有。 | 8. 灰褐色土 7.5YR4/2 粘土ブロック (Φ3~10mm) 少量含む。縮り・粘性有。 |
| 3. 黒褐色土 7.5YR3/1 ロームブロック (Φ3~5mm) 中量含む。縮り有、粘性やや有。 | S106 カマド掘り方 |
| 4. 褐灰色土 10YR4/1 灰黄褐色 (10YR6/2) 粘土混土。粘土ブロック (Φ3~5mm) 中量、焼土ブロック (Φ3~5mm) 微量含む。縮り・粘性有。 | a. 灰褐色土 7.5YR5/2 ロームブロック (Φ5~10mm) 多量 (20%) 粘土ブロック (Φ5~10mm) 少量含む。縮り・粘性有。 |
| 5. にぶい褐色土 7.5YR6/3 焼土と粘土の混土。縮り・粘性有。 | b. 褐灰色土 7.5YR5/1 粘土主体。縮り・粘性有。 |
| 6. 褐灰色土 7.5YR4/1 焼土粒少量、焼土ブロック (Φ3~5mm) 微量、粘土ブロック (Φ3~5mm) 少量含む。縮り有、粘性やや有。 | c. 黒褐色土 10YR3/1 ローム土混土。縮り有、粘性弱。 |

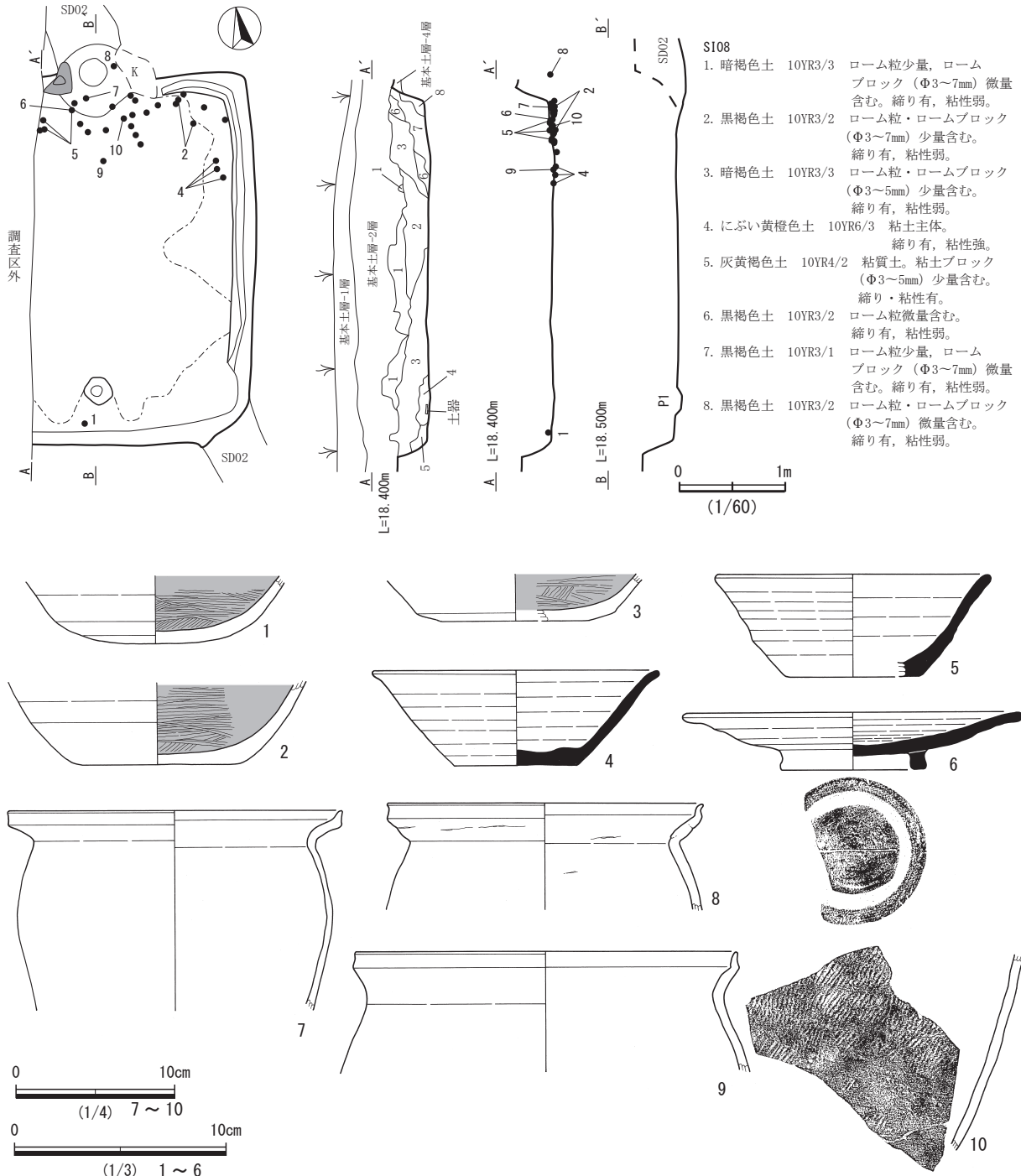


第20図 S106(2)・同出土遺物

S I 0 8 (第21図, 第8表, 写真図版3・8)

検出位置は南区のF 1・2グリッドである。カマドから南東隅にかけてSD02に切り込まれ、さらに西側の約半分は調査区外に延びるため全容は把握できない。平面形は方形を呈したとみられ、主軸方向はN-10°-Eを示す。規模は東西軸が現存値で2.10m、南北軸が3.46m、深さ30cmを測り、壁は垂直に立ち上がる。覆土は自然堆積で、南壁際に灰白色粘土が堆積していた。床面はほぼ全面が顕著に硬化した直床である。ピットは南壁際にP1が検出され、出入り口施設に伴うと考えられる。規模は径27cm、深さ5cmである。掘り方は、P1周辺が円形状に掘り込まれている。カマドは北壁の中央に付設されているとみられ、SD02構築時に大部分が消失している。火床部は径26cmの範囲で、被熱ロームが残存しており、火床部の位置からカマド本体は屋外に設けられた可能性が高い。

遺物は、土師器29点(坏3, 甕26), 須恵器14点(坏5, 高台付坏3, 皿1, 蓋1, 甑1, 鉢2, 壺・瓶類1)が出土した。出土状態はカマド前面から北壁側に集中している。供膳具は土師器, 須恵器ともに認められ, 土師器坏は内面黒色処理され, 須恵器は木葉下窯跡群産とみられる胎土の製品が占める。時期は9世紀第2四半期と考えられる。



第21図 SI08・同出土遺物

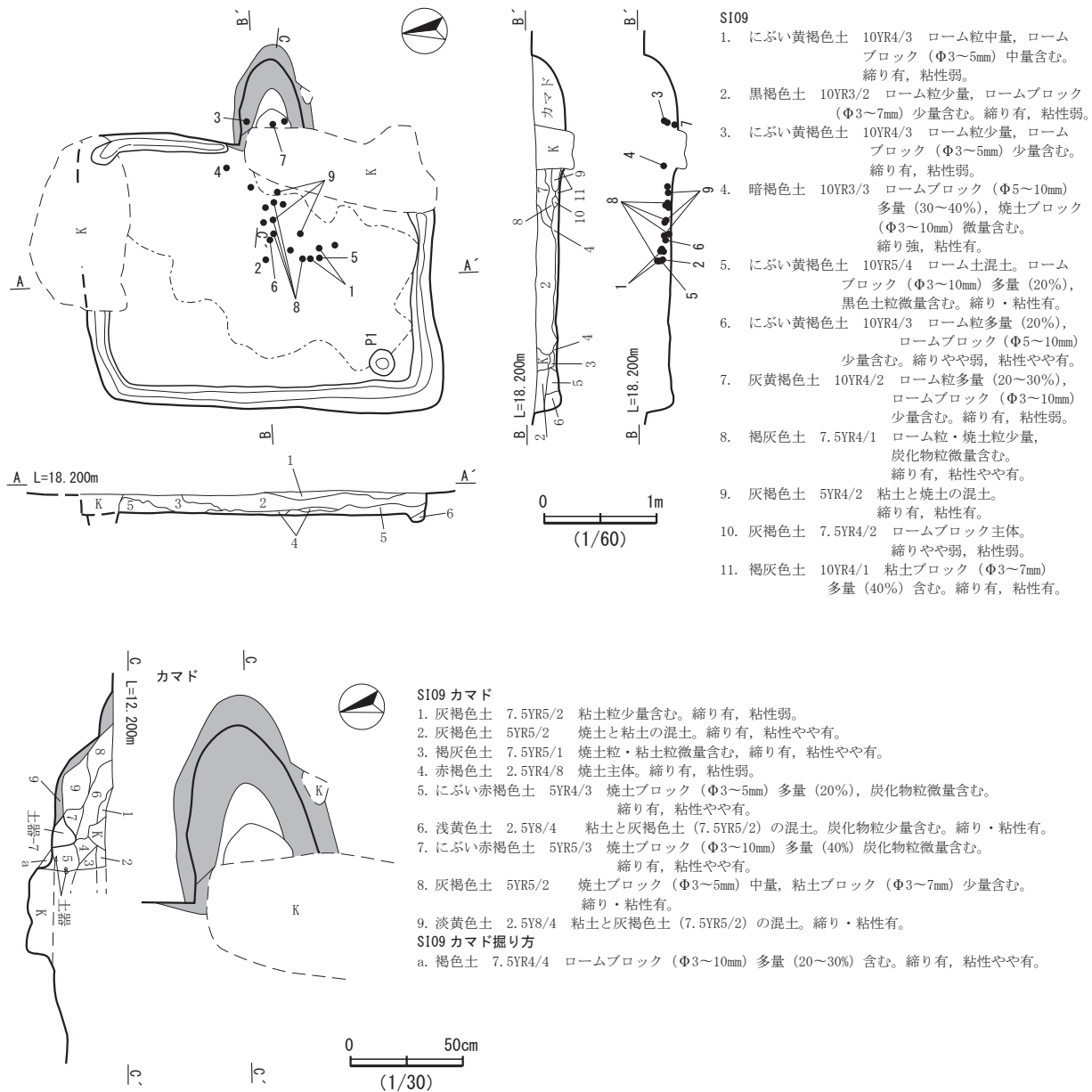
SI09 (第22・23図, 第8表, 写真図版3・8)

検出位置は南区のF2グリッドである。カマド煙道部がSI10を切って構築されている。北壁及びカマド前面では攪乱を受けていた。平面形は南北に長い長方形を呈し、主軸方向はN-96°-Eを示す。規模は東西軸が2.40m、南北軸が3.10m、深さ16~20cmを測り、壁は垂直に立ち上がる。覆土は自然堆積である。床面は北東隅からP1周辺の南西隅にかけて顕著に硬化し、壁溝は幅8~17cm、深さ7~14cmで全周したとみられる。ピットは南西隅でP1が検出され、床面の硬化範囲がこのピット周辺からカマド側へ向かっていることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。掘

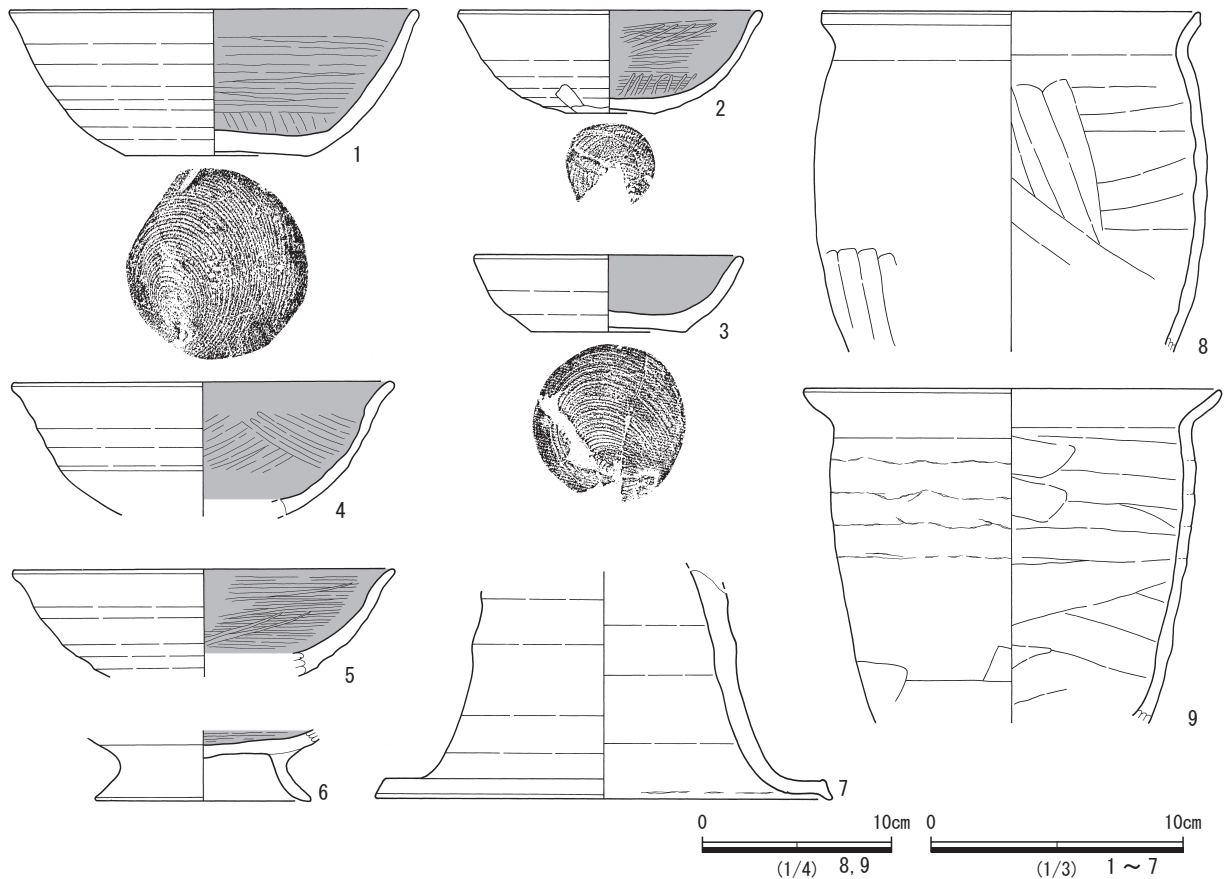
第3章 調査の成果

り方はなく直床である。カマドは東壁の中央に付設されている。構築材は砂質土と粘土の混土が用いられ、火床部から煙道部にかけて覆われていた。火床部は5 cm程掘り窪められ被熱するが、赤色化はしていない。燃烧部から煙道部にかけては東壁を95 cm掘り込み、カマド本体は屋外となる。燃烧部幅は52 cm、袖部は左袖が壁に貼り付けられる程度の残存である。

遺物は、土師器 35 点（坏 10, 椀 1, 甕 22, 甗 1, 高坏 1）、須恵器 4 点（坏 2, 高台付坏 1, 甕 1）が出土した。出土状態はカマド燃烧部内からカマド前面に集中している。供膳具はほぼ土師器で占められ、須恵器は小破片で混入の可能性がある。土師器坏は底部底面が回転糸切り未調整のものが主体である。坏とした底部を欠失する4・5は高台の付いた椀になるかもしれない。7は高坏状土器の脚部片で、カマド内で出土したことから支脚の代用とされたものであろう。時期は10世紀第2四半期～第3四半期と考えられる。



第22図 S109

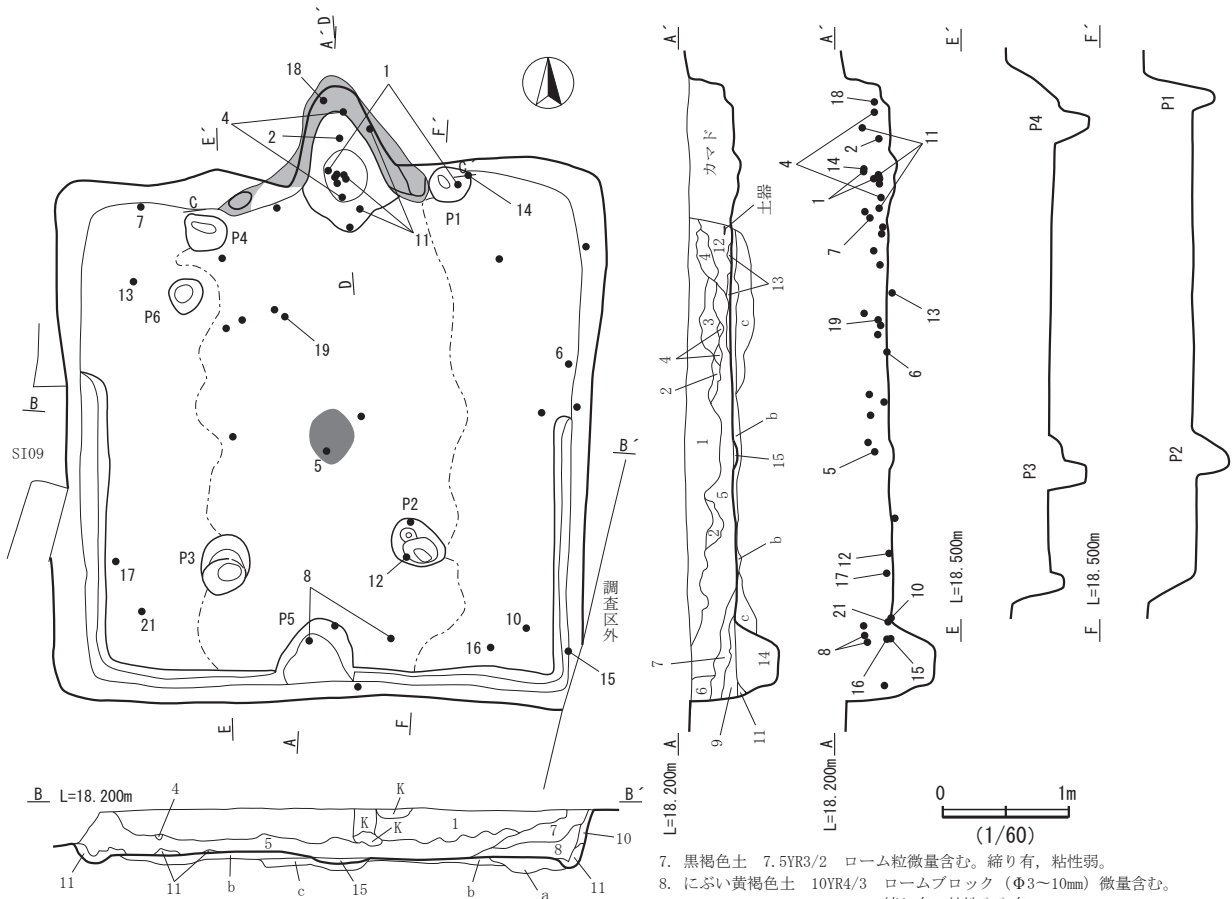


第23図 SI09 出土遺物

SI10 (第24・25図, 第8・11・12表, 写真図版3・8・9)

検出位置は南区のF2グリッドである。西側ではSI09のカマド煙道部によって切られている。一方、南側ではSI11の北壁を切り込んで構築されている。平面形は正方形を呈し、主軸方向はN-3°-Eを示す。規模は東西軸、南北軸ともに4.36m、深さは34~39cmを測り、壁は垂直に立ち上がる。覆土は自然堆積と考えられる。床面はにぶい黄橙色土とロームブロック混土の貼り床が施され、カマドからP5にかけての中央部で顕著に硬化する。中央部に45×35cmの範囲で被熱面が認められた。壁溝は幅11~21cm、深さ3~6cmで建物内の南半分でのみ遺存する。ピットは6基が検出された。P1~4は支柱穴で、P1・4は北壁に接する。P1が径33×27cm、深さ20cm、P2が径45×34cm、深さ40cm、P3が径48×37cm、深さ38cm、P4が径37×27cm、深さ35cmである。南壁際のP5は出入口口施設に伴うピットとみられ、径58×50cm、深さ18cmで南壁に接する。P6は径29×26cm、深さ16cmで支柱穴に比べ小規模である。掘り方は、四隅とカマド前面を深めに掘り込んでいる。P2・3では据え替え前の柱穴が検出された。カマドは北壁中央に付設され、構築材はにぶい黄橙色粘土を主体としている。火床部は被熱が認められるものの、ほぼ平坦で赤色化していない。煙道部は屋外へ78cm掘り込まれ、全長は125cm、燃烧部幅は56cm、袖残存長は左袖18cm、右袖27cmである。

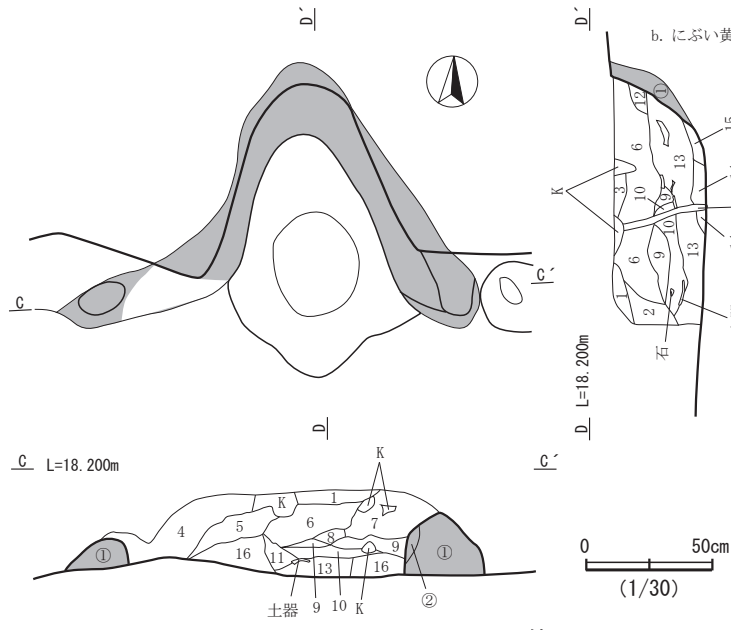
遺物は、土師器193点(坏12, 碗2, 皿1, 甕176, 甑1, 鉢1), 須恵器112点(坏78, 高台付坏7, 皿3, 盤4, 蓋4, 甕15, 壺・瓶類1), 石製品1点(砥石1), 鉄製品1点(刀子1)が主に覆土中から散在して出土している。土師器坏は内面黒色処理が主体であり、須恵器坏は体部下端を手持ちヘラケズリ調整しているものが目立つ。時期は9世紀第2四半期と考えられる。



- SI10**
1. 黒褐色土 7.5YR3/1 ローム粒少量, ロームブロック (Φ3~5mm) 微量, 焼土ブロック (Φ3~5mm) 少量含む。締り有, 粘性弱。
 2. 暗褐色土 7.5YR3/4 ロームブロック (Φ3~7mm) 少量, 焼土ブロック (Φ3~10mm) 微量含む。締り有, 粘性弱。
 3. 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒少量, 粘土粒微量, 炭化物塊 (Φ3~10mm) 中量含む。締り有, 粘性弱。
 4. 灰黄褐色土 10YR5/2 ローム粒少量, 粘土粒微量, 炭化物塊 (Φ3~10mm) 微量含む。締り有, 粘性弱。
 5. 暗褐色土 7.5YR3/3 ローム粒・ロームブロック (Φ3~10mm) 少量, 炭化物塊 (Φ3~10mm) 微量含む, 締り有, 粘性弱。
 6. 暗褐色土 7.5YR3/3 ローム粒・ロームブロック (Φ3mm 前後) 微量含む。締り有, 粘性弱。
 7. 黒褐色土 7.5YR3/2 ローム粒微量含む。締り有, 粘性弱。
 8. にぶい黄褐色土 10YR4/3 ロームブロック (Φ3~10mm) 微量含む。締り有, 粘性やや有。
 9. にぶい黄褐色土 10YR6/3 粘土主体。締り有, 粘性弱。
 10. にぶい黄褐色土 10YR5/4 ローム土混土。締り有, 粘性やや有。
 11. にぶい黄褐色土 10YR5/3 ロームブロック (Φ3~10mm) 中量含む。締りやや弱, 粘性弱。
 12. 黒褐色土 10YR3/2 炭化物粒・粘土少量含む。締り有, 粘性やや有。
 13. 褐色土 7.5YR4/3 ローム粒・炭化物粒微量含む。締り有, 粘性やや有。
 14. 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒・ロームブロック (Φ3~10mm) 中量含む。締り有, 粘性弱。
 15. にぶい赤褐色土 5YR4/3 床面被熱層。締り強, 粘性なし。

- SI10 掘り方**
- a. にぶい黄褐色土 10YR5/4 ロームブロック (Φ5~15mm) 主体。締り強, 粘性やや有。
 - b. にぶい黄褐色土 10YR5/4 ロームブロック (Φ10~30mm) 多量 (40%) 含む。締り有, 粘性有。*貼り床硬化部。
 - c. にぶい黄褐色土 10YR4/3 ロームブロック (Φ10~20mm) 多量 (20~30%) 含む。締り・粘性有。

- SI10 カマド**
1. 黒褐色土 7.5YR3/1 粘土粒少量, 焼土ブロック (Φ3~5mm)・炭化物粒微量含む。締り有, 粘性弱。
 2. 褐色土 7.5YR4/3 粘土粒中量, 焼土ブロック (Φ3~7mm) 少量, 炭化物塊 (Φ3~7mm) 微量含む。締り有, 粘性弱。
 3. 灰黄褐色土 10YR5/2 灰色色 (10YR7/1) 粘土混土。締り有, 粘性有。
 4. 灰黄褐色土 10YR6/2 粘土ブロック (Φ3~5mm) 少量, ロームブロック (Φ3~7mm) 微量含む。締り有, 粘性有。
 5. 灰黄褐色土 10YR5/2 粘土ブロック (Φ3~7mm) 少量含む。締り有, 粘性やや有。
 6. 褐色土 10YR4/1 粘土ブロック (Φ3~10mm) 中量, 被熱粘土ブロック (Φ5~20mm) 少量, 焼土ブロック (Φ5~10mm) 微量含む。締り有, 粘性有。
 7. 褐色土 7.5YR4/3 粘土粒・ローム粒少量, 焼土粒・炭化物粒微量含む。締り有, 粘性弱。
 8. 灰褐色土 5YR4/2 焼土混土。締り有, 粘性弱。
 9. 明黄褐色土 10YR7/6 粘土主体。灰褐色土 (7.5YR6/2) 多量 (20%), 焼土ブロック (Φ5~10mm) 微量含む。締り有, 粘性有。
 10. にぶい褐色土 7.5YR6/3 粘土粒中量, 粘土ブロック (Φ3~10mm)・焼土ブロック (Φ7mm)・炭化物粒微量含む。締り有, 粘性有。
- *11~16 → 27 ページ



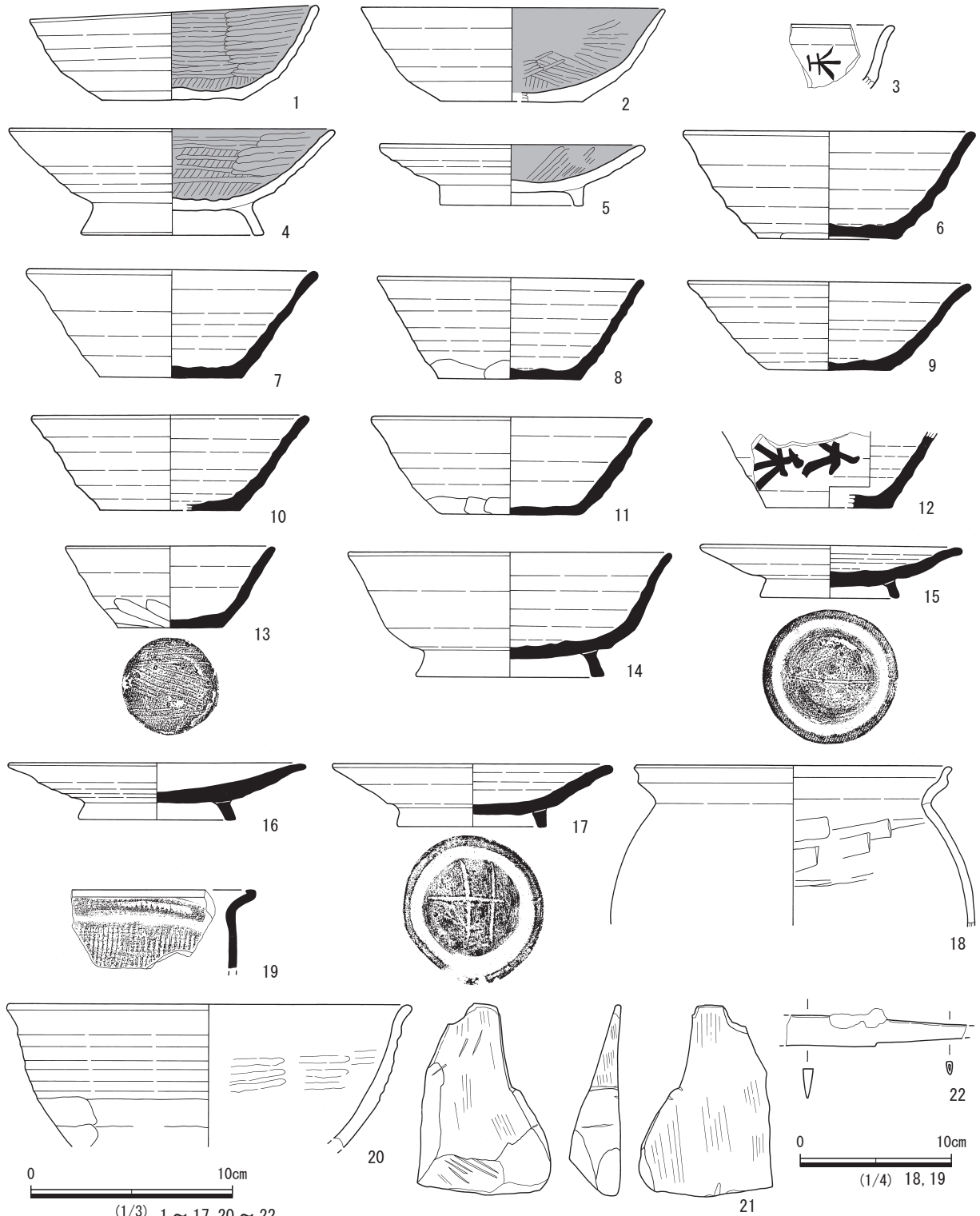
第24図 SI10

SI10 カマド (*26 ページの続き)

- 11. にぶい黄褐色土 10YR5/3 粘土粒・粘土ブロック (Φ3~5mm) 少量含む。縮り有、粘性やや有。
- 12. 灰褐色土 7.5YR5/2 粘土ブロック (Φ3~5mm) 中量、焼土ブロック (Φ3~5mm) 微量含む。縮り・粘性有。
- 13. 褐灰色土 5YR4/1 粘土ブロック (Φ3~7mm)・焼土粒少量含む。縮り・粘性有。
- 14. にぶい赤褐色土 2.5YR4/4 焼土と褐灰色土 (5YR4/1) の混土。縮りやや弱、粘性弱。
- 15. 褐灰色土 5YR4/1 粘土ブロック (Φ3~5mm)・炭化物粒少量含む。縮り有、粘性やや有。
- 16. にぶい黄橙色土 10YR6/3 粘土主体。白色粒少量、焼土粒微量含む。縮りやや強、粘性有。

SI10 カマド袖部

- ① にぶい黄橙色土 10YR7/2 粘土主体。白色粒少量、白色ブロック (Φ3~7mm)・焼土粒微量含む。縮りやや強、粘性有。
- ② 灰褐色土 7.5YR6/2 焼土粒少量含む。縮り有、粘性弱。

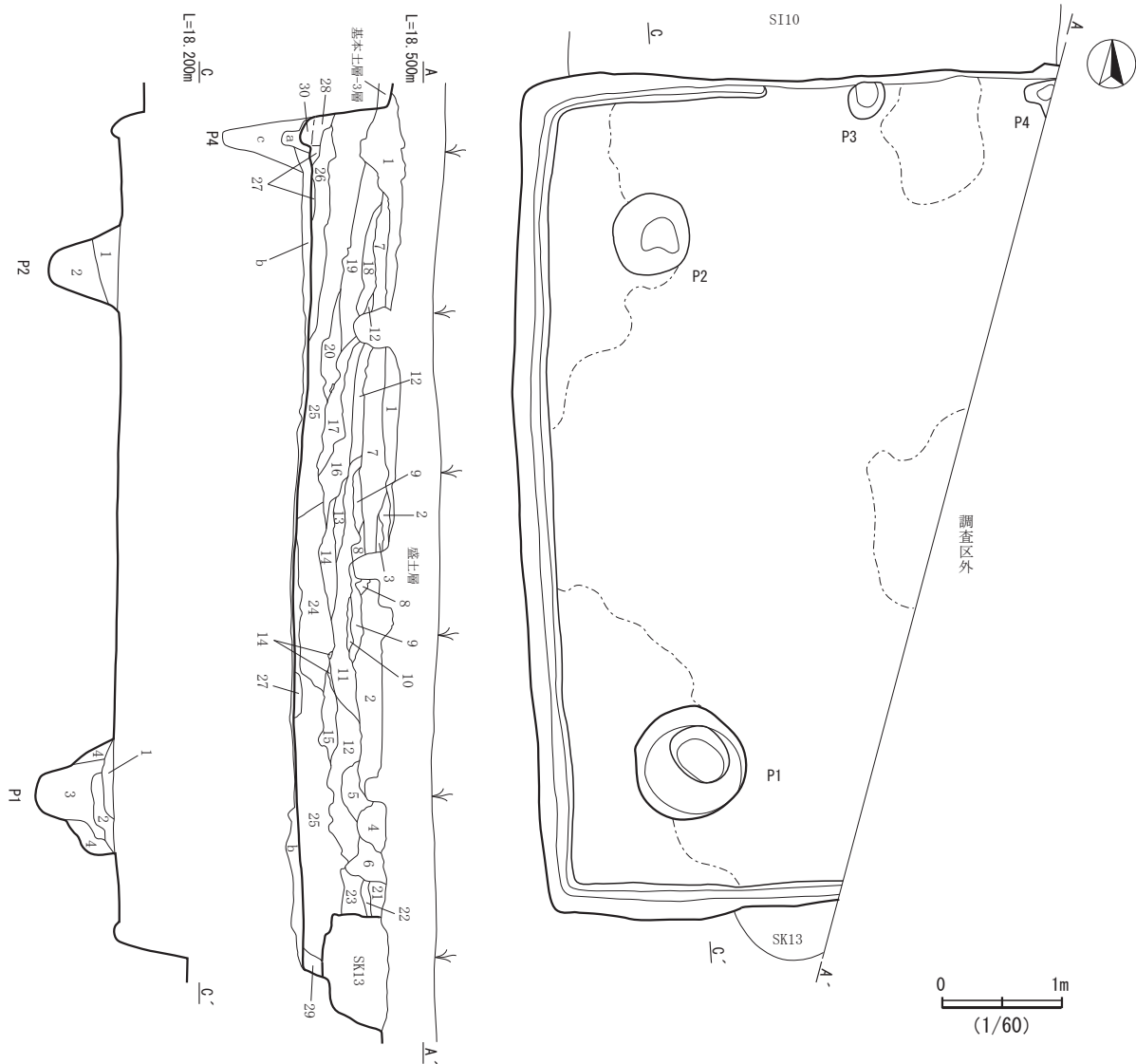


第25図 SI10 出土遺物

SI11 (第26～28図, 第8・12表, 写真図版3・9・10)

検出位置は南区のF2, G2グリッドである。北壁がSI10に切れられ, 東側は調査区外に延びるため全容は不明である。平面形は正方形を呈しているとみられ, 主軸方向はN-3°-Wを示す。規模は東西軸が現存値で4.46m, 南北軸が7.00m, 深さは56～62cmを測り, 壁はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は自然堆積であるが, 中間層域で焼土, 焼土粒の含有が目立つ。床面はロームブロック混土の貼り床が施され, 隅部分を除き顕著に硬化する。壁溝は幅10～15cm, 深さ3～7cmで全周するが, 北半分では確認できなかった。ピットは4基が検出された。P1・2は支柱穴で, P1が径95×89cm, 深さ72cm, P2が径70cm, 深さ61cmである。P3・4は北壁に接しており, P3が径30cm, 深さ64cm, P4が径30×20cm, 深さ69cmで, 平面規模は小規模ながら, かなりの深さを持つ。掘り方は, 中央を高く残し壁際を環状に掘り込む。カマドは検出されなかったが, P3・4間の硬化面が抜けた部分に粘土と焼土の混土層が堆積しており, カマド燃焼部の痕跡とみられる。

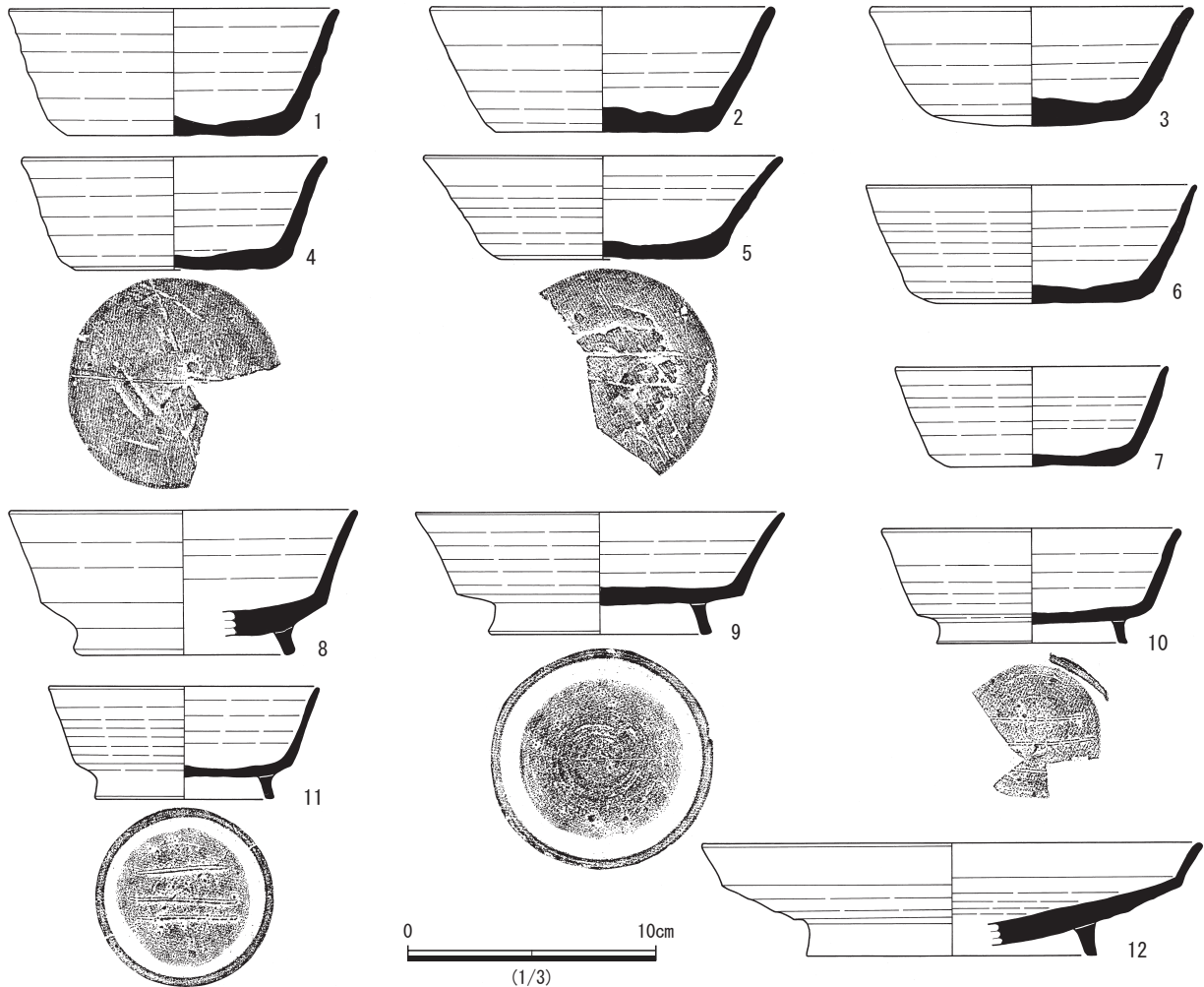
遺物は, 土師器202点(坏8, 甕194), 須恵器329点(坏151, 高台付坏37, 盤17, 蓋75, 甕24, 鉢4, 壺・瓶類8, 高坏11, コップ型2), 瓦1点(丸瓦1), 鉄製品1点(刀子1)が, 主に覆土上層から下層にかけて出土した。土師器は煮沸具が主体で, 土師器坏は小破片のみである。須恵器は木葉下窯跡



第26図 SI11

SI11

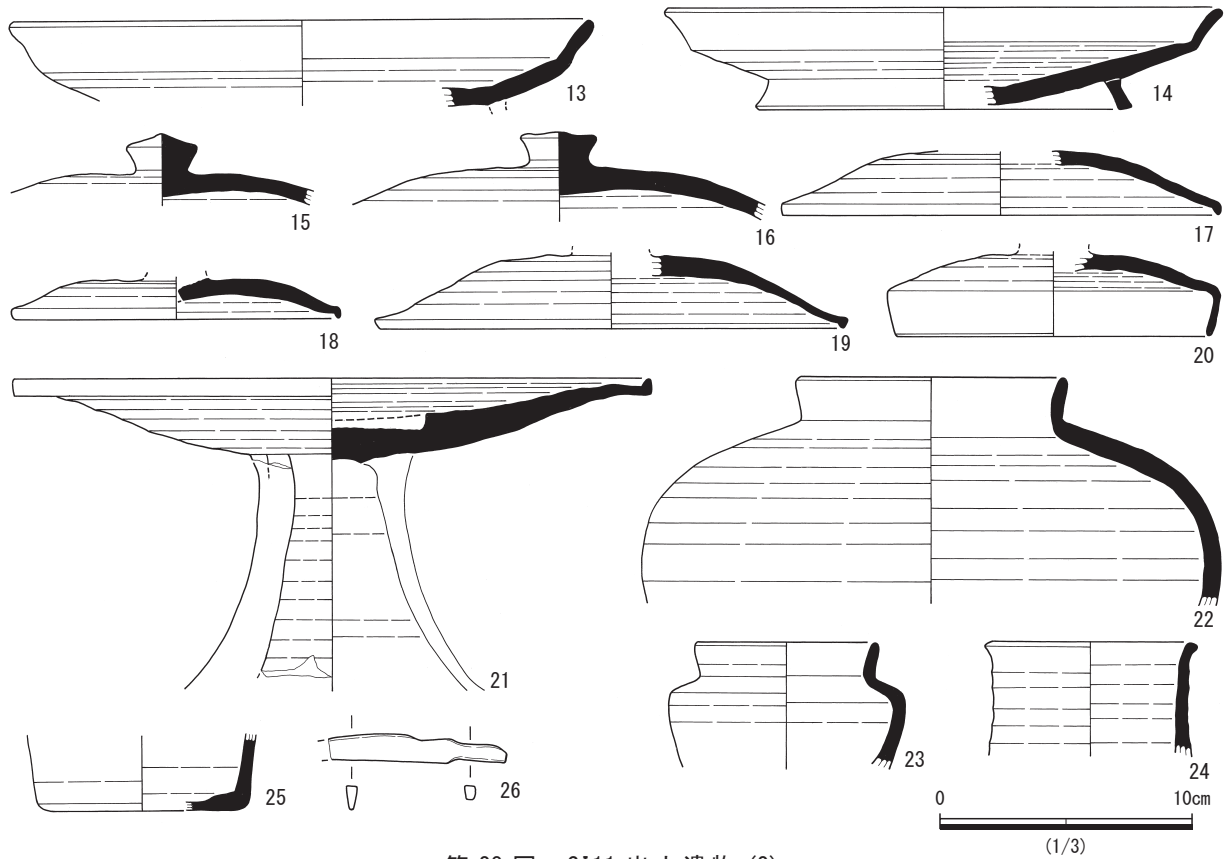
1. 灰黄褐色土 10YR4/2 ローム粒少量, ロームブロック (Φ 3 ~ 5mm) 微量含む。縮り有, 粘性弱。
 2. 褐色土 7.5YR4/3 ローム粒少量, ロームブロック (Φ 3 ~ 15mm) 中量, 焼土ブロック (Φ 3 ~ 15mm) 少量含む。縮り有, 粘性弱。
 3. 灰白色土 10YR7/1 粘土主体。縮りやや強, 粘性有。
 4. 褐色土 7.5YR4/4 ロームブロック (Φ 5 ~ 15mm) 少量, 焼土粒中量, 焼土ブロック (Φ 3 ~ 7mm) 少量含む。縮り有, 粘性弱。
 5. 褐色土 7.5YR4/3 ロームブロック (Φ 3 ~ 10mm) 少量, 焼土ブロック (Φ 3 ~ 5mm) 微量含む。縮り有, 粘性弱。
 6. 褐色土 7.5YR4/3 ロームブロック (Φ 5 ~ 15mm) 少量, 焼土ブロック (Φ 3 ~ 10mm) 少量含む。縮り有, 粘性弱。
 7. 暗褐色土 7.5YR3/3 ローム粒多量 (10%), ロームブロック (Φ 3 ~ 10mm) 中量, 焼土粒中量, 焼土ブロック (Φ 3 ~ 7mm) 少量含む。縮り有, 粘性弱。
 8. にぶい赤褐色土 5YR4/3 ロームブロック (Φ 3 ~ 10mm) 多量 (20%), 焼土ブロック Φ 3 ~ 15mm) 多量 (20%), 粘土ブロック (Φ 5 ~ 10mm) 多量 (10%) 含む。縮り有, 粘性有。
 9. 暗褐色土 7.5YR3/3 ローム粒多量 (10%), ロームブロック (Φ 3 ~ 7mm) 中量, 焼土粒少量, 焼土ブロック (Φ 3 ~ 5mm) 少量含む。縮り有, 粘性弱。
 10. 暗褐色土 7.5YR3/3 焼土混土。縮り有, 粘性弱。
 11. 黒褐色土 7.5YR2/2 ローム粒多量 (10%), ロームブロック (Φ 3 ~ 10mm) 少量, 焼土粒少量含む。粘土ブロック (Φ 3 ~ 10mm) 微量含む。縮り有, 粘性弱。
 12. 暗褐色土 7.5YR3/3 ローム粒中量, ロームブロック (Φ 3 ~ 10mm) 中量, 焼土ブロック (Φ 3 ~ 15mm) 微量含む。縮り有, 粘性弱。
 13. 黒褐色土 7.5YR2/2 ロームブロック (Φ 5 ~ 20mm) 多量 (20 ~ 30%) 含む。縮り有, 粘性弱。
 14. 暗褐色土 7.5YR3/4 ロームブロック (Φ 5 ~ 15mm) 多量 (10 ~ 20%), 焼土ブロック (Φ 5 ~ 15mm) 微量含む。縮り有, 粘性弱。
 15. 暗褐色土 7.5YR3/4 ローム粒中量, ロームブロック (Φ 3 ~ 10mm) 少量含む。縮り有, 粘性弱。
 16. 暗褐色土 7.5YR3/3 ロームブロック (Φ 5 ~ 15mm) 多量 (20%) 含む。縮り有, 粘性弱。
 17. 黒褐色土 7.5YR2/2 ロームブロック (Φ 3 ~ 7mm) 少量含む。縮り有, 粘性弱。
 18. 褐色土 7.5YR4/3 ローム土混土。縮り有, 粘性弱。
 19. 暗褐色土 7.5YR3/3 ロームブロック (Φ 3 ~ 10mm) 多量 (20%) 含む。縮り有, 粘性弱。
 20. 黒褐色土 7.5YR2/2 ロームブロック (Φ 3 ~ 10mm) 中量含む。縮り有, 粘性弱。
 21. 褐色土 7.5YR4/3 ローム粒少量, ロームブロック (Φ 3 ~ 5mm) 微量含む。縮り有, 粘性弱。
 22. 灰褐色土 7.5YR4/2 粘土混土。縮り有, 粘性有。
 23. 暗褐色土 7.5YR3/3 ローム粒少量含む。縮り有, 粘性弱。
 24. 暗褐色土 7.5YR3/4 ロームブロック (Φ 3 ~ 7mm) 中量, 粘土ブロック (Φ 20mm) 微量含む。縮り有, 粘性やや有。
 25. 褐色土 7.5YR4/4 ロームブロック (Φ 3 ~ 15mm) 中量含む。縮り有, 粘性やや有。
 26. にぶい黄褐色土 10YR7/2 粘土主体, 黒色ブロック (Φ 3 ~ 7mm) 少量含む。縮り有, 粘性有。
 27. 黒褐色土 7.5YR2/2 ローム粒少量含む。縮り有, 粘性やや有。
 28. 黒褐色土 10YR3/1 粘土粒多量 (10%), 粘土ブロック (Φ 3 ~ 7mm) 少量, 黒色ブロック (Φ 3 ~ 7mm) 少量含む。縮り有, 粘性やや有。
 29. 褐色土 7.5YR4/3 ロームブロック (Φ 3 ~ 7mm) 少量含む。縮り有, 粘性やや有。
 30. 灰黄褐色土 10YR5/2 粘土粒多量 (20 ~ 30%), 粘土ブロック (Φ 3 ~ 5mm) 少量, ロームブロック (Φ 5 ~ 10mm) 少量, 黒色ブロック (Φ 3 ~ 5mm) 少量含む。縮り有, 粘性有。
- SI11 掘り方**
- a. にぶい黄褐色土 10YR6/4 ロームブロック主体。縮り有, 粘性有。
 - b. にぶい黄褐色土 10YR5/3 ロームブロックを密に含む。縮り有, 粘性有。
 - c. にぶい黄褐色土 10YR5/3 ロームブロック (Φ 5 ~ 15mm) 多量 (30 ~ 40%) 含む。縮り弱, 粘性有。P4 覆土。
- SI11 P1**
1. 暗褐色土 7.5YR3/3 ローム粒少量, ロームブロック (Φ 3 ~ 7mm) 微量, 炭化物粒少量含む。縮り有, 粘性やや有。
 2. 黒色土 7.5YR2/1 ローム粒少量, ロームブロック (Φ 3 ~ 5mm) 微量, 炭化物粒少量含む。縮り有, 粘性有。
 3. 灰黄褐色土 10YR4/2 ロームブロック (Φ 5 ~ 15mm) 多量 (20 ~ 30%) 含む。縮りやや弱, 粘性有。
- SI11 P2**
1. 暗褐色土 7.5YR3/3 ローム粒中量, ロームブロック (Φ 3 ~ 7mm) 少量, 炭化物塊 (Φ 3 ~ 10mm) 中量含む。縮り有, 粘性やや有。
 2. にぶい黄褐色土 10YR5/4 ロームブロック (Φ 5 ~ 10mm) 多量 (20%) 含む。縮り弱, 粘性有。



第27図 SI11 出土遺物 (1)

第3章 調査の成果

群産とみられる胎土の須恵器坏を中心に器種が豊富で、供膳具は一定量認められる。須恵器の中でも20の蓋と22の短頸壺は組み合わせり、24・25はコップ型の同一個体である。時期は、8世紀第3四半期～第4四半期と考えられる。



第28図 SI11 出土遺物 (2)

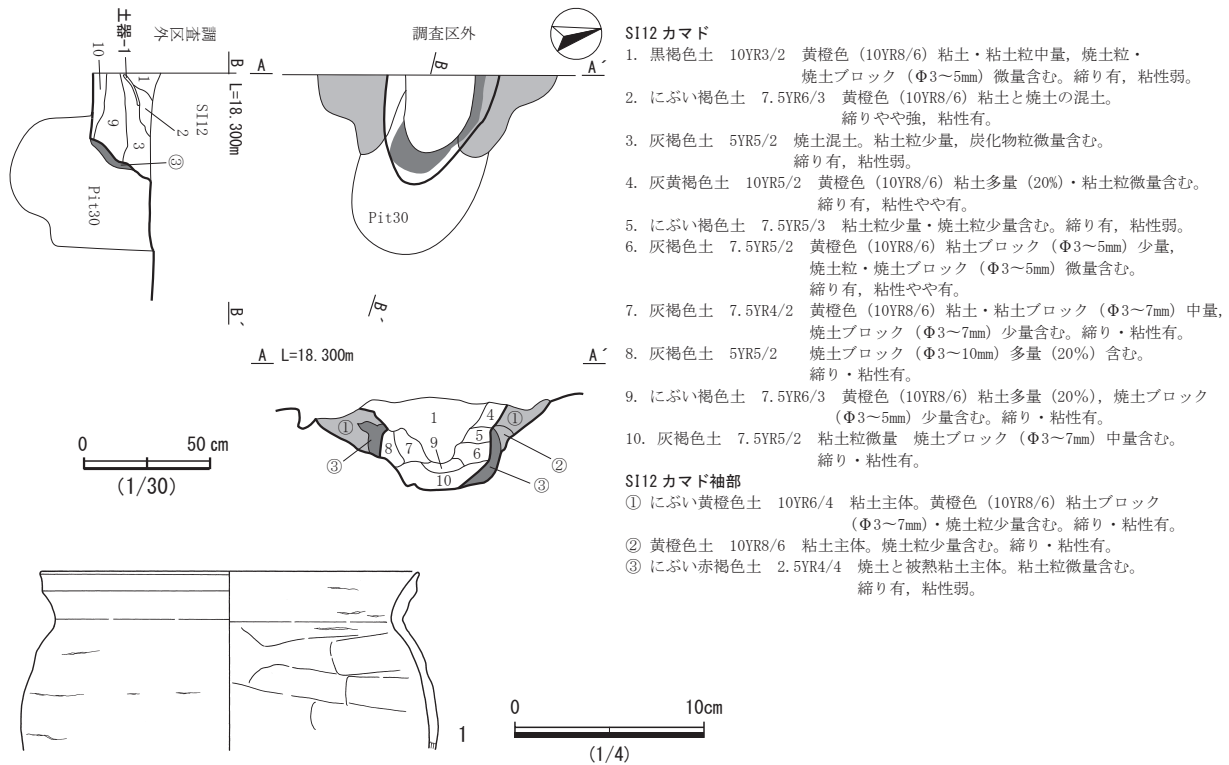
SI12 (第29図, 第8表, 写真図版3・10)

検出位置は南区のH1グリッドである。建物跡の大部分が西側の調査区外にあり、カマド燃焼部から煙道部のみが検出された。Pit30を切り込んで構築されている。煙道部は東側を向いており、主軸方向はN-124°-Eを示す。規模は、屋外への掘り込みが現存値で0.85m、確認できる燃焼部の最大幅は0.43m、深さは24cmを測る。構築材は黄橙色・にぶい黄橙色の粘土を主体としている。煙道部の立ち上がり部分では赤変硬化が認められた。

遺物は、土師器11点(甕11)が出土した。1の土師器甕は小型である。時期は、出土遺物と遺構の形態を考慮すれば10世紀代と考えられる。

SI13 (第30～33図, 第8～10・12表, 写真図版4・10・11)

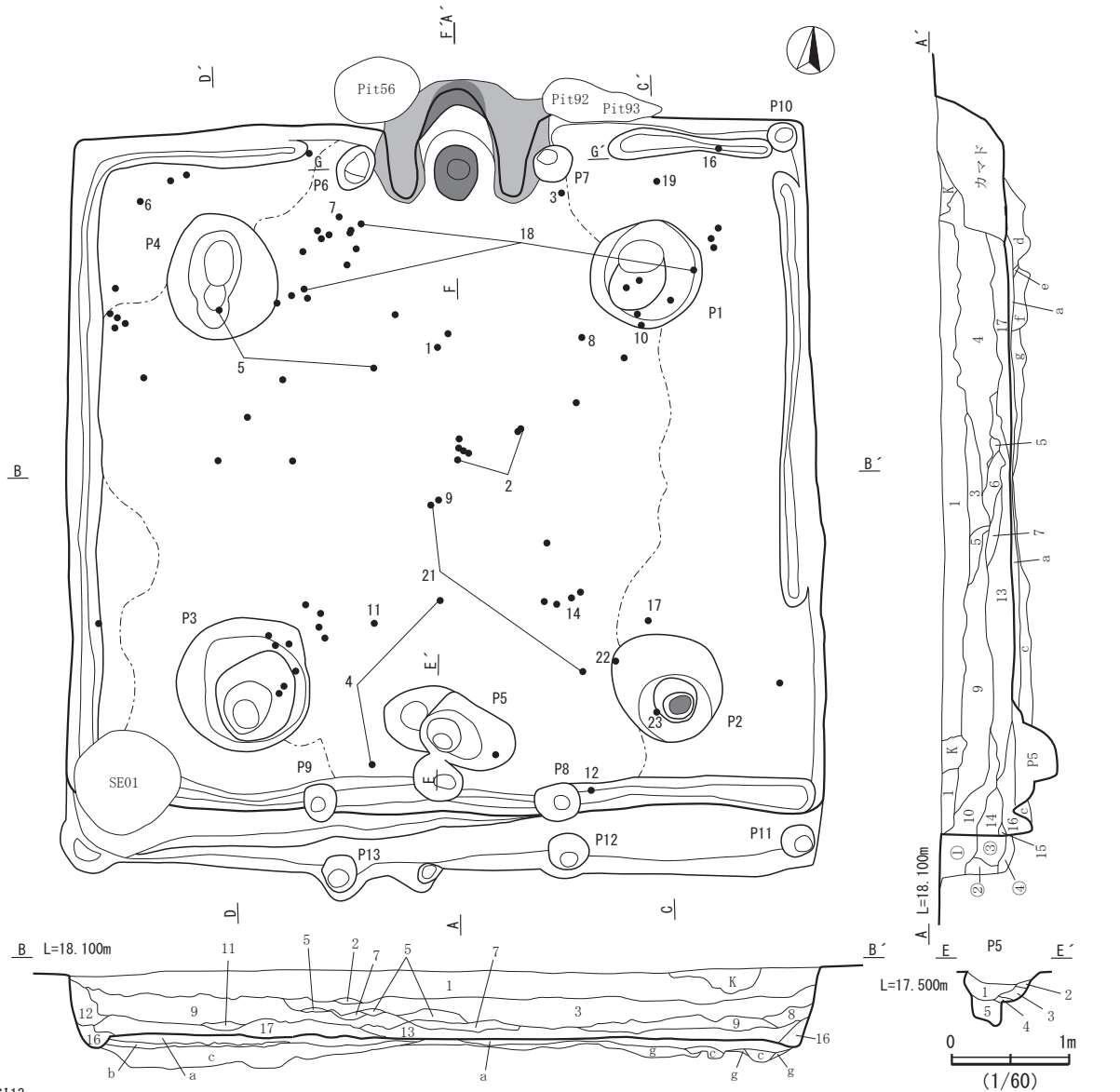
検出位置は南区のG1・2, H1・2グリッドにまたがる。南西隅でSK03に、南壁沿いをPit10～14に、北壁際はSB03を構成するPit56・92・93によってそれぞれ切られている。平面形は方形を呈し、主軸方向はN-8°-Wを示す。規模は東西軸6.38m、南北軸6.07m、深さは56～62cmを測り、壁は垂直に立ち上がる。覆土は自然堆積である。床面はロームブロック混土の貼り床が施され、



第29図 SI12・同出土遺物

P 1・2間から西側のほぼ全域で顕著に硬化する。壁溝は幅10~30cm, 深さ4~12cmでほぼ全周する。ピットは13基が検出された。P 1~4は主柱穴で, P 1が径95×92cm, 深さ102cm, P 2が径100×97cm, 深さ84cm, P 3が径111×113cm, 深さ94cm, P 4が径109×92cm, 深さ92cmである。南壁際のP 5は出入り口施設に伴うピットとみられ, 径50cm, 深さ13~21cmで複数の掘り込みが認められる。P 6~13は径25~40cm, 深さ27~64cmでそれぞれが壁際に接している。P 5・6はカマドを挟む形での配置で, 深さも60cm以上と他より深い。P 8・9は壁溝を切り込んでいる。西壁側では同様のピットは検出されていない。掘り方は建物南側を中心に深く掘り込まれていた。カマドは北壁中央に付設され, 構築材は灰白色・黄橙色粘土を主体としている。火床部は7cm程掘り窪められ, 焼土が堆積するとともに底面は赤変硬化していた。直上では灰層(カマド22層)が検出されている。煙道部は屋外へ53cm掘り込まれ, 全長は120cm, 燃焼部幅は71cm, 袖残存長は左袖63cm, 右袖70cmである。本建物跡では建て替えの痕跡が確認されている。建て替えは北側へずらして構築したようで, 南側では旧建物跡の掘り方が残り, 人為的に埋め戻していた。主柱穴やカマド脇のピットでも古い柱穴を埋め戻して新しい柱穴を掘り直している。P 8・9と並行して古い壁際にも同様のピットが認められることから, 新旧ともに同様の構造で建て替えられていたようである。

遺物は, 土師器515点(坏8, 甕507), 須恵器269点(坏127, 高台付坏24, 盤29, 蓋45, 甕25, 甌4, 鉢3, 高坏11, 円面硯1), 瓦4点(丸瓦2, 平瓦2), 土製品2点(土玉1, 支脚1), 鉄製品1点(刀子1)が主に覆土上層から下層にかけて出土した。土師器は煮沸具が主体で, 土師器坏は非ロクロ系の小破片がわずかに認められ, 混入したものであろう。須恵器は木葉下窯跡群産とみられる胎土の須恵器坏を中心に器種が豊富で, 供膳具は一定量出土している。時期は, 9世紀第1四半期と考えられる。



SI13

1. 黒褐色土 7.5YR3/2 ローム粒中量, ロームブロック (Φ 3~7mm) 少量, 炭化物塊 (Φ 5~10mm) 少量含む。締り有, 粘性弱。
2. 黒褐色土 7.5YR3/1 ロームブロック (Φ 5~10mm) 少量含む。締り有, 粘性弱。
3. 暗褐色土 7.5YR3/3 ローム粒中量, ロームブロック (Φ 3~10mm) 中量, 焼土ブロック (Φ 5~10mm) 微量, 炭化物塊 (Φ 5~10mm) 少量, 黒色ブロック (Φ 10~30mm) 多量 (20%) 含む。締り有, 粘性やや有。
4. 灰褐色土 7.5YR4/2 ローム粒多量 (20%), ロームブロック (Φ 5~15mm) 多量 (30~40%), 粘土少量, 黒色ブロック (Φ 10~30mm) 多量 (20%) 含む。締り有, 粘性やや有。
5. にぶい赤褐色土 5YR5/3 焼土と粘土の混土。締り有, 粘性有。
6. 黒色土 7.5YR2/1 焼土ブロック (Φ 5~10mm) 多量 (20%), 粘土ブロック (Φ 5~10mm) 少量含む。締り有, 粘性やや有。
7. 灰褐色土 7.5YR4/2 ローム粒少量, 焼土ブロック (Φ 10~15mm) 微量, 粘土ブロック (Φ 15~20mm) 少量, 黒色土少量含む。締り有, 粘性有。
8. 褐色土 7.5YR4/3 ローム粒少量, ロームブロック (Φ 5~7mm) 微量含む。締り有, 粘性弱。
9. 暗褐色土 7.5YR3/3 ローム粒少量, ロームブロック (Φ 3~15mm) 中量, 焼土ブロック (Φ 3~5mm) 微量, 斑状の黒色土をまばらに含む。締り有, 粘性弱。
10. 褐色土 7.5YR4/3 ロームブロック (Φ 5~20mm) 多量 (20~30%) 含む。締り有, 粘性弱。
11. にぶい黄褐色土 10YR5/4 粘土・粘土ブロック主体。締り有, 粘性やや有。
12. 黒褐色土 7.5YR3/1 ローム粒微量, 焼土粒微量含む。締り有, 粘性やや有。
13. 褐色土 7.5YR4/4 ローム粒多量 (20%), ロームブロック (Φ 3~10mm) 多量 (20~30%) 含む。締り有, 粘性有。
14. 暗褐色土 7.5YR3/3 ロームブロック (Φ 3~10mm) 少量含む。締り有, 粘性やや有。
15. 明褐色土 7.5YR5/6 ローム質土主体。締り有, 粘性有。
16. にぶい黄褐色土 10YR4/3 ロームブロック (Φ 3~5mm) 少量含む。締りやや弱, 粘性やや有。
17. 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒・ロームブロック (Φ 3~7mm) 少量含む。締り有, 粘性弱。

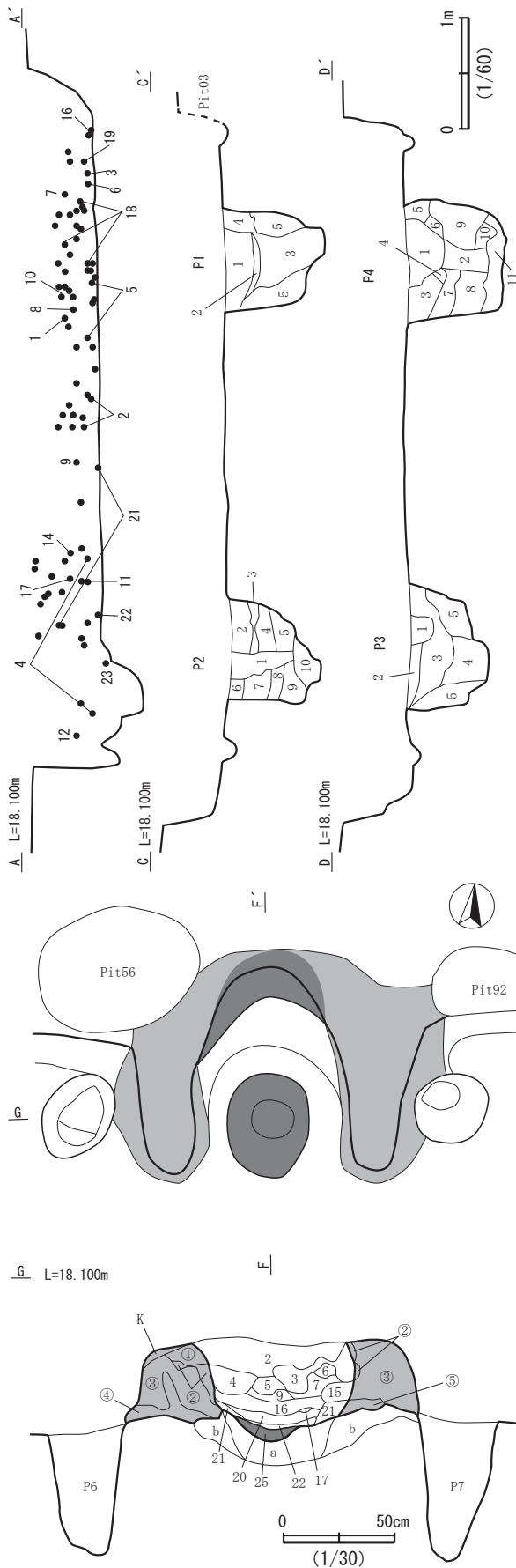
SI13 P1

1. 暗褐色土 7.5YR3/3 ロームブロック (Φ 3~10mm) 多量 (20~30%) 含む。締り有, 粘性やや有。
2. 黒褐色土 7.5YR3/1 ローム粒少量, ロームブロック (Φ 3~7mm) 微量含む。締り有, 粘性やや有。
3. 黒褐色土 10YR3/2 ロームブロック (Φ 5~15mm) 多量 (40%) 含む。締り弱, 粘性有。
4. にぶい黄褐色土 10YR5/4 ロームブロック (Φ 5~15mm) を密に含む。締り強, 粘性やや有。
5. にぶい黄褐色土 10YR4/3 ロームブロック (Φ 5~10mm) 中量, 黒色ブロック少量含む。締り有, 粘性有。

SI13 P2

1. 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒少量, ロームブロック (Φ 3~7mm) 微量含む。締り有, 粘性弱。
2. 暗褐色土 7.5YR3/3 ローム中量, ロームブロック (Φ 3~5mm) 微量含む。締り有, 粘性やや有。
3. 黒褐色土 7.5YR3/2 黒色土混土。ロームブロック (Φ 3~5mm) 微量含む。締り有, 粘性やや有。
4. にぶい黄褐色土 10YR4/3 ロームブロック (Φ 3~7mm) 多量 (20%) 含む。締り有, 粘性有。
5. にぶい黄褐色土 10YR5/3 ローム粒中量, ロームブロック (Φ 3~10mm) 多量 (20~30%) 含む。締り有, 粘性有。
6. 暗褐色土 7.5YR3/3 ローム粒中量, ロームブロック (Φ 3~7mm) 多量 (20~30%) 含む。締り有, 粘性やや有。
7. にぶい黄褐色土 10YR4/3 ローム粒多量 (20%) ロームブロック (Φ 5~10mm) 中量含む。締り有, 粘性やや有。
8. にぶい黄褐色土 10YR5/3 ロームブロック (Φ 3~7mm) 多量 (40%), 黒色ブロック (Φ 3~5mm) 微量含む。締り有, 粘性有。ロームブロック (Φ 5~10mm) 多量 (40%) 含む。
9. にぶい黄褐色土 10YR4/3 ローム粒・ロームブロック (Φ 3~7mm) 少量含む。締り強, 粘性有。
10. にぶい黄褐色土 10YR5/3 ロームブロック (Φ 20~50mm) を密に含む。締り強, 粘性有。

第30図 SI13(1)



- SI13 P3**
1. 暗褐色土 7.5YR3/3 ローム粒少量, ロームブロック (Φ 3 ~ 5mm) 微量, 黒色粒微量含む。締り有, 粘性弱。
 2. 暗褐色土 7.5YR3/3 ローム土・ロームブロック (Φ 3 ~ 10mm) を密に含む。締りやや強, 粘性やや有。
 3. 黒褐色土 7.5YR3/2 黒色土混土。ロームブロック (Φ 3 ~ 10mm) 中量含む。締りやや有, 粘性やや有。
 4. にぶい黄褐色土 10YR4/3 ロームブロック (Φ 3 ~ 7mm) 多量 (20 ~ 30%), 黄色ブロック (Φ 10 ~ 15mm) 少量含む。締り弱, 粘性有。
 5. にぶい黄褐色土 10YR5/3 ロームブロック (Φ 5 ~ 20mm) 多量 (30 ~ 40%) 含む。締り有。
- SI13 P4**
1. 暗褐色土 7.5YR3/3 ローム粒少量, ロームブロック (Φ 3 ~ 5mm) 少量含む。締り有。
 2. にぶい黄褐色土 10YR4/3 ローム土・ロームブロック (Φ 3 ~ 10mm) 多量 (40%) 含む。締り強, 粘性有。
 3. 灰黄褐色土 10YR4/2 ロームブロック (Φ 3 ~ 5mm) 少量, 黒色ブロック微量含む。締り強, 粘性有。
 4. にぶい黄褐色土 10YR6/3 粘土ブロック主体。締り有, 粘性有。
 5. 灰黄褐色土 10YR5/2 ロームブロックと粘土ブロックの混土。締り強, 粘性有。
 6. 灰黄褐色土 10YR6/2 ロームブロックと粘土ブロックの混土。締り有, 粘性有。
 7. にぶい黄褐色土 10YR4/3 ロームブロック (Φ 5 ~ 10mm) 中量, 黄色ブロック (Φ 3 ~ 10mm) 少量含む。締り・粘性有。
 8. 黒褐色土 10YR3/2 ロームブロック (Φ 5 ~ 10mm) 多量 (30 ~ 40%), 黄色ブロック (Φ 5 ~ 10mm) 少量含む。締り弱, 粘性有。
 9. 褐灰色土 10YR4/1 粘土混土。ローム粒多量 (20%) 黒色粒微量含む。締り有, 粘性有
 10. 黒色土 10YR2/1 ロームブロック (Φ 3 ~ 5mm) 少量含む。締りやや弱, 粘性やや有。
 11. 灰黄褐色土 10YR4/2 ロームブロック (Φ 3 ~ 7mm) 多量 (20%) 含む。締りやや強, 粘性有。
- SI13 P5**
1. 黒褐色土 7.5YR3/1 ロームブロック (Φ 3 ~ 5mm) 少量含む。締り有, 粘性やや有。
 2. 灰白色土 10YR7/1 粘土主体。締り・粘性有。
 3. 褐色土 7.5YR4/3 ロームブロック (Φ 10 ~ 30mm) を密に含む。締り強, 粘性有。
 4. 淡黄色土 2.5Y8/4 鹿沼軽石粒主体。締り有, 粘性なし。
 5. 黒褐色土 7.5YR3/1 粘土ブロック (Φ 10 ~ 30mm) を密に含む。締り・粘性有。
- SI13 南壁建て替え前埋め戻し部分**
- ① にぶい黄褐色土 10YR4/3 ローム土混土。締り有, 粘性やや有。
 - ② 灰黄褐色土 10YR4/2 ローム土混土。締り有。粘性やや有。①層に比べ密度うすい。
 - ③ 灰黄褐色土 10YR4/2 ロームブロック (Φ 10 ~ 20mm) 多量 (40%) 含む。締り有, 粘性やや有。
 - ④ 黒褐色土 10YR3/1 ロームブロック (Φ 15 ~ 30mm) 多量 (20%) 含む。締り強, 粘性有。
- SI13 掘り方**
- a. にぶい黄褐色土 10YR4/3 ロームブロック (Φ 5 ~ 20mm) を密に含む。締り強, 粘性弱。
 - b. 黒褐色土 10YR3/1 ロームブロック (Φ 5 ~ 20mm) 中量含む。締り有, 粘性やや有。
 - c. にぶい黄褐色土 10YR4/3 ロームブロック (Φ 5 ~ 30mm) を密に含む。締り有, 粘性やや有。
 - d. 灰黄褐色土 10YR5/2 被熱ロームブロック (Φ 10 ~ 20mm) 少量, 粘土ブロック (Φ 10 ~ 20mm) 微量含む。締り有, 粘性弱。
 - e. 赤褐色土 5YR4/6 焼土ブロック主体。締り有, 粘性弱。
 - f. 褐灰色土 10YR4/1 ロームブロック (Φ 10 ~ 30mm) 多量 (20%) 含む。締りやや強, 粘性やや有。
 - g. にぶい黄褐色土 10YR5/3 ロームブロック (Φ 20 ~ 40mm) を密に含む。締り有, 粘性やや有。
- SI13 カマド**
1. 灰黄褐色土 10YR5/2 粘土ブロック (Φ 3 ~ 5mm) 多量 (20%) 含む。締り有, 粘性弱。
 2. 黒褐色土 10YR3/2 粘土ブロック (Φ 3 ~ 10mm) 中量含む。締り有, 粘性弱。
 3. 黄褐色土 10YR8/6 粘土主体。灰白色 (2.5Y8/1) 粘土中量, 含む。締り強, 粘性有。
 4. にぶい黄褐色土 10YR7/4 粘土主体。被熱粘土ブロック (Φ 5 ~ 10mm) 中量含む。締り強, 粘性有。
 5. にぶい褐色土 7.5YR5/3 粘土と焼土の混土。締り有, 粘性やや有。
 6. 灰白色土 2.5Y8/1 粘土主体。締り有, 粘性強。
 7. 灰褐色土 7.5YR5/2 粘土ブロック (Φ 3 ~ 7mm) 少量, 焼土中量含む。締り有, 粘性やや有。
 8. にぶい黄褐色土 10YR7/4 粘土主体。締り強, 粘性有。
 9. 明赤褐色土 2.5YR5/6 焼土主体。締り有。粘性弱。
 10. 灰白色土 2.5Y8/1 粘土主体。締り有, 粘性強。
 11. 灰白色土 2.5Y7/1 粘土主体。斑状の炭化物粒を全体に含む。締り有, 粘性強。
 12. 浅黄褐色土 10YR8/3 粘土主体。被熱粘土ブロック (Φ 3 ~ 15mm) 少量, 炭化物粒微量含む。締り強, 粘性有。
 13. 褐灰色土 7.5YR4/1 粘土ブロック (Φ 5 ~ 7mm) 中量含む。締り強, 粘性有。
 14. 黄褐色土 10YR8/6 粘土主体。締り強, 粘性有。
 15. 黒褐色土 7.5YR3/1 焼土ブロック (Φ 3 ~ 5mm) 少量含む。締り有, 粘性やや有。
 16. にぶい褐色土 7.5YR5/3 焼土ブロック (Φ 3 ~ 5mm) 少量含む。
 17. 黒褐色土 5YR3/1 炭化物粒少量含む。締り弱, 粘性弱。
 18. 褐色土 5YR5/1 灰白色 (2.5Y8/1) 粘土ブロック (Φ 3 ~ 5mm) 中量, 焼土ブロック (Φ 3 ~ 5mm) 少量含む。締り有, 粘性有。
 19. にぶい赤褐色土 5YR4/3 焼土ブロック (Φ 10 ~ 20mm) を密に含む。締りやや弱, 粘性有。
 20. 赤褐色土 2.5YR4/6 焼土主体。締り強, 粘性弱。
 21. にぶい黄褐色土 10YR6/4 粘土主体。締りやや弱, 粘性有。
 22. 灰白色土 7.5YR8/1 灰層。焼土粒少量含む。締り弱, 粘性なし。
 23. 褐灰色土 5YR4/1 黄褐色 (10YR8/6) 粘土ブロック (Φ 3 ~ 7mm) 中量含む。締り有, 粘性有。
 24. 褐灰色土 7.5YR4/1 粘土ブロック (Φ 5 ~ 10mm) 多量 (20%) 含む。締り有, 粘性有。
 25. にぶい赤褐色土 2.5YR4/4 焼土主体。締り有, 粘性弱。

第31図 SI13(2)

第3章 調査の成果

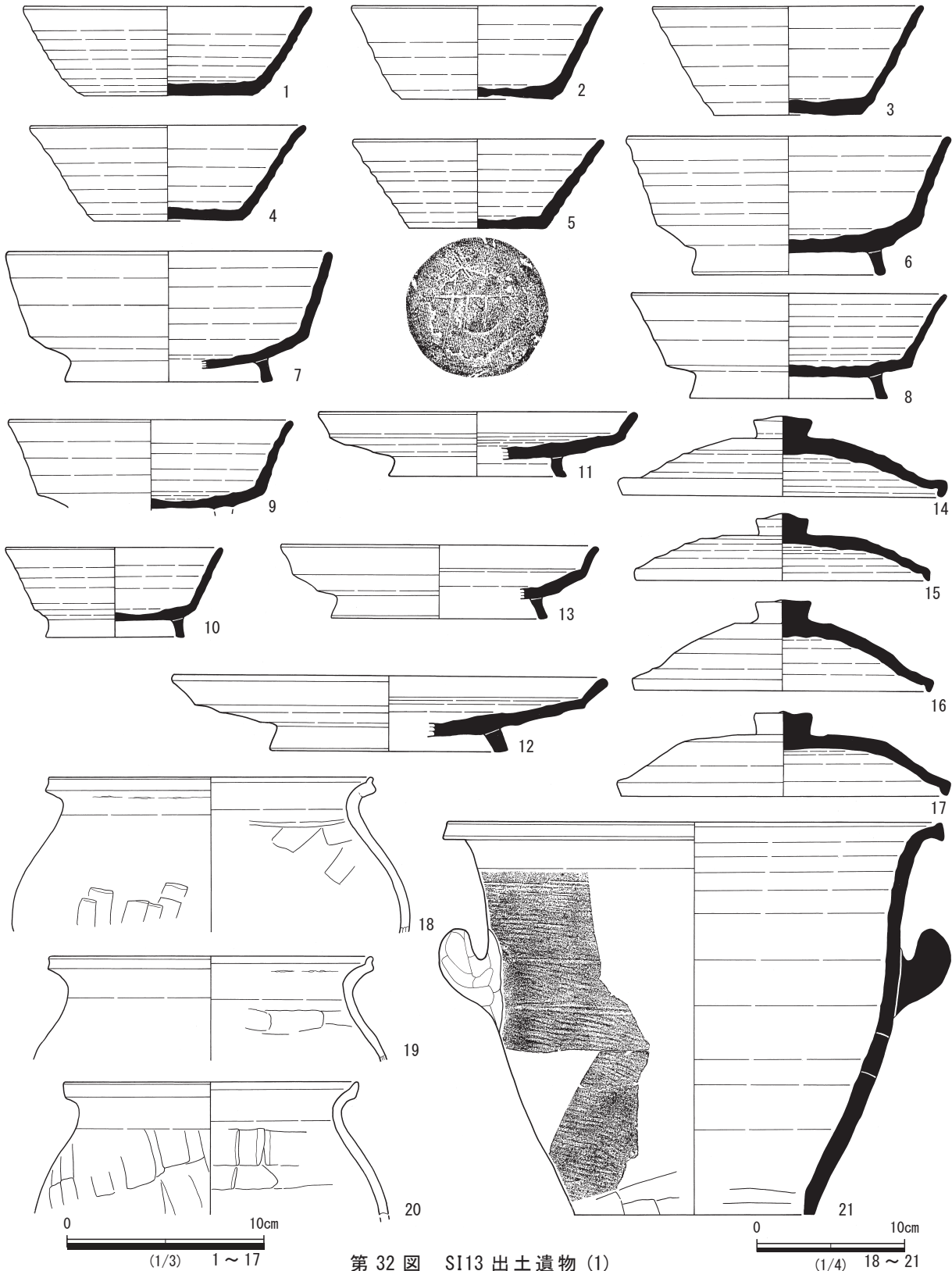
SI13 カマド掘り方 (* 33 ページの続き)

- a. にぶい黄褐色土 10YR5/3 灰白色 (2.5Y8/1) 粘土ブロック (Φ 3~10mm) 少量, ロームブロック (Φ 5~10mm) を密に含む。縮り有, 粘性弱。
- b. 灰黄褐色土 10YR5/2 灰白色 (2.5Y8/1) 粘土ブロック (Φ 3~10mm) 微量, ロームブロック (Φ 5~10mm) を密に含む。縮り有, 粘性弱。
- c. 赤褐色土 2.5YR4/6 焼土主体, 黄橙色 (10YR8/6) 粘土多量 (20%) 含む。上面は被熱し暗赤褐色 (2.5YR3/3) に変色。縮り強, 粘性無。
- d. 褐灰色土 7.5YR5/1 粘土ブロック (Φ 10~40mm) 少量, 焼土ブロック (Φ 10~30mm) 少量含む。縮り有, 粘性有。

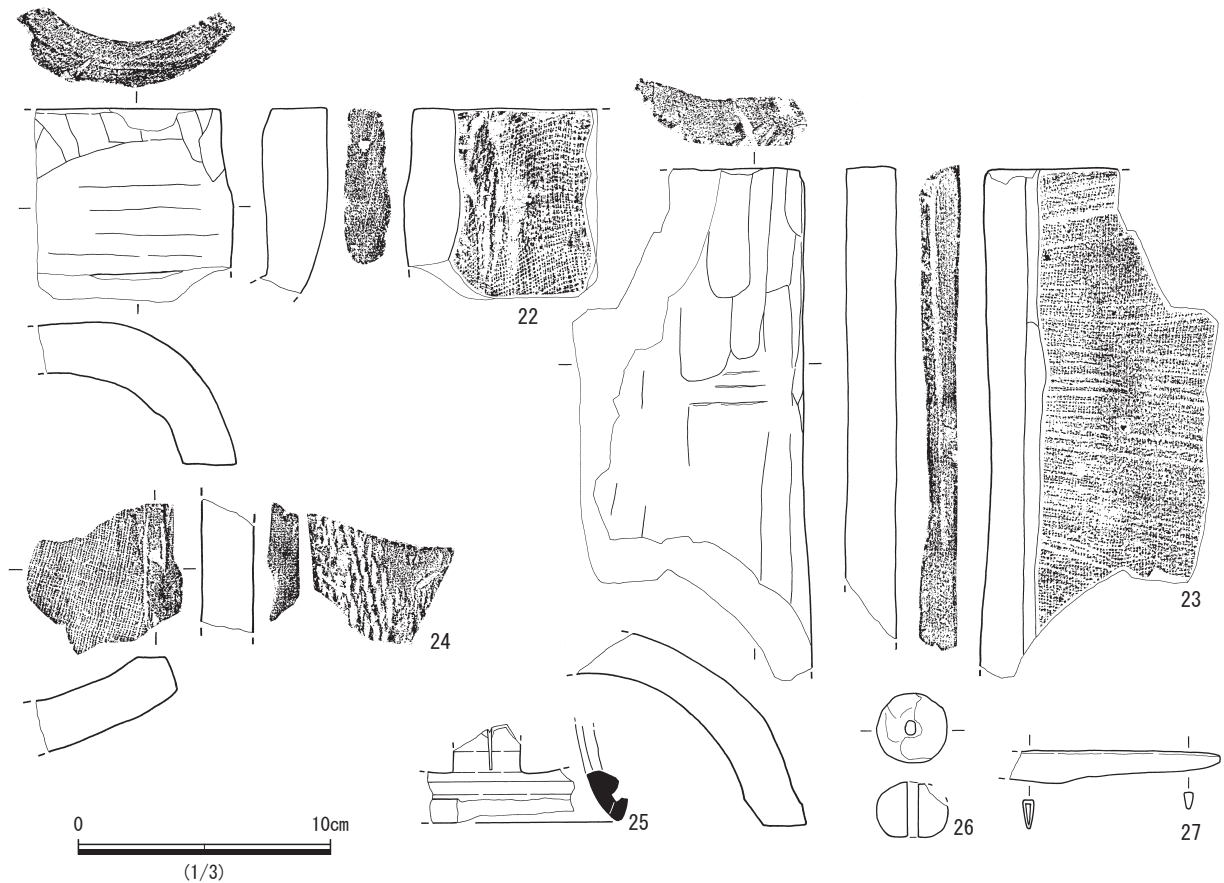
- e. 黒褐色土 7.5YR3/1 ロームブロック (Φ 5~20mm) 多量 (20%) 含む。縮り有, 粘性有。

SI13 カマド袖部

- ① 灰白色土 2.5Y8/1 粘土主体。縮り強, 粘性強。
- ② 明赤褐色土 2.5YR5/6 焼土主体。被熱顕著。縮り強, 粘性なし。
- ③ 黄褐色土 10YR8/6 粘土主体。縮り強, 粘性有。
- ④ にぶい黄褐色土 10YR5/3 黄橙色土粘土ブロック (Φ 3~7mm) 多量 (20%) 含む。縮り有, 粘性やや有。
- ⑤ 灰黄褐色土 10YR6/2 粘土混土。縮り有, 粘性有。



第 32 図 SI13 出土遺物 (1)



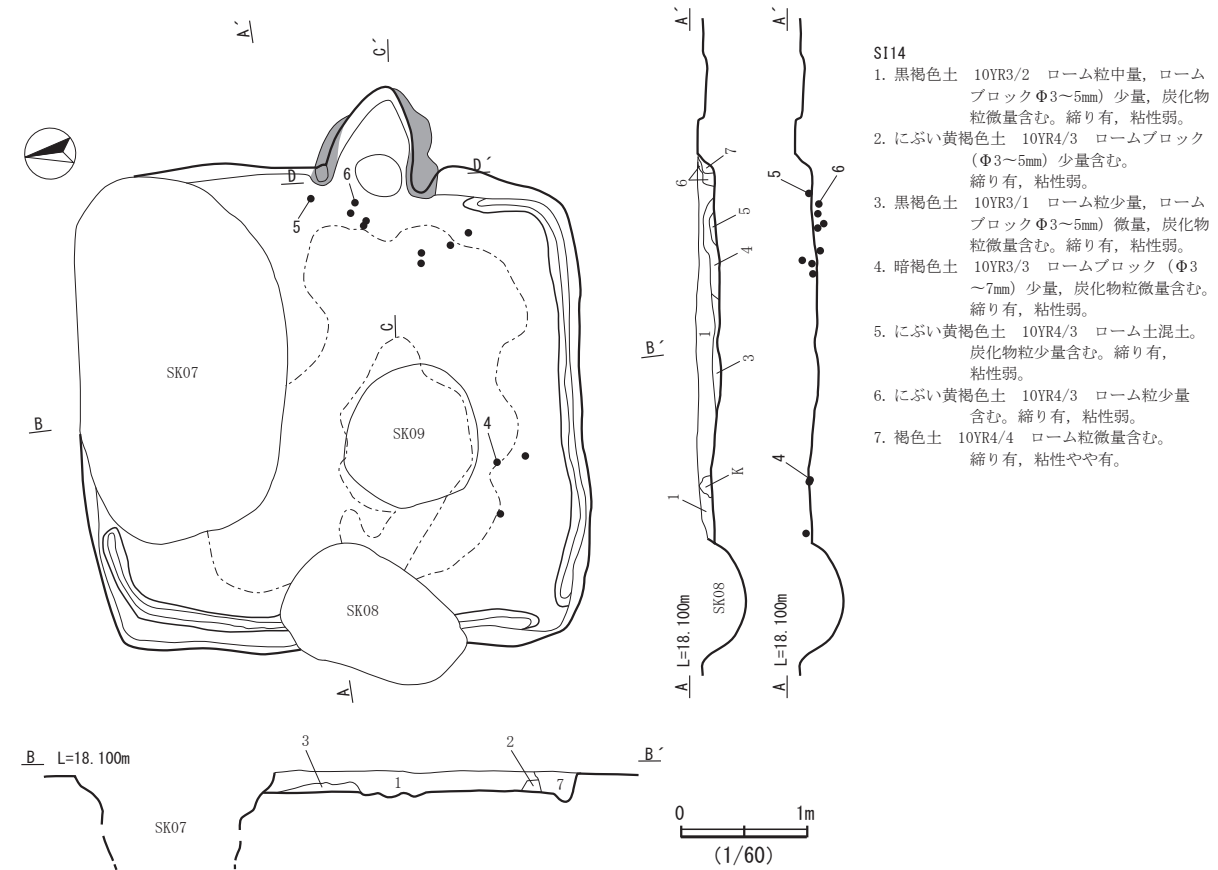
第33図 SI13出土遺物(2)

S I 1 4 (第34・35図, 第8表, 写真図版4・11)

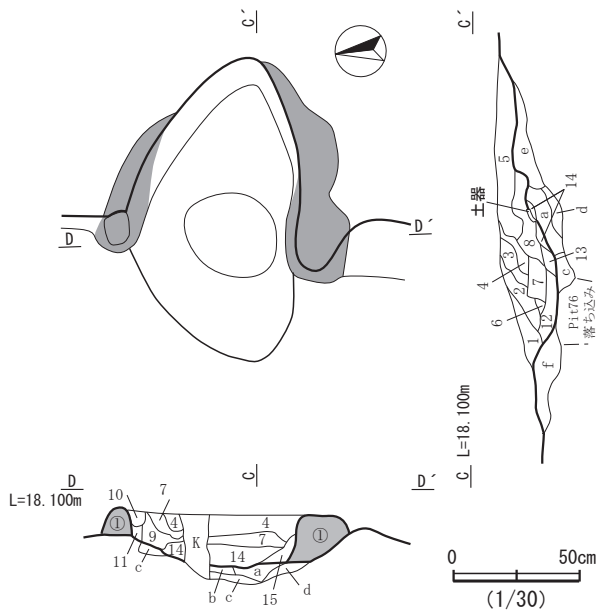
検出位置は南区のH1・2グリッドである。SB02を構成するPit76を本建物跡のカマドが切り込んで構築されている。一方で西壁及び南壁の一部をSK07・08に切れ、SK09は土層から本建物跡が古いと考えられたが、床面の硬化部分が抜けていることから、やはり切られていると判断される。平面形は方形を呈し、主軸方向はN-101°-Eを示す。規模は東西軸3.86m, 南北軸4.00m, 深さは12~16cmを測り、壁は垂直に立ち上がる。覆土は堆積層が浅く、自然堆積かどうか判然としない。床面は壁際を除く全域で顕著に硬化する。壁溝は幅11~16cm, 深さ6~8cmでほぼ全周するが、北西隅では壁との距離が認められる。ピットは検出されなかった。掘り方はなく直床である。カマドは東壁中央やや南寄りに付設され、構築材は浅黄色粘土を主体としている。燃烧部は10cm程掘り窪められ、焼土が堆積するとともに底面は赤変硬化していた。燃烧部から煙道部は東壁を53cm掘り込み、カマド本体は屋外となる。全長は87cm, 燃烧部幅は60cm, 袖残存長は左袖15cm, 右袖25cmと短く、ほとんど壁に貼り付けられた状態である。

遺物は、土師器193点(坏12, 椀2, 皿1, 甕176, 甑1, 鉢1), 須恵器23点(坏10, 高台付坏1, 蓋1, 甕10, 壺・瓶類1) 灰釉陶器1点(椀1)が出土した。供膳具, 煮沸具ともに土師器が主体となり、須恵器は小破片のみで器種も少ない。出土状態はカマド周辺に集中して認められる。土師器の供膳具は内面黒色処理されたものとされないものが混在している。時期は10世紀第2四半期~第3四半期と考えられる。

第3章 調査の成果



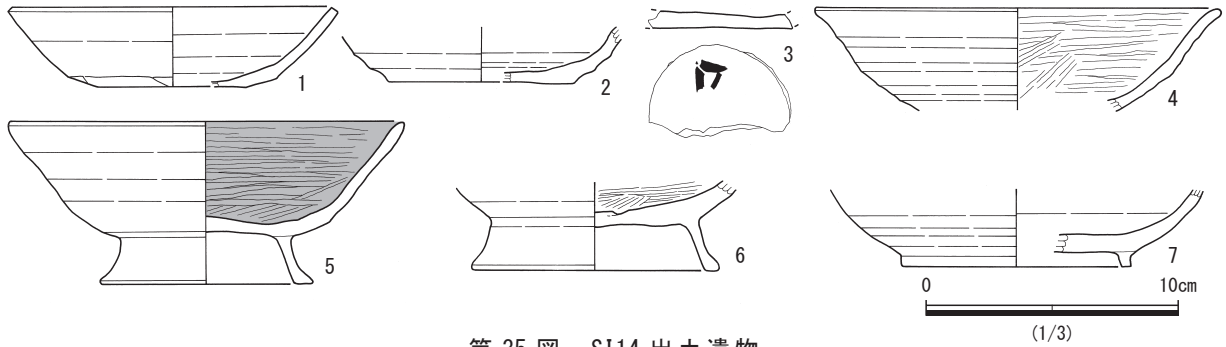
- S114
1. 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒中量, ロームブロック $\Phi 3 \sim 5\text{mm}$ 少量, 炭化物粒微量含む。締り有, 粘性弱。
 2. にぶい黄褐色土 10YR4/3 ロームブロック ($\Phi 3 \sim 5\text{mm}$) 少量含む。締り有, 粘性弱。
 3. 黒褐色土 10YR3/1 ローム粒少量, ロームブロック $\Phi 3 \sim 5\text{mm}$ 微量, 炭化物粒微量含む。締り有, 粘性弱。
 4. 暗褐色土 10YR3/3 ロームブロック ($\Phi 3 \sim 7\text{mm}$) 少量, 炭化物粒微量含む。締り有, 粘性弱。
 5. にぶい黄褐色土 10YR4/3 ローム土混土。炭化物粒少量含む。締り有, 粘性弱。
 6. にぶい黄褐色土 10YR4/3 ローム粒少量含む。締り有, 粘性弱。
 7. 褐色土 10YR4/4 ローム粒微量含む。締り有, 粘性やや有。



- S114 カマド
1. 灰黄褐色土 10YR4/2 粘土粒少量含む。締り有, 粘性弱。
 2. にぶい黄色土 2.5Y6/3 粘土主体。灰黄褐色土 (10YR4/2) 多量 (20%), 焼土粒微量含む。締り有, 粘性やや有。
 3. 灰褐色土 10YR4/2 にぶい黄色 (2.5Y6/3) 粘土中量, 炭化物粒微量含む。締り有, 粘性弱。
 4. にぶい黄色土 2.5Y6/3 粘土主体。灰黄褐色土 (10YR4/2) 多量 (20%), 焼土ブロック ($\Phi 3\text{mm}$) 微量, 炭化物小塊 (3mm) 微量含む。締り有, 粘性やや有。
 5. 暗灰黄色土 2.5Y5/2 粘土主体。にぶい黄色 (2.5Y6/3) 粘土と灰白色 (2.5Y8/1) 粘土混土。締り強, 粘性強。
 6. 赤褐色土 2.5YR4/8 焼土ブロック主体。締り有, 粘性なし。
 7. 灰黄褐色土 10YR5/2 にぶい黄色 (2.5Y6/3) 粘土ブロック ($\Phi 3 \sim 5\text{mm}$) 少量含む。締り有, 粘性やや有。
 8. 灰褐色土 7.5YR4/2 にぶい黄色 (2.5Y6/3) 粘土中量, 焼土ブロック ($\Phi 5 \sim 10\text{mm}$) 多量 (20%) 含む。締り有, 粘性有。
 9. 灰黄褐色土 10YR4/2 ロームブロック ($\Phi 5 \sim 10\text{mm}$) 少量, 黒色ブロック ($\Phi 5 \sim 10\text{mm}$) 少量, 粘土粒中量含む。締り有, 粘性やや有。
 10. にぶい黄色土 2.5Y6/3 粘土主体。白色ブロック ($\Phi 5 \sim 15\text{mm}$) 少量含む。締り強, 粘性有。
 11. 灰黄褐色土 10YR4/2 粘土粒中量, 白色ブロック ($\Phi 3 \sim 5\text{mm}$) 少量含む。締り有, 粘性やや有。
 12. 褐色土 10YR4/1 にぶい黄色 (2.5Y6/3) 粘土多量 (20%) 含む。締りやや弱, 粘性有。
 13. 褐色土 7.5YR5/1 灰層。焼土粒微量含む。締り弱, 粘性弱。
 14. 赤褐色土 2.5YR4/8 焼土主体。締り有, 粘性なし。
 15. 灰褐色土 7.5YR4/2 粘土粒多量 (20%), 焼土粒少量, 炭化物粒微量含む。締り有, 粘性やや有。

- S114 カマド掘り方
- a. にぶい赤褐色土 5YR4/4 灰白色 ($\Phi 2.5Y8/1$) と焼土の混土。締り有, 粘性やや強。
 - b. 灰褐色土 7.5YR6/2 灰白色 ($\Phi 7.5YR8/1$) 灰混土。焼土ブロック ($\Phi 3 \sim 7\text{mm}$) 少量含む。締り有, 粘性弱。
 - c. 黒褐色土 10YR3/2 ロームブロック ($\Phi 3 \sim 7\text{mm}$) 多量 (20 ~ 30%), 焼土粒・焼土ブロック ($\Phi 3 \sim 5\text{mm}$) 少量, 炭化物粒微量含む。締り有, 粘性やや有。
 - d. 暗褐色土 7.5YR3/3 ローム粒少量, 焼土粒・焼土ブロック ($\Phi 3\text{mm}$) 微量含む。締り有, 粘性やや有。
 - e. 灰褐色土 7.5YR4/2 灰白色 ($\Phi 2.5Y8/1$) 粘土ブロック ($\Phi 3 \sim 5\text{mm}$) 微量, 焼土ブロック ($\Phi 3 \sim 5\text{mm}$) 中量含む。締り有, 粘性有。
 - f. にぶい黄褐色土 10YR5/3 ロームブロック ($\Phi 5 \sim 20\text{mm}$) 多量 (40%) 含む。締り有, 粘性やや有。

第34図 S114

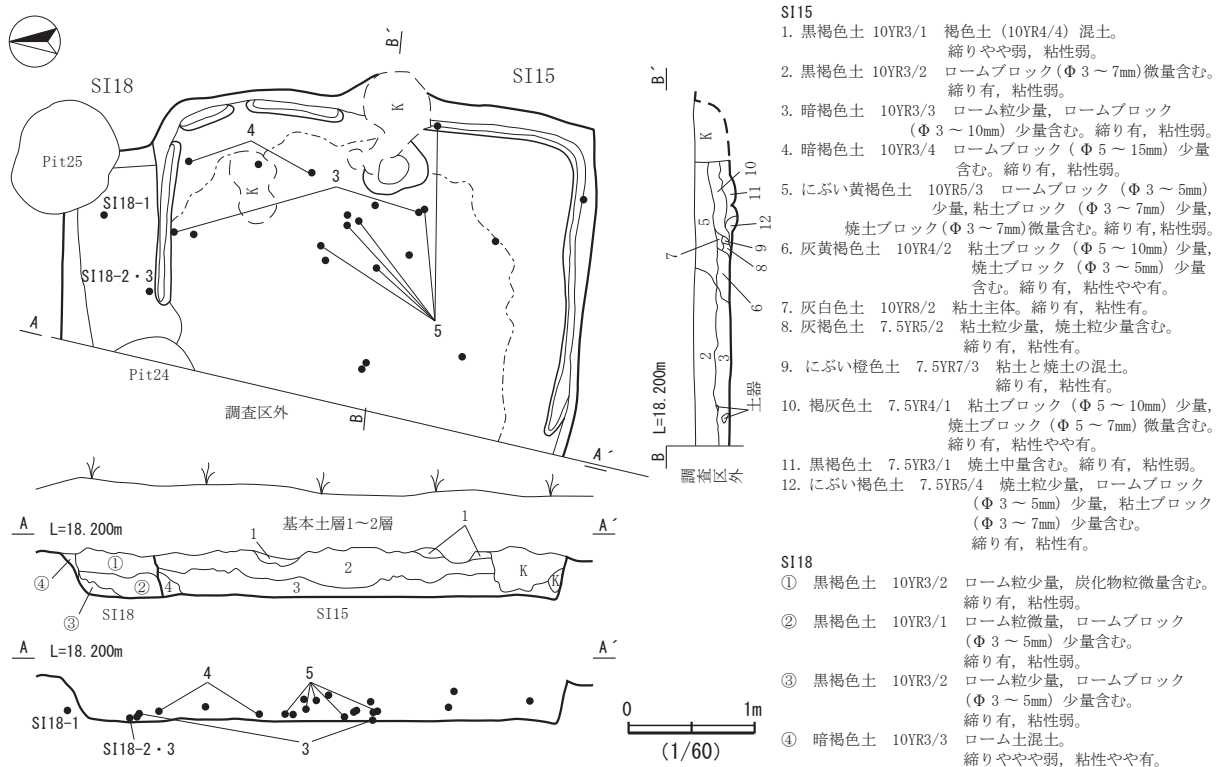


第35図 SI14 出土遺物

SI15 (第36・37図, 第8表, 写真図版4・11)

検出位置は南区のH1, I1グリッドである。西側は調査区外に延びるため全容は把握できない。北側壁がSI18を切っている。平面形は方形を呈していると思われる, 主軸方向はN-96°-Eを示す。規模は東西軸が現存値で2.57m, 南北軸が3.52m, 深さは33cmを測り, 壁はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は自然堆積である。床面は壁際を除く全域で顕著に硬化する。壁溝は幅8~10cm, 深さ3~6cmで全周する。ピットは検出されなかった。掘り方はなく直床である。カマドは東壁中央に付設されたとみられるが, 木根の攪乱で壊され, 5cm程掘り窪められた燃焼部以外は確認できなかった。

遺物は, 土師器142点(坏40, 碗2, 甕99, 鉢1), 須恵器33点(坏15, 高台付坏4, 蓋2, 甕10, 壺・瓶類1, 高坏1)が出土した。土師器の供膳具では内面黒色処理されたものがわずかに上回るものの, 非黒色処理坏と混在している。2・4の土師器坏底部底面は回転糸切り後未調整が主体で, 4はかなり小振りである。3の土師器碗は高台部が内側に付けられる。須恵器は, 木葉下窯跡産とみられる胎土の須恵器坏を中心に比較的器種が豊富に認められるものの, 小破片が多く混入の可能性はある。時

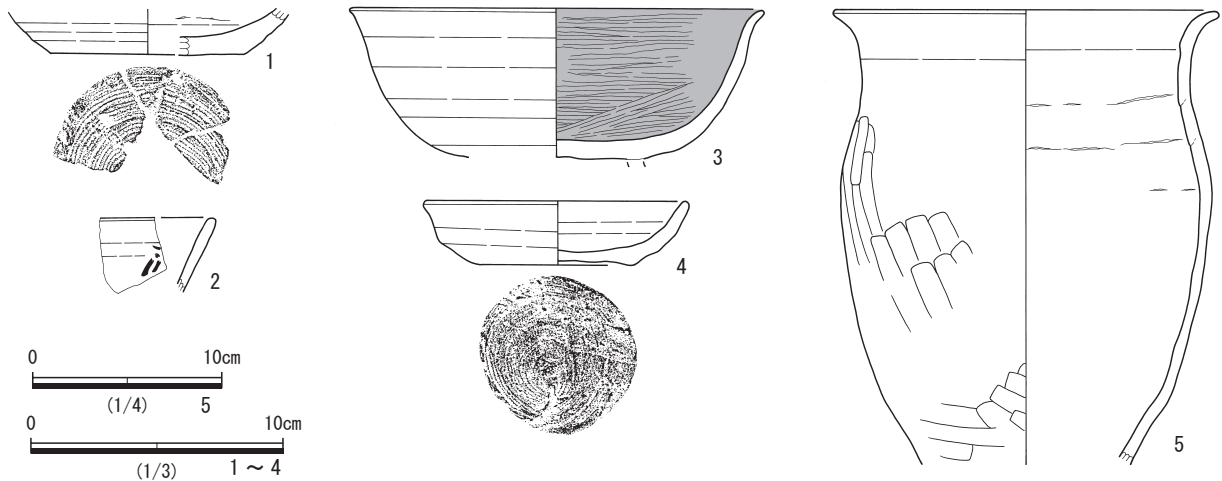


第36図 SI15・18

- SI15
1. 黒褐色土 10YR3/1 褐色土 (10YR4/4) 混土。 締りやや弱, 粘性弱。
 2. 黒褐色土 10YR3/2 ロームブロック (Φ 3~7mm) 微量含む。 締り有, 粘性弱。
 3. 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒少量, ロームブロック (Φ 3~10mm) 少量含む。 締り有, 粘性弱。
 4. 暗褐色土 10YR3/4 ロームブロック (Φ 5~15mm) 少量含む。 締り有, 粘性弱。
 5. にぶい黄褐色土 10YR5/3 ロームブロック (Φ 3~5mm) 少量, 粘土ブロック (Φ 3~7mm) 少量, 焼土ブロック (Φ 3~7mm) 微量含む。 締り有, 粘性弱。
 6. 灰黄褐色土 10YR4/2 粘土ブロック (Φ 5~10mm) 少量, 焼土ブロック (Φ 3~5mm) 少量含む。 締り有, 粘性やや有。
 7. 灰白色土 10YR8/2 粘土主体。 締り有, 粘性有。
 8. 灰褐色土 7.5YR5/2 粘土粒少量, 焼土粒少量含む。 締り有, 粘性有。
 9. にぶい橙色土 7.5YR7/3 粘土と焼土の混土。 締り有, 粘性有。
 10. 褐灰色土 7.5YR4/1 粘土ブロック (Φ 5~10mm) 少量, 焼土ブロック (Φ 5~7mm) 微量含む。 締り有, 粘性やや有。
 11. 黒褐色土 7.5YR3/1 焼土中量含む。 締り有, 粘性弱。
 12. にぶい褐色土 7.5YR5/4 焼土粒少量, ロームブロック (Φ 3~5mm) 少量, 粘土ブロック (Φ 3~7mm) 少量含む。 締り有, 粘性有。
- SI18
- ① 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒少量, 炭化物粒微量含む。 締り有, 粘性弱。
 - ② 黒褐色土 10YR3/1 ローム粒微量, ロームブロック (Φ 3~5mm) 少量含む。 締り有, 粘性弱。
 - ③ 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒少量, ロームブロック (Φ 3~5mm) 少量含む。 締り有, 粘性弱。
 - ④ 暗褐色土 10YR3/3 ローム土混土。 締りやや弱, 粘性やや有。

第3章 調査の成果

期は10世紀第3四半期～第4四半期と考えられる。

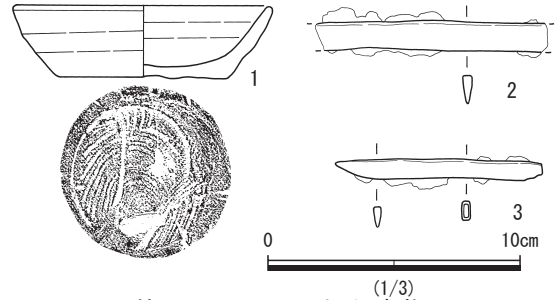


第37図 SI15 出土遺物

SI18 (第36・38図, 第8・12表, 写真図版4・12)

検出位置は南区のH1グリッドである。西側は調査区外に延び、さらに南側をSI15に、北東隅をPit25に切られているため全容は把握できない。平面形は方形を呈していると思われるが、規模、主軸方向、規模、床面や壁溝の状態、カマドの有無等は不明である。壁はほぼ垂直に立ち上がり、壁高は32cmを測る。覆土は残存した部分から自然堆積と考えられる。

遺物は、土師器4点(坏1, 甕3), 須恵器1点(壺・瓶類1), 鉄製品2点(刀子2)が出土した。SI15にほとんど切られているため、本建物跡としての出土量は不十分であるが、1の土師器坏は北東隅の床直上から出土している。時期は10世紀第2四半期から第3四半期と考えられるが、切り合い関係からSI15より古いと考えられる。

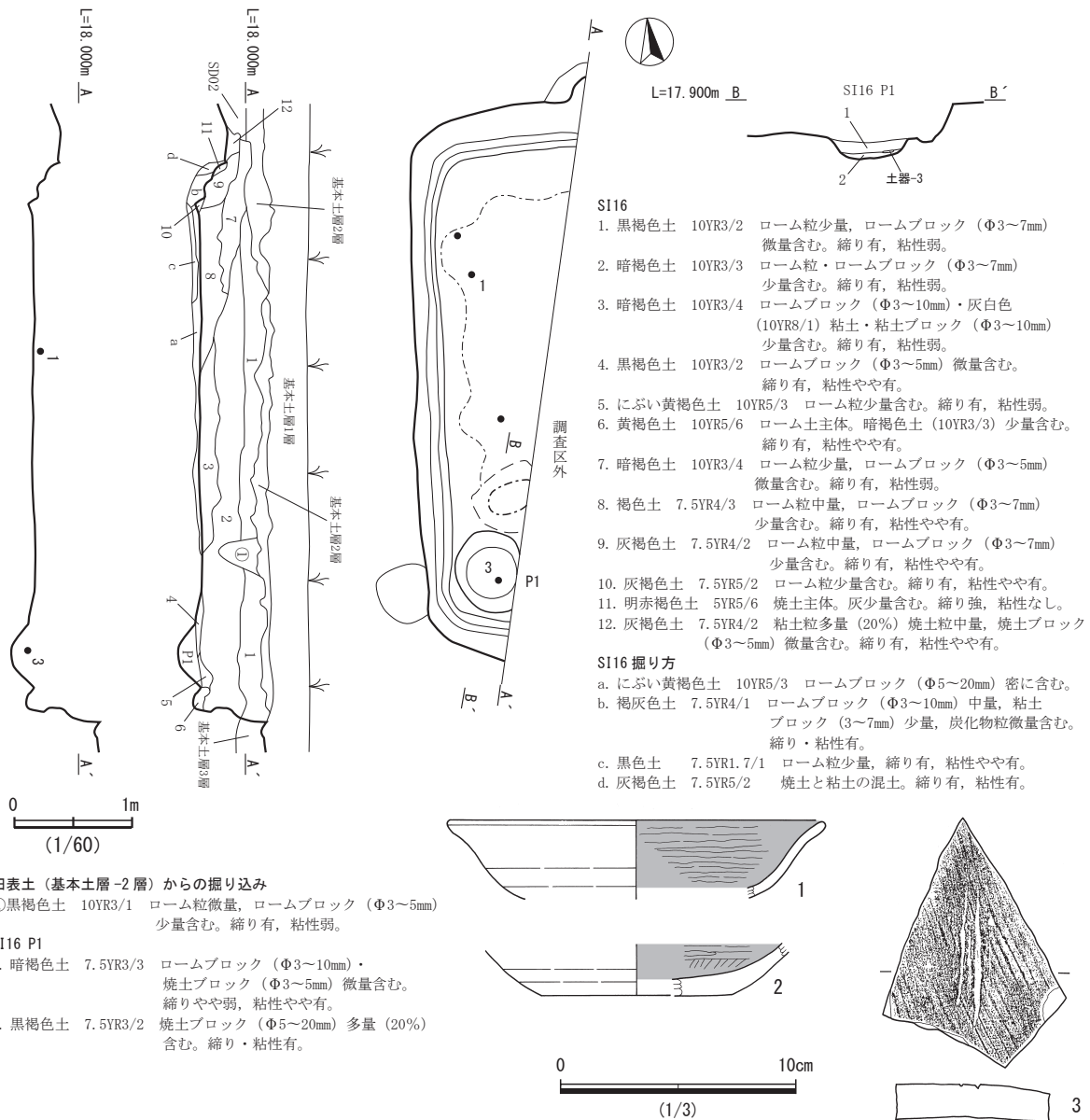


第38図 SI18 出土遺物

SI16 (第39図, 第8・10表, 写真図版4・11)

検出位置は南区のH2, I2グリッドである。東側のほとんどが調査区外に延びるため全容は把握できない。残存する西側部分から平面形は方形を呈し、主軸方向はN-6°-E程度を示すと思われる。規模は東西軸が現存値で1.36m, 南北軸が4.68m, 深さは55cm前後で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は自然堆積である。床面は壁際を除き顕著に硬化する。掘り方はなく直床であった。壁際は幅9~15cm, 深さ5~9cmで全周するとみられる。ピットは南東隅でP1が検出され、規模は径67cm, 深さ27cmと浅く、ピット掘り込みの北側に高まりが認められる。内部に須恵器甕が出土していることから貯蔵穴の可能性がある。カマドは北壁でわずかに一部が確認できるが、大部分は調査区外にあるため詳細は不明である。建物跡の規模から見てかなり西に寄った位置での付設になる。

遺物は、土師器162点(坏7, 甕155), 須恵器89点(坏33, 高台付坏7, 盤6, 蓋18, 甕23, 壺・瓶類1, 高坏1), 土製品1点(支脚1)が出土した。須恵器はほとんどが小破片で覆土上層中に含まれていた。それに対し、土師器坏1は西壁際の床直上, 2はカマド内からの出土であることから、時期は10世紀第2四半期～第3四半期と考えられる。



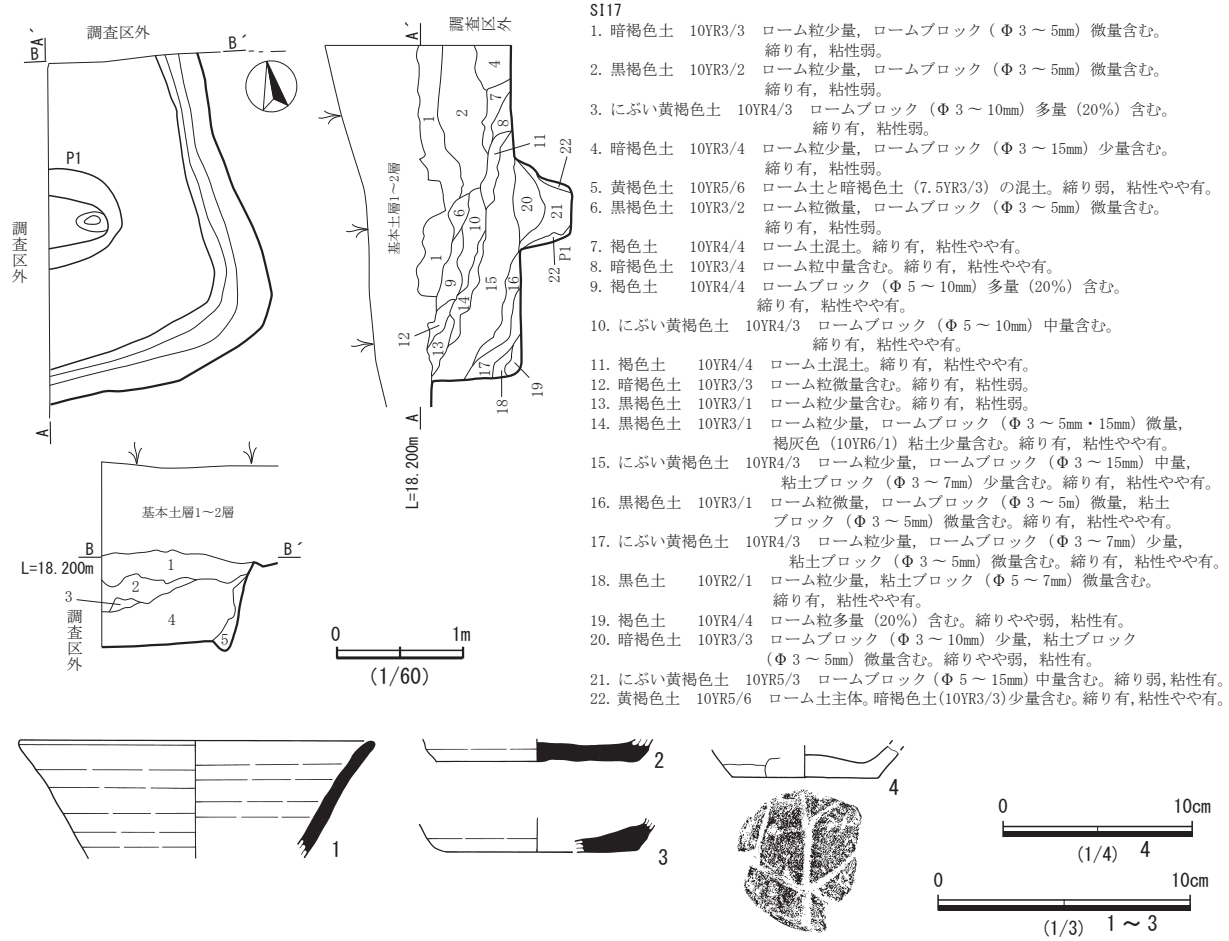
第39図 SI16・同出土遺物

SI17 (第40図, 第8表, 写真図版4・12)

検出位置は南区のF2グリッドである。南東隅のみの検出でほとんどが調査区外に延び、全容は把握できない。残存する部分から平面形は方形を呈し、主軸方向はN-3°-W程度を示すと思われる。規模は現存値で東西軸が1.72m, 南北軸が2.64m, 深さは73~80cmで、壁は垂直に立ち上がる。覆土は自然堆積である。床面の状態は確認できないが、壁際は幅12~23cm, 深さ5~7cmで全周するとみられる。ピットはP1が検出され、径77cm, 深さ53cmとなり、支柱穴の1基と考えられる。

遺物は、土師器9点(坏1, 甕8), 須恵器17点(坏12, 蓋4, 甕1)と、中近世の所産と思われる土器類1点が出土した。遺構は一部のみの確認にとどまったため、遺物の出土量は不十分であるが、須恵器を主体にしている。須恵器坏には、1の開き気味になる口縁部形態、2・3にみられる底部の大きさや調整痕が認められることなどから、時期は9世紀第1四半期~第2四半期と思われる。

第3章 調査の成果

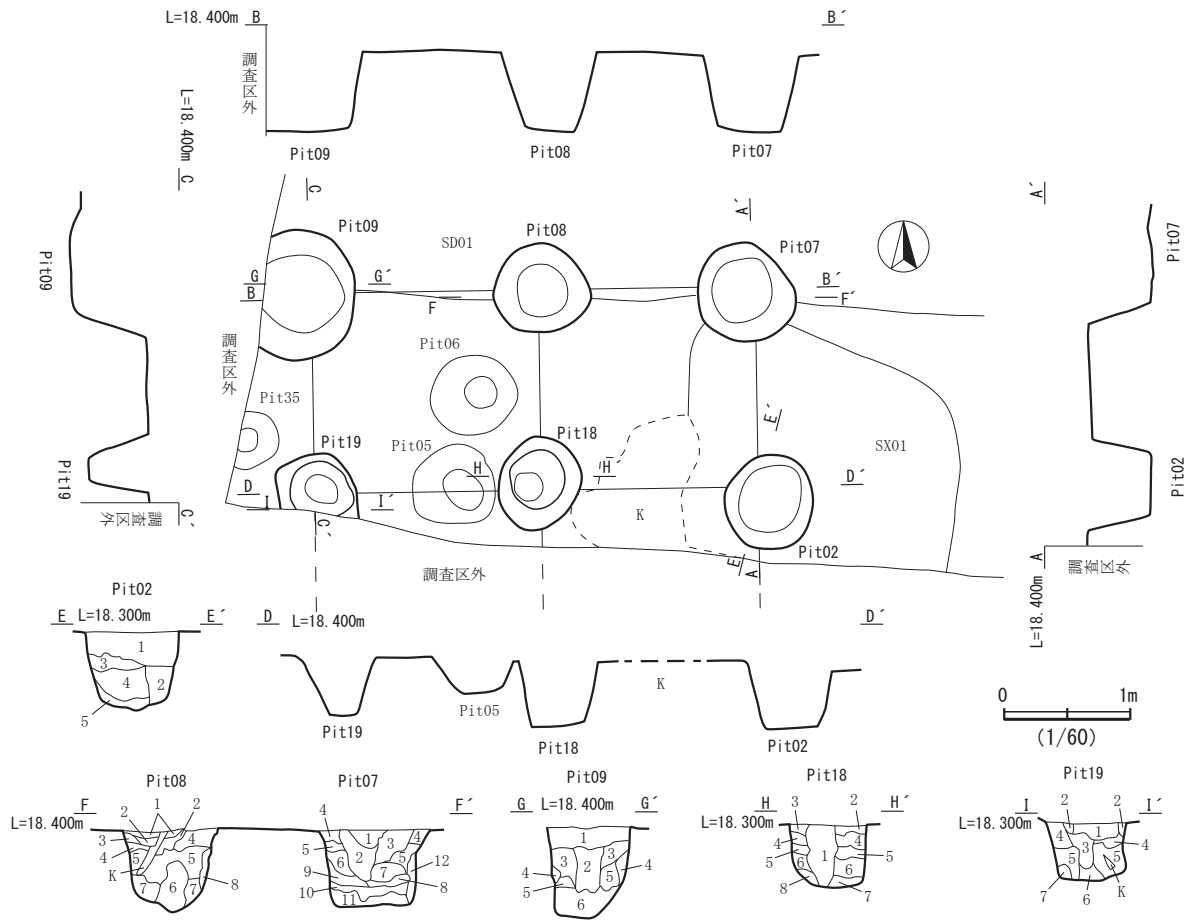


(2) 掘立柱建物跡

SB01 (第41図, 第3表, 写真図版4)

検出位置は北区E2グリッドである。本建物跡はPit02・07~09・18・19の6基が検出されている。Pit07~09はSD01により切られ、一方でPit02・07はSX01を切り込んでいる。さらに南側及び西側は調査区外に延びるため全容は把握できない。平面規格は東西2間以上, 南北1間以上の総柱建物跡である。規模は現存値で東西長3.9m以上, 南北長2.2m以上となる。建物の傾きはN-0°を示す。各柱穴の掘り方は円形基調で, 規模は長軸70~104cm, 短軸64~75cm, 深さ47~72cmで, 平面形は整っており, 底面の標高もほぼ一定している。柱間寸法は芯々で東西軸が1.7~1.8m, 南北軸が1.6m前後と概ね等間隔に配置されている。埋め土は含有物の少ない黒褐色土・暗褐色土とローム土・ロームブロックを多量に含む黄褐色土・にぶい黄褐色土が互層堆積し, しまりを持つ。Pit18では径22cmで黒褐色土を主体とした柱痕跡が検出面から底面まで認められるものの, Pit07・08・19では層が乱れ明瞭な柱痕跡を確認することができないことから, 柱の抜き取りが行われた可能性がある。Pit02・09では抜き取り後人為的に埋め戻された痕跡が認められた。底部硬化面が確認できる柱穴は見当たらない。

遺物はPit02・07・09から出土したが, いずれも小破片で図示できるものはなく, 遺物から時期を推定するには不十分である。SD01, SX01との重複関係から見れば, 時期は8~9世紀代の範疇であろう。



Pit02

1. にぶい黄褐色土 10YR5/3 黒色ブロック (Φ 3 ~ 7mm) 少量, ロームブロック (Φ 5 ~ 15mm) を密に含む。締りやや強, 粘性有。
2. 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒少量, ロームブロック (Φ 3 ~ 15mm) 微量含む, 締りやや弱, 粘性弱。
3. 黄褐色土 10YR5/6 ローム土主体。斑状の黒褐色土 (10YR3/2) 少量含む。締り強, 粘性有。
4. 黒褐色土 10YR3/1 ローム粒中量, ロームブロック (Φ 3 ~ 10mm) 中量含む。締り有, 粘性やや有。
5. にぶい黄褐色土 10YR4/3 ロームブロック (Φ 3 ~ 10mm) 多量 (40%) 含む。締り・粘性有。

Pit07

1. 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒微量含む。締り有, 粘性弱。
2. にぶい黄褐色土 10YR4/3 ローム粒中量含む。締り有, 粘性弱。
3. にぶい黄褐色土 10YR4/3 ローム粒少量, 斑状の黒褐色土 (10YR3/2) をまばらに含む。締り有, 粘性弱。
4. 暗褐色土 10YR3/4 ローム土中量含む。締り有, 粘性弱。
5. 灰黄褐色土 10YR5/2 ローム土混土。締り有, 粘性やや有。
6. にぶい黄褐色土 10YR4/3 ローム粒微量含む。締り有, 粘性やや有。
7. 黒褐色土 10YR3/1 ローム粒微量, ロームブロック (Φ 3 ~ 5mm) 微量含む。締り有, 粘性弱。
8. 黄褐色土 10YR5/6 黒褐色土 (10YR3/1) 混土。締り有, 粘性やや有。
9. 黄褐色土 10YR5/6 ローム土主体。黒色粒微量含む。締り有, 粘性やや有。
10. 黒褐色土 10YR3/1 ローム土多量 (40%) 含む。締り有, 粘性やや有。
11. にぶい黄褐色土 10YR5/4 ローム土主体。黒褐色土 (10YR3/1) 少量含む。締り有, 粘性有。
12. 黄褐色土 10YR5/6 ローム土主体。黒褐色土 (10YR3/2) 多量 (20%) 含む。締り・粘性有。

Pit08

1. にぶい黄褐色土 10YR4/3 ローム粒微量, ロームブロック (Φ 3 ~ 5mm) 少量含む。締り有, 粘性弱。
2. 黄褐色土 10YR5/6 ローム土主体。にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 多量 (20%) 含む。締り有, 粘性やや有。
3. 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒微量含む。締り有, 粘性弱。
4. にぶい黄褐色土 10YR4/3 ローム土多量 (20%), ローム粒少量, 黒色土ブロック (Φ 2 ~ 5mm) 微量含む。締り有, 粘性弱。
5. 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒微量, ロームブロック (Φ 3 ~ 7mm) 微量含む。締り有, 粘性弱。
6. 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒少量, ロームブロック (Φ 3 ~ 20mm) 多量 (20%) 含む。締り有, 粘性弱。

7. 黒褐色土 10YR3/1 ローム粒微量, ロームブロック (Φ 3 ~ 15mm) 微量含む。締り・粘性有。
8. 暗褐色土 10YR3/4 ロームブロック (Φ 3 ~ 5mm) 多量 (20%) 含む。締り有, 粘性やや有。

Pit09

1. にぶい黄褐色土 10YR5/4 ローム土混土。締り有, 粘性やや有。
2. 黒褐色土 10YR3/1 ローム粒少量, ロームブロック (Φ 5 ~ 30mm) 少量含む。締り有, 粘性弱。
3. 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒中量, ロームブロック (Φ 5 ~ 15mm) 少量含む。締り有, 粘性弱。
4. にぶい黄褐色土 10YR4/3 ローム粒少量, ロームブロック (Φ 3 ~ 5mm) 少量含む。締り有, 粘性やや有。
5. 黒褐色土 10YR3/1 ローム粒少量, ロームブロック (Φ 5 ~ 30mm) 微量含む。締り有, 粘性弱。
6. にぶい黄褐色土 10YR4/3 ローム粒微量含む。締り・粘性有。

Pit18

1. 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒少量, ロームブロック (Φ 3 ~ 7mm) 少量含む。締りやや弱, 粘性弱。
2. 黒褐色土 10YR3/2 ローム土と黒色土 (10YR2/1) の混土。締り有, 粘性やや有。
3. 黒褐色土 10YR3/1 ローム土・ロームブロック (Φ 5 ~ 7mm) 多量 (40%) 含む。締り有, 粘性やや有。
4. 暗褐色土 10YR3/4 ロームブロック (Φ 5 ~ 10mm) 中量, 黒色土 (10YR2/1) ブロック (Φ 5 ~ 20mm) 少量含む。
5. 黒褐色土 10YR3/1 ローム粒少量, ロームブロック (Φ 5 ~ 10mm) 微量含む。締り有, 粘性やや有。
6. 暗褐色土 10YR3/3 ロームブロック (Φ 3 ~ 10mm) 多量 (20%) 含む。締り・粘性有。
7. にぶい黄褐色土 10YR5/4 ローム土混土。締りやや強粘性やや有。
8. にぶい黄褐色土 10YR4/3 ローム土・ロームブロック (Φ 3 ~ 5mm) 含む。締り・粘性有。

Pit19

1. にぶい黄褐色土 10YR4/3 ロームブロック (Φ 5 ~ 20mm) を密に, 黒色ブロック (Φ 3 ~ 5mm) 多量 (20%) 含む。締り強, 粘性有。
2. にぶい黄褐色土 10YR4/3 ローム粒微量含む。締り有, 粘性弱。
3. 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒微量, ロームブロック (Φ 3mm) 微量含む。締り有, 粘性弱。
4. 黒褐色土 10YR3/2 ロームブロック (Φ 3 ~ 10mm) 中量含む。締り有, 粘性やや有。
5. 黒褐色土 10YR3/1 ロームブロック (Φ 3 ~ 7mm) 中量含む。締り有, 粘性有。
6. 暗褐色土 10YR3/3 ロームブロック (Φ 3 ~ 5mm) 多量 (20%) 含む。締り有, 粘性有。
7. にぶい黄褐色土 10YR5/4 ローム土主体でブロック状に崩れる。締り有, 粘性有。

第41図 SB01

第3章 調査の成果

第3表 SB01

遺構名	位置 (グリッド)	形状	規模 (cm)			重複・覆土・特徴・出土遺物・その他	出土遺物
			長軸	短軸	深さ		
Pit02	E2	円形	78	70	66	SX01を切る。5層。上部は埋め戻しか。下部で柱痕確認。	土師器甕6, 須恵器坏2・甕4
Pit07	E2	円形	80	75	60	SD01に切られる。12層	土師器甕3
Pit08	E2	円形	77	72	67	SD01に切られる。8層	なし
Pit09	E2	(円形)	104	(72)	72	SD01に切られる。西側わずかに調査区外。6層。柱痕あり。	土師器甕1
Pit18	E2	円形	72	64	52	8層。柱痕跡あり。	なし
Pit19	E2	円形	70	(49)	47	7層。柱痕跡あり。南側調査区外。	なし

SB02 (第42図, 第4表, 写真図版5)

検出位置は南区H2, I2グリッドにまたがる。本建物跡はPit21・22・31・34・64・69・76の7基が検出されている。Pit22はSI16に, Pit64はSD02に, Pit76はSI14のカマド構築時にそれぞれ切られている。また, 東側が調査区外になるため全容は把握できないが, 本来の平面規格は側柱構造の建物跡で, 桁行3間, 梁行2間の南北棟と考えられる。規模は桁行長6.60m(約22尺), 梁行長4.20m(約14尺)となり, 面積は27.72㎡を計測する。建物の傾きはN-10°-Wを示す。各柱穴の掘り方は楕円形基調で, 梁行側の柱穴は南北軸に, 梁行の軸は東西軸に向いており, 隅のPit21・64・76は若干「ハ」の字状に傾いている。規模は長軸71~90cm, 短軸41~58cm, 深さ25~44cmで, 平面形は比較的整っており, 底面の標高もほぼ一定している。底部硬化面に基づく柱間寸法は梁行が約2.15mと等間隔であるが, 桁行は2.00~2.30mでPit31・34間が狭くなっている。埋め土は黒褐色土, にぶい黄褐色土が混在し, 各層にはローム土・ロームブロックが多く含まれている。Pit22でのみ黒褐色土を主体とした径22cmの柱痕跡を確認したが, 底部硬化面は全ての柱穴で認められる。

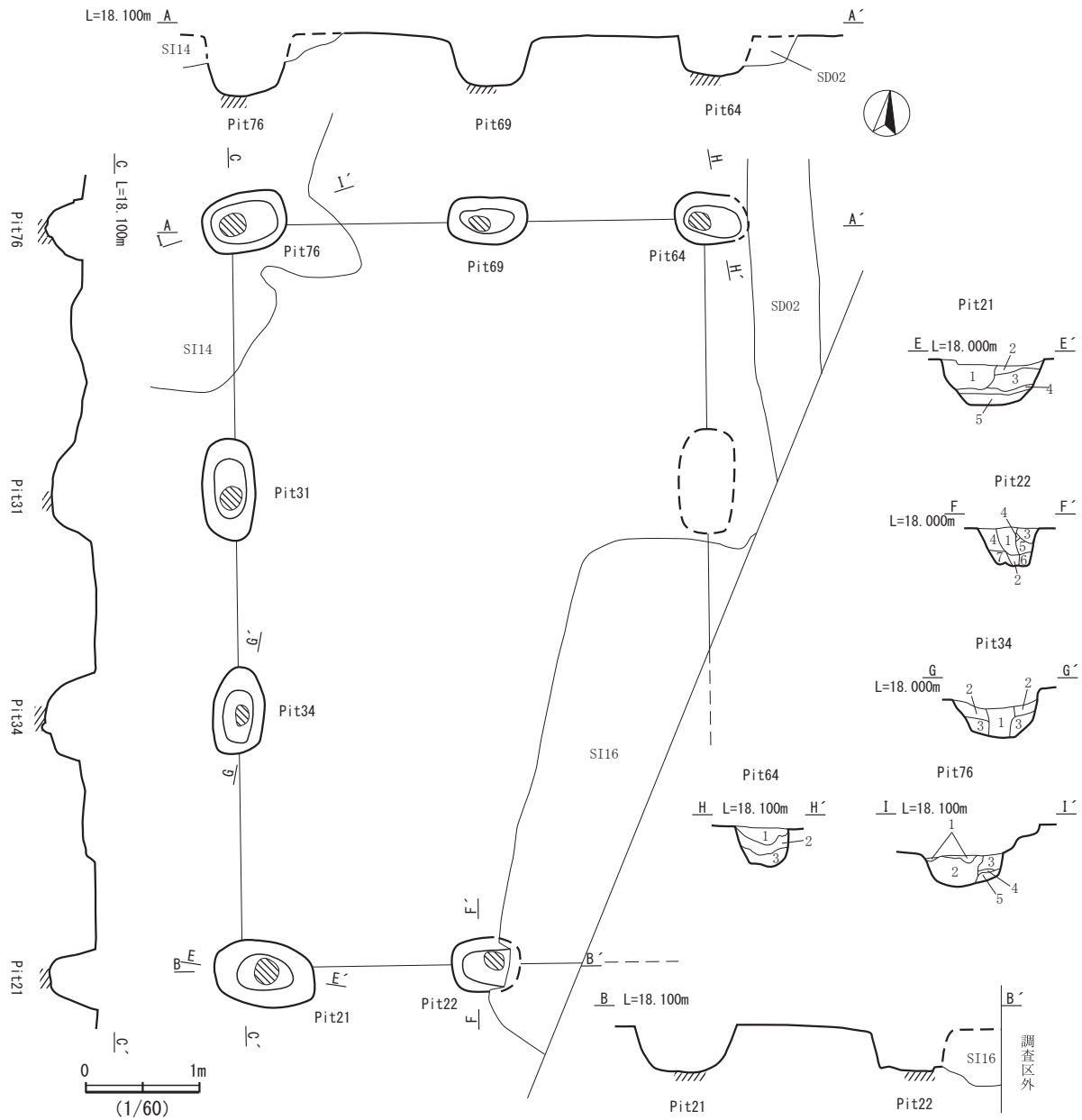
遺物はPit21・31・34・64から出土したが, いずれも小破片で図示できるものはなく, 遺物から時期を推定するには不十分である。ただし, SI14・16との重複関係から見れば, 10世紀第1四半期以前には構築されていたと考えられる。

第4表 SB02

遺構名	位置 (グリッド)	形状	規模 (cm)			重複・覆土・特徴・出土遺物・その他	出土遺物
			長軸	短軸	深さ		
Pit21	I2	楕円形	90	58	40	5層	土師器甕8, 須恵器甕1, 石製品(砥石)1
Pit22	I2	楕円形	(51)	47	34	7層。柱痕跡あり。	なし
Pit31	H2	楕円形	90	46	35	5層。柱痕跡あり。Pit32・33に切られる。	土師器甕1
Pit34	H2	楕円形	75	46	44	3層。柱痕跡あり。	土師器甕7, 須恵器坏1・蓋2
Pit64	H2	楕円形	(59)	44	36	SD02に切られる。3層	土師器甕1, 須恵器蓋1
Pit69	H2	楕円形	71	41	25	当初Pit27・58とした重複遺構が該当。	なし
Pit76	H2	楕円形	75	51	31	SI14に切られる。5層	なし

SB03 (第43図, 第5表, 写真図版5)

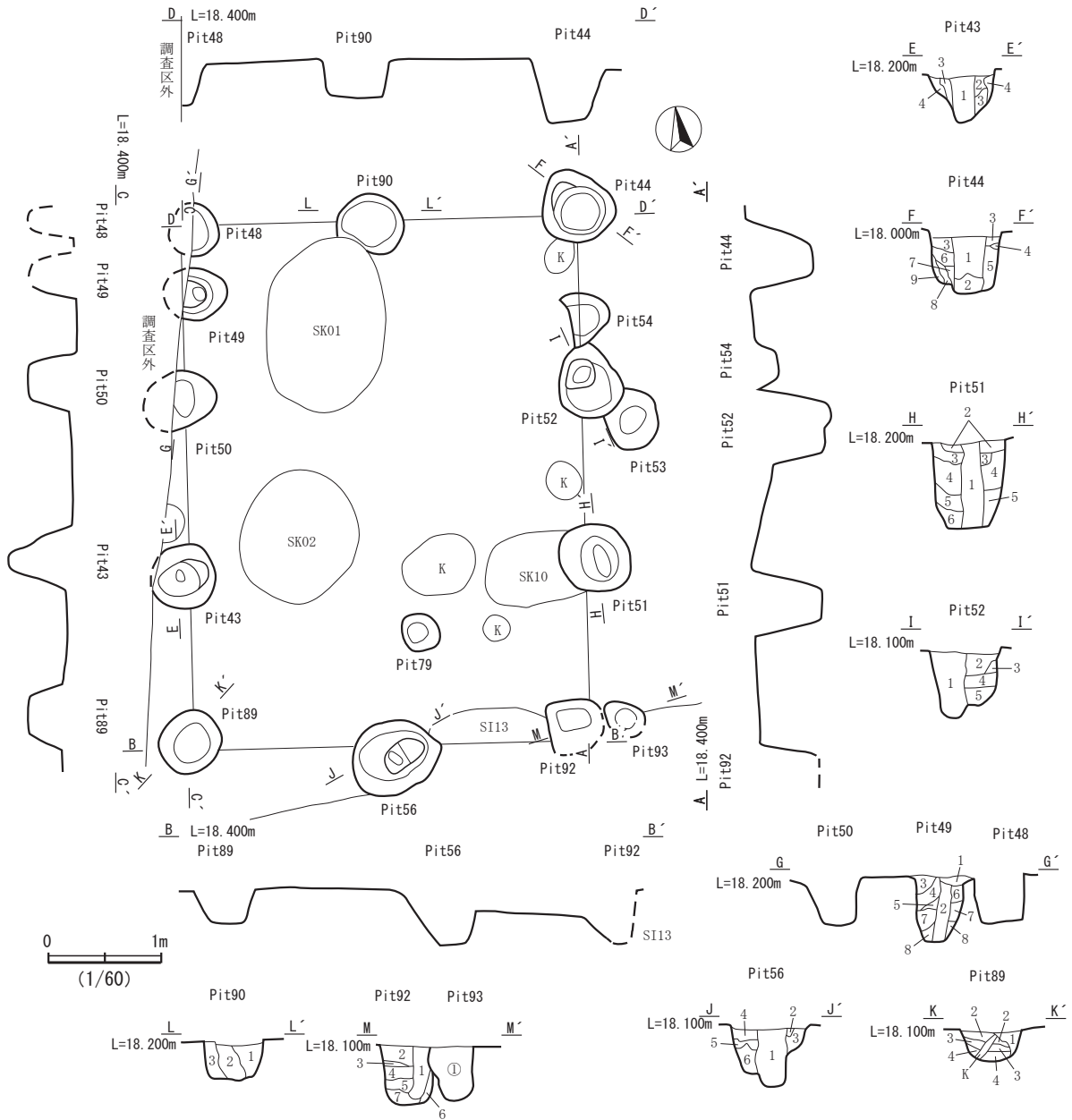
検出位置は南区G1・2グリッドにまたがる。本建物跡はPit43・44・48・50・51・52・56・89・90・92の10基で構成される。SI13カマドの一部をPit56が, 同北壁をPit92が切り込んで構築されている。西側は調査区外でPit48・50がかかるものの, 平面規格は側柱構造の建物跡で, 桁行3間, 梁行2間の南北棟と判断される。規模は桁行長4.50m(約15尺), 梁行長3.45m(約11.5尺)となり, 面積は15.53㎡を計測する。建物の傾きはN-10°-Eを示す。各柱穴の掘り方は円形基調で, 規模は長軸48~80cm, 短軸47~69cm, 深さ30~78cmを測る。平面形はやや不揃いで, 底面の標高も一定していない。柱間寸法は, 芯々で桁行が1.50mの等間隔であるのに対し, 梁行は1.60~1.80mとばらついている。埋め土は黒褐色土, 暗褐色土とにぶい黄褐色土がほぼ互層に堆積し, 各層にはローム土・ロームブロックが多く含まれている。柱痕跡はPit43・44・51・56・90・92で確認



- Pit21**
1. 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒少量, ロームブロック (Φ 3 ~ 5mm) 微量含む。縮り有, 粘性弱。
 2. 黒褐色土 10YR3/1 ローム粒微量含む。縮り有, 粘性弱。
 3. 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒少量, ロームブロック (Φ 3 ~ 5mm) 微量, 斑状の黒色土 (10YR2/1) を全体に含む。縮り有, 粘性やや有。
 4. 黒褐色土 10YR3/1 ロームブロック (Φ 3 ~ 7mm) 多量 (30 ~ 40%) 含む。縮り有, 粘性有。
 5. 黒褐色土 10YR3/1 ローム土・ロームブロック (Φ 3 ~ 10mm) 多量 (20%) 含む。縮り有, 粘性有。
- Pit22**
1. 黒褐色土 10YR3/1 ローム粒微量含む。縮り有, 粘性弱。
 2. 暗褐色土 10YR3/3 ロームブロック (Φ 5 ~ 10mm) 多量 (40%) 含む。縮り有, 粘性やや有。
 3. にぶい黄褐色土 10YR4/3 ローム粒微量含む。縮り有, 粘性弱。
 4. 暗褐色土 10YR3/3 ロームブロック (Φ 3 ~ 7mm) 少量含む。縮り有, 粘性弱。
 5. 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒・ロームブロック (Φ 3 ~ 5mm) 少量, 黒色土 (10YR2/1) ブロック (Φ 3 ~ 5mm) 微量含む。縮り有, 粘性やや有。
 6. 黒褐色土 10YR3/1 ローム粒・ロームブロック (Φ 3 ~ 10mm) 多量 (20%) 含む。縮り有, 粘性やや有。
 7. 褐色土 10YR4/4 ローム土・ロームブロック (Φ 5 ~ 10mm) 多量 (30 ~ 40%) 含む。縮り有, 粘性有。
- Pit31**
- 第44図参照 Pit32・33と合わせて掲載。
- Pit34**
1. 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒少量, ロームブロック (Φ 3 ~ 5mm) 微量含む。縮り有, 粘性弱。
 2. 黒褐色土 10YR3/1 ローム粒微量 斑状の褐色土 (10YR4/4) をまばらに含む。縮り有, 粘性弱。
 3. にぶい黄褐色土 10YR4/3 ロームブロック (Φ 3 ~ 5mm) 中量含む。縮り有, 粘性やや有。
- Pit64**
1. 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒中量, ロームブロック (Φ 3 ~ 5mm) 微量, 焼土ブロック (Φ 3 ~ 10mm) 微量, 黒色粒・黒色土 (10YR2/1) ブロック微量含む。縮り有, 粘性弱。
 2. 黒褐色土 10YR3/1 ローム粒少量, 黒色粒微量含む。縮り有, 粘性やや有。
 3. 暗褐色土 10YR3/4 ロームブロック (Φ 3 ~ 7mm) 中量, 焼土ブロック (Φ 10mm) 微量含む。縮り有, 粘性有。
- Pit76**
1. 暗褐色土 7.5YR3/3 黄橙色 (10YR8/6) 粘土, 焼土ブロック (Φ 3 ~ 7mm), 炭化物塊 (Φ 3 ~ 5mm) 微量含む。縮り有, 粘性弱。
 2. 黒褐色土 7.5YR3/2 ロームブロック (Φ 3 ~ 5mm) 多量 (20%), 炭化物塊 (Φ 3 ~ 10mm) 少量, 焼土ブロック (Φ 3mm) 微量含む。縮り有, 粘性やや有。
 3. 黒褐色土 10YR3/1 ローム土・ロームブロック (Φ 3 ~ 7mm) 多量 (30 ~ 40%) 炭化物粒少量含む。縮り有, 粘性やや有。
 4. 黒色土 10YR1.7/1 炭化物混土。縮りやや弱, 粘性弱。
 5. にぶい黄褐色土 10YR5/4 ローム土と黒色土 (10YR2/1) の混土。縮り有, 粘性やや有。

第42図 SB02

第3章 調査の成果



- Pit43**
1. 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒・ロームブロック (Φ3~5mm) 少量, ローム土少量含む。締り有, 粘性弱。
 2. にぶい黄褐色土 10YR4/3 ロームブロック (Φ3~20mm) を密に含む。締り強, 粘性有。
 3. 黒褐色土 10YR3/1 ロームブロック (Φ3~7mm) 中量含む。締り有, 粘性やや有。
 4. にぶい黄褐色土 10YR4/3 ロームブロック (Φ3~5mm) 多量 (20%) 含む。締り有, 粘性やや有。
- Pit44**
1. 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒少量, ロームブロック (Φ3~5mm) 微量含む。締りやや弱, 粘性弱。
 2. にぶい黄褐色土 10YR4/3 ロームブロック (Φ3~7mm) 多量 (20%), 黒色土 (10YR2/1) ブロック (Φ5~10mm) 少量含む。締り有, 粘性有。
 3. 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒微量含む。締り有, 粘性弱。
 4. 黒褐色土 10YR3/1 ローム粒少量含む。締り有, 粘性弱。
 5. 黒褐色土 10YR3/2 ロームブロック (Φ3~7mm) 中量含む。締り有, 粘性弱。
 6. 黒褐色土 10YR3/1 ロームブロック (Φ3~10mm) 多量 (20%) 含む。締り有, 粘性弱。
 7. にぶい黄褐色土 10YR4/3 ロームブロック (Φ3~10mm) 中量含む。締り有, 粘性やや有。
 8. にぶい黄褐色土 10YR5/4 ローム土混土。締り有, 粘性有。
 9. にぶい黄褐色土 10YR4/3 斑状の黒褐色土 (Φ10YR3/1) を全体に含む。締り有, 粘性有。

- Pit49**
1. 灰黄褐色土 10YR4/2 ローム粒少量, ロームブロック (Φ3~7mm) 微量含む。締り有, 粘性弱。
 2. 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒中量, ロームブロック (Φ3~5mm) 少量含む。締り有, 粘性弱。
 3. 黄褐色土 10YR5/6 ローム土主体。黒色粒微量含む。締りやや強, 粘性有。
 4. にぶい黄褐色土 10YR5/4 ローム土・ロームブロック (Φ3~7mm) を密に黒色粒少量含む。締りやや強, 粘性有。
 5. 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒中量, ロームブロック (Φ3~5mm) 多量 (20%) 含む。締り有, 粘性やや有。
 6. 黒褐色土 10YR3/2 ローム土多量 (20%), ローム粒多量 (20%) 含む。締り有, 粘性やや有。
 7. にぶい黄褐色土 10YR4/3 ローム粒多量 (20%), ロームブロック (Φ3~5mm) 中量含む。締り有, 粘性やや有。
 8. 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒微量, ロームブロック (Φ3~5mm) 微量含む。締り有, 粘性有。
- Pit51**
1. 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒中量, ロームブロック (Φ3~7mm) 微量含む。締り有, 粘性弱。
 2. にぶい黄褐色土 10YR4/3 ローム粒少量, ロームブロック (Φ5~20mm) 中量含む。締り有, 粘性弱。
 3. 暗褐色土 10YR3/3 ロームブロック (Φ3~10mm) 多量 (20%) 含む。締り有, 粘性やや有。
 4. 黒褐色土 10YR3/1 ロームブロック (Φ3~15mm) 多量 (40%) 含む。締り有, 粘性有。
 5. 暗褐色土 10YR3/3 ローム土混土, 締り強, 粘性有。
 6. 黄褐色土 10YR5/6 ローム土主体。暗褐色土 (10YR3/3) 少量含む。締り強, 粘性有。

第43図 SB03

され、径 16 ～ 30 cmの黒褐色土を主体としている。底部硬化面は Pit51 でのみ認められる。

遺物は Pit44・51・90 から出土したが、いずれも小破片で図示できるものはなく、遺物から時期を推定するには不十分である。ただし、SI13・SD02 との重複関係から見れば、9 世紀代に構築されたと考えられる

Pit52

1. 黒褐色土 10YR3/2 ロームブロック (Φ 3 ～ 7mm) 多量 (40%)、炭化物塊 (Φ 3 ～ 5mm) 微量含む。縮り有、粘性やや有。
2. 暗褐色土 10YR3/3 ローム土・ロームブロック (Φ 3 ～ 5mm) を密に含む。縮りやや強、粘性有。
3. にぶい黄褐色土 10YR5/3 ローム粒・ロームブロック (Φ 3 ～ 5mm) 微量含む。縮り有、粘性やや有。
4. 黄褐色土 10YR5/6 ローム土主体。暗褐色土(10YR3/3)少量含む。縮り有、粘性有。
5. 黒褐色土 10YR3/1 ロームブロック (Φ 10 ～ 20mm) 多量 (30 ～ 40%) 含む。縮り・粘性有。

Pit56

1. 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒少量、ロームブロック (Φ 3 ～ 5mm) 微量、焼土ブロック (Φ 5 ～ 10mm) 含む。縮り有、粘性弱。
2. にぶい黄褐色土 10YR5/4 ローム土主体で、ブロック状に崩れる。縮り有、粘性有。
3. 暗褐色土 10YR3/3 ロームブロック (Φ 3 ～ 5mm) 少量含む。縮り有、粘性弱。
4. 暗褐色土 10YR3/3 ロームブロック (Φ 3 ～ 7mm) 中量含む。縮り有、粘性弱。
5. にぶい黄褐色土 10YR4/3 ロームブロック (Φ 3 ～ 7mm) 多量 (20%) 含む。縮り有、粘性やや有。
6. 黒褐色土 10YR3/1 ロームブロック (Φ 3 ～ 7mm) 多量 (20%) 含む。縮り有、粘性やや有。

Pit89

1. 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒少額、ロームブロック (Φ 2 ～ 5mm) 微量含む。縮りやや弱、粘性弱。
2. 灰黄褐色土 10YR4/2 ローム土混土。縮り有、粘性やや有。
3. 暗褐色土 10YR3/3 ローム土。ロームブロック (Φ 3 ～ 5mm) 少量含む。縮り有、粘性やや有。
4. 褐色土 10YR4/6 斑状の暗褐色土 (10YR3/3) を全体に含む。縮り有、粘性やや有。

Pit90

1. 黄褐色土 10YR5/6 ローム土主体、黒褐色土 (10YR3/2) 少量、黒色粒微量含む。縮り有、粘性弱。
2. 黒褐色土 10YR3/1 ローム土・ロームブロック (Φ 3 ～ 5mm) 中量含む。縮り有、粘性弱。
3. 黒褐色土 10YR3/2 ローム土多量 (40%) 黒色粒少量含む。縮り有、粘性弱。

Pit92

1. 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒少量、ロームブロック (Φ 3 ～ 5mm) 少量含む。縮り有、粘性弱。
2. にぶい黄褐色土 10YR4/3 ローム粒多量 (20%)、ロームブロック (Φ 3 ～ 10mm) 多量 (20%) 含む。縮り有、粘性弱。
3. 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒中量、ロームブロック (Φ 3 ～ 5mm) 多量 (20%) 含む。縮り有、粘性弱。
4. にぶい黄褐色土 10YR5/4 ローム土主体で黒褐色土 (10YR3/2) の混土。縮りやや強、粘性やや有。
5. 黒褐色土 10YR3/1 ロームブロック (Φ 3 ～ 10mm) 多量 (20 ～ 30%) 含む。縮り・粘性有。
6. にぶい黄褐色土 10YR5/4 ローム土混土。黒色粒微量含む。縮り有、粘性やや有。
7. にぶい黄褐色土 10YR4/3 ロームブロック (Φ 5 ～ 15mm) を密に含む。縮り・粘性有。

Pit93

- ① 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒中量、ロームブロック (Φ 3 ～ 10mm) 少量含む。縮り有、粘性弱。

第 5 表 SB03

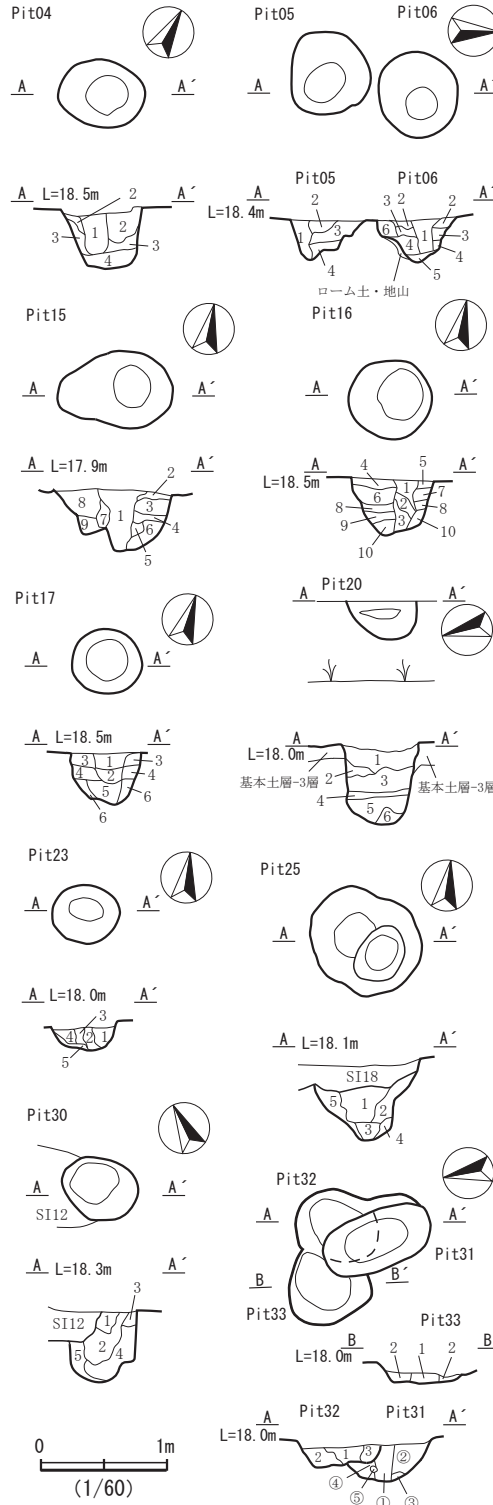
遺構名	位置 (グリッド)	形状	規模 (cm)			重複・覆土・特徴・出土遺物・その他	出土遺物
			長軸	短軸	深さ		
Pit43	G1	円形	57	58	46	4層。柱痕跡あり。	なし
Pit44	G2	円形	66	60	55	9層。柱痕跡あり。	土師器甕2, 須恵器坏1
Pit48	G1	(円形)	48	(24)	45	SI13を切る。単層, 10YR4/3にぶい黄褐色土, ロームブロック多	なし
Pit50	G1	(円形)	(39)	53	44	単層, 10YR3/3暗褐色土, ローム土少, ローム粒中	なし
Pit51	G2	円形	61	60	78	6層。柱痕跡あり。	土師器甕1, 須恵器坏1
Pit52	G2	円形	66	56	61	5層。柱痕跡あり。	須:高台坏1
Pit56	G2	円形	80	69	55	SI13を切る。6層。柱痕跡あり。	なし
Pit89	G1	円形	56	56	30	4層	なし
Pit90	G2	円形	58	(48)	35	3層。柱痕跡あり。	土師器甕1
Pit92	G2	(円形)	(48)	48	57	SI13を切る。7層。柱痕跡あり。	なし

(3) ピット (第 44 ～ 46 図, 第 6 ・ 8 表, 写真図版 12)

ピットは掘立柱建物跡 3 棟を構成する柱穴を除き 72 基を検出した。その配置を見ると、そのほとんどが掘立柱建物跡と SI13・14 周辺に集中している。特に SB03 周辺のピットは建て替え等の柱穴が想定されたが、把握することはできなかった。SI14 周辺のピットは掘立柱建物跡が検出される可能性もあったが、柱筋などを確認することができなかった。一方、SI13 周辺のピットは Pit10 ～ 14 が SI13 造り替えのため人為的に埋め戻した部分に並列して検出されており、SI13 作事の際の関連性がうかがえる。Pit01 は規模的にピットとしたが、非常に浅く柱穴とはなり得ない形態である。

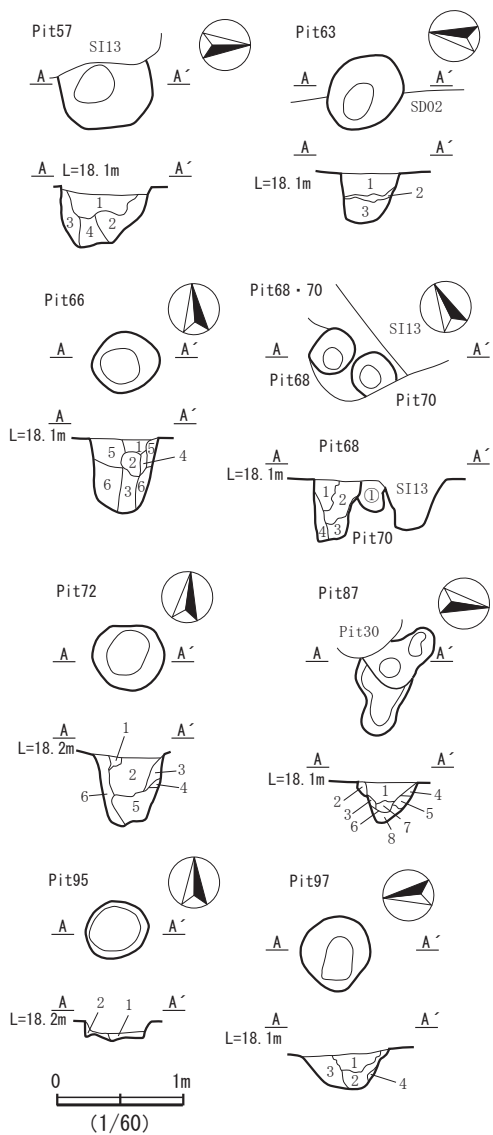
遺物は、最も多く出土したのは前述した Pit01 からで、貯蔵穴的な遺構なのかもしれない。Pit26・27・68・72・75・84 からは非ロクロ系の土師器坏が、Pit26 からは内面にかえりを有する須恵器蓋、Pit36 からは形態的に 7 世紀末～8 世紀初頭の所産と思われる古相を示す破片が認められ、本地点の竪穴建物跡の時期より古いと考えられる。他のピットからは破片のみの出土で時期の特定には至らないが、SI14 周辺のピットは建物跡が構築された際にほとんどが切られていることから、9 世紀代のピットが主体である可能性が高い。

第3章 調査の成果

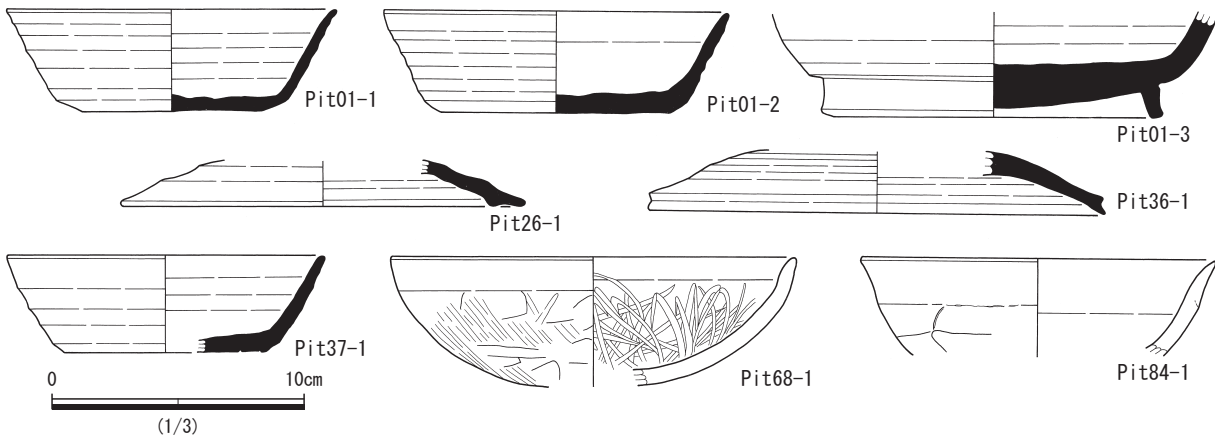


- Pit04**
1. 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒少量含む。締り有, 粘性弱。
 2. 黒褐色土 10YR3/1 ロームブロック (Φ3~10mm) 少量, 斑状の褐灰色土 (10YR1/2) を全体に含む。締り有, 粘性やや有。
 3. にぶい黄褐色土 10YR4/3 ロームブロック (Φ5~20mm) 多量 (40%) 含む。締り・粘性有。
 4. 暗褐色土 10YR3/3 ロームブロック (Φ5~10mm) 中量含む。締り有, 粘性やや強。
- Pit05**
1. 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒微量, ロームブロック (Φ3~5mm) 微量含む。締り有, 粘性弱。
 2. にぶい黄褐色土 10YR4/3 ローム粒少量, ロームブロック (Φ3~7mm) 少量, 黒色ブロック (Φ5~7mm) 微量含む。締り有, 粘性やや有。
 3. にぶい黄褐色土 10YR4/3 ローム粒少量, ロームブロック (Φ3~10mm) 多量 (30%), 黒色ブロック (Φ3~7mm) 微量含む。締り・粘性有。
 4. 褐色土 10YR4/4 ロームブロック (Φ5~10mm) を密に含む。締りやや強, 粘性強。
- Pit06**
1. 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒・ロームブロック (Φ3~7mm) 微量含む。締り有, 粘性弱。
 2. 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒微量, ロームブロック (Φ3~10mm) 少量含む。締り有, 粘性弱。
 3. 黒褐色土 10YR3/1 ローム粒少量, 斑状の褐色土 (10YR4/4) を全体に含む。締り有, 粘性弱。
 4. にぶい黄褐色土 10YR4/3 ローム粒少量, ロームブロック (Φ3~7mm) 中量, 褐色土 (10YR4/4) 多量 (40%) 含む。締り有, 粘性有。
 5. 暗褐色土 10YR3/3 ロームブロック (Φ3~7mm) 多量 (40%) 含む。締りやや強, 粘性強。
 6. 暗褐色土 10YR3/4 ロームブロック (Φ3~7mm) 多量 (20%), 斑状の黒褐色土 (10YR3/1) をまばらに含む。締り有, 粘性弱。
- Pit15**
1. 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒・ロームブロック (Φ3~7mm) 微量含む。締り有, 粘性弱。
 2. 黒褐色土 10YR3/1 ローム粒・ロームブロック (Φ3~5mm) 少量含む。締り有, 粘性弱。
 3. 黄褐色土 10YR5/6 ローム土主体。締り有, 粘性やや有。
 4. 黒褐色土 10YR3/1 ローム粒・ロームブロック (Φ3~5mm) 少量含む。締り有, 粘性弱。
 5. 暗褐色土 10YR3/3 ロームブロック (Φ3~10mm) 少量含む。締り有, 粘性やや有。
 6. にぶい黄褐色土 10YR5/4 ロームブロック (Φ5~15mm) を密に含む。締り・粘性有。
 7. にぶい黄褐色土 10YR4/3 ロームブロック (3~7mm) 少量含む。締り有, 粘性弱。
 8. 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒・ロームブロック (Φ3~5mm) 少量含む。締り有, 粘性弱。
 9. 暗褐色土 10YR3/3 ロームブロック (Φ3~7mm) 多量 (20%) 含む。締り・粘性有。
- Pit16**
1. 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒少量, ロームブロック (Φ3~5mm) 微量含む。締り有, 粘性弱。
 2. 黄褐色土 10YR5/6 ローム土主体。斑状の黒褐色土 (10YR3/2) をまばらに含む。締り有, 粘性弱。
 3. 黒褐色土 10YR3/2 ロームブロック (Φ3~5mm) 少量含む。締り有, 粘性やや有。
 4. 暗褐色土 10YR3/3 ローム土・ロームブロック (Φ3~5mm) 多量 (20%) 含む。締り有, 粘性弱。
 5. 黒褐色土 10YR3/2 ローム土多量 (40%), ローム粒中量含む。締り有, 粘性弱。
 6. 黒褐色土 10YR3/2 ロームブロック (Φ5~15mm) を密に, 黒色土 (10YR2/1) ブロック (Φ5~20mm) 多量 (20%) 含む。締り・粘性有。
 7. 黄褐色土 10YR5/6 ローム土主体。黒褐色土 (10YR3/2) ブロック (Φ3~7mm) 少量含む。締り・粘性有。
 8. 灰黄褐色土 10YR4/2 ローム土混土。締り強, 粘性強。
 9. 黒褐色土 10YR3/1 ロームブロック (Φ3~7mm) 少量, 斑状の灰黄褐色土をまばらに含む。締り有, 粘性強。
 10. にぶい黄褐色土 10YR4/3 ローム土多量 (40%) 含む。締り・粘性有。
- Pit17**
1. 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒・ロームブロック (Φ3~5mm) ・黒色粒微量含む。締り有, 粘性弱。
 2. 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒微量, 黒色粒微量含む。締り有, 粘性やや有。
 3. 黒褐色土 10YR3/2 黒色土 (10YR2/1) の混土。ローム粒中量, ロームブロック (Φ3~5mm) 微量含む。締り有, 粘性弱。
 4. にぶい黄褐色土 10YR4/3 ローム粒・ロームブロック (Φ3~5mm) 中量含む。締り有, 粘性やや有。
 5. 暗褐色土 10YR3/3 ロームブロック (Φ3~5mm) 多量 (20%), 同ブロック (Φ15~20mm) 少量, 黒色土多量 (20%) 含む。締り強, 粘性強。
 6. 褐色土 10YR4/4 斑状の暗褐色土 (10YR3/3) をまばらに含む。締り・粘性有。
- Pit20**
1. 灰黄褐色土 10YR4/2 ロームブロック (Φ3~10mm) 多量 (40%), 黒褐色土 (10YR3/1) ブロック (Φ3~5mm) 微量含む。締り有, 粘性やや有。
 2. 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒少量含む。締り有, 粘性弱。
 3. にぶい黄褐色土 10YR5/3 ロームブロック (Φ10~40mm) 多量 (40%) 含む。締り有, 粘性やや有。
 4. 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒微量, 焼土ブロック (Φ5mm) 微量含む。締り有, 粘性やや有。
 5. にぶい黄褐色土 10YR4/3 ロームブロック (Φ3~10mm) 多量 (20~30%) 含む。締り有, 粘性有。
 6. 黒褐色土 10YR3/2 ロームブロック (Φ3~7mm) 中量含む。締り有, 粘性やや強。
- Pit23**
1. 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒微量含む。締り有, 粘性弱。
 2. 暗褐色土 10YR3/3 ロームブロック (Φ5~10mm) 多量 (20~30%) 含む。締り有, 粘性弱。
 3. にぶい黄褐色土 10YR4/3 ローム土多量 (30~40%) 含む。締り有, 粘性やや有。
 4. 暗褐色土 10YR3/3 ロームブロック (Φ3~5mm) 中量含む。締り有, 粘性やや有。
 5. 褐色土 10YR4/4 ロームブロック (Φ5~10mm) を密に含む。締り・粘性有。
- Pit25**
1. 黒褐色土 10YR3/1 ローム粒微量含む。締りやや弱, 粘性弱。
 2. 暗褐色土 10YR3/3 ローム土・ロームブロック (Φ3~5mm) 少量含む。締り有, 粘性弱。
 3. 黒色土 10YR2/1 ローム粒・ロームブロック (Φ3~5mm) 微量含む。締り有, 粘性弱。
 4. にぶい黄褐色土 10YR4/3 ローム土混土。締り有, 粘性やや有。
 5. 暗褐色土 10YR3/3 ローム土・ロームブロック (Φ5~70mm) 中量含む。締り有, 粘性弱。
- Pit30**
1. 黒褐色土 7.5YR3/1 ローム粒多量 (20%), ロームブロック (Φ3~5mm) 微量, 焼土・焼土ブロック (Φ3~5mm) 少量, 炭化物塊 (Φ3~7mm) 微量含む。締り有, 粘性弱。
 2. 黒褐色土 10YR3/1 ローム粒少量, ロームブロック (Φ3~5mm) 微量, 炭化物粒微量含む。締り有, 粘性弱。
 3. 黄褐色土 10YR5/6 ロームブロック主体。締り有, 粘性やや有。
 4. 暗褐色土 10YR3/3 ロームブロック (Φ3~10mm) 少量含む。締り有, 粘性弱。
 5. 暗褐色土 10YR3/3 ロームブロック (Φ5~20mm) 多量 (20~30%) 含む。締りやや強, 粘性有。
- Pit31**
- ①黒色土 10YR2/1 ロームブロック (Φ3~5mm) 微量含む。締り有, 粘性弱。
 - ②黄褐色土 10YR5/6 ローム土主体。黒色粒微量含む。締り有, 粘性やや有。
 - ③黒褐色土 10YR3/1 ローム粒少量含む。締り有, 粘性弱。
 - ④にぶい黄褐色土 10YR4/3 ロームブロック (Φ3~10mm) を密に含む。締り有, 粘性やや有。
 - ⑤黒褐色土 10YR3/1 ローム粒中量含む。締りやや弱, 粘性弱。
- Pit32**
1. 黒褐色土 10YR3/1 ローム粒少量含む。締り有, 粘性弱。
 2. 黒褐色土 10YR3/1 ローム粒・ロームブロック (Φ3~7mm) 少量, 黒色ブロック微量含む。締り有, 粘性弱。
 3. 黒褐色土 10YR3/1 ローム粒少量, ロームブロック (Φ3~5mm) 微量含む。締り有, 粘性弱。
- Pit33**
1. 黒褐色土 10YR3/1 炭化物塊 (Φ3~5mm) 少量含む。締り有, 粘性弱。
 2. 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒少量, ロームブロック (Φ5~7mm) 微量含む。締り有, 粘性弱。

第44図 ピット (1)



- Pit57**
1. 暗褐色土 10YR3/3 ロームブロック (Φ3~7mm) 中量含む。締り有, 粘性弱。
 2. 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒少量, ロームブロック (Φ3~7mm) 中量含む。締り有, 粘性やや有。
 3. にぶい黄褐色土 10YR5/4 ローム粒少量含む。締り・粘性有。
 4. にぶい黄褐色土 10YR5/3 ローム土多量 (40%), ローム粒少量含む。締り・粘性有。
- Pit63**
1. にぶい黄褐色土 10YR5/3 ローム粒少量, ロームブロック (Φ3~5mm) 微量, 灰白色 (10YR7/1) 粘土ブロック・黒色粒微量含む。締り有, 粘性やや有。
 2. 黒色土 10YR2/1 ロームブロック (Φ3~5mm) 少量含む。締り有, 粘性弱。
 3. にぶい黄褐色土 10YR5/4 ロームブロック (Φ3~5mm) ・黒色粒微量含む。締り有, 粘性やや有。
- Pit66**
1. 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒中量, ロームブロック (Φ3~5mm) 少量含む。締り有, 粘性弱。
 2. 灰黄褐色土 10YR4/2 ロームブロック (Φ3~5mm) 多量 (40%) 含む。締り有, 粘性弱。
 3. 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒・ロームブロック (Φ3~5mm) 多量 (20%) 含む。締り弱, 粘性弱。
 4. 黒褐色土 10YR3/1 ローム粒少量含む。締り有, 粘性弱。
 5. にぶい黄褐色土 10YR4/3 ロームブロック主体。黒色粒少量含む。締りやや強, 粘性やや有。
 6. にぶい黄褐色土 10YR5/4 ローム土主体。黒色土 (10YR2/1) 少量含む。締り有, 粘性弱。
- Pit68**
1. 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒・ロームブロック (Φ3~10mm) ・炭化物粒微量含む。締り有, 粘性弱。
 2. 黒褐色土 7.5YR/1 炭化物粒多量 (20%), 焼土ブロック (Φ3~5mm) 微量, ロームブロック (Φ3~10mm) 少量含む。締り有, 粘性弱。
 3. 暗褐色土 10YR3/3 ロームブロック (Φ5~20mm) 多量 (40%) 含む。締り・粘性有。
 4. にぶい黄褐色土 10YR4/3 ロームブロック (Φ5~10mm) 多量 (40%) 含む。締り・粘性有。
- Pit70**
1. にぶい黄褐色土 10YR4/3 ローム粒多量 (20%), ロームブロック (Φ5~20mm) 焼土粒・炭化物粒少量含む。締り有, 粘性弱。
- Pit72**
1. にぶい黄褐色土 10YR4/3 ローム粒少量, ロームブロック (Φ5~7mm) 微量含む。締り有, 粘性弱。
 2. 黒褐色土 10YR3/1 ローム粒中量, ロームブロック (Φ3~5mm) 微量含む。締り有, 粘性弱。
 3. 暗褐色土 10YR3/3 ロームブロック (Φ3~5mm) 多量 (20%) 含む。締り有, 粘性やや有。
 4. にぶい黄褐色土 10YR5/4 ローム土混土。締りやや弱, 粘性やや有。
 5. 黒褐色土 10YR3/1 ローム土多量 (30~40%) 含む。締り・粘性有。
 6. にぶい黄褐色土 10YR5/3 ローム土混土。黒褐色土 (10YR3/1) 少量含む。締り・粘性有。
- Pit87**
1. 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒少量, ロームブロック (Φ3~7mm) 中量含む。締り有, 粘性弱。
 2. にぶい黄褐色土 10YR4/3 ローム粒微量含む。締り有, 粘性弱。
 3. 黄褐色土 10YR5/6 ロームブロック主体。締り有, 粘性やや有。
 4. 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒中量, ロームブロック (Φ10~15mm) 多量 (40%) 含む。締り有, 粘性やや有。
 5. 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒・ロームブロック (Φ3~5mm) 微量含む。締り有, 粘性やや有。
 6. にぶい黄褐色土 10YR4/3 ローム粒少量含む。締り有, 粘性やや有。
 7. 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒少量含む。締り有, 粘性やや有。
 8. にぶい黄褐色土 10YR5/4 ロームブロック (Φ3~5mm) 少量。締り有, 粘性有。
- Pit95**
1. 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒微量含む。締り有, 粘性弱。
 2. 暗褐色土 10YR3/4 ロームブロック (Φ3~7mm) 多量 (20%) 含む。締り有, 粘性やや有。
- Pit97**
1. 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒少量, ロームブロック (Φ3~5mm) ・炭化物粒・焼土ブロック (Φ3mm 前後) 微量含む。締り有, 粘性弱。
 2. 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒・ロームブロック (Φ3~5mm) 少量, 炭化物粒微量含む。締り有, 粘性弱。
 3. にぶい黄褐色土 10YR4/3 ローム粒・ロームブロック (Φ3~5mm) 中量, 炭化物粒微量含む。締り有, 粘性やや有。
 4. 黄褐色土 10YR5/6 ローム土主体。黒褐色土 (10YR3/2) ブロック (Φ3~5mm) 少量含む。締り・粘性有。



第45図 ピット(2)・同出土遺物



第46図 ピット配置図

第6表 柱穴・ピット一覧表

遺構名	位置 (グリッド)	形状	規模 (cm)			重複・覆土・特徴・出土遺物・その他	出土遺物
			長軸	短軸	深さ		
Pit01	I2	円形	(95)	92	48	単層(第47図)。遺物ややまとまって出土。残存率の高い須恵器あり。南側に小ピットあり。	土:甕3, 須:坏3・高台坏1・甕1, 土製品(支脚)1
Pit03	D2	円形	73	68	50	SK05を切る。8層(第47図)。	なし
Pit04	D2	楕円形	68	54	49	4層。柱痕跡あり。	なし
Pit05	E2	円形	71	63	32	4層。柱痕跡あり。	なし
Pit06	E2	円形	70	62	34	6層。柱痕跡あり。	土:甕3
Pit10	H1	円形	40	34	36	SI13を切り, SK03に切られる。単層, 10YR4/2灰黄褐色土, ローム粒・ロームブロック少	須:坏1
Pit11	H1	円形	43	40	19	SI13を切る。単層, 10YR4/3にぶい黄褐色土, ローム粒・ロームブロック少	なし
Pit12	H2	円形	44	42	22	SI13を切る。単層, 10YR4/3にぶい黄褐色土, ロームブロック多	なし
Pit13	H2	楕円形	47	37	24	SI13を切る。単層, 10YR4/2灰黄褐色土, ローム粒・ロームブロック少	なし
Pit14	H2	円形?	45	38	37	SI13を切る。単層, 10YR4/2灰黄褐色土, ローム粒・ロームブロック少	なし
Pit15	I2	楕円形	92	62	44	9層。柱痕跡あり。	なし
Pit16	D2	円形	65	62	46	10層。柱痕跡あり。	なし
Pit17	D2	円形	56	51	40	6層。	須:坏1
Pit20	I2	(円形)	70	(30)	62	6層。	土:甕1
Pit23	I1	円形	55	45	28	5層。	須:甕1
Pit24	H1	(円形)	(61)	(18)	?	単層, 10YR3/3暗褐色土, ローム粒少, ロームブロック中	なし
Pit25	H1	円形	92	82	63	SI18に切られる。6層。	土:甕4
Pit26	H2	楕円形	56	40	70	SI14に切られる。単層, 10YR3/1黒褐色土, ロームブロック多, 黒色土ブロック少	土:坏1・甕3, 須:蓋2
Pit27		欠番				Pit69(SB02)に変更。	土:坏2・甕16・鉢1, 須:蓋1
Pit28	H2	円形	45	41	48	単層, 10YR3/3暗褐色土, ローム土少, ローム粒多, 炭化物粒・焼土粒少	土:甕6, 須:壺瓶類1
Pit29	H2	円形	47	42	83	単層, 10YR3/2黒褐色土, ローム粒少, 炭化物流・焼土粒微	土:甕1, 須:蓋1
Pit30	H1	円形	60	50	56	SI12カマドに切られる。5層。	土:甕2
Pit32	H2	(円形)	60	(46)	24	3層。Pit31(SB02)を切り, Pit32とも重複するが新旧関係不明。	なし
Pit33	H2	(円形)	67	(50)	16	3層。Pit31(SB02)を切り, Pit32とも重複するが新旧関係不明。	なし
Pit35	E2	(円形)	45	30	24	単層, 10YR3/2黒褐色土, ローム粒・ロームブロック少	なし
Pit36	H2	円形	58	50	62	単層, 10YR3/3暗褐色土, ローム土少, ローム粒・焼土粒少	土:甕18, 須:蓋3
Pit37	H2	円形	57	54	54	単層, 10YR3/3暗褐色土, ローム粒少, ロームブロック微	土:甕4, 須:坏1
Pit38	H2	円形	38	35	30	単層, 10YR3/3暗褐色土, ローム土少, ローム粒・焼土粒少	土:甕9, 鉢1
Pit39	H1	円形	35	32	40	単層, 10YR3/1黒褐色土, ローム粒微	なし
Pit40	H1	円形	55	44	37	単層, 10YR3/3暗褐色土, ローム土中, 黒色土ブロック少	なし
Pit41	H1	円形	50	47	30	単層, 10YR3/3暗褐色土, ローム土多, 黒色土ブロック少	なし
Pit42	H1	楕円形	50	37	33	単層, 10YR3/3暗褐色土, ローム土少, ローム粒多, 炭化物粒・焼土粒少	土:甕1, 須:蓋1
Pit45	H2	円形	54	44	49	単層, 10YR3/3暗褐色土, ローム粒中, 焼土粒少	土:甕5
Pit46	H2	楕円形	50	38	38	SI14を切る。単層, 10YR3/2黒褐色土, ローム粒少	なし
Pit47	H1	円形	50	47	27	単層, 10YR3/1黒褐色土, ローム土混土	なし
Pit49	G1	(円形)	(36)	45	60	8層。柱痕跡あり(第43図)。	なし
Pit53	G2	円形	53	47	49	単層, 10YR3/3暗褐色土, ローム土少, ロームブロック多	なし
Pit54	G2	半円形	35	47	23	単層, 10YR3/3暗褐色土, ローム土・ロームブロック少	なし
Pit55	H2	円形	75	(70)	57	SK11を切る。4層(第48図)。	なし
Pit57	G2	円形	63	(52)	47	SI13に切られる。4層	なし
Pit58		欠番				Pit69(SB02)に変更。	なし
Pit59	I2	円形	40	38	23	単層, 10YR3/1黒褐色土, ローム粒・ロームブロック少	なし
Pit60	G1	円形	50	43	35	単層, 10YR3/3暗褐色土, ローム土少, ロームブロック少	なし
Pit61	H1・2	円形	60	54	21	SI14に切られる。単層, 10YR3/3暗褐色土, ローム土混土	なし
Pit62	H1・2	円形	45	42	44	SI14と重複。新旧不明。試掘確認遺構。単層, 10YR3/2ローム粒少	土:甕2
Pit63	H2	楕円形	68	54	42	SD02に切られる。3層	なし
Pit65	H2	瓢箪形	55	34	31	単層, 10YR3/2黒褐色土, ローム粒・ロームブロック少	なし
Pit66	H1	円形	53	48	72	6層。	なし
Pit67	H2	楕円形	43	33	44	単層, 10YR3/3暗褐色土, ロームブロック多, 黒色土ブロック少	なし
Pit68	H1	円形	35	31	50	Pit99を切る。4層	土:坏1・甕4
Pit70	H1	円形	35	(30)	33	単層, 10YR4/2灰黄褐色土, ローム粒少	なし
Pit71	G2	円形	25	22	23	単層, 10YR3/1黒褐色土, ローム粒・ロームブロック少	なし
Pit72	G2	円形	55	54	61	6層。	土:坏1・甕1
Pit73	G2	円形	34	33	30	単層, 10YR3/2黒褐色土, ローム粒・ロームブロック多, 黒色土ブロック少	なし
Pit74	H1	円形	32	28	40	単層, 10YR4/6褐色土, ローム粒・ロームブロック多	須:盤1
Pit75	H1	楕円形	40	30	61	SI14に切られる。単層, 10YR3/1黒褐色土, ローム粒・ロームブロック少, 黒色土ブロック微	土:坏1
Pit77	G2	不整形	57	45	40	単層, 10YR3/2黒褐色土, ローム土多, ローム粒・ロームブロック少	土:甕2
Pit78	G2	円形	47	40	48	単層, 10YR3/1黒褐色土, ローム粒・ロームブロック少, 黒色土ブロック微	なし
Pit79	G2	円形	38	35	25	単層, 10YR4/3にぶい黄褐色土, ローム土混土。	なし
Pit80	H1	(円形)	(72)	(28)	40	SI13に切られる。単層, 10YR3/3暗褐色土, ローム粒・ロームブロック少, 炭化物粒・焼土粒微	なし
Pit81	H1	楕円形	45	30	17	SI14に切られる。単層, 10YR4/3にぶい黄褐色土, ローム土混土。	なし
Pit82	F2	隅丸方形	53	50	40	単層, 10YR3/2黒褐色土, ローム土混土, ロームブロック・黒色土ブロック少	なし
Pit83	G2	円形	50	44	57	単層, 10YR3/1黒褐色土, ローム粒・ロームブロック少, 黒色土ブロック微	なし
Pit84	H2	楕円形	77	45	63	単層, 10YR3/3暗褐色土, ローム粒・ロームブロック多, 焼土ブロック少	土:坏5・甕4
Pit85	H1	円形	40	40	?	単層, 10YR3/3暗褐色土, ローム粒・ロームブロック少, 炭化物粒・焼土粒微	土:甕1
Pit86	H2	瓢箪形	62	35	31	単層, 10YR3/3暗褐色土, ロームブロック中, 焼土粒微	土:甕1
Pit87	H1	瓢箪形	55	(35)	32	8層。	なし
Pit88	H2	円形	45	45	28	SK12と重複。4層。柱痕跡あり(第48図)。	土:甕3
Pit91	F2	楕円形	78	46	50	SI09と重複, 新旧不明。単層, 10YR3/2黒褐色土, ローム粒・ロームブロック少	なし
Pit93	G2	(円形)	(39)	(28)	55	SI13を切る。単層(第43図)。	なし
Pit94	H1	円形	47	44	26	単層, 10YR3/2黒褐色土, ローム粒・黒色土ブロック少, 焼土粒微	なし
Pit95	F2	円形	52	45	17	2層。	なし
Pit96	H1	円形	36	35	31	単層, 10YR3/2黒褐色土, ローム粒少	なし
Pit97	F2	円形	56	52	28	SI09に切られる。4層。SI09検出当初貯蔵穴と判断していた。	なし

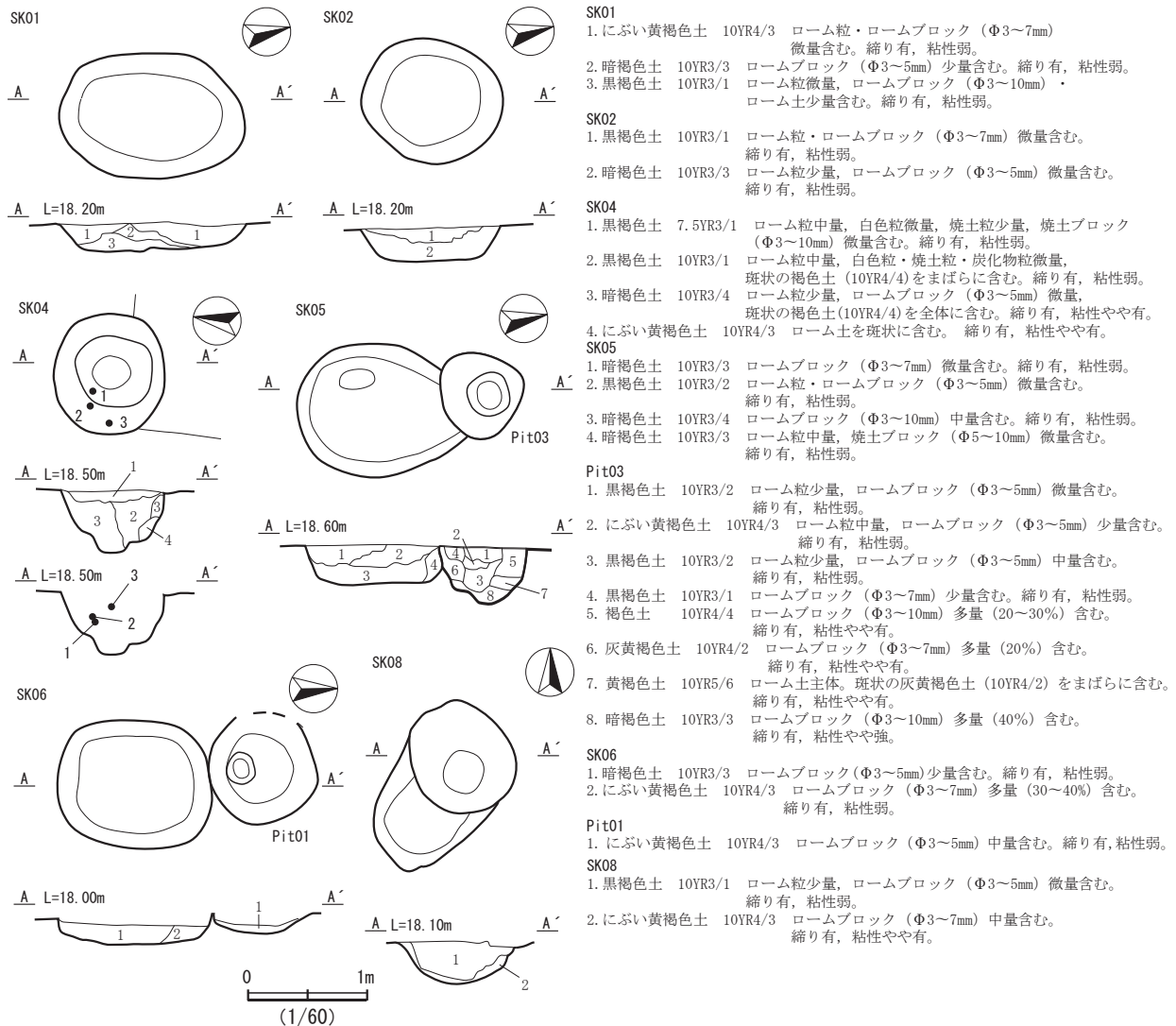
土 → 土師器 須 → 須恵器 器種後ろの数字は破片数を表す。 ※第6表土坑一覧表はこの表に準ずる。

※深さは確認面からの計測である。 ※形状の()は残存部からの推定である。 ※規模の< >は現存値を表す。 ※主な出土遺物の数字は点数を表す。

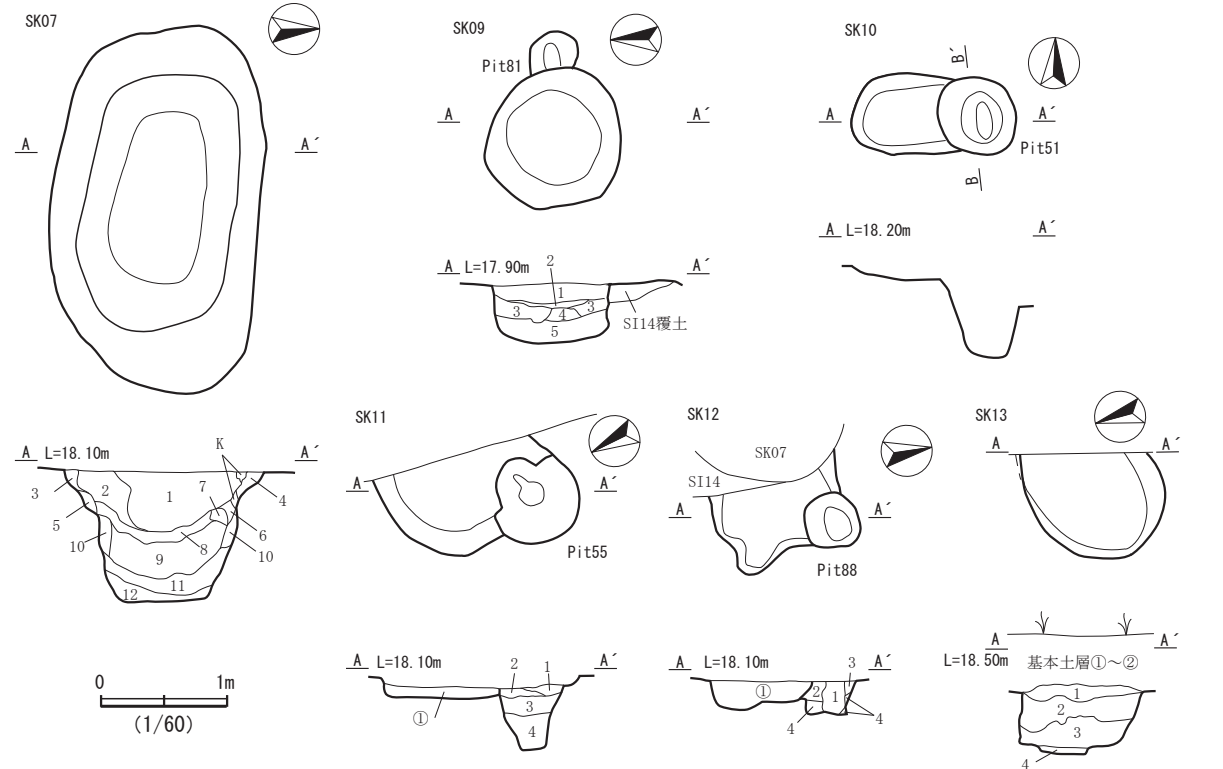
(4) 土坑 (第47・48図, 第7・8表, 写真図版5・12)

土坑は12基を検出した。SK03は後の調査で井戸跡であることが判明したためここでは除外し後述する。土坑の形態は、円形又は楕円形で、規模は平面形が0.86～0.93m又は1.05～1.58mの範囲に収まり、深さ10～29cm程度の浅いものと33～50cmのものが認められる。その中にあって、SK07は長軸2.89m、短軸1.66m、深さ102cmで、この1基に限って大型である。覆土はほとんどが自然堆積と考えられるが、SK04は柱が抜き取られたような痕跡があり、土坑ではなく柱穴の可能性もある。また、SK09は中間に炭化物が多量に含まれる層が認められ、人為的な堆積を呈している。

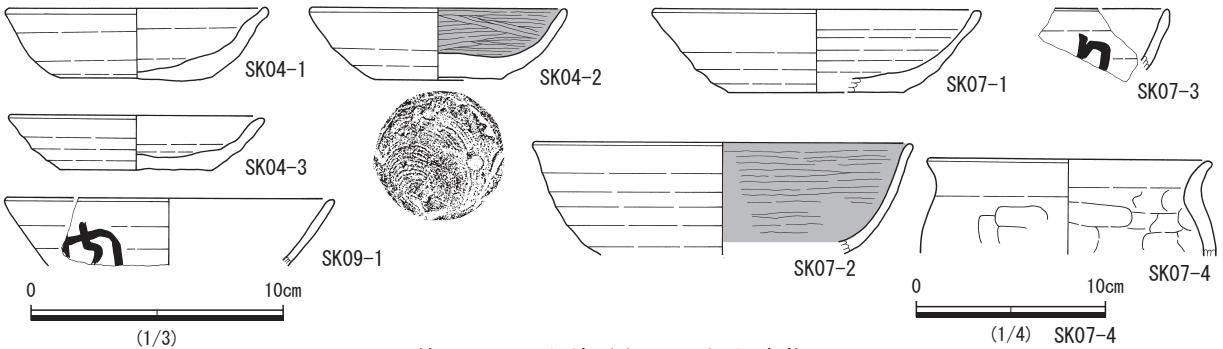
遺物は、SK10・11の浅い土坑を除き出土した。SK04では、底部底面が未調整の小皿の部類に入る土師器坏1～3がややまとまって認められ、10世紀第4四半期以降と考えられる。SK07・09では土師器坏・椀を主体として出土し、10世紀代前半に位置づけられるSI14とほぼ同時期であるが、重複関係から10世紀後半以降の所産であろう。それ以外の土坑では小破片のみの出土で時期の特定には至らないが、他の遺構との重複関係がある土坑を見ると、SK08はSK07・09同様SI14の床面を切って構築されていることから10世紀後半以降に掘り込まれたと考えられる。SK13はSI11を切り、さらに近世陶磁器の小破片が出土していることから、かなり新しい時期の掘り込みと思われる。



第47図 土坑 (1)



- SK07**
1. 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒少量, ロームブロック (Φ3~10mm) 少量含む。縮り有, 粘性弱。
 2. 黒褐色土 10YR3/1 ロームブロック (Φ3~7mm) 少量, 炭化物塊 (Φ5~20mm) 中量含む。縮り有, 粘性弱。
 3. 黒褐色土 10YR3/1 ローム粒少量, ロームブロック (Φ3~5mm) 微量含む。縮り有, 粘性弱。
 4. にぶい黄褐色土 10YR4/3 ロームブロック (Φ5~15mm) 中量含む。縮り有, 粘性やや有。
 5. 暗褐色土 10YR3/3 ロームブロック (Φ3~5mm) 多量 (20%) 含む。縮り有, 粘性やや有。
 6. 暗褐色土 10YR3/3 ロームブロック (Φ3~5mm) 少量含む。縮り有, 粘性やや有。
 7. 褐灰色土 10YR4/1 灰白色 (10YR7/1) 粘土混土。縮り有, 粘性有。
 8. にぶい黄褐色土 10YR4/3 ローム粒中量, ロームブロック (Φ3~15mm) 多量 (40%) 含む。縮り有, 粘性やや有。
 9. 暗褐色土 10YR3/3 ロームブロック (Φ5~20mm) 多量 (30~40%), 灰白色 (10YR7/1) 粘土微量含む。縮り有, 粘性やや有。
 10. 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒・ロームブロック (Φ3~10mm) 中量含む。縮り有, 粘性やや有。
 11. 黒褐色土 10YR3/1 ロームブロック (Φ5~15mm) 少量, 粘土ブロック (Φ5~10mm) 微量含む。縮り有, 粘性やや有。
 12. 褐色土 10YR4/6 ローム質土。黄褐色 (10YR5/6) ロームブロック (Φ3~5mm) 微量含む。縮り有, 粘性有。
- SK09**
1. にぶい黄褐色土 10YR5/4 ローム土主体。縮り強, 粘性やや有。
 2. 黒色土 10YR2/1 炭化物主体。ローム粒・ロームブロック (Φ3~5mm) 少量含む, 縮り弱, 粘性弱。
 3. にぶい黄褐色土 10YR4/3 ロームブロック (Φ10~30mm) を密に含む。縮り有, 粘性やや有。
 4. にぶい黄褐色土 10YR5/4 ローム土主体。縮り有, 粘性やや有。
 5. 灰黄褐色土 10YR5/2 褐灰色 (10YR6/1) 粘土ブロック (Φ20~60mm) ・黒色ブロック (Φ10~30mm) 多量 (20%), ロームブロック (Φ10~30mm) を密に含む。縮り有, 粘性有。
- SK11**
- ①暗褐色土 10YR3/3 ロームブロック (Φ3~10mm) 少量, 斑状の褐色土 (10YR4/4) をまばらに含む。縮り有, 粘性弱。
- Pit55**
1. 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒少量, ロームブロック (Φ3~10mm) 中量含む。縮り有, 粘性弱。
 2. にぶい黄褐色土 10YR5/4 ロームブロック (Φ5~15mm) を密に含む。縮り有, 粘性有。
 3. 黒褐色土 10YR3/1 ローム土・ロームブロック (Φ3~15mm) 多量 (40%) 含む。縮り有, 粘性やや有。
 4. 黄褐色土 10YR5/6 ローム土主体。黒褐色土 (10YR3/1) 少量含む。縮り弱, 粘性有。
- SK12**
- ①暗褐色土 10YR3/3 ローム粒少量, ロームブロック (Φ3~10mm) 中量, 黒色ブロック (Φ3~5mm) 少量, 焼土ブロック (Φ3~5mm) 微量含む。縮り有, 粘性弱。
- Pit88**
1. 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒少量, ロームブロック (Φ3~5mm) 多量 (20%), 黒色ブロック (Φ3~7mm) 微量含む。縮り有, 粘性弱。
 2. 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒少量, 黒色ブロック (Φ3~5mm) 微量含む。縮り有, 粘性弱。
 3. にぶい黄褐色土 10YR4/3 黒褐色土 (10YR3/2) 混土。縮り有, 粘性弱。
 4. 黄褐色土 10YR5/6 ローム土主体。黒色粒少量含む。縮り有, 粘性弱。
- SK13**
1. 暗褐色土 10YR3/4 ロームブロック (Φ3~7mm) 微量含む。縮り有, 粘性弱。
 2. にぶい黄褐色土 10YR4/3 ロームブロック (Φ5~20mm) 多量 (40%) 含む。縮り有, 粘性やや有。
 3. 暗褐色土 10YR3/3 ロームブロック (Φ5~20mm) 多量含む。縮り有, 粘性やや有。
 4. 褐色土 10YR4/4 ロームブロック (Φ3~10mm) 多量 (10%) 含む。縮り強, 粘性有。



第48図 土坑(2)・同出土遺物

第7表 土坑一覧表

遺構名	位置 (グリッド)	形状		長軸方向	規模 (cm)			重複・覆土・特徴・その他	主な出土遺物	備考
		平面	断面		長軸	短軸	深さ			
SK01	G1・2	楕円形	皿状	N-13° -E	158	105	23	3層。	なし	
SK02	G1・2	円形	皿状	N-13° -E	119	105	29	2層。	なし	
SK03	欠番	当初SK03として調査し、その後SE01に変更。詳細は第3章第2節(5)SE01参照。								
SK04	D3	円形	半円状	N-90° -E	105	94	50	4層。ピット状。	土: 坏4, 甕4, 須: 甕5	
SK05	D2	楕円形	鍋底状	N-14° -E	140	112	33	Pit03に切られる。4層。	土: 甕1, 須: 坏2, 高台坏1, 鉄製品1	
SK06	I2	隅丸方形	鍋底状	N-7° -E	132	108	25	2層。浅い。	土: 坏1・甕1, 須: 高台坏1, 甕1, 壺瓶類4	
SK07	H1・2	隅丸方形	逆台形	N-35° -E	289	166	102	SI14を切る。12層。大型。	土: 坏17, 椀4, 甕45, 鉢2, 須: 坏6, 高台坏3, 甕7, 石製品1	
SK08	H1	楕円形	半円状	N-7° -E	144	86	36	SI14を切る。2層。	土: 坏1, 甕4, 須: 坏1	
SK09	H2	円形	筒状	N-24° -W	115	107	47	SI14を切る。5層。炭化層あり。	土: 坏5, 甕2, 須: 坏1	
SK10	G2	楕円形	皿状	N-84° -E	(68)	62	12	Pit51に切られる。単層。浅い。	なし	
SK11	H2	(円形)	鍋底状	N-10° -E	130	(75)	10	Pit55に切られる。単層。浅い。	なし	
SK12	H2	不整形	不整形	N-14° -W	106	(63)	22	Pit88を切る。単層。木根か。	土: 甕1	
SK13	G2	円形	筒状	—	93	(78)	44	SI11を切る。4層。	土: 坏1, 甕10, 須: 坏11, 蓋1, 甕2, 陶磁器類5, 石製品1, 鉄製品1, 土器類1	

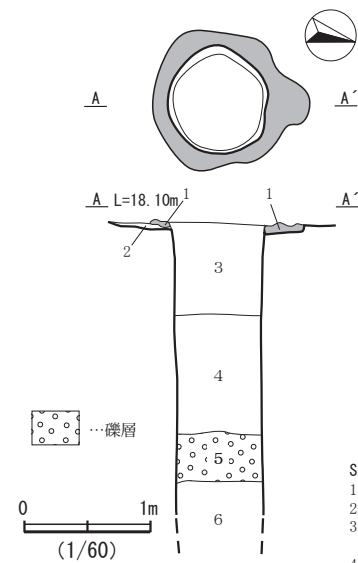
(5) 井戸跡

SE01 (第49図, 第8・11表, 写真図版5・12)

井戸跡はH1グリッドで検出される。当初、土坑SK03としていたが、調査途中で井戸跡と判明した。SI13の南西隅を切り込み構築されている。形態は円筒形で、規模は径0.87mを測り、深さ230cmまで達した時点で、安全上の問題から掘り下げを断念した。開口部の周囲には、幅15~30cm、厚さ10cm前後の粘土が貼り巡らされていた。覆土は灰黄褐色土主体の含有物の少ない層で、深さ70~

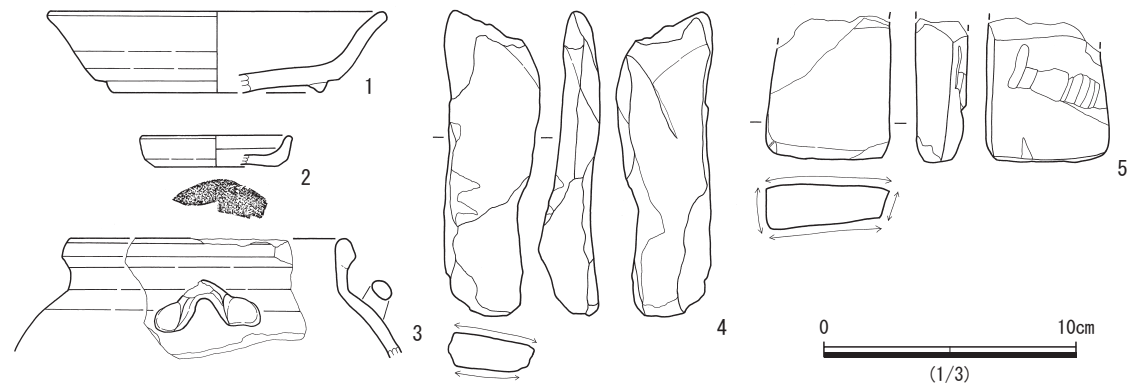
80cmで粘土ブロックが含まれるようになる。さらに深さ160~170cmで礫層が厚さ40cm程堆積し、閉塞されていた。礫層下はローム土・ロームブロックを含む水分の多い層となっている。

遺物は土師器20点(椀3, 甕16, 甑1) 須恵器19点(坏4, 高台付坏2, 蓋2, 甕11), 陶器2点(皿1, 土瓶1), 石製品2点(砥石2), 土器類8点が出土した。土師器, 須恵器は上層から礫層にかけての覆土中に含まれ、摩耗が著しいことから重複するSI13からの混入であろう。陶器, 石製品, 土器類は主に礫層中からの出土で、本跡が閉塞された際に投棄されたとみられる。時期は18~19世紀代であろうか。



SE01

1. 灰黄褐色土 10YR6/2 粘土主体。締り有, 粘性有。
2. 褐色土 10YR4/4 ロームブロック(Φ3~5mm)中量含む。締り有, 粘性やや有。
3. 褐灰色土 10YR5/1 ローム粒少量, ロームブロック(Φ2~5mm)中量含む。
締りやや弱, 粘性弱。
4. 灰黄褐色土 10YR5/2 ロームブロック(Φ5~20mm)微量含む。締り弱, 粘性有。
5. 灰黄褐色土 10YR4/2 礫混土層。締り弱, 粘性有。
6. 灰黄褐色土 10YR4/2 ロームブロック(Φ10~30mm)多量(40%)含む。締りなし, 粘性有。

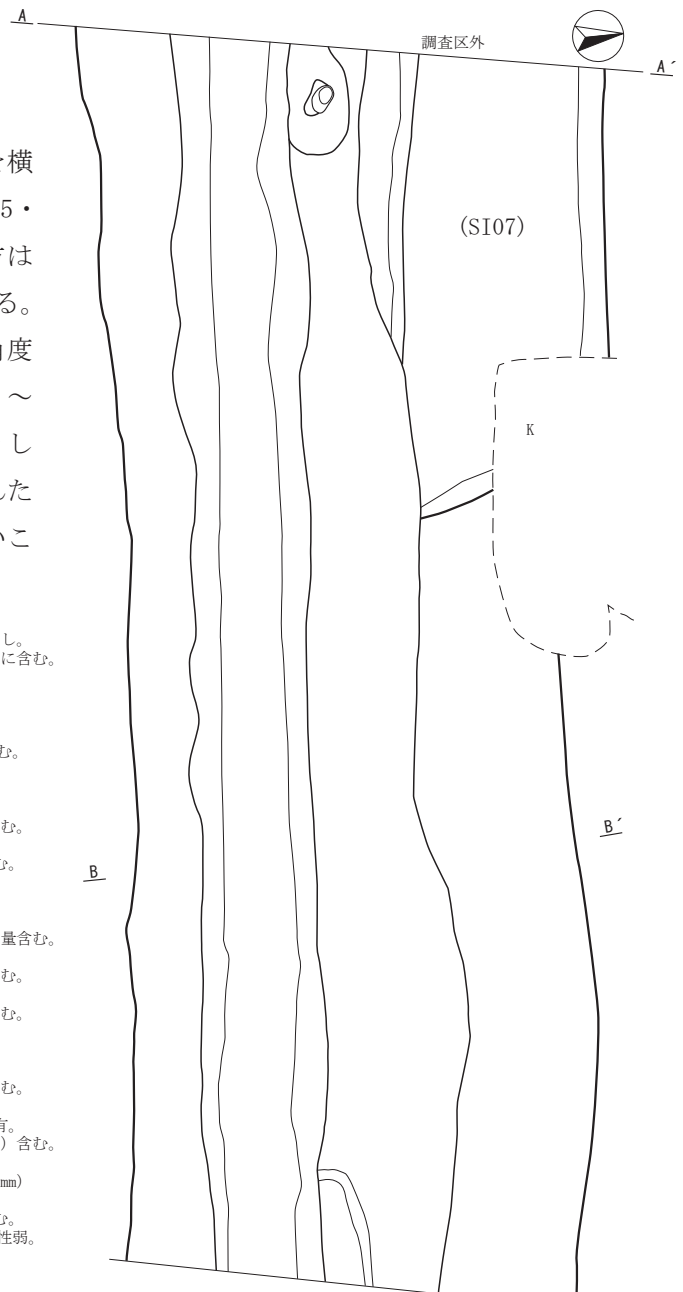


第49図 SE01・同出土遺物

(6) 溝跡

SD01 (第50・51図, 第8・10表,
写真図版5・12)

検出位置は北区E2・3グリッドで調査区を横断し、東西ともに調査区外に延びている。SI05・06の南側を切って掘り込まれている。掘り方は底幅が狭く、断面形はV字状に近い形態である。南壁が底面から上端に向かって60～70°の角度で立ち上がるのに対し、北壁は、中断から30～40°角度で緩やかに立ち上がる。当初SI07としていたテラス状の平坦面が西壁寄りで見出されたが、隣接地の調査によって竪穴建物跡ではないこ

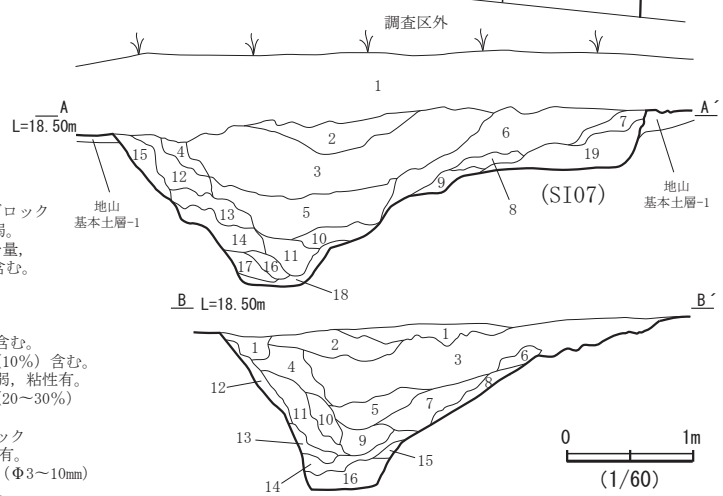


SD01 (A~A')

1. 黒褐色土 10YR3/1 ゴミ含む盛土層。灰色がやや強い。締り強、粘性なし。
2. 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒少量、斑状の灰黄褐色土 (10YR4/2) をまばらに含む。締り有、粘性なし。
3. 灰黄褐色土 10YR4/2 ローム粒少量。締り有、粘性なし。
4. 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒少量、ロームブロック (Φ5~10mm) 微量、斑状の灰黄褐色土をまばらに含む。締り有、粘性弱。
5. 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒中量、ロームブロック (Φ3mm前後) 少量含む。締り有、粘性弱。
6. 褐色土 10YR4/1 ローム粒少量含む。締り有、粘性なし。
7. 灰黄褐色土 10YR4/2 ローム土混土。締り有、粘性弱。
8. 灰黄褐色土 10YR4/2 ローム粒少量。斑状の褐色土 (10YR4/4) まばらに含む。締り有、粘性弱。
9. 褐色土 10YR4/1 ローム粒少量、ロームブロック (Φ5~15mm) 中量含む。締り有、粘性弱。
10. 黒褐色土 10YR3/1 ローム粒・ロームブロック (Φ5~30mm) 少量含む。締り有、粘性弱。
11. 黒色土 10YR2/1 ローム粒多量 (10%)、ロームブロック (Φ3~7mm) 少量含む。締り有、粘性弱。
12. 黒褐色土 10YR3/1 ローム粒少量、ロームブロック (Φ5~10mm) 中量含む。締り有、粘性弱。
13. 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒少量、ロームブロック (Φ3~10mm) 中量含む。締り有、粘性弱。
14. 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒・ロームブロック (Φ3~7mm) 中量含む。締り有、粘性弱。
15. にぶい黄褐色土 10YR4/3 ロームブロック (Φ5~10mm) 多量 (20%) 含む。締り有、粘性やや有。
16. 黒褐色土 10YR3/2 ローム土混土。黄色粒少量含む。締りやや弱、粘性有。
17. にぶい黄褐色土 10YR4/3 ロームブロック (Φ5~15mm) 多量 (20~30%) 含む。締りやや弱、粘性やや有。
18. にぶい黄褐色土 10YR5/4 ローム土混土。黄色粒・同ブロック (Φ3~10mm) 多量 (10%) 含む。締り弱、粘性有。
19. 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒中量、ロームブロック (Φ3~7mm) 少量含む。斑状の褐色土 (10YR4/4) を全体に含む。締り有、粘性弱。

SD01 (B~B')

1. 黒褐色土 10YR3/1 ローム粒微量、斑状の灰黄褐色土 (10YR4/2) まばらに含む。締り有、粘性弱。
2. 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒少量含む。締り有、粘性なし。
3. 灰黄褐色土 10YR4/2 ローム粒少量含む。締り有、粘性なし。
4. 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒少量、斑状の灰黄褐色土 (10YR4/2) 全体に含む。締り有、粘性弱。
5. 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒中量、ロームブロック (Φ3mm前後) 少量含む。締り有、粘性弱。
6. 褐色土 10YR4/6 白色粒中量、灰黄褐色土 (10YR4/2) 多量 (40%) 含む。締り有、粘性弱。
7. 黒褐色土 10YR3/1 ローム粒少量、ロームブロック (Φ3~5mm) 微量含む。締り有、粘性弱。
8. にぶい黄褐色土 10YR4/3 灰黄褐色土 (10YR4/2) 混土。ロームブロック (Φ3~7mm) 少量含む。締り有、粘性弱。
9. 黒色土 10YR2/1 ローム粒中量、ロームブロック (Φ3~7mm) 少量、斑状のにぶい黄褐色土 (10YR4/3) をまばらに含む。締り有、粘性弱。
10. 黒褐色土 10YR3/1 ローム粒中量、ロームブロック (Φ3~7mm) 少量含む。締り有、粘性弱。
11. 暗褐色土 10YR3/3 ロームブロック (Φ3~15mm) 多量 (10%) 含む。
12. にぶい黄褐色土 10YR4/3 ロームブロック (Φ3~15mm) 多量 (10%) 含む。
13. 黄褐色土 10YR5/6 ローム土主体。黄色粒少量含む。締りやや弱、粘性有。
14. にぶい黄褐色土 10YR4/3 ロームブロック (Φ5~20mm) 多量 (20~30%) 含む。締りやや弱、粘性やや有。
15. 黄褐色土 10YR5/6 ローム土主体。灰黄褐色土 (10YR4/2) ブロック (Φ3~5mm) 少量含む。締りやや弱、粘性有。
16. にぶい黄褐色土 10YR5/4 ローム土混土。黄色粒・同ブロック (Φ3~10mm) 多量 (10%) 含む。締り弱、粘性有。

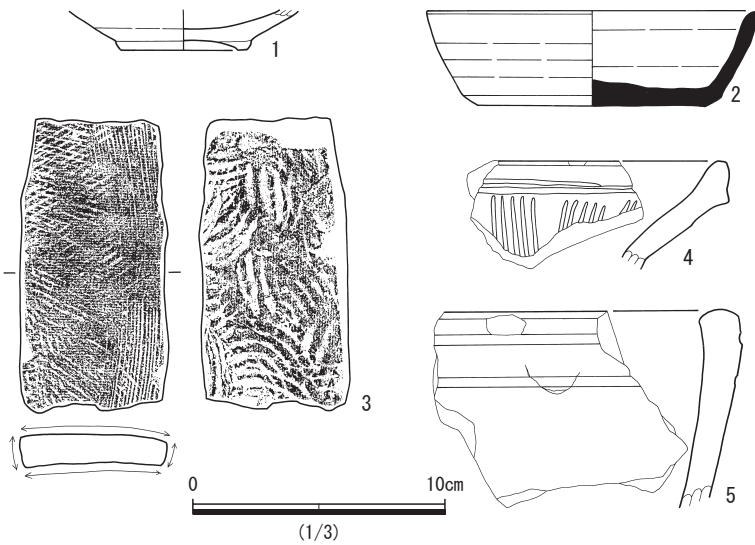


第50図 SD01

第3章 調査の成果

とが判明している。規模は現存値の長さが9.92 m、上端部の最大幅4.22 m、下端の最大幅0.50 m、深さ132～138 cmである。走行方向はN-85°-Wを示す。覆土は黒褐色土を主体とした自然堆積を呈し、両壁際及び底直上付近はローム土やロームブロックを多量に含むしまりの弱い層が堆積していた。

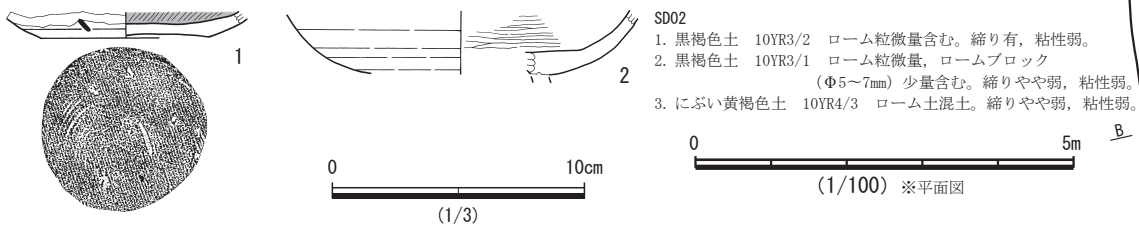
遺物は土師器29点(坏4, 碗3, 甕16, 鉢6), 須恵器77点(坏33, 高台付坏6, 盤2, 蓋3, 甕23, 甑4, 壺・瓶類4, 高坏2), 陶器1点(播鉢1), 土器類2点(火鉢1, 焙烙1)が出土した。遺物のほとんどは上層部からの出土で新旧遺物が混在している。時期は, SI05や隣接地調査におけるSD02の重複関係から10世紀代後半以降の構築であると考えられる。



第51図 SD01 出土遺物

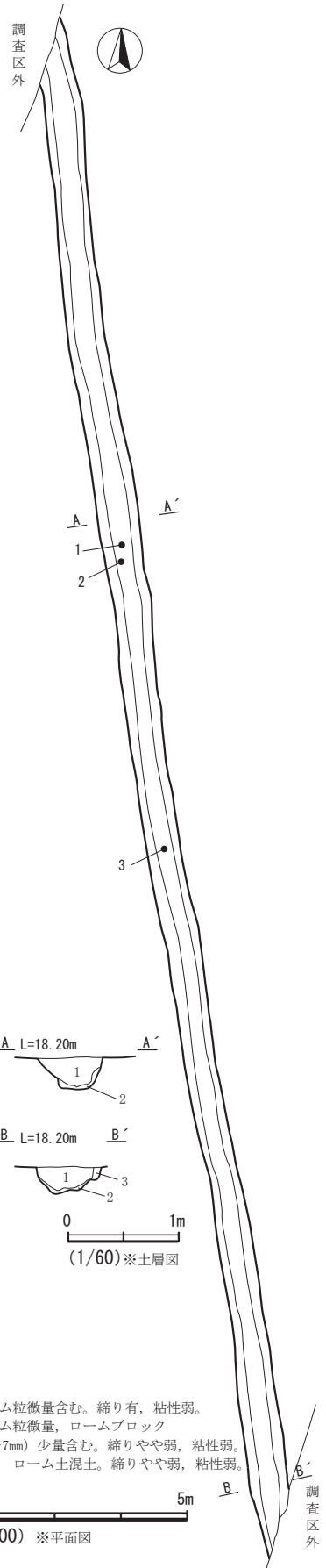
SD02 (第52図, 第8表, 写真図版12)

検出位置は北区F2, G2, H2グリッドにまたがる。北西側及び南東側ともに調査区外に延びている。SI08・13・16を切って掘り込まれている。掘り方は断面形が半円状である。規模は現存値の長さが22.50 m、上端部の最大幅0.46 m、下端の最大幅0.28 m、深さ24～28 cmである。走行方向はN-10°-Wを示し、覆土は黒褐色土を主体とするが、底直上はローム土を多量に含むしまりのやや弱い層が認められた。



第52図 SD02・同出土遺物

- SD02
1. 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒微量含む。締り有, 粘性弱。
 2. 黒褐色土 10YR3/1 ローム粒微量, ロームブロック(Φ5~7mm)少量含む。締りやや弱, 粘性弱。
 3. にぶい黄褐色土 10YR4/3 ローム土混土。締りやや弱, 粘性弱。



遺物は、土師器 25 点（坏 2，椀 3，甕 20），須恵器 24 点（坏 7，高台付坏 4，盤 1，甕 8，壺・瓶類 2，高坏 2）が出土した。須恵器は小破片のみで、ほとんどが SI13 を切った地点で認められるため、混入した可能性がある。1 の手部底面が回転糸切り後未調整の土師器坏，2 の高台部が内側に付く椀，さらに重複遺構の新旧関係から，時期は 10 世紀第 3 四半期以降と考えられる。

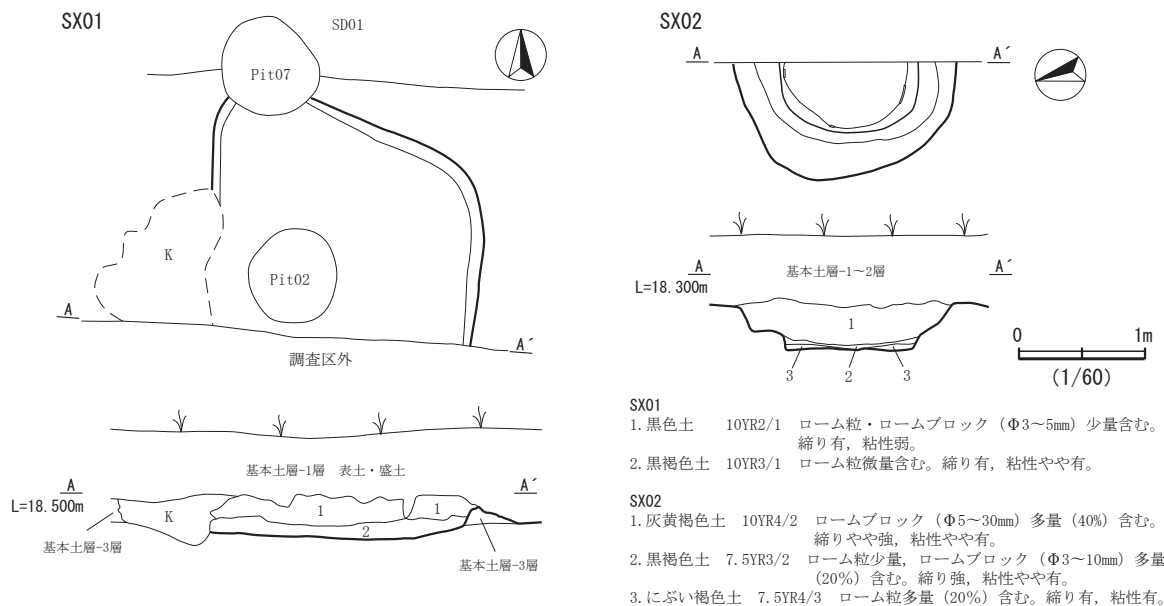
(7) 性格不明遺構

SX01 (第 53 図, 写真図版 4)

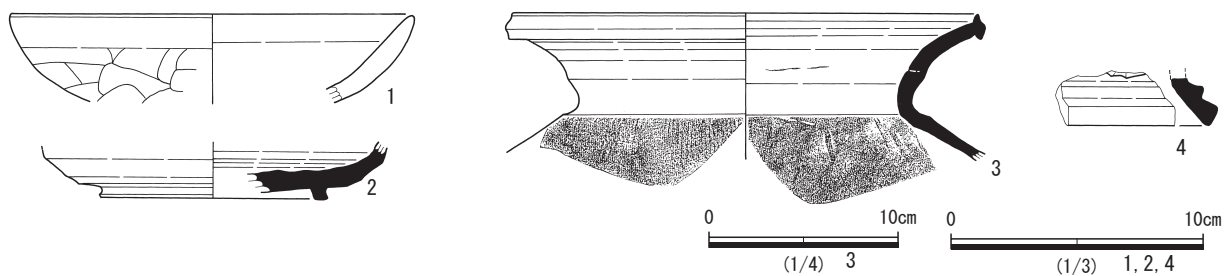
検出位置は E 2 グリッドである。SB01・Pit02・07 に切られ，南側は調査区外になるため全容は不明である。形態は不整形で，規模は東西軸が 2.16 m，南北軸が現存値で 1.87 m，深さは 15 cm 程の竪穴状遺構である。覆土は黒色土の単層である。遺物は，土師器 7 点（甕 7），須恵器 3 点（坏 2，甕 1），土製品 1 点（支脚 1）が出土した。いずれも小破片のため時期は不明瞭であるが，SB01 より古い 8 世紀代以前と考えられる。

SX02 (第 53 図, 写真図版 5)

検出位置は G 2 グリッドである。東側半分が調査区外になるため全容は不明であるが，形態は円形で規模は径 1.75 m 前後とみられる。深さは 34 cm で挿鉢状の断面形態をとり，底面直上では垂直に掘り込まれ，円筒状を呈する。壁際の一部で硬化面が検出されており，覆土は灰黄褐色土が主体で，底面では黒褐色土，褐色土が互層に薄く堆積する。遺物は出土せず，時期は判然としない。(高野)



第 53 図 SX01・02



第 54 図 遺構外出土遺物

第3章 調査の成果

第8表 出土遺物観察表（土器）

遺構番号	図面番号	種類	口径器高底径	部位・残存率・製作技法・その他特徴	胎土	色調 (外面/内面)	焼成	備考
SI01	1	弥生壺	(2.5) —	口縁部片。複合口縁。口唇部に縄文を施文。複合部下端を指頭押圧。頸部は付加条第1種縄文(LR+2R)を施文。	透明砂粒, 砂粒, 針状物	7.5YR6/4にぶい橙 7.5YR4/2灰褐	普通	
SI01	2	弥生壺	(1.7) —	口縁部片。複合口縁。口唇部に縄文を施文。複合部下端を指頭押圧。	砂粒, 針状物	5YR4/3にぶい赤褐	普通	
SI01	3	弥生壺	(2.1) —	頸部片。3本単位の施文具により波状文を施す。	砂粒多, 針状物	5YR4/6赤褐 7.5YR4/4褐	普通	後期後半
SI01	4	弥生壺	(1.7) —	頸部片。2本単位の施文具により, 下向き(弦の位置が下位にある)の連弧文と横走文。	透明砂粒	10YR3/2黒褐	普通	
SI01	5	弥生壺	(2.8) —	頸部片。2本単位の施文具による横走文, 縦区画文, 下位には竹管文を横方向に施す。	白色砂粒, 針状物微	7.5YR4/2灰褐	普通	
SI01	6	弥生壺	(2.4) —	頸部片。2本単位の施文具による縦区画文。	白色砂粒, 砂礫	7.5YR7/6橙 10YR6/3にぶい黄橙	普通	
SI01	7	弥生壺	(2.5) —	口縁部片。口唇部に縄文を施文。口縁部直下に指頭押圧を加えた隆帯を横走させる。頸部は櫛歯状工具による波状文。	砂粒多, 砂礫	5YR5/6明赤褐	普通	
SI01	8	弥生壺	(2.1) —	頸部片。櫛歯状工具により縦方向の文様を施す。	透明砂粒, 砂礫	5YR3/1黒褐 5YR5/6明赤褐	普通	
SI01	9	弥生壺	(5.3) —	頸部～胴部片。頸部は4本単位の櫛歯状工具による波状の櫛描文を横走。胴部は細い付加条第1種縄文(RL+2L)を施文。	透明砂粒, 針状物微	7.5YR3/1黒褐 7.5YR3/2黒褐	普通	後期後半 栃木方面の 搬入品か
SI01	10	弥生壺	(2.5) —	胴部片。無節L縄文を施文。	砂粒, 黒色粒	5YR5/4にぶい赤褐 5YR5/6明赤褐	やや良好	
SI01	11	弥生壺	(3.8) —	胴部片。付加条第1種縄文(RL+2L)を施文。	白色砂礫多	5YR5/3にぶい赤褐 5YR3/1黒褐	普通	
SI01	12	弥生壺	(3.6) —	胴部片。付加条縄文(RのZ巻・軸不明)を施文。	透明砂粒, 砂粒, 針状物微	5YR4/3にぶい赤褐 7.5YR5/3にぶい褐	普通	
SI01	13	弥生壺	(5.3) —	胴部片。付加条第1種縄文(LR+2R)を施文。	雲母, 白色砂礫, 針状物多	7.5YR5/6明褐 5YR5/6明赤褐	普通	
SI01	14	弥生壺	(2.4) —	胴部片。付加条第2種縄文か(RのS巻・軸不明瞭)を施文。	透明砂粒, 砂粒	7.5YR3/1黒褐	普通	後期後半
SI01	15	弥生壺	(7.0) 7.0	胴部～底部片。胴部は付加条第1種縄文(LR+2R)を施文。底部底面に布目痕。	砂粒, 砂礫多	7.5YR3/2黒褐 7.5YR5/4にぶい褐	普通	
SI01	16	弥生壺	(2.7) (8.0)	胴部～底部片。胴部は単節RL縄文で下端は無文。底部底面は木葉痕。	白色砂粒, 砂礫, 針状物微	7.5YR4/2灰褐 5YR5/4にぶい赤褐	普通	
SI01	17	弥生壺	(2.2) (7.0)	胴部～底部片。胴部は付加条第2種(RL+R)を施文。下端は無文。底部底面は木葉痕。	砂粒, 透明砂礫少	5YR5/6明赤褐 7.5YR2/1黒	普通	後期後半
SI02	1	弥生壺	15.0 (10.0) —	口縁～胴部10～20%存。口縁部は複合口縁。口唇部は単節RL縄文を施文。複合部下端を押圧。頸部は3本単位の施文具による下向き(弦の位置が下位にくる)の連弧文。胴部は付加条第1種縄文(LR+2R)を施文。	透明砂粒, 白色粒, 針状物	7.5YR5/3にぶい褐 7.5YR3/1黒褐	普通	
SI02	2	弥生壺	(8.0) —	口縁～頸部片。複合口縁。口唇部及び外面全体に単節RL縄文を施文。	白色粒, 角閃石・輝石類	7.5YR5/4にぶい褐 7.5YR6/4にぶい橙	普通	
SI02	3	弥生壺	(13.0) (5.0) —	口縁部～頸部片。複合口縁。口唇部に無節Rを施文。複合部下端は指頭押圧。頸部は3本単位の施文具による波状文。	透明砂粒, 砂礫少, 針状物多	5YR4/4にぶい赤褐 10YR5/4にぶい黄褐	普通	
SI02	4	弥生高坏	(17.0) (1.8) —	口縁部～頸部片。複合口縁。口唇部はへら状工具による細かいギザミを施す。複合部下端は指頭押圧。頸部は無文か。	白色粒, 赤色スコリア微	10YR5/3にぶい黄褐	普通	
SI02	5	弥生壺	(3.3) —	口縁部～頸部片。複合口縁。口唇部は無節R縄文を施文。複合部は無文。頸部は付加条第2種縄文(RL+R)を施文。	透明砂粒, 砂礫	5YR2/1黒褐 7.5YR4/3褐	普通	
SI02	6	弥生壺	(2.8) —	口縁部片。複合口縁。口唇部は無節Rを施文。複合部は無文。	透明砂粒, 砂粒	5YR3/1黒褐 5YR4/4にぶい黄褐	普通	
SI02	7	弥生壺	(3.7) —	口縁～頸部片。複合口縁。口唇部は単節RL縄文を施文。複合部下端は指頭押圧。頸部は単節RL縄文を施文。	透明砂粒, 砂粒	7.5YR4/2灰褐	普通	
SI02	8	弥生壺	(3.1) —	口縁～頸部片。複合口縁。口唇部は無節Lを施文。複合部下端は指頭押圧。頸部は3本単位の施文具による波状文。	透明砂粒, 砂粒	10YR3/2黒褐 7.5YR4/3褐	普通	
SI02	9	弥生壺	(3.8) —	口縁～頸部片。口唇部は単節RL縄文を施文。口縁部直下は指頭による押圧を加えた隆帯を巡らす。頸部は付加条第1種縄文(LR+2R)を施文。	雲母, 砂礫, 針状物多	7.5YR4/2灰褐 7.5YR3/2灰褐	普通	

第2節 検出された遺構と遺物

遺構番号	図面番号	種類器種	口径器高底径	部位・残存率・製作技法・その他特徴	胎土	色調(外面/内面)	焼成	備考
SI02	10	弥生壺	(1.7) —	口縁部片。複合口縁。口唇部から口縁部にかけて単節LR縄文を施文。	透明砂粒, 砂粒多	5YR3/2暗赤褐 5YR3/1黒褐	普通	
SI02	11	弥生壺	(2.4) —	頸部片。2本単位の施文具による波状文。	砂粒, 針状物	10YR5/4にぶい黄褐 10YR3/1黒褐	普通	
SI02	12	弥生鉢	(3.4) —	頸部片。3本単位の施文具による下向き(弦の位置が下位にくる)の連弧文。	透明砂粒, 針状物多	7.5YR4/2灰褐 7.5YR3/1黒褐	普通	
SI02	13	弥生壺	(3.9) —	頸部～胴部片。上部は2本単位の施文具による波状文と横線文。下部は単節LR縄文を施文。	砂粒多, 白色粒	10YR5/3にぶい黄褐 10YR4/2灰黄褐	普通	
SI02	14	弥生壺	(4.0) —	頸部片。3本単位の施文具により縦走文を施文後, 左上～右下→右上～左下の順で格子状文を施文。	砂粒, 白色粒少	10YR8/4浅黄橙	普通	
SI02	15	弥生壺	(3.6) —	頸部片。3本単位の施文具により横走文を施文後, 左上～右下→右上～左下の順で格子状文を施文。	砂粒	10YR7/3にぶい黄橙 10YR6/3にぶい黄橙	普通	
SI02	16	弥生壺	(4.9) —	頸部片。2本単位の施文具により横走文を施文後, 縦走文と鋸歯状文を施文。縦走文端部で竹管文を施す。全体に赤彩の痕跡あり。	砂粒, 白色粒	7.5YR5/3にぶい褐 7.5YR5/6明褐	やや良好	
SI02	17	弥生壺	(3.3) —	頸部片。3本単位の施文具により左上～右下→右上～左下を交互に左方向へ順に施文。	白色粒	7.5YR3/2黒褐	普通	
SI02	18	弥生壺	(11.8) —	頸部～胴部片。3本単位の施文具により横走文を施文後, 上向き(弦の位置が上位にくる)と下向き(弦の位置が下にくる)の連弧文を対抗させる。胴部は上部を無節R縄文。中程以下を付加条第1種縄文(LR+L)を施文。	雲母, 砂粒多, 白色砂礫, 針状物多	5YR4/6赤褐	普通	
SI02	19	弥生壺	(9.8) —	頸部～胴部片。上部は3本単位の施文具により横走文で区画後, 上部は波状文, 下部は単節LR縄文を施文。	砂粒, 砂礫, 白色粒	10YR6/4にぶい黄橙 10YR6/3にぶい黄橙	普通	
SI02	20	弥生壺	(12.0) —	胴部片。3本単位の施文具により横走文で区画後, 上部は波状文を施した後下向き(弦の位置が下位にくる)の内部を横走文で充填。下部は付加条第1種縄文(LR+2R)を施文後上部の櫛描文をほぼ胴部の最大径付近まで垂下させたものを4単位施す。	雲母, 白色砂礫, 針状物多	7.5YR4/2灰褐 7.5YR7/6橙	普通	
SI02	21	弥生壺	(17.8) —	胴部片。付加条第1種縄文(RL+2L)を施文。	透明砂粒, 白色粒, 砂礫	10YR3/1黒褐 7.5YR6/6橙	普通	
SI02	22	弥生壺	(13.0) —	胴部片。付加条第1種縄文(LR+R)を施文。	砂粒, 針状物	2.5YR5/4にぶい赤褐 7.5YR4/2灰褐	普通	
SI02	23	弥生壺	(6.8) —	胴部片。単節RL縄文を施文後, 3本単位の施文具により横走文で区画し, 上部にスリット状の櫛描文を施す。	砂粒, 白色粒, 針状物	10YR4/3にぶい黄褐	普通	
SI02	24	弥生壺	(14.4) 13.4	胴部～底部片。胴部は付加条第1種縄文(LR+2R)を施文。底部底面は木葉痕。	雲母, 砂粒, 白色粒, 砂礫, 針状物多	5YR4/6赤褐 10YR6/4にぶい黄橙	普通	
SI02	25	弥生壺	(16.2) 8.6	胴部～底部片。胴部は付加条第1種縄文(LR+2R)を多方向に施文。底部は上げ底気味で底面は木葉痕。	雲母, 砂粒多, 砂礫, 針状物	5YR4/6赤褐 5YR5/4にぶい赤褐	普通	
SI02	26	弥生壺	(10.5) 11.0	胴部～底部片。胴部は付加条第1種縄文(LR+R)を施文。底部底面は布目痕。	砂礫多	5YR4/6赤褐	普通	
SI02	27	弥生壺	(7.6) 8.0	胴部～底部片。胴部は付加条第1種縄文(LR+R)を施文。底部底面は木葉痕。	雲母微, 白色粒, 砂粒	5YR5/4にぶい赤褐 10YR3/2黒褐	普通	
SI02	28	弥生壺	(4.5) 7.0	胴部～底部片。胴部は付加条第1種縄文(LR+2R)を施文。底部底面は木葉痕。	砂粒多, 砂礫	10YR6/3にぶい黄橙 10YR6/4にぶい黄橙	普通	
SI02	29	弥生壺	(6.5) 7.0	胴部～底部片。胴部は付加条第1種縄文(LR+2R)を施文。底部底面は木葉痕。	白色粒, 針状物微	5YR4/6赤褐 10YR6/3にぶい黄橙	普通	
SI02	30	弥生壺	(5.0) 7.5	胴部～底部片。胴部は施文される縄文原体が不明瞭であるが, 下端部は付加条第1種縄文(RL+2L)を施文。底部底面は木葉痕。	白色粒, 砂粒多, 針状物微	5YR5/4にぶい赤褐 5YR4/8赤褐	普通	
SI02	31	弥生壺	(3.5) 6.6	胴部～底部片。胴部は付加条第1種縄文(LR+2R)を施文。胴部下端は底部と接合後ナデ。底部底面は木葉痕。	砂粒, 針状物	5YR5/3にぶい赤褐 5YR5/6明赤褐	普通	
SI02	32	弥生壺	(5.9) (9.0)	胴部～底部片。胴部は付加条第1種縄文(RL+2L)を施文。底部底面は木葉痕。	白色粒, 角閃石・輝石類	7.5YR5/6明褐 5YR5/4にぶい赤褐	普通	
SI02	33	弥生壺	(4.6) (6.0)	胴部～底部片。胴部は付加条第1種縄文(0のZ巻・軸不明)を施文。底部底面は木葉痕。	透明砂粒, 砂礫少, 針状物微	5YR3/1黒褐 5YR2/1黒褐	普通	
SI02	34	弥生鉢	(2.7) (7.0)	胴部～底部片。胴部は3本単位の施文具により胴部下端は横方向に施文後縦方向に施文。底部底面は木葉痕。	透明砂粒, 白色粒	2.5YR4/6赤褐 10YR5/4にぶい黄橙	普通	

第3章 調査の成果

遺構番号	図面番号	種類器種	口径器高口径	部位・残存率・製作技法・その他特徴	胎土	色調(外面/内面)	焼成	備考
SI02	35	弥生壺	— (6.5) 7.0	胴部～底部片。胴部は付加条第1種縄文(LR+2L)で、施文後に胴部中程まで3本単位の施文具による櫛描文が垂下する。底部底面は木葉痕。	雲母少、砂粒多、針状物多	2.5YR4/4にぶい赤褐 5YR5/6明赤褐	普通	
SI02	36	弥生壺	— (3.5) 9.0	胴部～底部片。胴部は付加条第1種縄文(RL+2L)を施文。胴部下端は単節RL縄文を施文後ヨコナデ。底部底面は布目痕。	砂粒、白色粒	10YR6/4にぶい黄橙 7.5YR6/4にぶい橙	普通	
SI03	1	須恵器坏	(13.2) 5.0 8.0	70%存。ロクロ成形。底部底面は回転ヘラ切り後ナデで、直線状のヘラ書き。二次底面あり。	チャート、白色粒、黒色粒、針状物	2.5Y6/1黄灰 5Y6/1灰	良好堅緻	
SI03	2	須恵器坏	— (2.0) 8.0	20%存。底部片。底部底面はヘラ状工具によるナデ後、棒状工具によるまばらなミガキ。墨書「四止禾」あり。	チャート、白色砂礫、透明砂粒、針状物	2.5Y7/1灰白 5Y6/2灰オリーブ	良好堅緻	
SI03	3	須恵器坏	— (3.0) 7.4	60%存。体部～底部。底部底面は回転ヘラケズリ。	砂粒、白色・透明砂粒	2.5Y8/1灰白	良好堅緻	
SI03	4	須恵器坏	(13.4) 4.4 8.2	40～50%存。ロクロ成形。底部底面はヘラ状工具によるナデ後、棒状工具によるまばらなミガキ。二次底面あり。	チャート、白色砂礫、黒色粒、針状物	5Y5/1灰 5Y6/1灰	良好堅緻	
SI03	5	須恵器坏	— (1.6) (9.0)	体部～底部片。ロクロ成形。底部底面は回転ヘラケズリ。	白色粒、黒色粒	2.5Y5/1黄灰 2.5Y6/1黄灰	良好堅緻	
SI03	6	須恵器高台付坏	(19.6) (5.7) —	口縁部～体部片。ロクロ成形。外面全体に自然釉がかかる。	チャート、白色砂礫、黒色粒多	5Y5/2灰オリーブ 5Y6/1灰	良好堅緻	
SI03	7	須恵器高台付坏	— (4.4) (9.6)	20～30%存。体部～底部片。ロクロ成形。体部外面は自然釉がかかる。底部底面は回転ヘラケズリ。高台部は貼り付け後ナデ。	チャート、白色砂礫、針状物	5Y3/2オリーブ黒 N5/ 灰	良好堅緻	
SI03	8	須恵器高台付坏	— (3.7) 9.0	50～60%存。ロクロ成形。体部外面は自然釉がかかる。底部底面はロクロナデ。焼成後に「×」のヘラ書き。高台部は貼り付け後ナデ。	チャート、白色砂礫多、黒色粒、針状物	5Y3/1オリーブ黒 N5/ 灰	良好堅緻	
SI03	9	須恵器高台付坏	11.2 (5.5) 7.4	80～90%存。ロクロ成形。体部外面は自然釉がかかる。底部底面は回転ヘラ切り後、未調整。高台部は貼り付け後ナデ。	チャート、白色粒、白色砂礫、針状物	5Y3/1オリーブ黒 10YR5/1褐灰	良好堅緻	
SI03	10	須恵器高台付坏	— (3.5) 6.8	50～60%存。体部～底部片。ロクロ成形。体部外面は一部自然釉がかかる。底部底面はロクロナデ。焼成高台部は貼り付け後ナデ。	チャート、白色砂礫、針状物	N4/ 灰 N5/ 灰	良好堅緻	
SI03	11	須恵器高台付坏	— (3.2) 7.0	50～60%存。体部～底部片。ロクロ成形。体部外面は一部自然釉がかかる。底部底面はロクロナデ。高台部は貼り付け後ナデ。	チャート、白色砂礫、黒色粒多、針状物少	N4/ 灰 N6/ 灰	良好堅緻	
SI03	12	須恵器蓋	(19.0) (3.3) —	天井部～口端部片。ロクロ成形。天井部は回転ヘラケズリ。口端部は下方へ垂下させナデ。	チャート少、白色砂礫、黒色粒、針状物	10Y6/1灰	良好堅緻	
SI03	13	須恵器蓋	(17.0) (2.4) —	体部～口端部片。ロクロ成形。天井部は回転ヘラケズリ。口端部は下方へ垂下させナデ。	白色砂礫、針状物	N5/ 灰	良好堅緻	
SI03	14	須恵器高坏	— (9.0) (15.0)	脚部片。ロクロ成形。透かしあり。接地部は下方へ垂下させナデ。	白色粒、白色砂礫、針状物微	N4/ 灰 N5/ 灰	良好堅緻	
SI03	15	須恵器高坏	— (2.3) (15.6)	脚部片。ロクロ成形。透かしあり。接地部は下方へ垂下させナデ。	白色砂礫、針状物	10Y5/1灰	良好堅緻	
SI03	16	土師器甕	(23.8) (5.5) —	口縁部～胴部片。口縁部は内外面ともにヨコナデ。頸部には輪積痕が残る。胴部は外面がナデ、内面がヘラナデ。	雲母、白色・透明砂礫	10YR6/3にぶい黄橙 10YR6/4にぶい黄橙	普通	
SI03	17	土師器甕	(25.0) (9.1) —	口縁部～胴部片。口縁部は内外面ともにヨコナデで輪積みの段が残る。胴部は内外面ともにナデ。	白色砂礫、針状物	5YR4/8赤褐 5YR4/6赤褐	やや良好	
SI04	1	土師器坏	(11.0) 2.4 6.0	80%存。ロクロ成形。底部底面は回転ヘラ切り後未調整。内面には漆状の付着物が多量に残る。	砂粒多、白色粒、白色砂礫、針状物少	10YR6/4にぶい黄橙 10YR4/2灰黄褐	普通	
SI04	2	土師器坏	(13.7) (3.8) —	20%存。口縁～体部片。ロクロ成形。	白色砂礫、灰色砂礫、角閃石・輝石類	10YR7/4にぶい黄橙 10YR6/3にぶい黄橙	普通	
SI04	3	土師器碗	— (3.2) 7.0	底部片。ロクロ成形。底部底面は回転ヘラ切り後未調整。高台部は貼り付け後ナデ。内面は黒色処理後ミガキ。ミガキ方向は不鮮明。	透明砂粒、灰色砂粒、針状物	5YR5/3にぶい赤褐	普通	
SI05	1	土師器坏	(12.0) (2.5) —	口縁部片。ロクロ成形。内面は黒色処理後横方向の密なミガキ。	白色砂粒、灰色砂粒多	7.5YR7/3にぶい橙	普通	
SI05	2	土師器坏	— (1.7) (6.6)	体部～底部片。ロクロ成形。底部底面はナデ。	白色砂粒、透明砂粒、赤スコリア	7.5YR6/3にぶい褐	やや良好	
SI05	3	土師器坏	— (1.6) (8.0)	体部～底部片。ロクロ成形。体部下端に墨書「□」あり。底部底面はナデか、内面は黒色処理で剥離顕著。	白色砂粒、灰色砂粒	10YR8/4浅黄橙	普通	

第2節 検出された遺構と遺物

遺構番号	図面番号	種類器種	口径器高底径	部位・残存率・製作技法・その他特徴	胎土	色調(外面/内面)	焼成	備考
S105	4	土師器甕	(19.0) (10.5) —	口縁部～胴部片。口縁部は内外面ともにヨコナデ。胴部は外面上半が横方向のヘラナデ、下半がヘラケズリ。内面がナデ。	白色砂礫、濃灰色砂粒、針状物微	10YR7/4にぶい黄橙 7.5YR7/3にぶい橙	やや良好	
S105	5	土師器甕	— (3.4) (10.6)	胴部～底部片。胴部は外面がヘラケズリ、内面がナデ。底部底面はナデ。	透明砂粒、白色砂礫、濃灰色砂粒、赤色スコリア	7.5YR7/4にぶい橙 7.5YR8/4浅黄橙	やや良好	
S106	1	須恵器坏	(13.4) 5.2 (7.2)	40～50%存。ロクロ成形。底部底面は回転ヘラ切り後ナデ。	白色粒多、白色砂礫多、針状物	10YR4/1褐灰	良好堅緻	
S106	2	須恵器坏	— (2.8) (7.8)	体部～底部片。ロクロ成形。底部底面は回転ヘラ切り後ナデ。	チャート、白色砂礫、針状物	7.5Y5/1灰	良好堅緻	
S106	3	須恵器坏	— (1.4) (6.8)	底部片。ロクロ成形。底部底面は回転ヘラ切り後ヘラナデ。ヘラ書きあり。	チャート砂礫、針状物	2.5Y6/2灰黄	良好堅緻	
S106	4	須恵器蓋	(19.0) (2.2) —	口端部片。ロクロ成形。口端部は下方へ垂下させナデ。内面は全体に自然釉がかかる。	チャート、白色砂礫	2.5Y5/1黄灰 5Y5/2灰オリーブ	良好堅緻	
S106	5	土師器甕	(18.8) (14.8) —	20～30%存。口縁部～胴部片。口縁部は内外面ともにヨコナデ。胴部は外面がナデ、内面が横方向のヘラナデ。	雲母多、白色砂礫	5YR5/4にぶい赤褐 7.5YR5/4にぶい褐	普通	
S106	6	土師器甕	(22.0) (4.1) —	口縁～胴部片。口縁部は内外面ともにヨコナデ。胴部は外面がナデ、内面が横方向のヘラナデ。	雲母、白色砂礫	7.5YR5/3にぶい褐 7.5YR5/6明褐	普通	
S106	7	土師器甕	— (3.5) (7.6)	胴部～底部片。胴部は外面が縦方向のミガキ、内面がヘラナデ。底部底面は木葉痕。	雲母、白色砂礫多	7.5YR5/4にぶい褐 5YR5/4にぶい赤褐	普通	
S106	8	須恵器甕	— (2.6) (14.0)	胴部～底部片。胴部は下端がヘラナデ。内面はヘラナデ。底部底面はナデ。	白色砂礫、針状物	5YR5/2灰オリーブ 5YR6/2灰オリーブ	良好堅緻	
S108	1	土師器坏	— (3.2) —	50～60%存。体部～底部。ロクロ成形。外面は摩耗顕著。体部下端は回転ヘラケズリ。内面は黒色処理・密なミガキ(体部横方向、底部1方向)。	白色粒、灰色粒、砂礫	7.5YR6/6橙	普通	
S108	2	土師器坏	— (3.9) 7.0	20～30%存。体部～底部。ロクロ成形。体部下端は回転ヘラケズリ。底部底面は磨耗顕著で調整不明。内面は黒色処理・密なミガキ(体部横方向、底部1方向)。	透明砂粒、黒色粒	10YR6/4にぶい黄橙	普通	
S108	3	土師器坏	— (2.2) (7.0)	体部～底部片。ロクロ成形。体部下端から底部底面にかけて回転ヘラケズリ。内面は黒色処理・密なミガキ(体部横方向、底部1方向)。	透明砂粒、針状物多	7.5YR5/4にぶい褐	普通	
S108	4	須恵器坏	13.4 4.5 5.8	80～90%存。ロクロ成形。底部底面は回転ヘラ切り後ヘラナデ。内面底部に漆と思われる染みが広がる。	チャート、白色砂礫、針状物	5Y5/1灰	良好堅緻	
S108	5	須恵器坏	(12.6) 4.8 (6.4)	20～30%存。口縁～底部。ロクロ成形。全体に漆と思われる染みあり。	チャート、白色粒、白色砂礫少、針状物微	7.5Y6/1灰	良好堅緻	
S108	6	須恵器高台付皿	16.0 2.7 6.8	30～40%存。ロクロ成形。底部底面はロクロナデで、直線状のヘラ書きあり。高台部は貼り付け後ナデ。	チャート、白色砂礫、針状物微	10Y5/1灰	良好堅緻	
S108	7	土師器甕	(21.0) (12.6) —	口縁部～胴部片。口縁部は内外面ともにヨコナデ。胴部は内外面ともにヨコナデ。	雲母、白色・透明砂礫多、灰色砂礫	7.5YR6/6橙 7.5YR5/4にぶい褐	普通	
S108	8	土師器甕	(19.8) (6.7) —	口縁部～胴部片。口縁部は内外面ともにヨコナデで外面には輪積痕の段が残る。胴部は内外面ともにナデ。	雲母、白色砂礫	5YR4/4にぶい赤褐 5YR3/2暗赤褐	普通	
S108	9	土師器甕	(24.0) (7.6) —	口縁部～胴部片。口縁部は内外面ともにヨコナデ。胴部は内外面ともにナデ。	雲母、白色・透明砂礫	5YR4/3にぶい赤褐 5YR3/3暗赤褐	普通	
S108	10	土師器甕	— (12.5) —	胴部片。外面上半は平行タタキ、下半は横方向のヘラケズリ。内面は横方向のヘラナデ。	雲母、濃灰色砂粒、白色粒	7.5YR6/6橙 5YR4/3にぶい赤褐	やや良好	
S109	1	土師器坏	16.0 5.8 7.0	90%存。ロクロ成形。底部底面は回転糸切り後未調整。内面は黒色処理・密なミガキ(体部横方向、底部1方向)。	雲母、透明砂粒、濃灰色砂粒、針状物微	7.5YR4/2灰褐	普通	
S109	2	土師器坏	(11.8) 4.1 3.4	40～50%存。口縁部～底部。ロクロ成形。体部下端は手持ちヘラケズリ。底部底面は回転糸切り後未調整。内面は黒色処理・密なミガキ(体部横～斜方向、底部1方向)。	透明砂粒、濃灰色砂粒、白色砂粒	10YR6/4にぶい黄橙	普通	
S109	3	土師器坏	10.4 3.0 6.0	ほぼ完存。口縁部の一部を欠失。ロクロ成形。底部底面は回転糸切り後未調整。	透明砂粒、黄白色粒、針状物	10YR4/2灰黄褐	普通	
S109	4	土師器坏	14.8 (5.2) —	20～30%存。口縁部～体部。ロクロ成形。体下部は回転ヘラケズリ。内面は黒色処理・密なミガキ(体部横～斜方向)。	透明砂粒、白色砂粒、灰色砂粒、針状物微	7.5YR5/2灰褐	普通	
S109	5	土師器坏	(15.0) (4.2) —	口縁部～体部片。ロクロ成形。内面は黒色処理・密なミガキ(体部横方向)。	透明粒、灰色粒、黄白色粒、針状物	7.5YR7/6橙	普通	

第3章 調査の成果

遺構番号	図面番号	種類 器種	口径器 器高 底径	部位・残存率・製作技法・その他特徴	胎土	色調 (外面/内面)	焼成	備考
SI09	6	土師器 椀	— (2.8) (8.4)	底部片。底部底面は回転ヘラ切り後未調整。高台部は貼り付け後ナデ。内面は黒色処理・密なミガキ(底部1方向)。	透明粒, 灰色粒, 黄白色粒, 針状物	7.5YR5/3にぶい褐	やや 良好	
SI09	7	土師器 高坏	— (9.0) (17.8)	脚部片。ロクロ成形。接地部は屈曲させヨコナデ。	黄白色粒, 白色・透明砂礫, 針状物	5YR4/4にぶい赤褐 5YR4/8赤褐	やや 良好	
SI09	8	土師器 甕	(19.8) (18.0) —	20~30%存。口縁部~胴部。口縁部は内外面ともにヨコナデ。胴部は外面の上半がナデ, 下半が縦方向のヘラケズリ。内面は横・斜方向のヘラナデで, 上半は輪積みによる凹凸が顕著。	透明粒, 濃灰色粒, 白色砂礫少	7.5YR6/4にぶい橙 7.5YR5/4にぶい褐	やや 良好	
SI09	9	土師器 甕	(21.8) (17.6) —	30~40%存。口縁部~胴部。口縁部は内外面ともにヨコナデ。胴部は外面上半がナデで, 輪積みが顕著に残る。下半が横方向のヘラケズリ。内面は横方向のナデで, 下半はやや斜方向になる。	透明粒, 黄白色粒, 濃灰色粒, 白色砂礫少	5YR4/6赤褐 5YR5/6明赤褐	やや 良好	
SI10	1	土師器 坏	14.1 4.6 7.0	90%存。ロクロ成形。体下部から底部底面にかけて回転ヘラケズリ。内面は黒色処理・密なミガキ(体部横方向, 底部1方向)。	透明粒, 濃灰色粒, 針状物	7.5YR7/6橙	やや 良好	
SI10	2	土師器 坏	(15.0) 4.6 (7.0)	30~40%存。口縁部~底部。ロクロ成形。体部下端から底部底面にかけて回転ヘラケズリ。内面は黒色処理が一部剥落。密なミガキ(体部横~斜方向, 底部1方向)。	透明粒, 白色粒, 灰色粒, 針状物	5YR6/6橙	やや 良好	
SI10	3	土師器 坏	— (3.1) —	口縁部片。ロクロ成形。外面に墨書「禾」あり。内面は黒色処理・密なミガキ(体部横方向)	雲母, 白色粒多, 白色砂礫, 針状物	7.5YR6/4にぶい橙	やや 良好	
SI10	4	土師器 椀	(16.0) 5.3 9.0	70~80%存。ロクロ成形。体部下端から底部底面にかけて回転ヘラケズリ。内面は黒色処理・密なミガキ(体部斜方向→横方向, 底部1方向)。	透明砂粒, 濃灰色粒, 針状物	7.5YR5/4にぶい褐	やや 良好	
SI10	5	土師器 高台付皿	(13.0) 3.0 7.1	30~40%存。ロクロ成形。体部下端から底部底面にかけて回転ヘラケズリ。高台部は貼り付け後ナデ。内面は黒色処理・1方向の密なミガキ。	透明粒, 濃灰色粒, 白色粒, 針状物多	10YR7/3にぶい黄橙	やや 良好	
SI10	6	須恵器 坏	14.1 5.3 7.0	80%存。ロクロ成形。体部下端は手持ちヘラケズリ。底部底面はヘラナデ。	チャート, 白色砂礫, 黒色粒, 針状物	5Y5/1灰	良好 堅緻	
SI10	7	須恵器 坏	(14.2) 5.3 7.0	70~80%存。ロクロ成形。底部底面は回転ヘラ切り後ナデ。	チャート, 白色砂礫多, 黒色粒多, 針状物	5Y6/1灰	良好 堅緻	
SI10	8	須恵器 坏	13.0 5.0 7.0	60~70%存。ロクロ成形。体部下端は手持ちヘラケズリ。底部底面は回転ヘラ切り後ナデ。	チャート, 白色砂礫多, 黒色粒多, 針状物少	5Y5/1灰	良好 堅緻	
SI10	9	須恵器 坏	(13.8) 4.3 (6.0)	30~40%存。口縁部~底部片。ロクロ成形。底部底面は回転ヘラ切り後ナデ。	チャート, 白色砂礫多, 黒色粒少, 針状物	5Y6/1灰	良好 堅緻	
SI10	10	須恵器 坏	(13.4) 4.7 7.0	30~40%存。口縁部~底部。ロクロ成形。底部底面は回転ヘラ切り後ナデ。	チャート, 白色砂礫, 針状物	5Y5/1灰	良好 堅緻	
SI10	11	須恵器 坏	(13.8) 4.8 7.0	40~50%存。口縁部~底部。ロクロ成形。体部下端は手持ちヘラケズリ。底部底面はヘラナデ。	チャート, 白色砂礫, 針状物	2.5Y7/2灰黄	普通	
SI10	12	須恵器 坏	— (3.7) (6.0)	体部~底部。ロクロ成形。体部に墨書「大禾」あり。底部底面はヘラナデ。	チャート, 白色砂礫多, 針状物	5Y5/1灰	良好 堅緻	
SI10	13	須恵器 坏	10.3 4.0 5.0	ほぼ完存。口縁部の一部欠失。ロクロ成形。体部下端から底部底面にかけてヘラナデで粗い木目の工具痕が残る。	チャート, 白色砂礫, 針状物	2.5Y4/1黄灰	良好 堅緻	
SI10	14	須恵器 高台付坏	(15.8) 6.1 9.3	30~40%存。口縁部~底部。ロクロ成形。底部底面は回転ヘラケズリ。高台部は貼り付け後ナデ。内面に墨と思われる染みあり。	白色砂礫, 砂礫, 黒色粒, 針状物微	5Y6/1灰	良好 堅緻	
SI10	15	須恵器 高台付皿	13.0 2.5 6.8	ほぼ完存。口縁部の一部欠失。ロクロ成形。底部底面は回転ヘラケズリで, 直線状のヘラ書きあり。高台部は貼り付け後ナデ。	チャート, 白色砂礫多, 白色粒, 針状物少	5Y4/1灰 2.5Y4/1黄灰	良好 堅緻	
SI10	16	須恵器 高台付皿	(14.7) 2.8 7.6	60~70%存。ロクロ成形。底部底面は回転ヘラケズリ。高台部は貼り付け後ナデ。	チャート, 白色砂礫, 針状物	7.5Y4/1灰 10Y4/1灰	良好 堅緻	
SI10	17	須恵器 高台付皿	13.8 3.1 7.3	50~60%存。ロクロ成形。底部底面はヘラナデで, 「井」のヘラ書きあり。高台部は貼り付け後ナデ。	チャート, 砂礫, 針状物微	2.5Y6/2灰黄 2.5Y5/2暗灰黄	良好	
SI10	18	土師器 甕	(21.0) (10.5) —	口縁部~胴部片。口縁部は内外面ともにヨコナデ。胴部は外面がナデ, 内面が横方向のヘラナデ。	透明粒, 砂礫, 白色砂礫	5YR4/3にぶい赤褐	普通	
SI10	19	須恵器 甕	— (5.1) —	口縁部~胴部片。外面全体に縦方向の平行タキで, 口縁部はその後内外面ともにヨコナデ。	白雲母多, 白色砂礫多	2.5Y3/1黒褐	普通	新治産
SI10	20	土師器 鉢	(19.8) (7.0) —	口縁部~体部片。ロクロ成形。体部は下半が横方向のヘラケズリ。内面は下半が横方向のミガキ。	透明粒, 白色粒, 砂礫, 針状物多	7.5YR6/6橙 7.5YR5/4にぶい褐	やや 良好	
SI11	1	須恵器 坏	(13.0) 5.1 8.6	50%存。ロクロ成形。底部底面は回転ヘラ切り後, 回転ヘラケズリ。内面の一部にスス付着。	チャート, 白色粒, 黒色粒, 針状物少	5Y7/2灰白	良好	

第2節 検出された遺構と遺物

遺構番号	図面番号	種類 器種	口径器高 口径	部位・残存率・製作技法・その他特徴	胎土	色調 (外面/内面)	焼成	備考
SI11	2	須恵器 坏	(13.6) 5.0 8.5	60~70%存。ロクロ成形。底部底面は回転ヘラ切り後ナデ。周縁部ヘラケズリ。	チャート、黒色粒、白色砂礫、針状物	2.5Y6/2灰黄	良好 堅緻	
SI11	3	須恵器 坏	12.8 4.8 8.0	60~70%存。ロクロ成形。底部底面はナデ。	チャート、白色砂礫、針状物	2.5Y6/1黄灰	良好 堅緻	
SI11	4	須恵器 坏	(12.2) 4.5 8.4	50~60%存。ロクロ成形。底部底面はナデで、切り離し部をヘラケズリ。	チャート、白色粒、黒色粒、白色砂礫、針状物	2.5Y6/1黄灰	良好 堅緻	
SI11	5	須恵器 坏	(14.2) 4.1 8.7	40~50%存。口縁部~底部。ロクロ成形。回転ヘラ切り後ナデ。直線状のヘラ書き2条と細い棒状工具による数条の筋あり。	チャート、白色砂礫、黒色粒、針状物	5Y5/1灰	良好 堅緻	
SI11	6	須恵器 坏	(13.2) 4.7 8.8	70%存。ロクロ成形。底部底面は未調整で、中央の切り離し部をヘラケズリ。外面は漆と思われる塗物でコーティングか。内部は体部から底部にかけて未還元。	チャート、白色砂礫少、針状物	2.5Y5/2暗灰黄 7.5YR6/6橙	普通	
SI11	7	須恵器 坏	10.8 4.0 6.8	60~70%存。ロクロ成形。底部底面は回転ヘラケズリ。	チャート、白色砂礫、黒色粒少、針状物	2.5Y6/1黄灰	良好 堅緻	
SI11	8	須恵器 高台付坏	(13.8) 5.8 8.8	30~40%存。口縁部~底部。ロクロ成形。底部底面は回転ヘラケズリ。高台部は貼り付け後ナデ。	チャート、白色砂礫、針状物	5Y5/2灰オリーブ	良好 堅緻	
SI11	9	須恵器 高台付坏	(14.7) 4.9 9.0	60~70%存。ロクロ成形。底部底面は回転ヘラケズリ。高台部は貼り付け後ナデ。外面一部に自然釉がかかる。	白色砂礫、黒色粒多、針状物少	5Y4/1灰 2.5Y6/1黄灰	良好 堅緻	
SI11	10	須恵器 高台付坏	(11.8) 4.6 (7.6)	50%存。ロクロ成形。底部底面は回転ヘラケズリで、直線状のヘラ書きが平行に3条あり。高台部は貼り付け後ナデ。	チャート、白色砂礫、黒色粒、針状物少	N6/ 灰	良好 堅緻	
SI11	11	須恵器 高台付坏	10.8 4.5 7.2	ほぼ完存。口縁部の一部を欠失。ロクロ成形。底部底面は回転ヘラケズリで、直線状の線刻が平行に3条と中央に灰色で「〇」と描かれる。外面の一部と内面全体に自然釉がかかる。	チャート、白色砂礫、黒色粒多、針状物微	N5/ 灰 7.5Y4/2灰オリーブ	良好 堅緻	
SI11	12	須恵器 盤	(19.8) 4.5 11.6	70~80%存。ロクロ成形。底部底面は回転ヘラケズリ。高台部は貼り付け後ナデ。口縁部に自然釉がかかる。	チャート少、白色砂礫、黒色粒多、針状物少	2.5Y6/2灰黄	良好 堅緻	
SI11	13	須恵器 盤	(22.7) (3.4) —	20%存。口縁部~底部。高台部欠失。ロクロ成形。底部底面は回転ヘラケズリ。高台部は貼り付け後ナデ。	白色砂礫、黒色粒、針状物	2.5Y6/1黄灰	良好 堅緻	
SI11	14	須恵器 盤	(21.6) 4.0 (14.8)	20%存。口縁部~底部。ロクロ成形。底部底面は回転ヘラケズリ。高台部は貼り付け後ナデ。内面わずかに自然釉がかかる。	チャート少、白色砂礫少、黒色粒多、針状物微	N5/ 灰 10Y5/1灰	良好 堅緻	
SI11	15	須恵器 蓋	— (2.8) —	天井部片。ロクロ成形。紐径2.8cm、紐高1.8cm。外面全体に自然釉がかかる。	チャート微、白色砂礫少、黒色粒多、針状物微	5Y7/1灰	良好 堅緻	
SI11	16	須恵器 蓋	— (3.5) —	天井部。ロクロ成形。紐径3.0cm、紐高1.8cm。天井部は回転ヘラケズリ。	チャート少、白色粒、黒色粒、針状物少	5Y6/1灰	良好 堅緻	
SI11	17	須恵器 蓋	(17.2) (2.5) —	30~40%存。天井部~口端部。天井部は回転ヘラケズリ。口端部は下方へ垂下させナデ。	チャート、白色砂礫、針状物	5Y5/1灰	良好	
SI11	18	須恵器 蓋	(12.8) (1.7) —	20%存。天井部~口端部。紐欠失。ロクロ成形。天井部は回転ヘラケズリ。口端部は下方に垂下させナデ。口端部外面から内面にかけて自然釉がかかる。	白色砂礫少、白色粒、黒色粒、針状物少	2.5Y7/1灰白 5Y5/2灰オリーブ	良好 堅緻	
SI11	19	須恵器 蓋	(18.2) (3.0) —	20~30%存。天井部~口端部。天井部は回転ヘラケズリ。口端部は下方に垂下させナデ。口端部外面から内面にかけて自然釉がかかる。	白色砂礫、黒色粒、針状物微	2.5Y7/1灰白 2.5Y4/1黄灰	良好 堅緻	
SI11	20	須恵器 蓋	(12.2) (3.4) —	40%存。ロクロ成形。外面全体に自然釉がかかる。口端部長2.7cm。短頸蓋用とみられる。	チャート、白色粒、黒色粒多、針状物少	5Y4/2灰オリーブ 2.5Y6/1黄灰	良好 堅緻	
SI11	21	須恵器 高坏	(25.0) (12.3) —	40~50%存。坏部~脚部。ロクロ成形。坏部口端部は屈曲。中央部剥離。外面全体に自然釉がかかる。脚部は四方透し。	白色砂礫少、白色粒、黒色粒多、針状物微	5Y6/2灰オリーブ 2.5Y7/2灰黄	良好 堅緻	
SI11	22	須恵器 短頸蓋	(10.4) (9.0) —	口縁部~胴部片。ロクロ成形。頸部長2.7cm。外面の一部に自然釉がかかる。	白色粒、白色砂礫、針状物微	2.5YR4/1赤灰 5PB4/1暗青灰	良好 堅緻	
SI11	23	須恵器 短頸蓋	(7.0) (5.0) —	20~30%存。口縁部~胴部。ロクロ成形。頸部長2.3cm。全体に自然釉がかかる。	白色砂礫少、黒色粒多	5Y7/3浅黄 2.5Y7/2灰黄	良好 堅緻	
SI11	24	須恵器 コップ型	(8.4) (4.5) —	20~30%存。口縁部~体部。ロクロ成形。外面に自然釉がかかる。	白色砂礫、黒色粒多、針状物少	5Y6/2灰オリーブ 2.5Y7/1灰白	良好 堅緻	25と同一個体
SI11	25	須恵器 コップ型	(3.0) (7.0) —	体部~底部片。ロクロ成形。底部底面はナデ。	白色砂礫、黒色粒多、針状物少	5Y6/2灰オリーブ 2.5Y7/1灰白	良好 堅緻	24と同一個体
SI12	1	土師器 甕	(19.8) (9.4) —	口縁部~胴部片。口縁部は内外面ともにヨコナデ。胴部は外面がナデで輪積痕が残る。内面がヘラナデ。	雲母、白色・透明砂礫多	5YR5/4にぶい赤褐 7.5YR5/4にぶい褐	普通	

第3章 調査の成果

遺構番号	図面番号	種類器種	口径器高底径	部位・残存率・製作技法・その他特徴	胎土	色調(外面/内面)	焼成	備考
SI13	1	須恵器 坏	14.5 4.5 8.5	70%存。ロクロ成形。底部底面は回転ヘラ切り後ナデ。	チャート, 白色砂礫, 黒色粒, 針状物	5Y6/1灰 5Y5/1灰	良好 堅緻	
SI13	2	須恵器 坏	12.6 4.7 7.6	70%存。ロクロ成形。底部底面は回転ヘラ切り後, 周縁部をナデ。	チャート, 白色砂礫多, 針状物	10Y5/1灰 10Y6/1灰	良好 堅緻	
SI13	3	須恵器 坏	13.7 5.5 7.5	90%存。ロクロ成形。底部底面は回転ヘラ切り後, 周縁部をナデ。外面の一部に自然釉がかかる。	チャート, 白色砂粒, 白色砂礫, 針状物	10Y4/1灰 10Y5/1灰	良好 堅緻	
SI13	4	須恵器 坏	13.7 4.8 7.5	90%存。ロクロ成形。底部底面は回転ヘラ切り後ナデ。	チャート少, 白色砂礫多, 針状物	N5/ 灰	良好 堅緻	
SI13	5	須恵器 坏	12.5 4.5 6.8	80~90%存。ロクロ成形。底部底面は回転ヘラ切り後ナデ。「冊」のヘラ書きあり。体部外面に漆と思われる染みあり。	チャート, 白色砂礫, 針状物	10Y5/1灰 10Y4/1灰	良好 堅緻	
SI13	6	須恵器 高台付坏	16.1 7.0 9.8	60%存。ロクロ成形。底部底面はナデ。高台部は貼り付け後ナデ。	チャート, 白色砂礫, 針状物	5Y6/1灰 5Y6/2灰オリーブ	良好 堅緻	
SI13	7	須恵器 高台付坏	16.2 6.6 10.5	90%存。底部中央のみ欠失。底部底面は回転ヘラケズリ。高台部は貼り付け後ナデ。	チャート, 白色砂粒, 白色砂礫, 黒色粒, 針状物	5Y5/1灰 2.5Y6/1黄灰	良好 堅緻	
SI13	8	須恵器 高台付坏	15.8 5.3 10.0	60~70%存。ロクロ成形。底部底面は回転ヘラケズリ。高台部は貼り付け後ナデ。	白色砂粒, 白色砂礫, 針状物	7.5Y5/1灰 7.5Y6/2灰オリーブ	良好 堅緻	
SI13	9	須恵器 高台付坏	14.4 (4.5) —	90%存。高台部欠失。ロクロ成形。底部底面は回転ヘラ切り後ナデ。高台部は貼り付け後ナデ。外面に漆と思われる染みあり。	チャート, 白色砂礫, 黒色粒, 針状物少	5Y5/1灰 5Y6/2灰オリーブ	良好 堅緻	
SI13	10	須恵器 高台付坏	10.8 4.6 7.0	60~70%存。ロクロ成形。底部底面は回転ヘラ切り後, 高台部を貼り付けナデ。口縁部外面に自然釉がかかる。	チャート, 白色砂礫, 黒色粒, 針状物少	10Y6/1灰 2.5Y6/2灰黄	良好 堅緻	
SI13	11	須恵器 盤	(16.0) 3.3 (8.9)	40~50%存。ロクロ成形。底部底面は回転ヘラケズリ。高台部は貼り付け後ナデ。	チャート, 白色砂礫, 黒色粒, 針状物微	N5/ 灰	良好 堅緻	
SI13	12	須恵器 盤	(21.7) 3.8 (12.0)	20%存。口縁部~底部。ロクロ成形。底部底面は回転ヘラケズリ。高台部は貼り付け後ナデ。外面から内面口縁部にかけて自然釉がかかる。	チャート, 黒色粒多, 針状物微	7.5YR5/1褐灰 10YR6/1褐灰	良好 堅緻	
SI13	13	須恵器 盤	(16.0) 3.7 (11.0)	20%存。口縁部~底部。ロクロ成形。高台部は貼り付け後ナデ。外面から内面口縁部にかけて自然釉がかかる。	チャート, 黒色粒多, 針状物微	N3/ 暗灰 2.5Y6/1黄灰	良好 堅緻	
SI13	14	須恵器 蓋	16.0 4.0 —	50~60%存。ロクロ成形。紐径3.0cm, 紐高1.1cm。天井部は回転ヘラケズリ。口端部は下方へ垂下させナデ。	白色砂礫, 針状物多	5Y6/2灰オリーブ	良好 堅緻	
SI13	15	須恵器 蓋	14.9 3.4 —	80%存。ロクロ成形。紐径2.6cm, 紐高1.1cm。天井部は回転ヘラケズリ。口端部は下方へ垂下させナデ。	白色砂礫, 砂礫, 針状物	N5/ 灰	良好 堅緻	
SI13	16	須恵器 蓋	(15.0) 4.6 —	40~50%存。天井部~口端部。紐径2.8cm, 紐高1.1cm。天井部は回転ヘラケズリ。口端部は下方へ垂下させナデ。	チャート, 白色砂礫, 黒色粒, 針状物微	10Y5/1灰	良好 堅緻	
SI13	17	須恵器 蓋	(16.3) 4.3 —	50%存。ロクロ成形。紐径3.0cm, 紐高1.1cm。天井部は回転ヘラケズリ。口端部は下方へ垂下させナデ。	白色砂礫, 砂礫, 黒色粒, 針状物	5Y5/2灰オリーブ	良好 堅緻	
SI13	18	土師器 甕	(21.8) (10.5) —	口縁部~胴部片。口縁部は内外面ともにヨコナデ。胴部は外面の上半がナデ, 下半が縦方向のヘラケズリ。内面がヘラナデ。	透明粒, 透明砂礫, 白色砂礫少	7.5YR3/2黒褐	普通	
SI13	19	土師器 甕	(22.0) (7.0) —	口縁部~胴部片。口縁部は内外面ともにヨコナデ。胴部は外面がナデ, 内面がヘラナデ。	透明粒, 白色砂礫多	5YR6/6橙 7.5YR6/6橙	やや 良好	
SI13	20	土師器 甕	(20.0) (9.0) —	口縁部~胴部片。口縁部は内外面ともにヨコナデ。胴部は外面が斜方向のヘラナデ, 内面が横方向のヘラナデで工具痕が目立つ。	透明粒, 黄白色粒, 針状物	7.5YR5/3にぶい橙 5YR4/6赤褐	良好	
SI13	21	須恵器 甕	(33.5) 26.5 (16.2)	20%存。口縁部~底部。胴部は外面が平行タタキ後ロクロナデ。内面がロクロナデ。底部穿孔周辺は外面が斜方向, 内面が横方向のヘラケズリ。把手部は貼り付け後ヘラナデ。	チャート, 白色砂礫, 針状物	7.5Y5/1灰 2.5Y6/2灰黄	良好 堅緻	
SI13	25	須恵器 円面硯	— (3.9) —	脚部片。ロクロ成形。方形の透かし。透かし間の脚中央に縦方向の切り込み。下位突帯は三角状。接地部は外側へ屈曲。内面に厚い自然釉がかかる。	白色砂礫少, 黒色粒, 針状物	N4/ 灰 10Y4/2オリーブ灰	良好 堅緻	
SI14	1	土師器 坏	(12.5) 3.1 (5.8)	20%存。口縁部~底部。ロクロ成形。体部下端から底部底面は手持ちヘラケズリ。	白色粒, 灰色粒, 角閃石・輝石類少, 針状物	7.5YR6/4にぶい橙 5YR6/6橙	普通	
SI14	2	土師器 坏	— (2.2) (7.4)	体部~底部片。ロクロ成形。底部底面は回転ヘラケズリ。	白色粒, 灰色粒, 透明粒, 針状物微	7.5YR7/6橙	良好	
SI14	3	土師器 坏	— (0.7) —	底部片。底部底面は回転ヘラケズリで, 墨書「口」あり。内面は黒色処理・密なミガキ(1方向)。	白色粒, 濃灰色粒, 針状物微	7.5YR6/4にぶい橙	やや 良好	

第2節 検出された遺構と遺物

遺構番号	図面番号	種類 器種	口径 器高 底径	部位・残存率・製作技法・その他特徴	胎土	色調 (外面/内面)	焼成	備考
SI14	4	土師器 坏又は椀	(15.8) (4.0) —	口縁部～底部片。ロクロ成形。内面は密なミガキ(横→斜方向)。	白色粒, 濃灰色粒, 灰色砂礫, 針状物	7.5YR6/6橙	良好	
SI14	5	土師器 椀	15.5 6.4 8.4	80%存。ロクロ成形。底部底面は回転ヘラ切り後未調整。高台部は貼り付け後ナデ。内面は黒色処理・密なミガキ(体部横方向, 底部1方向)。	白色粒, 灰色粒, 白色砂礫, 灰色砂礫少, 針状物	7.5YR5/3にぶい褐	やや 良好	
SI14	6	土師器 椀	— (3.5) 9.6	30～40%存。底部。底部底面は回転ヘラ切り後ナデ。高台部は貼り付け後ナデ。内面は密なミガキ。	白色粒多, 灰色粒多, 角閃石・輝石類, 針状物微	5YR4/8赤褐	良好	
SI14	7	灰釉陶器 椀	— (3.1) (9.0)	体部～底部片。底部底面は回転ヘラケズリ。高台部は貼り付け後ナデ。全体に釉がかかる。	白色粒微, 黒色粒	2.5Y6/3にぶい黄 7.5Y5/2灰オリーブ	良好 堅緻	
SI15	1	土師器 坏	— (1.8) (7.6)	体部～底部片。ロクロ成形。底部底面は回転糸切り後未調整。	白色粒, 濃灰色粒, 透明粒, 針状物	5YR6/6橙	良好	
SI15	2	土師器 坏	— (3.0) —	口縁部片。ロクロ成形。墨書「口」あり。	白色粒, 灰色粒	10YR6/4にぶい黄橙	やや 良好	
SI15	3	土師器 椀	(16.2) (5.9) —	70%存。高台部欠失。ロクロ成形。体部下端から底部底面は回転ヘラケズリ。高台部は貼り付け後ナデ。内面は黒色処理・密なミガキ(体部横方向, 底部不定方向)。	白色粒多, 砂礫, 針状物少	10YR4/2灰黄褐	普通	
SI15	4	土師器 坏	10.3 2.5 6.0	ほぼ完存。口縁部及び体部の一部を欠失。ロクロ成形。底部底面は回転糸切り後未調整。	白色粒, 白色砂礫, 灰色砂礫, 針状物	5YR4/8赤褐	普通	
SI15	5	土師器 甕	(20.0) (24.0) —	30～40%存。口縁部～胴部。口縁部は内外面ともにヨコナデ。胴部は外面の上半が斜方向のヘラケズリ, 下部が横方向のヘラケズリ。内面がナデで輪積痕が残る。	透明粒, 白色粒, 砂粒	5YR4/4にぶい赤褐 5YR3/1黒褐色土	普通	
SI16	1	土師器 坏又は椀	(15.8) (3.3) —	口縁部～底部片。ロクロ成形。内面は黒色処理・密なミガキ(横方向)。	白色粒, 灰色粒, 角閃石・輝石類	10YR5/4にぶい黄褐	普通	
SI16	2	土師器 坏	— (2.2) (8.0)	体部下端～底部片。ロクロ成形。外面調整は摩耗顕著で不明。内面は黒色処理・密なミガキ(体部横方向, 底部1方向)。	透明粒, 灰色粒多, 角閃石・輝石類, 針状物	7.5YR7/4にぶい橙	普通	
SI17	1	須恵器 坏	(14.0) (4.6) —	口縁部片。ロクロ成形。	チャート, 白色粒, 針状物	2.5Y6/2灰黄	良好 堅緻	
SI17	2	須恵器 坏	— (0.9) (8.0)	底部片。ロクロ成形。底部底面は回転ヘラ切り後ナデで, 切り離し痕が残る。	チャート, 白色砂礫, 灰色粒, 針状物	2.5Y7/3浅黄 10YR7/4にぶい黄橙	やや 良好	
SI17	3	須恵器 坏	— (1.4) (8.0)	底部片。底部底面は回転ヘラ切り後ナデ。	白色砂礫, 針状物	5Y5/1灰	良好 堅緻	
SI17	4	土師器 甕	— (1.7) (7.6)	底部片。底部底面は木葉痕。	透明砂粒, 白色砂礫多, 針状物微	5YR5/6明赤褐 7.5YR5/3にぶい褐	良好 堅緻	
SI18	1	土師器 坏	10.0 2.8 6.6	ほぼ完存。口縁部の一部を欠失。ロクロ成形。底部底面は回転糸切りで周縁部ナデ。	白色粒, 濃灰色粒, 灰色砂礫, 針状物	7.5YR6/6橙	良好	
Pit01	1	須恵器 坏	(13.0) 4.0 7.0	50%存。ロクロ成形。底部底面は回転ヘラケズリ。	チャート少, 白色砂礫, 針状物	5Y5/1灰	良好 堅緻	
Pit01	2	須恵器 坏	(13.5) 4.0 (9.0)	40～50%存。ロクロ成形。体部下端～底部底面にかけて回転ヘラケズリ。外部一部に自然釉がかかる。	白色粒多, 灰色粒, 白色砂礫	7.5Y5/1灰 5Y5/1灰	良好 堅緻	
Pit01	3	須恵器 高台付坏	— (4.2) 13.5	50%存。体部～底部。ロクロ成形。底部底面は回転ヘラケズリ。高台部は貼り付け後ナデ。	チャート少, 白色砂礫, 黒色粒, 針状物	N3/ 暗灰 10Y5/1灰	良好 堅緻	
Pit26	1	須恵器 蓋	(16.0) (1.8) —	天井部～口端部片。口端部は内面にかえりを持つ。	雲母, 白色砂礫多, 砂粒多	2.5Y7/2灰黄	普通	新治窯跡産
Pit36	1	須恵器 蓋	(18.0) (2.4) —	天井部～口端部片。天井部は回転ヘラケズリ。口端部は先端部をつまみ出しナデ。	チャート, 白色砂礫少, 針状物微	2.5Y7/3浅黄	良好 堅緻	
Pit37	1	須恵器 坏	(12.5) 3.8 (8.0)	口縁部～底部片。ロクロ成形。底部底面は回転ヘラ切り。	チャート, 白色砂礫, 針状物	7.5Y4/1灰 5Y4/1灰	良好 堅緻	
Pit68	1	土師器 坏	(15.8) (5.1) —	20%存。口縁部～体部。口縁部は内外面ともにヨコナデ。体部は外面がヘラケズリ後斜方向のミガキ。内面が不定方向の密なミガキ。	白色粒, 針状物	2.5Y3/2黒褐 2.5Y4/2暗灰黄	普通	
Pit84	1	土師器 坏	(13.8) (3.9) —	口縁部～底部片。口縁部は内外面ともにヨコナデ。体部は外面が横方向のヘラケズリ, 内面はヨコナデ。	白色粒, 透明粒, 針状物微	5YR4/6赤褐	良好	
SE01	1	陶器 高台付皿	(13.0) 3.2 (8.2)	20～30%存。口縁部～底部。ロクロ成形。底部底面は回転ヘラケズリ。高台部は貼り付け後ナデ。全体に施釉。	黒色粒少	7.5Y6/2灰オリーブ	良好	

第3章 調査の成果

遺構番号	図面番号	種類 器種	口径 器高 底径	部位・残存率・製作技法・その他特徴	胎土	色調 (外面/内面)	焼成	備考
SE01	2	土師質 土器 皿	(5.8) 1.3 (4.8)	30%存。ロクロ成形。小型。底部底面は回転糸切り。	白色粒微, 黒色粒少	7.5YR6/6橙	良好	
SE01	3	陶器 土瓶	(10.6) (4.7) —	口縁部～体部片。吊り手の受け部残存。外面全体から内面口縁部にかけて鉄軸がかかる。	黒色粒少	7.5YR3/2黒褐 2.5Y6/2灰黄	良好 堅緻	
SK04	1	土師器 杯	10.2 2.9 5.0	80～90%存。ロクロ成形。底部底面は回転ヘラ切り後未調整。	黄白色粒, 灰色粒, 灰色砂礫, 針状物微	10YR6/3にぶい黄橙	やや 良好	
SK04	2	土師器 杯	10.0 2.8 5.0	70～80%存。ロクロ成形。底部底面は回転糸切り後、一部をヘラナデ。内面は黒色処理・密なミガキ(体部横方向, 底部不明)。	白色粒, 灰色粒, 針状物	10YR7/4にぶい黄橙	やや 良好	
SK04	3	土師器 杯	(10.0) 2.1 (6.0)	30%存。ロクロ成形。底部底面は回転ヘラ切り後未調整。	白色粒, 針状物	10YR3/1黒褐 10YR4/2灰褐	普通	
SK07	1	土師器 杯	(13.0) 3.3 (7.0)	20%存。ロクロ成形。底部底面はナデ。	白色粒, 砂粒, 砂礫, 針状物微	7.5YR6/8橙	やや 良好	
SK07	2	土師器 杯	(14.8) (4.4) —	口縁部～体部片。ロクロ成形。内面は黒色処理・密なミガキ(体部横方向)。器壁薄手。	金雲母多, 濃灰色粒	7.5YR7/4にぶい橙	やや 良好	
SK07	3	土師器 杯	— (2.4) —	口縁部～体部片。ロクロ成形。内面は黒色処理・密なミガキ(体部横方向)。体部外面に墨書「□」あり。	白色粒, 灰色粒	10YR7/3にぶい黄橙	やや 良好	
SK07	4	土師器 甕	(14.8) (5.0) —	口縁部～胴部片。口縁部は内外面ともにヨコナデ。胴部は外面が横方向のヘラケズリとナデ, 内面が横方向のヘラナデ。	透明粒, 白色粒, 黒色粒	10YR5/3にぶい黄褐 7.5YR8/4浅黄橙	普通	
SK09	1	土師器 杯	(12.8) (2.6) —	口縁部～体部片。ロクロ成形。体部外面に墨書「内カ」あり。	白色粒, 灰色粒, 白色砂礫, 針状物	7.5YR5/4にぶい褐	良好	
SD01	1	土師器 椀	— (1.6) (5.0)	体部～底部片。ロクロ成形。底部底面は回転糸ヘラ切り。高台部は幅広く貼り付けナデ。	砂粒, 白色砂礫少, 針状物微	7.5YR6/6橙 7.5YR5/6明褐	やや 良好	
SD01	2	須恵器 杯	(13.0) 3.8 (9.0)	30～40%存。ロクロ成形。底部底面は回転ヘラケズリで、二次底部面あり。	白色砂礫少, 黒色粒, 針状物少	2.5Y7/1灰白	良好 堅緻	
SD01	4	陶器 播鉢	— (4.3) —	口縁部～体部片。口縁部は内外面ともにヨコナデで、外面は直下に一段の突帯, 内面は2条の沈線を巡らす。内面は5本単位の播目を全体に施す。内外面全体に鉄軸がかかる。	白色砂礫多, 灰色砂礫多, 黒色粒	7.5YR4/3褐	良好 堅緻	
SD01	5	瓦質土器 火鉢	— (7.7) —	口縁部～体部片。内外面ともに器面荒れ。口縁部は外面直下に2条の沈線を巡らす。沈線間に花文等貼り付け痕あり。	白色粒, 砂粒	2.5Y7/2灰黄	やや 良好	
SD02	1	土師器 杯	— (1.0) 6.6	底部片。ロクロ成形。体部下端は手持ちヘラケズリで、墨書がわずかに認められる。底部底面は回転糸切り後手持ちヘラケズリ。内面は黒色処理・密なミガキ(底部1方向)。	黄白色粒多, 針状物	10YR6/4にぶい黄橙	良好	
SD02	2	土師器 椀	— (2.5) —	体部～底部片。高台部欠失。高台部は貼り付け。内面は密なミガキ(体部横方向, 底部不明)。	黄白色粒, 濃灰色粒, 針状物微	7.5YR6/4にぶい橙 7.5YR7/4にぶい橙	やや 良好	
遺構外	1	土師器 杯	(15.8) (3.5) —	口縁部～体部片。口縁部は内外面ともにヨコナデ。体部は外面が不定方向のヘラケズリ, 内面はヨコナデ。	灰色粒, 濃灰色粒, 角閃石・輝石類	10YR6/4にぶい黄橙 10YR7/4にぶい黄橙	やや 良好	
遺構外	2	須恵器 高台付杯	— (2.2) (9.0)	体部～底部片。ロクロ成形。底部底面は回転ヘラケズリ。高台部は貼り付け後ナデで、接地部は面取り。	チャート, 白色粒, 黒色粒, 針状物	5Y5/1灰	良好 堅緻	
遺構外	3	須恵器 甕	(24.6) (7.7) —	口縁部～胴部。口縁部は内外面ともにヨコナデ。胴部の外面は縦方向の平行タタキ。内面が横方向のヘラナデ。外面は自然釉が剥離し、頸部でわずかに残存。	チャート, 白色粒, 白色砂礫少, 針状物	N6/ 灰 N4/ 灰	良好 堅緻	
遺構外	4	須恵器 円面硯	— (2.1) —	脚部片。透しあり。下位突帯は三角状。内外面全体に自然釉がかかる。	チャート, 黒色粒, 針状物微	7.5Y4/1灰 2.5Y7/4浅黄	良好 堅緻	

第9表 出土遺物観察表(瓦)

出土地点	図版番号	全長 (cm)	厚さ (cm)	凹面痕跡・調整	凸面痕跡・調整	胎土・鉱物	色調 (凹面 : 凸面)	焼成	備考
SI13	22		2.0～ 2.3	成形:布目圧痕 調整:なし	成形:— 調整:横方向ナデ, 狭端縁 雑なヘラケズリ	白色砂粒, 白色砂礫, 角閃石・輝石類, 針状 物	7.5YR6/6橙: 5YR5/6明赤褐		丸瓦。有段式の玉縁部片。狭端面及び右側 面残存。右側端面取り2回。
SI13	23		1.8～ 1.9	成形:布目圧痕・糸切り 調整:側縁部ヘラケズリ	成形:— 調整:横→縦方向ヘラナ デ・側縁部ヘラケズリ	白色粒, 角閃石・輝石 類	7.5YR5/3にぶい褐: 10YR6/4にぶい黄 橙		丸瓦。狭端部片。狭端面及び右側面残存。 側部面取り2回。凹面全体に赤彩。
SI13	24		2.1	成形:布目圧痕 調整:なし	成形:長縄タタキ 調整:側縁部ヘラケズリ	透明粒, 白色粒, 白色 砂礫	10YR6/6橙: 10YR5/3にぶい黄 褐		平瓦。右側端部片。側部面取り2回。

第10表 出土遺物観察表（土製品）

遺構番号	図面番号	種類 器種	部位・残存率・製作技法・その他特徴	胎土	色調	焼成	備考
SI13	26	土製品 土玉	径:2.8cm 厚さ:2.2cm 孔径:0.4cm 重量:17.2g 90%存。調整はヘラナデか。穿孔は焼成前。	砂粒多,角閃石・輝石類	7.5YR5/4にぶい褐	普通	
SI16	3	土製品 転用砥石	長さ:10.5cm 幅:7.8cm 厚さ:1.2~1.5cm 重量:120.0g 完存。筋砥石。須恵器甕胴部破片を転用。外面に筋2条。ももとの胴部片は平行タタキ調整に自然釉がかかる。焼成は良好堅緻。	チャート,透明粒,黒色粒,針状物	2.5Y4/1黄灰 N5/ 灰	良好 堅緻	
SD01	3	土製品 転用砥石	長さ:11.6cm 幅:5.9cm 厚さ:1.2cm 重量:122.0g 須恵器瓶類の胴部片を転用し,主として側面を用いる。須恵器としては外面に格子状のタタキ後カキメを施文。内面は同心円状の当て具痕。	白色粒,黒色粒	2.5Y5/1黄灰 5Y5/1灰	良好 堅緻	

第11表 出土遺物観察表（石製品）

遺構番号	図面番号	種類 器種	部位・残存率・製作技法・その他特徴	備考
SI10	21	石製品 砥石	全長:9.4cm 幅:6.5cm 厚さ:0.5~2.6cm 重量:160.1g 石材:頁岩 完存。表裏面及び片面側面を使用。	
SE01	4	石製品 砥石	全長:12.0cm 幅:3.6cm 厚さ:1.3~2.2cm 重量:85.0g 石材:泥岩 完存。磨り面は表裏2面。	
SE01	5	石製品 砥石	全長:5.7cm 幅:4.9cm 厚さ:1.2~1.7cm 重量:80.0g 石材:砂岩 磨り面は表裏面及び左右側面。裏面に用途不明な抉りあり。	

第12表 出土遺物観察表（鉄製品）

遺構番号	図面番号	種類 器種	部位・残存率・製作技法・その他特徴	備考
SI10	22	鉄製品 刀子	全長:(8.8cm) 身(4.4cm) 茎(4.4cm), 幅:身1.4cm 茎0.8~1.4cm, 厚さ:身0.1~0.5cm 茎0.2~0.3cm, 重量:15.1g 両関あるとみられるが,片側は錆付着で不明瞭。	
SI11	26	鉄製品 刀子	全長:(7.1cm) 身(4.7cm) 茎2.4cm, 幅:身1.1cm 茎:0.7cm, 厚さ:身0.1~0.4cm 茎0.3~0.4cm, 重量:9.4g 切先欠失。錆化顕著。	
SI13	27	鉄製品 刀子	全長:8.0cm, 幅:身1.3cm 茎0.9cm, 厚さ:身0.1~0.4cm 茎0.2~0.3cm, 重量:9.8g 錆顕著で関部不明瞭。	
SI18	2	鉄製品 刀子	全長:(9.1cm), 幅:1.1~1.3cm, 厚さ:0.1~0.4cm, 重量:14.5g 身部分。切先欠失。茎側は錆化顕著で不明。	
SI18	3	鉄製品 刀子	全長:8.2cm, 幅:身0.8cm 茎0.8cm, 厚さ:身0.1~0.3cm 茎0.3cm, 重量:6.0g ほぼ完存か。短小。関は認められず。錆化顕著。	

第13表 出土遺物集計表（弥生時代）

出土位置	壺類																鉢類		高坏					
	キザミ口縁		複合口縁		櫛描文		押捺隆帯		縄文(単節)		縄文(付加条)		縄文(無節)		無文		底部(木葉)		底部(布)		頸部・底部		口縁	
	個体	破片	個体	破片	個体	破片	個体	破片	個体	破片	個体	破片	個体	破片	個体	破片	個体	破片	個体	破片	個体	破片	個体	破片
SI01				3		9				2		23		1		1		2		1				
SI02		1		11		15		2		36		101				11		25		2			2	1
SI03		2				5		1		20								1						
SI04										1														
SI05						1						1												
SD01												1						1						
SX01										1														
合計	0	3	0	14	0	30	0	3	0	60	0	126	0	1	0	12	0	29	0	3	0	2	0	1

(単) → 単節縄文 (付加条) → 付加条縄文 (無節) → 無節縄文 (木葉) → 木葉痕 (布) → 布目痕

第3章 調査の成果

第14表 出土遺物集計表（奈良・平安時代以降）

遺構	土師器																須恵器															
	坏(非口)		坏(口)		坏(内黒)		高台付坏・碗		碗(内黒)		皿		甕		甗		鉢		高坏		坏		高台付坏		皿		蓋		蓋(新治)			
	個体	破片	個体	破片	個体	破片	個体	破片	個体	破片	個体	破片	個体	破片	個体	破片	個体	破片	個体	破片	個体	破片	個体	破片	個体	破片	個体	破片	個体	破片	個体	破片
SI01																																
SI02		2		4		3									23								9		1				1		5	
SI03															39								2	35	4	7					11	
SI04			1	9		2		1		1					24								5							1		
SI05				6		4		1		1					24								4		2					3		
SI06				1		1									27								12		2				1		6	
SI07	欠番																															
SI08					1	2									26							1	4		3		1			1		
SI09			1	3	1	5				1					22		1				1		2		1							
SI10				3	1	8				1	1		1		176		1		1				4	74		7	3			4	4	
SI11				8											194								6	145	3	34			1	16	75	
SI12															11																	
SI13		8													507								5	122	5	19			29	3	42	
SI14				10		15		8	1				2		70		2		3				10		1					1		
SI15				16	1	23		1		1					99				1				15		4					2		
SI16				2		5									155								33		7			6		18		
SI17						1									8								12							4		
SI18			1												3																	
Pit01															3								1	2		1						
Pit02															6									2								
Pit06															3																	
Pit07															3																	
Pit09															1																	
Pit10																							1									
Pit17																							1									
Pit20															1																	
Pit21															8																	
Pit23																																
Pit25															4																	
Pit26		1													3														1		1	
Pit27		2													16			1												1		
Pit28															6																	
Pit29															1																1	
Pit30															2																	
Pit31															1																	
Pit34															7									1							2	
Pit36															18															3		
Pit37															4									1								
Pit38															9			1														
Pit42															1																1	
Pit44															2									1								
Pit45															5																	
Pit51															1									1								
Pit52																									1							
Pit62															2																	
Pit64															1																1	
Pit68		1													4																	
Pit72		1													1																	
Pit74																														1		
Pit75		1																														
Pit77															2																	
Pit84		5													4																	
Pit85															1																	
Pit86															1																	
Pit88															3																	
Pit90															1																	
SK01																																
SK02																																
SK03	欠番 ※SE01に変更																															
SK04				4											4																	
SK05															1								2		1							
SK06						1									1									1								
SK07				7		10		3		1					45			2					6		3							
SK08				1											4																	
SK09				4		1									2									1								
SK10																																
SK11																																
SK12															1																	
SK13				1											10									11							1	
SD01				2		2		1		2					16				6				33		6			2		3		
SD02				1		1		1		2					20								7		4			1				
SE01								3							16			1					4		2						2	
SX01															7									2								
SX02																																
C2ｸﾞﾘｯﾄﾞ				1																												
D2ｸﾞﾘｯﾄﾞ															3																	
F2ｸﾞﾘｯﾄﾞ															1																	
G2ｸﾞﾘｯﾄﾞ																															1	
H1ｸﾞﾘｯﾄﾞ						1									7																	
H2ｸﾞﾘｯﾄﾞ															1																	
I2ｸﾞﾘｯﾄﾞ								1							8																	
表採				1		1				2					21																2	
合計	0	21	3	85	4	86	0	19	2	14	0	3	0	1701	0	5	0	15	0	1	19	569	12	109	3	1	1	61	3	192	0	1

第2節 検出された遺構と遺物

遺構	須恵器														陶磁器		瓦						土製品				石製品		鉄製品		土器類						
	甕		甕(新治)		甗		鉢		壺・瓶類		高坏		円面硯		コップ型		(灰釉)		丸瓦		平瓦		熨斗瓦		支脚(土玉)		転用砥石		砥石		鎌・刀子等		土器		手捏		
	個体	破片	個体	破片	個体	破片	個体	破片	個体	破片	個体	破片	個体	破片	個体	破片	個体	破片	個体	破片	個体	破片	個体	破片	個体	破片	個体	破片	個体	破片	個体	破片	個体	破片	個体	破片	
SI01																																					
SI02																																					
SI03																																					
SI04																																					
SI05																																					
SI06																																					
SI07																																					
SI08																																					
SI09																																					
SI10																																					
SI11																																					
SI12																																					
SI13																																					
SI14																																					
SI15																																					
SI16																																					
SI17																																					
SI18																																					
Pit01																																					
Pit02																																					
Pit06																																					
Pit07																																					
Pit09																																					
Pit10																																					
Pit17																																					
Pit20																																					
Pit21																																					
Pit23																																					
Pit25																																					
Pit26																																					
Pit27																																					
Pit28																																					
Pit29																																					
Pit30																																					
Pit31																																					
Pit34																																					
Pit36																																					
Pit37																																					
Pit38																																					
Pit42																																					
Pit44																																					
Pit45																																					
Pit51																																					
Pit52																																					
Pit62																																					
Pit64																																					
Pit68																																					
Pit72																																					
Pit74																																					
Pit75																																					
Pit77																																					
Pit84																																					
Pit85																																					
Pit86																																					
Pit88																																					
Pit90																																					
SK01																																					
SK02																																					
SK03																																					
SK04																																					
SK05																																					
SK06																																					
SK07																																					
SK08																																					
SK09																																					
SK10																																					
SK11																																					
SK12																																					
SK13																																					
SD01																																					
SD02																																					
SEO1																																					
SX01																																					
SX02																																					
C2ｸﾞﾘｯﾄﾞ																																					

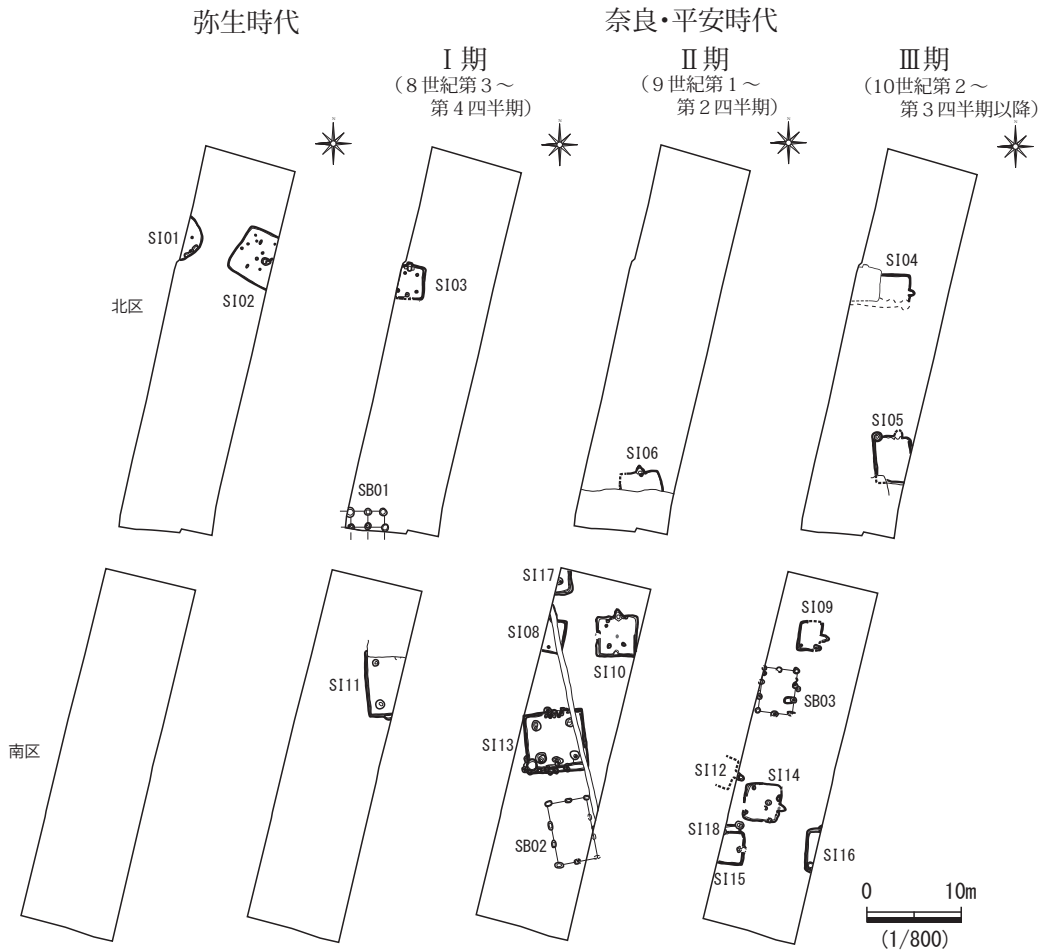
第4章 総括

1. 土地利用の変遷

本地点で最初に生活の痕跡が認められるのは弥生時代からである。該期の遺構は竪穴住居跡 SI01・02 が中心で、後続する古墳時代以降の遺構に混入する弥生土器の範囲を見ても、調査区の北側に偏在しており、弥生時代における生活の痕跡は台地縁辺部を中心に広がっていたと想定される。この2軒は形態及び規模に差異があり、さらに出土した弥生土器からは、小玉秀成氏による形式変化の検証を参考にして、時期的な前後関係が捉えられた。SI01 は形態的に丸みを持ち、規模は5 m以内とみられる。出土土器は頸部文様に2本単位の施文具が主体的に用いられており、伊勢林前式期に相当する。一方、SI02 は方形又は長方形を呈し、一辺が5 m以上の規模を有している。出土土器は頸部文様に3本単位の施文具が主体的に用いられ、連弧文や格子状文、波状文が施されている。連弧文は同じ向きで重層化しているものや連弧文が形骸化したような波状文も認められることから、小玉氏により細分化された東中根 1b 式期に相当すると考えられる。いずれも後期の前半段階に位置づけられるが、土器の形式から、SI01 が先行し、その後 SI02 が営まれたであろうということが理解された。

弥生時代に続く古墳時代では、竪穴建物跡等明瞭な遺構は伴わないものの、7世紀末から8世紀初頭の所産とみられる遺物が、数基のピットや遺構外から散見されている。

奈良・平安時代になると再度集落としての発展がみられる。佐々木義則氏の須恵器における年代観



第 55 図 遺構変遷図

を参考に出土遺物から見た遺構の変遷は、3期にわたると考えられる。堅穴建物跡では8世紀代後半になってSI03・11が出現し、遺構規模の違いから時期差を伴っていると思われる。9世紀代前半頃までにはSI06・08・10・13・17が中央部を中心に継続しているが、こちらも建物の規模に差があり、大型のSI13からSI06・10、さらにはSI08と徐々に小型化し、建物内の支柱穴も消滅していく構造に変化するようである。9世紀代後半段階には一旦空白期を迎えるものの、10世紀代になって再び集落が展開するようになる。10世紀前半段階に位置づけられるSI05があり、カマドの配置や遺構形態からSI16も同様の時期の可能性もある。中葉段階になるとSI04・09・12・15といった東壁にカマドを有した堅穴建物跡が南区を中心として多少の時期差を伴いながらもほとんど同時期に営まれていったようである。一方、掘立柱建物跡は出土遺物が乏しく詳細な年代は不明瞭であるが、他の遺構との新旧関係や主軸方向等から推測してみると、各時期に分けることができる。総柱建物跡になると思われるSB01は、9世紀代のSI06・17と近接することから構築時期は8世紀代後半と考えられるが、主軸方向から見ると、あるいはSI13と同時期の可能性もある。SB02は10世紀代のSI14・16、SD02に切られ、主軸方向から見ても9世紀代に構築されたと思われる。各柱穴の掘り方が方形状に近い整った形態である。SB03は9世紀代のSI13を切り、さらに主軸方向は10世紀代の堅穴建物跡と同様の方向を示している。建物跡以外では、溝跡2条が確認され、ともに奈良・平安時代の建物跡を切り込んで構築されている。その内、SD02は幅が狭く浅い溝で10世紀代の遺物が出土しているが、同時期の堅穴建物跡とは主軸方向が揃わず、配置的にみても関連性はあまりうかがえない。それに対しSD01は規模的に大きく、検出当初は集落を圍繞する区画溝を想定した。しかし、SB01を一部切り込むことや、断面形状が菓研状で、箱状もしくは逆台形が一般的される官衙的な区画溝とは異なる。さらに、隣接地の調査（第8地点第4次）においてSD02より新しいことが分かり、混入したとみられる出土遺物の中には中・近世の陶器片がわずかながら含まれていることや、周辺では中世館跡が点在するなどの環境を考えると、中世以降まで下ることも否定できないが、現段階での時期は不明瞭である。

その後の集落としての痕跡は認められなかったが、近世遺物を伴う井戸跡（SE01）、土坑（SK13）が南区で検出されおり、近世以降も土地利用が継続されていったと考えられる。

2. 奈良・平安時代集落の性格

集落の主体となる時期は奈良・平安時代で、前述したように8世紀代後半、9世紀代前半、そして10世紀以降の3時期の変遷が理解されたが、ここではそれぞれの時期における集落としての性格を考えてみたい。

8世紀代後半から9世紀代前半にかけての集落の性格を考える上で参考となる遺物が文字関係資料の出土である。本地点からは、墨書土器8点（SI03-2, SI05-3, SI10-3・12, SI14-3, SI15-2, SK07-3, SK09-1）と、関連する遺物として小破片ながら円面硯2点（SI13-25, 遺構外-4）が出土している。本地点で出土した墨書土器の中で文字として認識できるものは4点あり、その内3点は「禾」という文字が含まれている。この文字の墨書土器を出土したのはSI03-2, SI10-3・12で、新漢語林によると「①いね（稲）、②穀物・穀類の総称、③なえ（苗）・穀物の苗、④わら・穀類の茎、⑤穀物の穂が出たもの」という意味を持つ。さらに、SI03-2には「罌」（岡の俗字）が合わさっている。川崎保氏の分析によると「禾」は「アワ」と読まれた可能性を指摘し穀物全般を指す文字であること、出土例が多い下総国では現代でも穀物類の生産量が多い地域にあたるこ

第4章 総括

とから、墨書資料と地域との関連性に注目している。東前原遺跡周辺域で墨書土器と硯の組み合わせが認められる遺跡は珍しくはなく、本遺跡が立地する同じ台地上の南東域に所在する平戸地区は平津駅家の推定地であることから、駅家の正倉遺構が想定される床束建物跡を検出した大串遺跡第7地点、古代芳賀郡芳賀郷中心地の可能性が高い梶内遺跡をはじめとした官衙的集落が点在している。それらに比べて本地点の文字資料はかなり少ないが、SB01は全容が把握されないものの総柱建物跡になる可能性があり、倉であることも連想される。穀物類を示した墨書土器と合わせて考えると、大串遺跡、梶内遺跡などの中心的集落に関連し、補完的な役割を担った集落である可能性は十分にあり得る。

9世紀代後半には一旦途絶えていた集落の痕跡が、10世紀代になって再び認められる。多少の時期差は伴うであろうが、中葉段階ではカマドの配置から見た遺構形態や出土遺物の様相からもほぼ同時期の竪穴建物跡が一気に増加したことは明らかで、何らかの画期があったことは容易に推測することができる。折しも常陸国は親王国家としての位置づけから受領の土着化が進み、開発領主支配が強まった頃である。935年には平将門の乱が勃発した時期とも重なり、その騒乱の影響を受けた関東一円の不安定な情勢の中で、同時期の竪穴建物跡の集中は開発を一気に進めるための人力を集約する必要に迫られたと考えられる。本地点でみられるような集中した竪穴建物跡群が形成されたのではないだろうか。

そして区画溝になる可能性が高いSD01の存在である。規模から見て官衙的な公共性の強い集落を圍繞したと考えられる区画溝か、もしくは村落領主などの居宅の区画溝か、あるいは周辺に中世方形館が点在することから同様の遺構に関連する区画溝などを視野に入れなければならぬであろう。しかしながら、官衙的集落については、大串遺跡第7地点で正倉遺構とされた床束建物跡を圍繞する溝跡の断面形が薬研状である点は一致するものの、本地点では倉の可能性のあるSB01を切って構築されているなど疑問も残る。一方では、居宅等については区画の範囲が広大過ぎるようであり、さらに方形館については関連する遺構や出土遺物がほとんど認められないことなど、いずれも確証を得られていないのが現状である。その区画した目的が何に起因するものか今次調査で解明することができなかったが、近接地では継続的に調査が進められており、それらの成果から明らかにされていくことを期待したい。

(高野)

【参考・引用文献】

- 飯村 均 2001「平安期・鎌倉期の城館」『図解・日本の中世遺跡』小野正敏編 東京大学出版会
小川和博・大淵敦志 2008『大串遺跡（第7地点）』水戸市埋蔵文化財調査報告第14集 水戸市教育委員会
櫻村宣行 1995『梶内遺跡 一般国道6号東水戸道路改築工事地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ』
茨城県教育財団文化財調査報告第100集 茨城県教育財団
小玉秀成 2010「東中根1式土器の細分とそれに併行する土器群」『茨城県考古学協会誌』第22号 茨城県考古学協会
川崎 保 2009「禾（アワ）墨書土器に関する小考」『信濃』第61巻第4号 信濃史学会
佐々木義則 1995「木葉下窯跡群杯AⅠの変化について」『婆良岐考古』第17号 婆良岐考古同人会
佐々木義則 2013「木葉下窯跡群産有台杯・有台杯蓋・有台蓋の編年」『婆良岐考古』第35号 婆良岐考古同人会
山中敏史 2003「官衙建物の遺構」『古代の官衙遺跡Ⅰ遺構編』独立行政法人文化財研究所奈良文化財研究所

写真図版



北区全景（北から）



南区全景（南から）

図版 2



SI01 全景 (東から)



SI02 全景 (北西から)



SI02 炉近景 (北西から)



SI02 遺物出土状況 (南から)



SI03 全景 (南から)



SI04 全景 (南から)



SI05 全景 (西から)



SI06 全景 (南から)



SI08 全景 (南から)



SI08 遺物出土状況 (南から)



SI09 全景 (西から)



SI09 遺物出土状況 (西から)



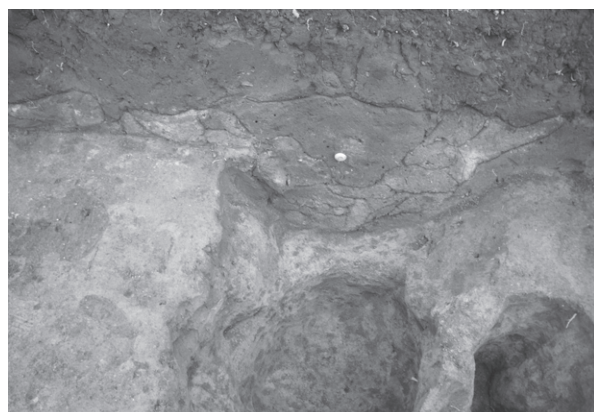
SI10 全景 (南から)



SI10 カマド 遺物出土状況 (南西から)



SI11 全景 (南から)

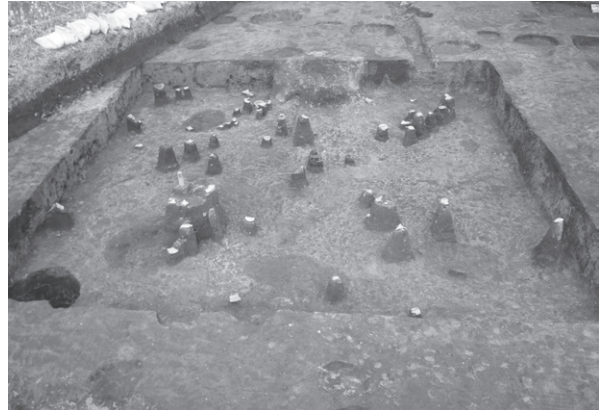


SI12 カマド 完掘全景 (東から)

図版 4



SI13 全景 (南から)



SI13 遺物出土状況 (南から)



SI14 全景 (西から)



SI15・18 全景 (西から)



SI16 全景 (南から)



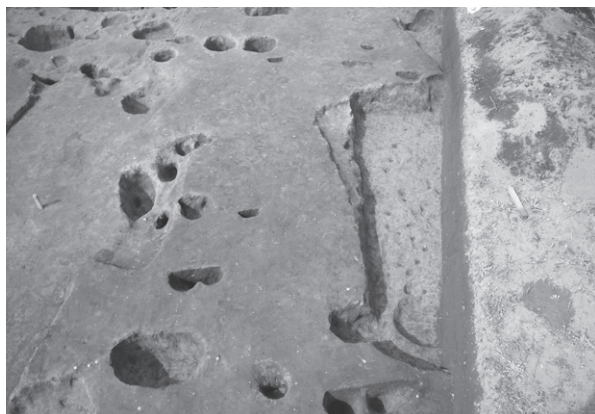
SI17 全景 (南から)



SB01・SX01 全景 (西から)



SB01・Pit18 土層断面 (北から)



SB02 全景 (南から)



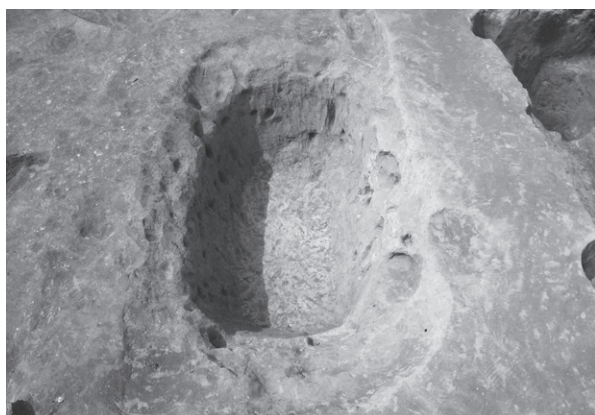
SB03 全景 (南から)



SE01 全景 (東から)



SK04 土層断面・遺物出土状況 (西から)



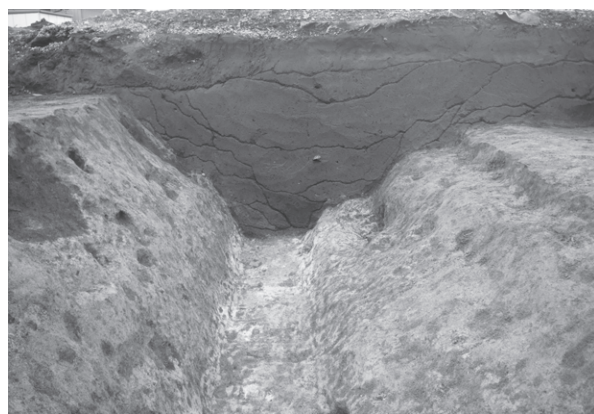
SK07 全景 (東から)



SX02 全景・土層断面 (西から)

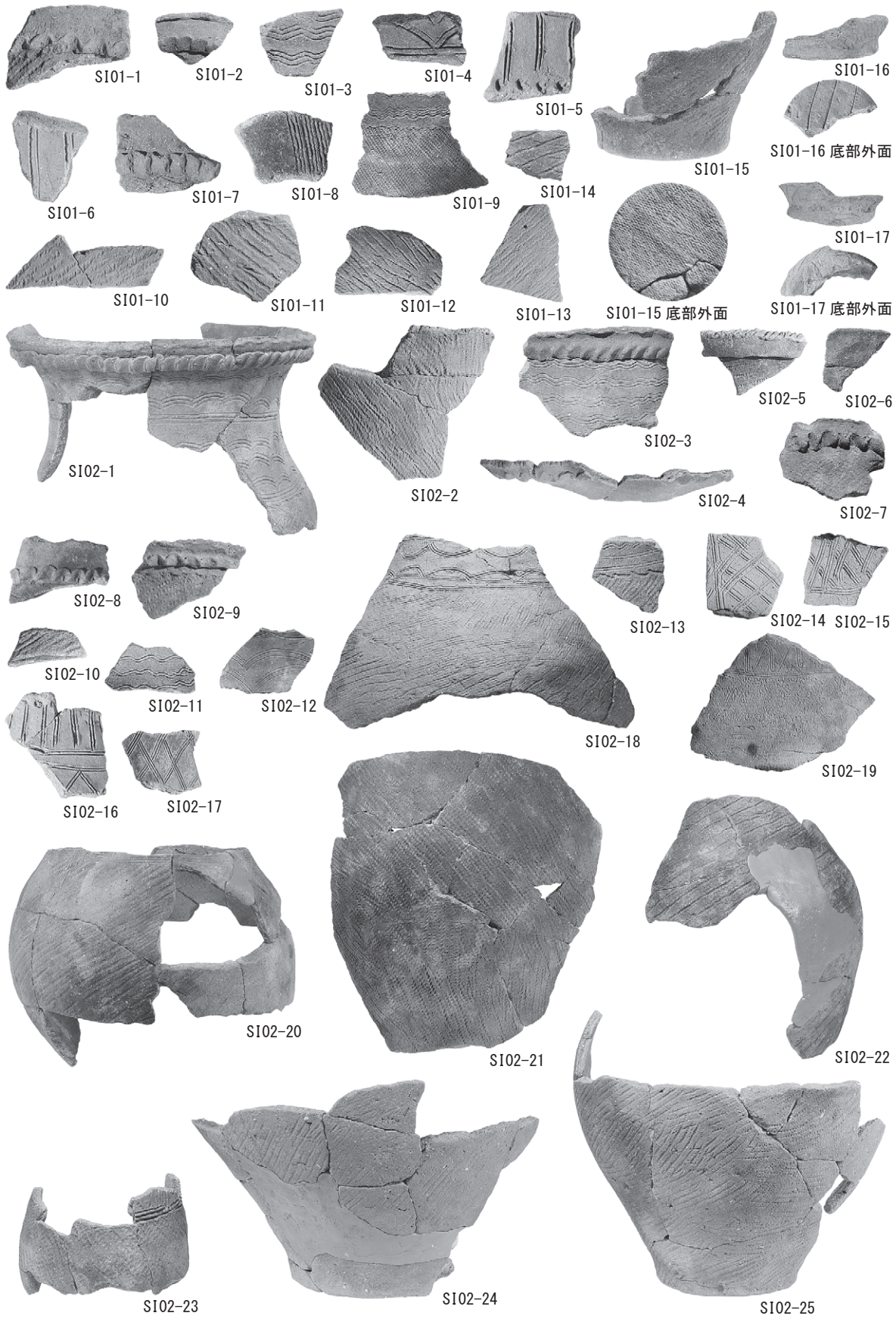


SD01 全景 (東から)

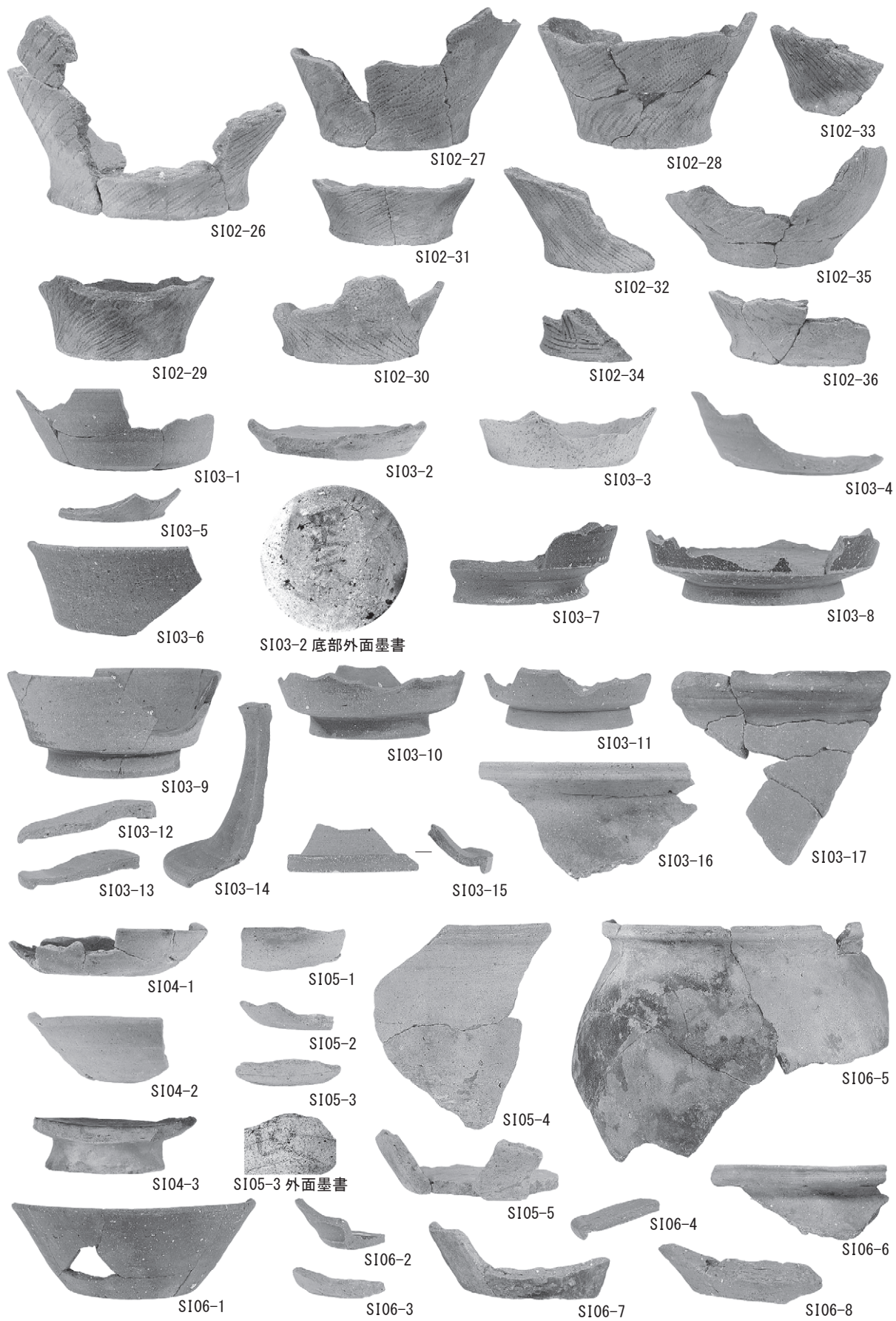


SD01 土層断面 (東から)

图版 6

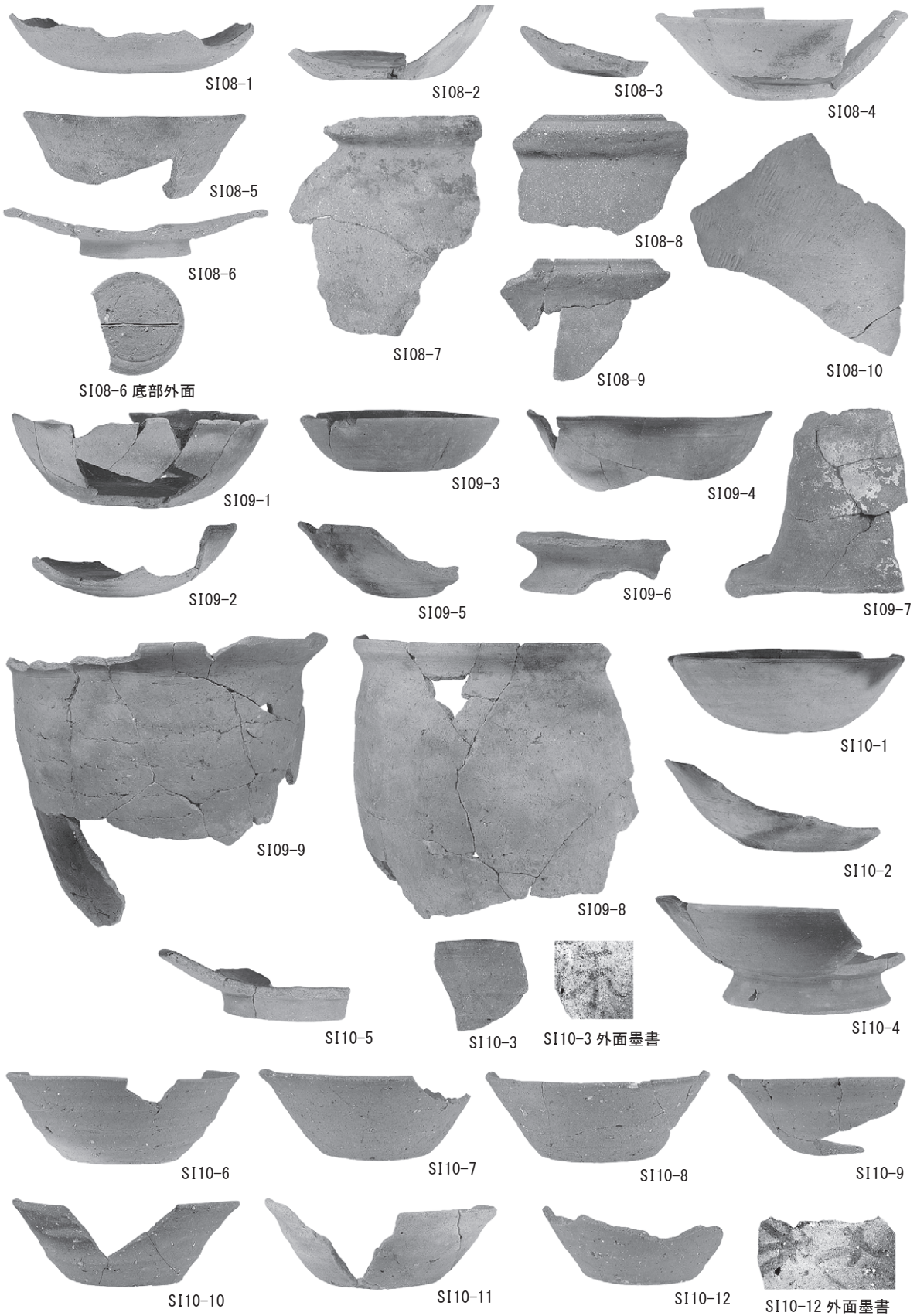


SI01·02(1) 出土遺物

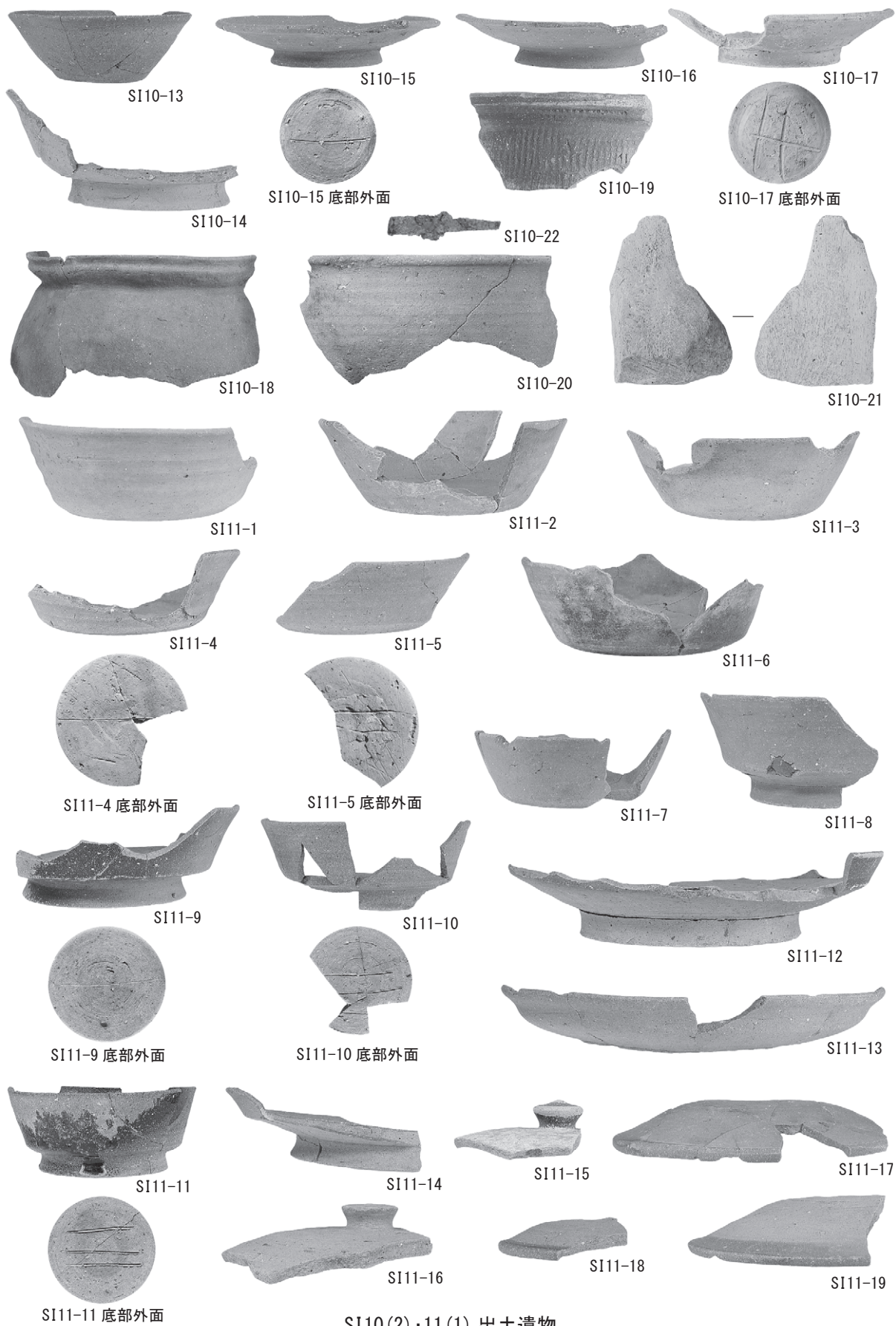


S102 (2) · 03 · 04 · 05 · 06 出土遺物

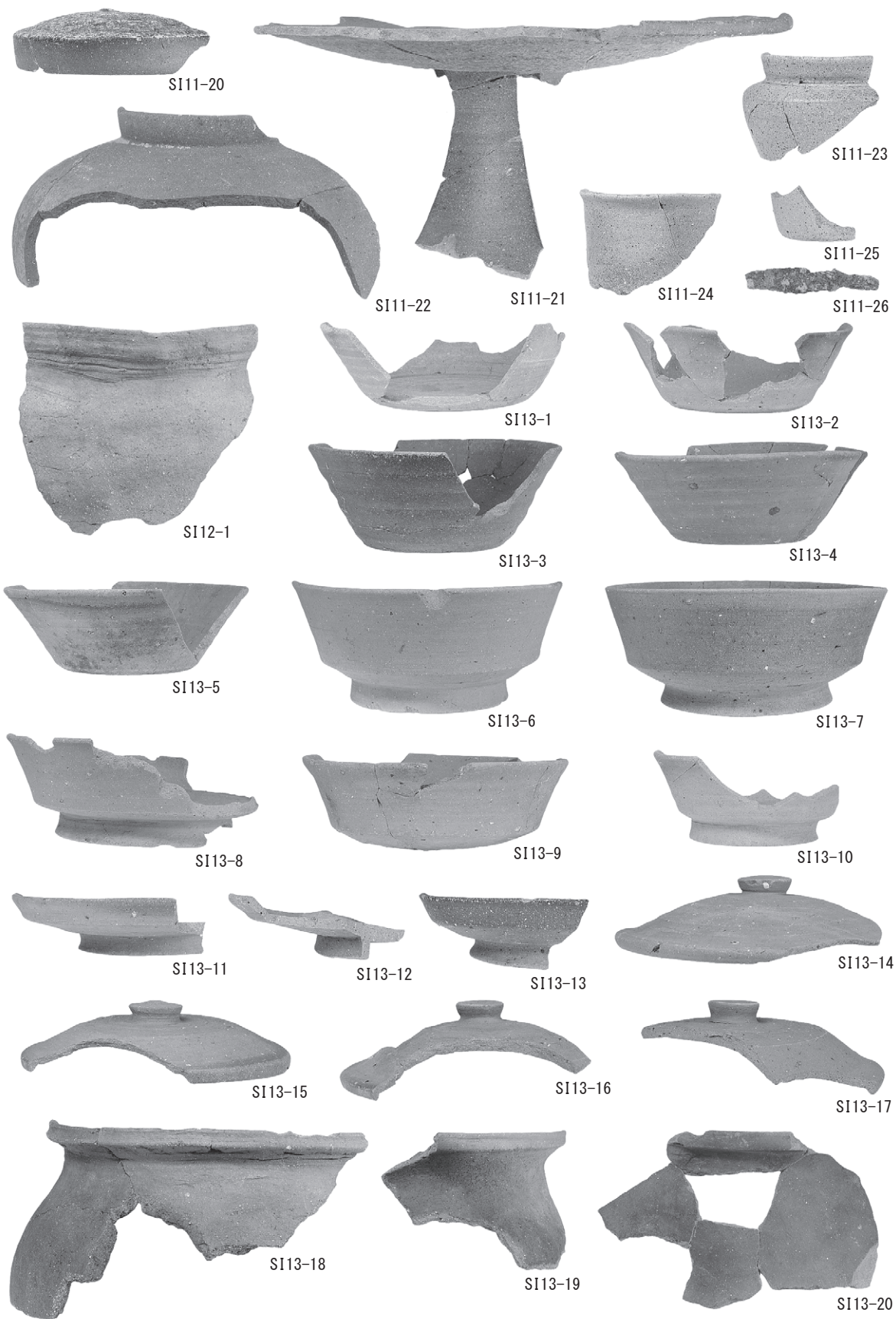
图版 8



SI08·09·10(1) 出土遺物



SI10(2)·11(1) 出土遺物



SI11(2)·12·13(1) 出土遺物



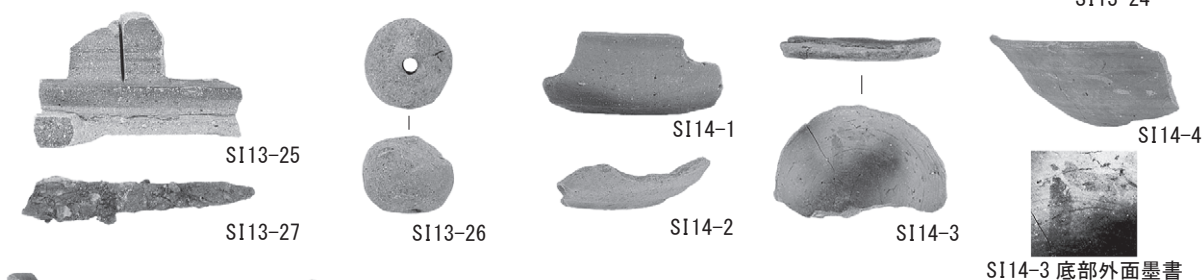
S113-21

S113-23



S113-22

S113-24



S113-25

S114-1

S114-4

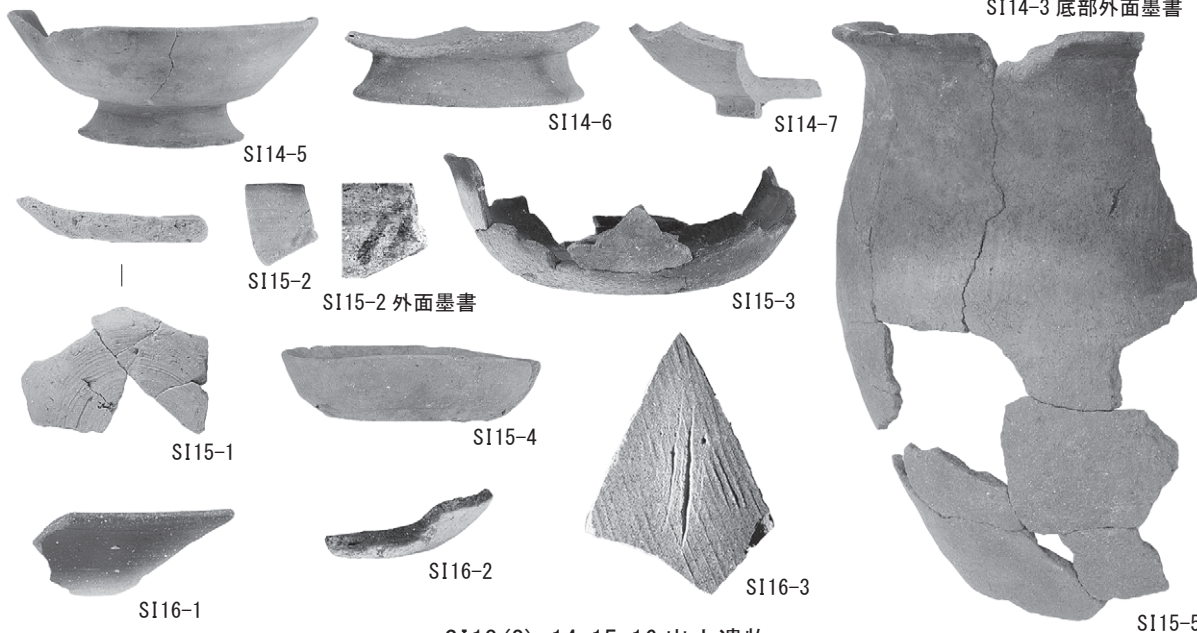
S113-27

S113-26

S114-2

S114-3

S114-3 底部外面墨書



S114-5

S114-6

S114-7

S115-2

S115-2 外面墨書

S115-3

S115-1

S115-4

S116-1

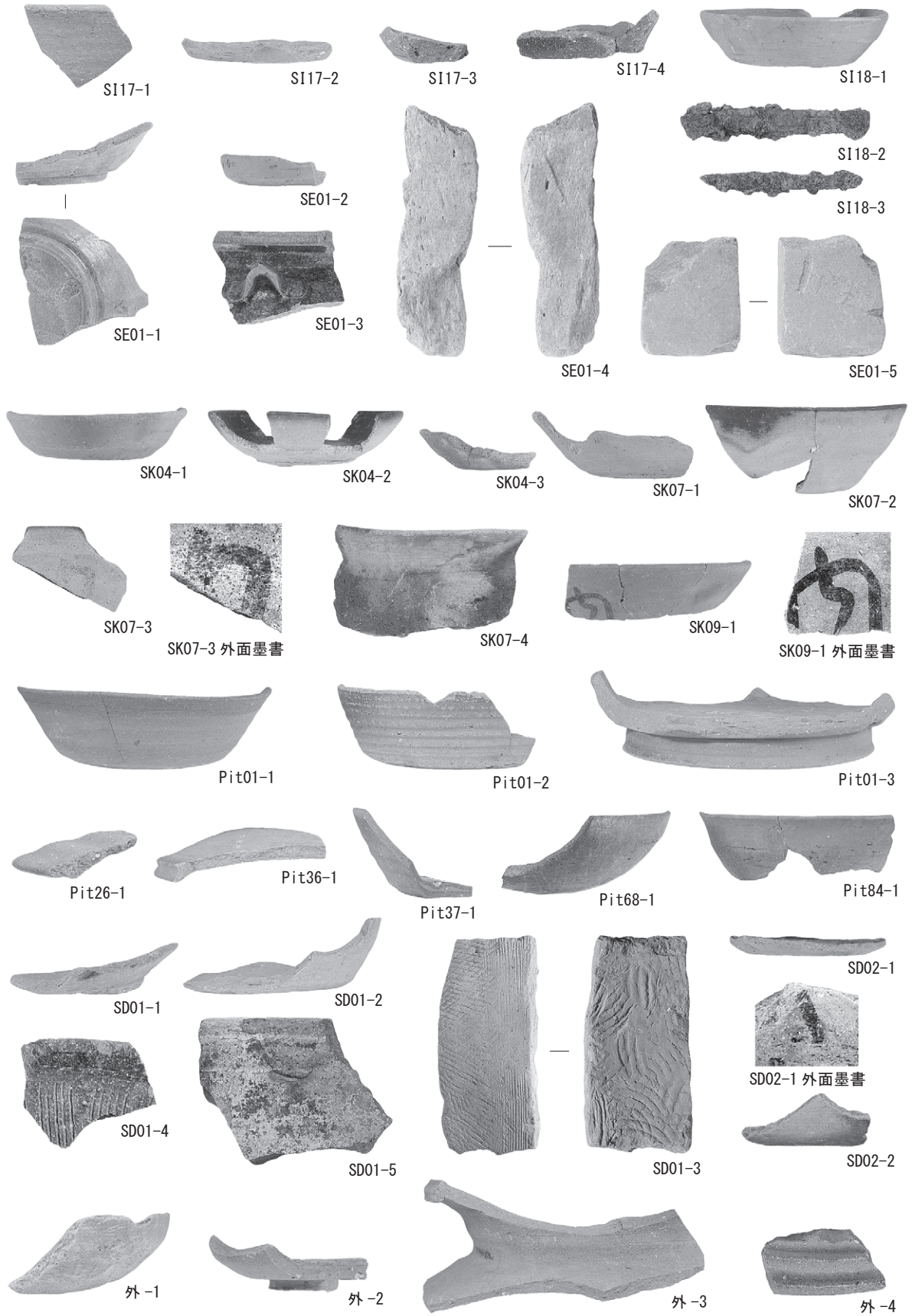
S116-2

S116-3

S115-5

S113(2)·14·15·16 出土遺物

图版 12



S117·18, SE01, SK04·07·09, Pit, SD01·02, 遺構外出土遺物

抄 録

ふりがな	とうまえはらいせき だいはちちてんだいさんじ						
書名	東前原遺跡 (第8地点第3次)						
副書名	区画道路 10-2 号線道路改良 (その1) 及び流域関連下水道工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書						
シリーズ名	水戸市埋蔵文化財調査報告第82集						
編著者名	米川暢敬 丸山優香里 高野浩之						
編集機関	株式会社地域文化財研究所 〒270-1327 千葉県印西市大森 2596-9 TEL 0476-42-7820						
発行機関	水戸市教育委員会 〒310-0852 茨城県水戸市笠原町 978-5 TEL 029-306-8132 (担当) 教育委員会事務局歴史文化財課埋蔵文化財センター 〒311-1114 茨城県水戸市塩崎町 1064-1 大串貝塚ふれあい公園内 TEL 029-269-5090						
発行年月日	2016年(平成28年)7月30日						
ふりがな	ふりがな	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	° ' "	° ' "		
とうまえはらいせき 東前原遺跡	いばらきけん み と し とうまえ 茨城県水戸市東前 ちょう 町 1120 番地外	08201	259	36° 20' 28"	140° 31' 38"	2016.03.01 ～ 2016.04.06	840 m ² 土地区画整理 事業
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
東前原遺跡 (第8地点 第3次)	集落跡	弥生時代	竪穴住居跡 2軒	弥生土器(壺, 甕)	弥生時代の集落は、出土土器により後期前半の伊勢林前式期と東中根1式期に営まれたことが判明し、遺構形態にも差異が認められた。奈良・平安時代の集落は、周辺で行われた他の地点に比べ竪穴建物跡、掘立柱建物跡の密集度が高く、墨書土器や小破片ながら円面硯も出土している。同じ台地上には正倉別院とみられる大串遺跡が所在し、関連性が注目される。さらに10世紀代には集落の様相に変化がみられ、何らかの画期が想定される。		
		奈良・平安時代	竪穴竪穴跡 15軒 掘立柱建物跡 3棟 ピット 72基 土坑 12基 溝跡 2条 竪穴状遺構 1基	土師器(坏・椀・皿・甕・甑・鉢)、須恵器(坏・高台付坏・皿・盤・蓋・甕・甑・鉢・壺瓶類・高坏・コップ型・円面硯)、灰釉陶器(椀)、土器、瓦(丸瓦・平瓦・熨斗瓦)、土製品(土玉・支脚)、手捏土器、石製品(砥石)、鉄製品(刀子)			
		中・近世以降	井戸跡 1基 土坑 1基	陶磁器(高台付皿、摺鉢、土瓶)、土師質土器(皿)、瓦質土器(火鉢)			
		不明	性格不明遺構 1基				
要約	那珂川左岸の標高18～19mの台地上に立地する集落跡である。本地点で最初に集落の営みが認められるのは弥生時代後期前半で、調査区北端でのみ確認されていることから、台地縁辺部に展開していたことがうかがえる。奈良・平安時代になると調査区のほぼ全域に竪穴建物跡が、掘立柱建物跡を伴って展開している。時期は8世紀第3四半期から9世紀第2四半期、10世紀第2四半期から第3四半期のⅢ期にわたる変遷が理解された。						

水戸市埋蔵文化財調査報告第 82 集

東 前 原 遺 跡
(第 8 地点第 3 次)

区画道路 10 - 2 号線道路改良 (その 1) 及び流域関連
下水道工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

平成 28 年 7 月 30 日 印刷

平成 28 年 7 月 30 日 発行

編 集 株式会社 地域文化財研究所

発 行 水戸市教育委員会

印 刷 能登印刷株式会社

〒920-0855 金沢市武蔵町 7 番 10 号

TEL (076)274-0084
